

荒砥上ノ坊遺跡Ⅳ

昭和57年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

中近世および時期不明の遺構の調査

《本文・図版編》

1 9 9 8

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	財藏埋馬群 調查事業團保	01-353
No 99- 1793	平成11年7月1日	698 1(5)

荒砥上ノ坊遺跡Ⅳ

昭和57年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

中近世および時期不明の遺構の調査

《本文・図版編》

1 9 9 8

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

平成6年度より過年度公共事業の一環として行ってきました荒砥上ノ坊遺跡は、本年度をもって整理事業が完了することになりました。

調査面積42,000㎡、各時代の住居数255軒、出土遺物量コンテナ123箱に達した本遺跡は、4年の歳月をかけて整理事業を行った遺跡にふさわしく、赤城山南麓地域の弥生時代から中世にかけての農耕集落の変遷を解き明かすための様々な情報をもたらしてくれました。

本遺跡の調査報告書については既に3冊を刊行していますが、整理事業最終年度の本年も滞りなく事業が進み、原稿も整いましたので、ここに第4冊目の報告書を刊行して本事業を完了したく存じます。

本報告書には、前橋市二之宮町、荒子町の中世から近世にかけての貴重な遺構・遺物が報告されていますが、既に刊行されている3冊の報告書と共に本地域の、とりわけ本地域に所存する国史跡「女堀」の解明をする上でおおいに利用頂ければ幸いです。

関係者の努力により昭和57年度に発掘調査した本遺跡の調査報告書が15年経て刊行され、しかも完了した事は感無量のものがあります。改めて関係機関の群馬県農政部土地改良課、前橋土地改良事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市教育委員会等に衷心より感謝の意を表し序とします。

平成10年3月25日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 **小寺弘之**

例 言

1. 本書は、昭和57年度県営園場整備事業荒砥北部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書の4集「荒砥上ノ坊遺跡Ⅳ」である。荒砥上ノ坊遺跡は荒砥北部園場整備事業区域内の遺跡群のひとつで、昭和57年度に発掘調査された、縄文時代から中世の複合遺跡である。報告書は、時期別に全4分冊で構成した。本書第Ⅳ分冊では、中世以降と時期不明の遺構・遺物を報告する。既に縄文時代から古墳時代の遺構・遺物については第Ⅰ分冊、歴史時代前半期の遺構・遺物については第Ⅱ分冊、歴史時代後半期（概ね平安時代中期から後期）の遺構・遺物は第Ⅲ分冊で報告した。

なお、遺跡内に存在した「女堀」についても調査を実施したが、他の各調査地点とともに昭和59年3月に刊行された『県営ほ場整備事業荒砥南部・北部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 女堀』で既に報告している。

2. 荒砥上ノ坊遺跡は、群馬県前橋市二之宮町406・408・409番地他、荒子町750・758・1080番地他に所在する。遺跡名は、遺跡のある地域の旧村名である「荒砥（あらと）」に、発掘区内で最も広い小字である「上ノ坊（かみのぼう）」を付した。発掘調査当時は、「うえのぼう」と呼称していたが、その後の調査で「かみのぼう」であることが判明したので、報告書刊行を契機に訂正した。
3. 発掘調査は、群馬県農政部・前橋土地改良事務所・群馬県教育委員会の委託により、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。発掘調査の期間・体制は次の通りである。

期 間 昭和57年7月1日～昭和58年1月25日

事務担当 小林起久治、白石保三郎、松本浩一、細野雅男、近藤平志、国定 均、笠原秀樹、山本朋子、吉田有光、柳岡良宏（(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団職員）
野島のお江、吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子（同 補助員）

調査担当 鹿田雄三、小島敦子、斎藤利昭（同 調査研究員）

4. 発掘資料の整理および報告書の作成は、群馬県教育委員会の委託により、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理・報告書作成の期間・体制は次の通りである。

期 間 平成9年4月1日～平成10年3月31日

事 務 菅野 清、原田恒弘、渡辺 健、神保佑史、小淵 淳、佐藤明人、井上 剛、笠原英樹、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、宮崎忠司、岡嶋伸昌（(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団職員）
大沢友治（同 嘱託）

吉田恵子、内山圭子、星野美智子、羽鳥京子、佐藤美佐子、北原かおり、安藤友美、狩野真子、若田 誠（同 補助員）

編 集 小島敦子（同 主幹）

本文執筆 小島敦子

遺構写真 鹿田雄三（現 県立伊勢崎東高等学校教諭）、小島敦子、
斎藤利昭（(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団専門員）

遺物写真 佐藤元彦（同 係長代理）

遺物観察 大西雅弘（同 専門員）、岩崎泰一（同 専門員）、小島敦子


金属器保存処理 関邦一（同 主任技師）、土橋まり子（同 非常勤嘱託）、小村浩一、萩原妙子（同 整






理補助員)

遺物・図面整理 下境 マサ江、羽島望東子、高橋優子、高梨房江、田子弘子、長岡美和子、田中曉美、
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団整理補助員)

5. 石材同定については、飯島静雄氏(群馬県地質研究会会員)の手を煩わせた。
6. 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏よりご助言、ご協力を得た。記して感謝の意を表したい。
(敬称略・五十音順)
赤沼英男、岡谷英治、中山 晋、前原 豊、宮崎重雄
7. 出土遺物は一括して群馬県埋蔵文化財センターおよび(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が保管している。

凡 例

1. 本調査の記録に用いたグリッドは5m四方で、北西交点をその呼称としている。調査当時、グリッド杭は各調査区のほ場整備工事用の杭を基準に打っており、調査区ごとの関係は不明であった。そこで整理時に、国家座標値を調査し、各調査区の位置を確認した。工事用杭を基準にしたグリッドの南北ラインは、1~10区が西へ1'4'16"、11区が西へ4'偏っている。なお、座標は第IV系にある。
2. 本書における遺構番号は、調査時に付されたものをそのまま使用している。このため欠番が生じている。
3. 遺構図中の北方位は座標北を示す。
4. 遺構図で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。部分的に異なる場合があるが、その際はその旨凡例を示した。

6. 本書で使用した遺物の番号は、種類毎の通し番号であり、種類の略号は以下の通りである。平面図に付した番号は、遺物実測図に付した番号に対応している。
土器(略号無し) 石器 S 金属器 M
7. 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付した。
遺構図 土坑1:60 その他の遺構1:80 溝の一部1:200
遺物図 小型石器・古銭1:1 砥石1:2 小型破片遺物1:3 その他の土器・石器1:4
大型石製品1:6
8. 遺物実測図中で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

土器  黒色処理  灰釉陶器  緑釉陶器  スス付着部分
 石器  磨り面

9. 遺物写真図版の倍率は、土器・木器は原則として1/4、大型品は1/6に近づけるようにした。石器は、原則として標は1/4、剥片石器は1/2、石鏃などの小型のものは1/1に近づけるようにした。また、部分的に特徴のある遺物については、近接写真を撮影した。
10. 本文は以下のような点に留意して記述した。

- 1) 「第1章 調査の経過と遺跡の概要」は、すでに「荒砥上ノ坊遺跡I」で述べているが、本書でも略述した。
- 2) 各遺構の記述にあたっては下記に留意した。

住居と掘立柱建物は、個々の遺構ごとに記述した。位置は、その遺構が含まれるグリッドをすべて記載した。重複は、重複する遺構とその新旧関係を述べた。形状は、方形・長方形・隅丸方形・隅丸長方形にほぼ分類して記載した。規模は、遺構確認面での上端で計測した。なお、電付設住居では竈の部分を含んでいない。面積は、床の面積と考え、住居の下端でプランメーターの3回平均値を計測した。方位は、北方向に最も近い壁の方向を計測した。床面は、傾斜や凹凸の有無、硬化面の残存状況を記述した。埋没土は、埋没土の全体的傾向や特徴的な埋没土について記述した。炉・竈は、それぞれの位置と規模を記載し、遺存状態を述べた。周溝・柱穴・貯蔵穴等の住居施設については、検出された位置・規模・遺存状態を記述した。遺物は、住居全体の遺物の出土状態と、特徴的な遺物について記述した。所見では、各住居の調査から考えられることがらがあれば記述した。また、出土遺物・重複関係等から、遺構の時期を記載した。掘立柱建物は住居に準じて記述した。

溝・井戸・土坑・墓は各区ごとに、位置（グリッド）・計測値・方位・重複・出土遺物のデータを一覧表に掲載し、各区各遺構の特徴や分布状況・出土遺物・遺構の時期等を記載した。なお、本文中の遺構一覧表は本書第IV分冊に掲載した遺構に限っている。

既刊3冊の報告書に掲載した住居等も含めた遺跡全体の遺構一覧は、本書別冊《遺構一覧・遺物観察表編》に索引として掲載した。

目 次

序		10. 10区の遺構 井戸	165
例 言		土坑	166
凡 例		11. 11区の遺構 井戸	167
第1章 調査の経過と遺跡の概要		溝	168
1. 調査に至る経過	1	土坑	169
2. 遺跡周辺の地形と遺跡分布	3	第4章 遺構外の遺物	
3. 発掘調査の方法と経過	8	1. 概要	170
第2章 歴史時代の遺構と遺物（既刊補遺）	10	2. 縄文土器	170
第3章 中世以降の遺構と遺物		3. 弥生土器・土師器	170
1. 概要	16	4. 須恵器	172
2. 1区の遺構 掘立柱建物	23	5. 陶器・磁器	175
溝	29	6. 軟質陶器	176
井戸	36	7. 石器	178
土坑	37	第5章 荒砥上ノ坊遺跡調査の成果	
火葬墓	50	1. 調査の成果と課題	183
3. 2区の遺構 掘立柱建物	56	写真図版	
溝	64	報告書抄録	
井戸	71	付図	
土坑	72	既刊 荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ 縄文～古墳時代の調査	
火葬墓	85	荒砥上ノ坊遺跡Ⅱ 歴史時代前半期の調査	
4. 3区の遺構 溝	87	荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ 歴史時代後半期の調査	
土坑	89		
5. 5区の遺構 溝	92		
土坑	93		
6. 6区の遺構 溝	95		
土坑	98		
7. 7区の遺構 溝	103		
井戸	124		
土坑	135		
火葬墓	152		
8. 8区の遺構 掘立柱建物	155		
溝	158		
土坑	158		
9. 9区の遺構 井戸	161		

挿図目次

第 1 図	群馬県中央部の地勢と遺跡の位置	1	第 36 図	1 区土坑群 4	48
第 2 図	ほ場整備地域(上)と昭和57年度調査区	2	第 37 図	1 区土坑群 5	49
第 3 図	群馬県中央部の地形と荒砥上ノ坊遺跡	3	第 38 図	1 区 1 号火葬墓	50
第 4 図	荒砥上ノ坊遺跡周辺の地形	4	第 39 図	2 区掲載遺構の位置	53
第 5 図	中世以降の遺跡分布	5	第 40 図	2 区 1 号掘立柱建物	56
第 6 図	荒砥上ノ坊遺跡の発掘区	9	第 41 図	2 区 2 号掘立柱建物	57
第 7 図	6 区 1 号土坑の出土遺物	10	第 42 図	2 区 3 号掘立柱建物	58
第 8 図	2 区 78 号住居	11	第 43 図	2 区 4 号掘立柱建物	59
第 9 図	2 区 81 号住居	12	第 44 図	2 区 5 号掘立柱建物	60
第 10 図	2 区 2 号竪穴	12	第 45 図	2 区 6 号掘立柱建物と出土遺物	61
第 11 図	6 区 1 号竪穴	13	第 46 図	2 区 7 号掘立柱建物	62
第 12 図	2 区 1 号～ 3 号井戸と出土遺物	14	第 47 図	2 区 8 号掘立柱建物	63
第 13 図	7 区 69 号土坑	15	第 48 図	2 区 2 号溝と出土遺物	64
第 14 図	1 区掲載遺構の位置	19	第 49 図	2 区 3 号溝	65
第 15 図	1 区 1 号掘立柱建物	23	第 50 図	2 区 4 号・ 5 号溝	66
第 16 図	1 区 2 号掘立柱建物	24	第 51 図	2 区 6 号・ 8 号・ 9 号溝	67
第 17 図	1 区 3 号掘立柱建物	25	第 52 図	2 区 7 号溝と出土遺物	68
第 18 図	1 区 4 号掘立柱建物	26	第 53 図	2 区 1 号溝	69
第 19 図	1 区 5 号掘立柱建物	28	第 54 図	2 区 2 号・ 4 号・ 5 号・ 6 号井戸と 出土遺物	71
第 20 図	1 区 1 号溝と出土遺物	29	第 55 図	2 区の土坑(1)	72
第 21 図	1 区 2 号～ 4 号溝	31	第 56 図	2 区の土坑(2)と出土遺物	73
第 22 図	1 区 2 号～ 4 号溝出土遺物	33	第 57 図	2 区の土坑(3)	74
第 23 図	1 区 5 号・ 7 号溝	34	第 58 図	2 区の土坑(4)と出土遺物	75
第 24 図	1 区 6 号・ 8 号・ 9 号溝と出土遺物	35	第 59 図	2 区の土坑(5)	76
第 25 図	1 区の井戸	36	第 60 図	2 区の土坑(6)と出土遺物	77
第 26 図	1 区の土坑(1)と出土遺物	37	第 61 図	2 区の土坑(7)	78
第 27 図	1 区の土坑(2)と出土遺物	38	第 62 図	2 区の土坑(8)	79
第 28 図	1 区の土坑(3)	39	第 63 図	2 区の土坑(9)と出土遺物	80
第 29 図	1 区の土坑(4)	40	第 64 図	2 区の土坑(10)	81
第 30 図	1 区の土坑(5)と出土遺物	41	第 65 図	2 区の土坑(11)	82
第 31 図	1 区の土坑(6)	42	第 66 図	2 区の土坑(12)と出土遺物	83
第 32 図	1 区の土坑(7)と出土遺物	43	第 67 図	2 区の土坑(13)と出土遺物	84
第 33 図	1 区土坑群 1	44	第 68 図	2 区 1 号火葬墓と出土遺物	85
第 34 図	1 区土坑群 2	45	第 69 図	3 区掲載遺構の位置	86
第 35 図	1 区土坑群 3	47			

第70図	3区1号・2号溝と出土遺物	87	第108図	7区17号井戸出土遺物(1)	132
第71図	3区3号・4号溝と出土遺物	88	第109図	7区17号井戸出土遺物(2)	133
第72図	3区6号溝	89	第110図	7区19号～21号井戸と出土遺物	134
第73図	3区1号・5号土坑と出土遺物	89	第111図	7区の土坑(1)	135
第74図	3区2号～4号土坑	90	第112図	7区の土坑(2)	136
第75図	5区掲載遺構の位置	91	第113図	7区1号・3号土坑	137
第76図	5区1号溝と出土遺物	92	第114図	7区5号～7号土坑	138
第77図	5区1号～3号土坑	93	第115図	7区22号・39号土坑と出土遺物	139
第78図	6区掲載遺構の位置	94	第116図	7区22号土坑出土遺物	140
第79図	6区1号溝と出土遺物	95	第117図	7区2号土坑と出土遺物	141
第80図	6区2号溝と出土遺物	97	第118図	7区の土坑(3)	142
第81図	6区2号・3号土坑	98	第119図	7区の土坑(4)と出土遺物	143
第82図	7区掲載遺構の位置	101	第120図	7区の土坑(5)	144
第83図	7区1号溝	103	第121図	7区の土坑(6)	145
第84図	7区3号溝	105	第122図	7区の土坑(7)	146
第85図	7区4号溝	107	第123図	7区の土坑(8)	147
第86図	7区8号溝	109	第124図	7区の土坑(9)	148
第87図	7区1号溝出土遺物(1)	112	第125図	7区の土坑(10)と出土遺物	149
第88図	7区1号溝出土遺物(2)	113	第126図	7区の土坑(11)	150
第89図	7区1号溝出土遺物(3)	114	第127図	7区の土坑(12)と出土遺物	151
第90図	7区1号溝(4)・3号溝出土遺物	115	第128図	7区1号・2号火葬墓と出土遺物	152
第91図	7区4号・8号溝出土遺物	116	第129図	8区掲載遺構の位置	154
第92図	7区2号溝	117	第130図	8区1号掘立柱建物	155
第93図	7区2号溝出土遺物	118	第131図	8区4号掘立柱建物	156
第94図	7区5号・7号溝	118	第132図	8区5号掘立柱建物	157
第95図	7区6号溝	119	第133図	8区1号溝	158
第96図	7区9号・10号溝	120	第134図	8区の土坑(1)	158
第97図	7区11号溝	121	第135図	8区の土坑(2)と出土遺物	159
第98図	7区12号・14号溝	122	第136図	8区の土坑(3)	160
第99図	7区13号溝と出土遺物	123	第137図	9区掲載遺構の位置	161
第100図	7区1号・2号井戸と出土遺物	124	第138図	9区1号井戸	161
第101図	7区3号・4号井戸	125	第139図	9区1号井戸出土遺物(1)	162
第102図	7区5号・6号井戸と出土遺物	126	第140図	9区1号井戸出土遺物(2)	163
第103図	7区7号井戸と出土遺物	127	第141図	9区1号井戸出土遺物(3)	164
第104図	7区8号井戸と出土遺物	128	第142図	10区掲載遺構の位置	165
第105図	7区9号～11号井戸と出土遺物	129	第143図	10区1号井戸	165
第106図	7区12号～14号井戸	130	第144図	10区1号～3号土坑	166
第107図	7区15号～18号井戸	131	第145図	11区掲載遺構の位置	167

第146図	11区1号井戸	167
第147図	11区1号溝と出土遺物	168
第148図	11区1号土坑と出土遺物	169
第149図	遺構外の出土遺物(1) 縄文土器・弥生土器	170
第150図	遺構外の出土遺物(2)土師器	171
第151図	遺構外の出土遺物(3)土師器・須恵器	172
第152図	遺構外の出土遺物(4)須恵器	173
第153図	遺構外の出土遺物(5)土師器・須恵器	174

第154図	遺構外の出土遺物(6)陶器	175
第155図	遺構外の出土遺物(7)軟質陶器	176
第156図	遺構外の出土遺物(8)軟質陶器	177
第157図	遺構外の出土遺物(9)打製石斧	178
第158図	遺構外の出土遺物(10)石鏃・砥石等	179
第159図	遺構外の出土遺物(11)石臼・窪み石等	180
第160図	遺構外の出土遺物(12) 五輪塔・磨き石等	181
第161図	遺構外の出土遺物(13)鉄製品・古銭	182

表 目 次

第1表	荒砥上ノ坊遺跡各区の検出遺構数	16
第2表	第3章掲載の1区掘立柱建物一覧表	18
第3表	第3章掲載の1区溝一覧表	18
第4表	第3章掲載の1区井戸一覧表	21
第5表	第3章掲載の1区土坑一覧表	21
第6表	第3章掲載の1区火葬墓一覧表	22
第7表	第3章掲載の2区掘立柱建物一覧表	52
第8表	第3章掲載の2区溝一覧表	52
第9表	第3章掲載の2区井戸一覧表	52
第10表	第3章掲載の2区土坑一覧表	52
第11表	第3章掲載の2区火葬墓一覧表	55
第12表	第3章掲載の3区溝一覧表	86
第13表	第3章掲載の3区土坑一覧表	86
第14表	第3章掲載の5区溝一覧表	91
第15表	第3章掲載の5区土坑一覧表	91

第16表	第3章掲載の6区溝一覧表	94
第17表	第3章掲載の6区土坑一覧表	94
第18表	第3章掲載の7区溝一覧表	100
第19表	第3章掲載の7区井戸一覧表	100
第20表	第3章掲載の7区土坑一覧表	111
第21表	第3章掲載の7区火葬墓一覧表	111
第22表	第3章掲載の8区掘立柱建物一覧表	153
第23表	第3章掲載の8区溝一覧表	153
第24表	第3章掲載の8区土坑一覧表	153
第25表	第3章掲載の9区井戸一覧表	161
第26表	第3章掲載の10区井戸一覧表	165
第27表	第3章掲載の10区土坑一覧表	165
第28表	第3章掲載の11区溝一覧表	167
第29表	第3章掲載の11区井戸一覧表	167
第30表	第3章掲載の11区土坑一覧表	167

写真図版目次

P L 1.	1. 2区78号住居全景(南から)
	2. 2区81号住居全景(南西から)
	3. 2区2号竪穴全景(南から)
	4. 同 土層断面(北から)
	5. 6区1号竪穴状遺構全景(北西から)
	6. 2区1号・2号井戸全景(北から)

	7. 2区3号井戸全景(北から)
	8. 7区69号土坑土層断面A-A'(南から)
P L 2.	1. 1区1号掘立柱建物全景(南から)
	2. 1区2号掘立柱建物全景(南から)
	3. 1区3号掘立柱建物全景(南東から)
	4. 1区4号掘立柱建物全景(東から)

5. 1区5号掘立柱建物全景(南から)
6. 1区2号・3号・4号溝全景(北東から)
7. 1区1号溝土層断面A-A'(東から)
- PL 3. 1. 1区1号溝全景(東から)
2. 1区2号・3号・4号溝全景(北東から)
- PL 4. 1. 1区2号・3号・4号溝全景(北東から)
2. 同 土層断面A-A'(北から)
3. 1区1号・2号・3号・4号溝出土遺物
4. 1区5号溝全景(東から)
5. 同 土層断面A-A'(西から)
- PL 5. 1. 1区6号溝全景(南から)
2. 1区7号溝全景(北から)
3. 1区7号溝土層断面A-A'(東から)
4. 1区8号溝全景(南から)
5. 1区8号溝土層断面A-A'(南から)
6. 1区9号溝全景(北から)
- PL 6. 1. 1区5号井戸全景(南西から)
2. 1区6号井戸全景(北から)
3. 1区7号井戸全景(西から)
4. 同 遺物出土状態
5. 1区1号～3号土坑全景(北東から)
6. 1区1号土坑土層断面A-A'(南西から)
7. 1区2号土坑土層断面A-A'(南西から)
8. 1区3号土坑土層断面A-A'(南西から)
- PL 7. 1. 1区7号土坑全景(東から)
2. 1区18号土坑全景(西から)
3. 1区21号土坑全景(東から)
4. 1区25号土坑全景(南から)
5. 1区28号土坑全景(東から)
6. 1区54号土坑全景(南東から)
7. 1区24号土坑全景(南から)
8. 1区55号土坑全景(北西から)
- PL 8. 1. 1区19号土坑全景(南から)
2. 1区27号土坑全景(南西から)
3. 1区22号土坑全景(東から)
4. 1区23号土坑全景(南東から)
5. 1区29号土坑土層断面A-A'(南から)
6. 1区42号・43号土坑全景(西から)
7. 1区46号土坑全景(北東から)
8. 1区6号土坑全景(南から)
- PL 9. 1. 1区土坑群2全景(南から)
2. 同 土層断面A-A'(南西から)
3. 同 79号～84号土坑全景(西から)
4. 1区土坑群4全景(北から)
5. 1区4号土坑全景(南東から)
6. 1区12号土坑土層断面A-A'(西から)
7. 1区20号土坑全景(北から)
8. 1区26号土坑全景(南東から)
- PL 10. 1. 1区33号土坑周辺土坑群(南から)
2. 1区40号土坑土層断面(南西から)
3. 1区56号土坑土層断面A-A'(北から)
4. 1区57号土坑全景(西から)
5. 1区1号火葬墓全景(西から)
6. 同 (南西から)
7. 同 土層断面A-A'(北から)
8. 同 遺物出土状態(南から)
- PL 11. 1. 2区1号掘立柱建物全景(北から)
2. 2区2号掘立柱建物全景(北西から)
3. 2区3号掘立柱建物全景(北から)
4. 2区4号掘立柱建物全景(北東から)
5. 2区5号掘立柱建物全景(北から)
6. 2区6号掘立柱建物全景(東から)
7. 2区1号溝全景(北から)
- PL 12. 1. 2区2号・3号溝全景(北から)
2. 2区7号溝出土遺物
3. 2区4号井戸全景(北から)
4. 2区6号井戸全景(北西から)
5. 2区4号・6号井戸出土遺物
- PL 13. 1. 2区5号井戸全景(北から)
2. 2区10号土坑全景(西から)
3. 2区28号土坑全景(西から)
4. 2区32号土坑全景(南から)
5. 2区33号土坑全景(南から)
6. 2区36号土坑全景(南から)

7. 2区37号土坑全景 (南から)
8. 2区40号土坑全景 (南から)
- P L 14. 1. 2区41号土坑全景 (南から)
2. 2区42号土坑全景 (南東から)
3. 2区71号土坑全景 (西から)
4. 2区9号土坑全景 (南から)
5. 2区23号土坑全景 (南から)
6. 2区25号土坑全景 (南から)
7. 2区27号土坑全景 (西から)
8. 2区44号土坑全景 (西から)
- P L 15. 1. 2区51号土坑全景 (南から)
2. 2区55号土坑全景 (東から)
3. 2区64号土坑全景 (西から)
4. 2区63号土坑全景 (北から)
5. 2区65号土坑全景 (南から)
6. 2区7号土坑全景 (南から)
7. 2区12号土坑全景 (東から)
8. 2区14号土坑全景 (南東から)
- P L 16. 1. 2区15号土坑全景 (東から)
2. 2区30号土坑土層断面 (南から)
3. 2区34号土坑全景 (北から)
4. 2区35号土坑全景 (南東から)
5. 2区43号土坑土層断面A-A'(西から)
6. 2区48号土坑全景 (南から)
7. 2区56号土坑全景 (東から)
8. 同 土層断面A-A'(南から)
- P L 17. 1. 2区49号土坑全景 (南から)
2. 2区58号土坑全景 (東から)
3. 2区4号土坑全景 (南から)
4. 2区5号土坑全景 (南西から)
5. 2区6号土坑全景 (南から)
6. 2区11号土坑全景 (南東から)
7. 2区17号土坑全景 (北東から)
8. 2区21号土坑土層断面
- P L 18. 1. 2区24号土坑全景 (南から)
2. 2区45号土坑全景 (南から)
3. 2区52号土坑全景 (東から)
4. 2区60号土坑全景 (北東から)
5. 2区69号土坑全景 (東から)
6. 2区18号土坑全景 (東から)
7. 2区19号土坑土層断面A-A'(西から)
8. 2区46号・47号土坑全景 (南から)
- P L 19. 1. 2区50号土坑全景 (東から)
2. 2区53号土坑全景 (南から)
3. 2区54号土坑全景 (東から)
4. 2区57号土坑全景 (南から)
5. 2区62号土坑全景 (南から)
6. 2区70号土坑全景 (西から)
7. 2区66号土坑全景 (北から)
8. 同 土層断面A-A'(東から)
- P L 20. 1. 2区1号土坑全景 (南東から)
2. 2区31号土坑全景 (南から)
3. 2区13号土坑全景 (南東から)
4. 2区22号土坑全景 (西から)
5. 2区38号土坑全景 (南から)
6. 2区39号土坑全景 (南から)
7. 2区1号火葬基全景 (南から)
8. 同 土層断面A-A'(南西から)
- P L 21. 1. 3区1号溝全景 (西から)
2. 同 土層断面A-A'(西から)
3. 3区2号溝全景 (南から)
4. 3区3号溝全景 (南から)
5. 同 土層断面B-B'(南から)
6. 3区4号溝全景 (南から)
7. 同 土層断面A-A'(南から)
- P L 22. 1. 3区6号溝全景 (南から)
2. 同 土層断面A-A'(南から)
3. 3区5号溝全景 (北から)
4. 3区1号土坑全景 (北西から)
5. 3区5号土坑全景 (北から)
6. 3区5号土坑土層断面 (西から)
7. 同 出土遺物
- P L 23. 1. 3区2号土坑土層断面A-A'(東から)
2. 3区3号土坑全景 (東から)
3. 3区4号土坑全景 (南東から)
4. 同 土層断面A-A'(南から)

5. 3区全景(南から)
- P L 24. 1. 5区1号溝土層断面A-A'(南から)
 2. 5区1号土坑土層断面A-A'(西から)
 3. 5区2号土坑土層断面A-A'(東から)
 4. 5区3号土坑土層断面A-A'(西から)
 5. 6区2号溝全景(南東から)
 6. 同 底面(上から)
 7. 同 土層断面A-A'(南東から)
 8. 同 遺物出土状態(上から)
- P L 25. 1. 6区1号溝全景(北から)
 2. 同 出土遺物
 3. 6区1号土坑出土遺物
 4. 同 全景(上から)
 5. 6区3号土坑全景(東から)
 6. 6区2号土坑全景(東から)
 7. 同 土層断面A-A'(東から)
- P L 26. 1. 7区南半全景(南西から)
 2. 7区1・2・4・6号溝(北西から)
 3. 7区1号溝全景(東から)
 4. 同 出土遺物
- P L 27. 1. 7区1号溝出土遺物
- P L 28. 1. 7区1号溝出土遺物
- P L 29. 1. 7区1号溝出土遺物
 2. 7区2号溝全景(南から)
 3. 同 出土遺物
 4. 7区3号溝全景(西から)
- P L 30. 1. 7区3号溝全景(北西から)
 2. 同 出土遺物
 3. 7区4号溝全景(南から)
 4. 同 土層断面B-B'(南から)
 5. 同 土層断面C-C'(南から)
 6. 同 土層断面D-D'(南から)
- P L 31. 1. 7区6号溝全景(南西から)
 2. 7区7号溝全景(西から)
 3. 7区8号溝全景(南西から)
 4. 同 全景(北から)
 5. 同 屈曲部(西から)
- P L 32. 1. 7区8号溝土層断面C-C'(南西から)
2. 同 出土遺物
3. 7区10号溝土層断面(南西から)
4. 7区11号溝全景(西から)
5. 7区12号溝全景(南から)
6. 同 土層断面A-A'(南から)
- P L 33. 1. 7区13号溝出土遺物
 2. 7区14号溝全景(東から)
 3. 7区1号井戸全景(南西から)
 4. 同 出土遺物
- P L 34. 1. 3号溝と井戸北半(北西から)
 2. 3号溝と井戸南半(北西から)
 3. 7区2号井戸全景(南から)
 4. 7区5号井戸全景(南から)
 5. 7区4号井戸全景(北から)
 6. 7区6号井戸全景(南から)
 7. 同 出土遺物
- P L 35. 1. 7区7号井戸出土遺物
 2. 7区8号井戸全景(西から)
 3. 同 出土遺物
 4. 7区9号井戸全景(上から)
 5. 7区8号溝と10~14号井戸(南西から)
- P L 36. 1. 7区13号・14号井戸全景(南東から)
 2. 7区15号井戸全景(北から)
 3. 7区16号井戸全景(南東から)
 4. 7区17号井戸出土遺物
- P L 37. 1. 7区17号井戸遺物出土状態(北から)
 2. 同 出土遺物
- P L 38. 1. 7区19号井戸全景(上から)
 2. 7区21号井戸出土遺物
 3. 7区13号土坑全景(南から)
 4. 7区40号土坑全景(南東から)
 5. 7区42号土坑全景(南西から)
 6. 7区44号土坑全景(南西から)
- P L 39. 1. 7区70号土坑全景(西から)
 2. 7区43号土坑全景(南東から)
 3. 7区66号土坑全景
 4. 7区68号土坑全景(東から)
 5. 7区1号土坑全景(南から)

6. 7区2号土坑全景(南から)
7. 同 出土遺物
- P L 40. 1. 7区5・6・7号土坑全景(南から)
2. 7区14号井戸・39号土坑全景(南東から)
3. 7区22号土坑全景(南西から)
4. 同 遺物出土状態
5. 7区22号・39号土坑出土遺物
- P L 41. 1. 7区3号土坑全景(南から)
2. 7区26号・27号土坑全景(南から)
3. 7区33号土坑全景(東から)
4. 7区48号土坑全景(南から)
5. 7区52号土坑全景(南から)
6. 7区53号土坑全景(南から)
7. 7区14号土坑全景(南から)
8. 7区15号土坑全景(南から)
- P L 42. 1. 7区54号・55号土坑全景(南から)
2. 7区63号土坑全景(北西から)
3. 7区64号土坑全景(南から)
4. 7区8号土坑全景(南から)
5. 7区11号土坑全景(南東から)
6. 7区9号土坑全景(西から)
7. 7区18号・19号・20号土坑全景(西から)
8. 7区23号・24号土坑全景(南東から)
- P L 43. 1. 7区25号・47号土坑全景(南東から)
2. 7区28号土坑全景(南西から)
3. 7区37号・38号土坑全景(南から)
4. 7区41号土坑全景(南東から)
5. 7区49号・50号・51号土坑全景(南西から)
6. 7区56号土坑全景(南西から)
7. 7区57号土坑全景(北西から)
- P L 44. 1. 7区58号土坑全景(東から)
2. 7区61号土坑全景(北から)
3. 7区62号土坑全景(北西から)
4. 7区65号土坑全景(西から)
5. 7区67号土坑全景(南から)
6. 7区4号土坑全景(北西から)
7. 7区10号土坑全景(西から)
- P L 45. 1. 7区16号土坑全景(南から)
2. 7区21号土坑遠景(北から)
3. 7区21号土坑出土遺物
4. 7区1号火葬墓全景(南から)
5. 7区1号・2号火葬墓出土遺物
6. 7区2号火葬墓全景(南西から)
7. 7区西谷地土層断面(北から)
- P L 46. 1. 8区1号掘立柱建物全景(東から)
2. 8区2号掘立柱建物全景(南から)
3. 8区3号掘立柱建物全景(東から)
4. 8区4号掘立柱建物全景(東から)
5. 8区5号掘立柱建物全景(西から)
6. 8区1号溝全景(北東から)
7. 同 土層断面北壁A-A'(南から)
8. 8区3号土坑全景(南から)
- P L 47. 1. 8区7号土坑全景(南東から)
2. 8区9号土坑全景(西から)
3. 8区2号土坑全景(西から)
4. 8区10号土坑全景(東から)
5. 8区1号土坑全景(西から)
6. 8区11号土坑全景(西から)
7. 8区4号土坑全景(南東から)
8. 8区6号土坑全景(南から)
- P L 48. 1. 9区1号井戸全景(南東から)
2. 同 出土遺物
- P L 49. 1. 9区1号井戸出土遺物
2. 10区1号井戸全景(西から)
3. 10区1号土坑全景(南西から)
4. 10区2号土坑全景(南西から)
5. 10区3号土坑全景(南西から)
- P L 50. 1. 11区1号溝全景(南から)
2. 同 出土遺物
3. 11区1号井戸全景(南東から)
4. 11区1号土坑全景(北西から)
5. 同 出土遺物
- P L 51. 遺構外の出土遺物 縄文・弥生土器・土師器
- P L 52. 遺構外の出土遺物 須恵器・土師器
- P L 53. 遺構外の出土遺物 陶器
- P L 54. 遺構外の出土遺物 軟質陶器

P L55. 遺構外の出土遺物 石斧・石鏃

P L57. 遺構外の出土遺物 磨き石・五輪塔等

P L56. 遺構外の出土遺物 砥石・石臼・巖石等

P L58. 遺構外の出土遺物 鉄製品・古銭

付 図 目 次

付図1 荒砥上ノ坊遺跡発掘区の位置

付図4 3区・4区・5区・6区の遺構全体図

付図2 1区の遺構全体図

付図5 7区の遺構全体図

付図3 2区の遺構全体図

付図6 8区・9区・10区・11区の遺構全体図

第1章 調査の経過と遺跡の概要

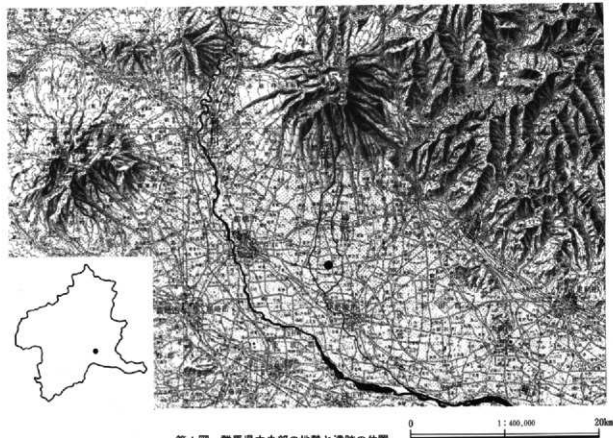
1. 調査に至る経過

荒砥上ノ坊遺跡は、県宮ほ場整備事業荒砥北部地区に伴って発掘調査された遺跡群の1つである。

荒砥地域は、群馬県のほぼ中央部、前橋市の東端部にある農業地帯である。関東平野の北西の隅にあたり、上越の山から流れ出る利根川の左岸にある。北側には赤城山があり、南に大きく裾野を広げている。本地域は、この赤城山南麓の丘陵性台地の末端にあたり、山麓を流下する荒砥川と神沢川に挟まれた地域である。周辺には、これらの主要河川以外にも、小河川が山麓を開析して形成された帯状沖積地が発達していて、起伏に富んだ地形となっている。このような地域のほ場整備工事は土砂の切り盛りが著しく、多量の土砂を移動する計画となった。

しかし、この地域には、群馬県内でも有数の大形前方後円墳が集中する大室古墳群をはじめとして、原始・古代の多くの遺跡が分布する。したがって、ほ場整備事業が開始されるにあたっては、埋蔵文化財の保護が大きな課題となった。そこで、群馬県農政部と群馬県教育委員会は、埋蔵文化財の保護を前提にした協議をおこない、工事によって破壊される切り土部分と道水路部分について、事前に埋蔵文化財の発掘調査を実施することが確認されたのである。

荒砥地区のほ場整備事業は、国道50号線で南北2地区に分けて実施された。昭和49年から56年にかけての荒砥南部地区と、昭和56年から平成3年にかけての荒砥北部地区である。大規模なその対象地域は、群馬県前橋市東端部の旧荒砥村域で、現在の笥井町・今井町・二之宮町・飯土井町・東大室町・荒子



第1図 群馬県中央部の地勢と遺跡の位置

第1章 調査の経過と遺跡の概要

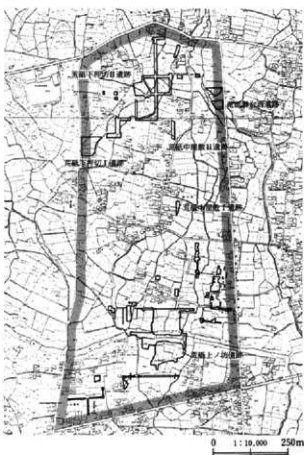
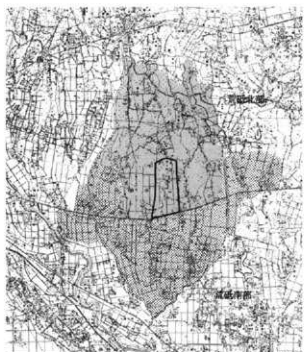
町・下大屋町・泉沢町にまたがる広大な地域である。

発掘調査は、昭和49年から52年まで県教育委員会の直営で実施されたが、昭和53年7月の朝鮮馬泉埋蔵文化財調査事業団の設立に伴って、昭和53年度から朝鮮馬泉埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を受託することとなった。朝鮮馬泉埋蔵文化財調査事業団は、県農政部の委託を受けて、荒砥南部地区のほ場整備事業が終了する昭和59年度までの7年間に13遺跡を調査した。

継続して朝鮮馬泉埋蔵文化財調査事業団は、昭和56年度から荒砥北部地区の発掘調査を受託し、昭和59年度まで調査を実施した。相前後して昭和59年度以降の発掘調査は、県教育委員会と荒砥北部遺跡群調査会に引き継がれ、平成3年度で終了した。

荒砥上ノ坊遺跡を調査した昭和57年度は、県営ほ場整備事業荒砥北部地区の六工区が事業対象地域であった(第2図上)。発掘調査を開始するにあたり工事計画との調整を重ね、5・6月に遺跡分布調査を実施して、発掘調査面積を確定した。この分布調査によって、荒砥上ノ坊遺跡のほかに、荒砥中屋敷遺跡・荒砥下押切遺跡・荒砥舞台西遺跡・荒砥新屋遺跡が発掘調査されることとなった(第2図下)。本書で報告する荒砥上ノ坊遺跡は、縄文時代から中世までの複合集落遺跡である。切り土部分・道水路部分あわせて42000㎡を調査し、調査区は11区にわたった。分布調査の内容と発掘区の設定および調査体制については、「荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ」第1章を参照願いたい。

出土品整理事業は、朝鮮馬泉埋蔵文化財調査事業団が県教育委員会から受託し、昭和57年から実施している。本年度は、荒砥北部地区関連の5年次にあたる。荒砥上ノ坊遺跡の資料整理は4年次目であり、平成6～8年度に「荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ—縄文～古墳時代の調査—」、「荒砥上ノ坊遺跡Ⅱ—歴史時代前半期の調査—」、「荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ—歴史時代後半期の調査—」を刊行した。本書「荒砥上ノ坊遺跡Ⅳ—中近世および時期不明の遺構の調査—」をもって荒砥上ノ坊遺跡の整理事業は終了となる。



第2図 ほ場整備地域(上)と昭和57年度調査区

2. 遺跡周辺の地形と遺跡分布

群馬県中央部の地形 荒砥上ノ坊遺跡がある群馬県中央部地域には、榛名・赤城両火山があり、その裾野には台地が広がっている。その台地上は小河川によって谷地が開析され、平野部は自然堤防・後背湿地が発達している。このように県中央部は様々な地形が入り組んでおり、地形環境が遺跡の立地にも大きく関係していると考えられる。また、県内の各地の発掘調査から、火山災害が人間生活に大きな影響を与えたことが判明している。

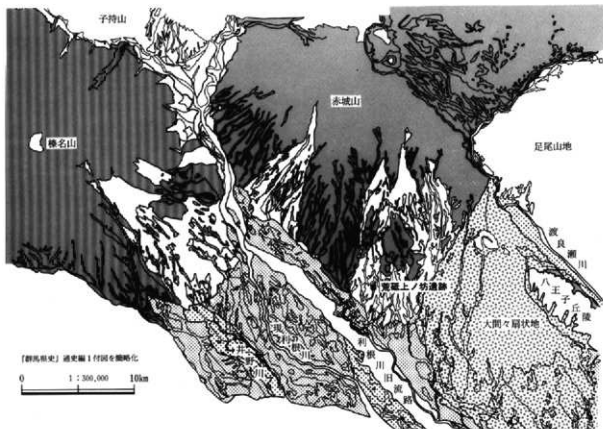
周辺の火山のうち、西毛地域にある榛名山や浅間山は完新世にも大噴火した。火砕流が山麓の家屋を壊し、降下火山灰が県中央部の田畠を埋没させたことが、発掘調査からわかっている。しかし、人々は火山災害に立ち向かい、田畠を復旧して、生活を継続させてきたのである。

一方、赤城山は40～50万年前から活動を始めた複

合成層火山であるが、3.1～3.2万年前に大規模な軽石噴火をおこして中央火口丘群を形成した後、目立った火山活動はなく、現在は火山山麓扇状地の形成期となっている。山麓には、山体を下流する小河川による開析作用によって、帯状に谷地が刻まれている。また、赤城白川・荒砥川・神沢川・粕川等の小河川沿いには、土砂が堆積して扇状地が形成されている。これらの河川作用は数万年の間繰り返されてきた。扇状地はさらに開析されて、樹枝状の低地が発達した複雑な起伏の多い地形となっている。この間安定した時期には、関東ローム層が堆積して、台地地形を形成している。

遺跡周辺の地形 荒砥上ノ坊遺跡は、赤城山の南麓末端に近い、標高95～103mの緩斜面にある。遺跡周辺の地形は後期更新世前半に形成された山麓扇状地で、山麓に谷頭をもつ細長い低地とその支谷が樹枝状に入り込んだ様相を呈している。

これらの低地は、内部に河川が流れていて比較的



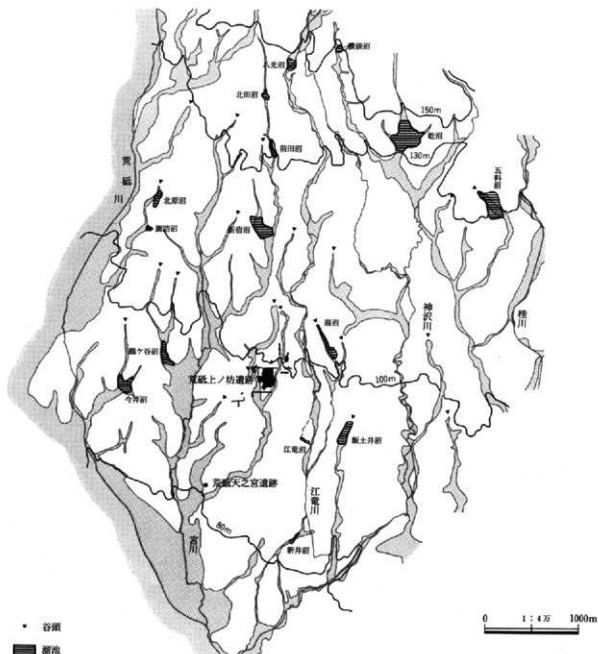
第3図 群馬県中央部の地形と荒砥上ノ坊遺跡

第1章 調査の経過と遺跡の概要

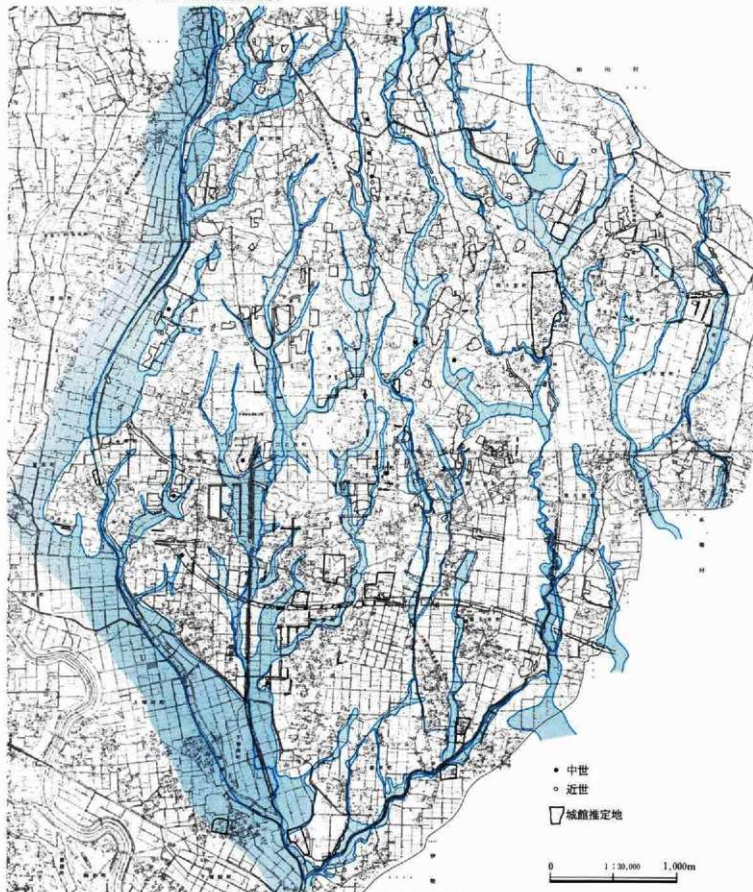
長いものと、主要河川がなく小規模なものに分けられる。遺跡周辺に流れる主な河川は、西から荒砥川・宮川・江竜川・神沢川・桂川等があるが、このうち荒砥川・神沢川・桂川は標高200m以上に水源をもつ流域面積の長い河川である。一方、宮川・江竜川は、標高150m以下に水源をもつ、比較的短い小河川である。他の河川の無い低地の多くも同様に、標高90～130mに谷頭が並んでいる。

これらの低地に広がる沖積地は小規模で、それぞれは幅も狭く短い。しかし、合流地点では複数の沖積地が合わさって、幅が広がる。宮川の中流域では幅が200m近くになる地点があり、主要河川に伴う沖積地と変わらない広さの沖積地が広がっている。

また、荒砥地域には溜池・溜井が多く分布し、農業用水源として使われている。溜池は谷頭に堤をつくり湧水を堰止めた池であるが、いつ頃造られたも



第4図 荒砥上ノ坊遺跡周辺の地形



第5図 荒砥地域の中世以降の遺跡分布

る。「本来の沖積地」は水利や土壌のある水田可耕地である。さらにこれらの条件が整えば、白抜きにした微高地部分にも水田耕作地が及ぶ可能性がある。なお、河川は、現河道を示した。

図には、発掘調査された遺跡と山崎一氏が中心となって調査した『群馬県の中世城館跡』に掲載された城館の位置を示した。荒砥地域の中・近世の調査された遺跡はあまり多くないが、いくつかの遺跡で土坑や溝が検出されている。掘り込みの少ないと考えられている住居の検出はほとんど無いが、中世の集落は奈良・平安時代の集落が継続していると考えられる。

荒砥地域の奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代からの遺跡が継続し、さらに周囲に拡大している。小河川沿いの台地縁辺にある荒砥島原遺跡や荒砥天之宮遺跡・荒砥大日塚遺跡・柳久保遺跡等では、台地の内部に住居群の分布が広がり、荒砥青柳遺跡では、台地中央部に住居が検出された。水田耕作地の微高地への拡大によって、居住域が台地縁辺から内部に遷移する傾向がみられるようになるのである。

中・近世の遺構は、このような奈良・平安時代の遺構を切って検出されることがほとんどである。しかし住居跡の検出が困難であることから、一般農民の居住の実態は不明な点が多い。本地域では土坑や井戸等の居住に伴う諸施設の存在から、中・近世の居住域を推測するにとどまっている。

一方、有力農民や支配者層の住居等と考えられる中世の館跡は近年の上武国道の発掘調査等で調査例が増加している。館は周囲に方形の環濠を巡らせていることから検出が容易であるが、発掘範囲が限定されているので館の全体像が判明する遺跡は多くない。

荒砥上ノ坊遺跡の南方1kmにある二之宮赤城神社の周辺には館の調査例が集中している。二之宮宮東遺跡では神社の東側に今も残る無量寿寺を中心に相当の規模の堀が重複して検出されている。鎌倉時代の庭園の跡とそれに接した廊下をもつ建物も検出された。その西側にある二之宮宮下東遺跡では12世紀

中頃から13世紀の土坑や、14世紀から15世紀の館の一部や井戸が検出された。さらにその西側の二之宮宮下西遺跡では南北朝時代の一辺100m四方の主郭部の南に30mほどの副郭部をもつ複郭式の館を検出した。さらに西方の今井道上道下遺跡では12世紀以降の道路跡や中世の屋敷が検出されている。

近世の遺構は五日牛南組遺跡で5棟検出されているが、江戸初期の掘立柱建物から、幕末のぐり石を用いた赤城型農家の跡まで多様な建物が調査された。

生産域は、15地点の浅間Bテフラに埋没した水田が検出されている。浅間Bテフラは1108年の浅間山噴火に伴う噴出物で、群馬県の平野部のほとんどを覆っている。荒砥地域の低地部の発掘調査のほとんどで浅間B層下に水田が検出されている。特に、荒砥川左岸の荒砥諏訪西遺跡では、広大な微高地にも浅間B下水田が検出されていることから、荒砥地域の可耕地は12世紀初頭にはすでに大部分が開発されていたと考えられる。

本地域のほぼ中央を東西12kmに亘って現存していた女堀は、発掘調査の結果、浅間B降下後に掘られた大型灌漑用水路で未完成で放棄されていることが判明した。調査では掘削廃土の直下から浅間B軽石を鑄込んだ畚が検出された。一方、低地部の水田がすぐに復旧されていた所見はない。文献史料によれば広い荒廃地になったとされる。この荒廃地の再開発のために着手されたのが女堀であった。その主体となったのは荘園勢力であった。

中近世に関しては断片的な発掘資料であるが、地域の歴史解明への総合化が待たれるところである。**荒砥上ノ坊遺跡の立地** 荒砥上ノ坊遺跡は、赤城山南麓を開析した樹枝状の低地に区切られた低台地のひとつに立地する。標高105m前後に谷頭のある2本の低地が遺跡の南側で合流する。発掘調査では、この合流点の北にある中央の低台地と、その東西の台地上に発掘区を設定した。東西の沖積地の一部もトレンチ調査をおこなった。

この中央の低台地は、ローム層の堆積が無く、黄灰褐色の砂壤土が厚く堆積している。この土層上面

第1章 調査の経過と遺跡の概要

で、縄文時代前期諸磯期の住居が確認できるので、それ以前に堆積した地層と考えられる。この土層については、発掘調査時にテフラ等の検出による層位の確認および地層の分布について調査をしていないので、関東ローム層との関係等は不明である。東側台地の一部も、この砂壤土の堆積が見られた。西側台地は関東ローム層の堆積する台地である。

赤城山南麓地域では、河川作用による砂壤土性の微高地がローム台地に付随して形成されている地点が多い。これらの微高地は赤城山の山体崩落土砂が山麓端部に再堆積することにより形成されたと考えられている。周辺では類似する土層堆積があり、飯土井二本松遺跡では砂壤土下で縄文時代早期の遺物包含層が検出されている。これらの調査から、この砂壤土・砂層の堆積は縄文時代早期から前期の中で漸次進行したと考えられている。このような台地・微高地上に、弥生時代以降農耕集落が定着し、農耕地を拡大させながら、住居域も再開されていった。

東西両側の低地には、黒色腐植土が厚く堆積しており、水田土であったと考えられる。地表下60~80cmのところは浅間Bテフラが、地表下2mのところは浅間C軽石がほぼ水平堆積していた。浅間C軽石の下層には一部で灰白色砂の堆積があるが、それ以降は、安定した沖積土が堆積する環境であったと考えられる。

3. 発掘調査の方法と経過

荒砥上ノ坊遺跡の発掘調査では、発掘調査に先立って実施した遺跡分布調査結果と工事設計とを照合し、遺構面を破壊する切り土部分をまず、発掘区とした。また、分布調査に基づいて道水路部分に大形掘削重機（バックホー）による試掘トレンチを適宜設置し、遺構の有無の確認をおこなった。その結果、11区の発掘区を調査することとなった。

1・2区は、遺跡のほぼ中央を横断する「女堀」と、その南北に広がる中央の低台地の大部分である。工事工程との調整から、南側を1区、北側を2区と

した。3区は西側の沖積地を隔てた対岸の台地の縁辺で切り土になる部分である。3区から東へは、中央低台地を貫いて道路が新設されるので、その部分へも試掘トレンチを設定した。4区も西の対岸の台地縁辺で、道路の試掘トレンチで遺構が検出されて広げた発掘区である。5区は東側沖積地を隔てた対岸の台地で、これも道路の試掘トレンチで遺構が検出された。6区は中央低台地の突出部で、切り土部分である。7区は東側台地の縁辺で切り土部分と、周辺の道水路部分の試掘トレンチおよびその拡張区である。8~10区は中央台地の北部であるが、いずれも道路の試掘トレンチで遺構が検出されて広げた発掘区である。11区は西側台地のやや内部に位置している。こども道水路部分の試掘トレンチと拡張部分である。

発掘区内には記録用の一辺5mのグリッドを設定した。グリッドの基準は、ほ場整備の工事用の杭を利用した。グリッド南北ラインの国家座標との偏角は、1~10区が西へ1°04'16"、11区が西へ4°である。すべての区の一辺5mの小グリッドは、北から南へアルファベット（a~u）を、西から東へ数字（0~19）を付した。また、女堀を含めた1・2区、4区、7区では、それぞれ個別の100m四方の大グリッドを設定し、杭の呼称を大グリッド（アルファベット）—小グリッド（アルファベット—数字）で表している。グリッドの呼称は、すべての区で北西隅の杭を用いている。

発掘区は幾つかの地形に分散しており、各区ごとに土層の堆積状況や遺構確認面が異なっている。

1・2・8・9・10区のある低台地は、現耕作土下に、20cmほどの暗褐色土、5~20cmの軽石混じりの黒色土が堆積している。この黒色土は地点によっては、削られて残っていないところもある。これらを除去した暗灰褐色土上面で遺構が検出された。6区も基本的に同様の土層堆積を示していた。

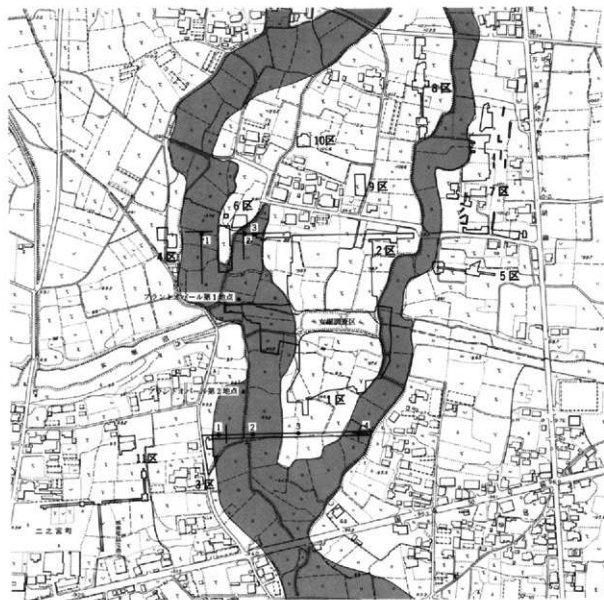
3・4・11区のある西側台地と5・8区のある東側台地は、現耕作土下の暗褐色土を除去すると、ローム層上面となり遺構が確認される。

3. 発掘調査の方法と経過

低地部の土層は、沖積地を横断して新設される道水路部分に設定した試掘トレンチで観察した。西側の沖積地に設定したトレンチのほぼ全域で浅間Bテフラが確認された。浅間Bテフラの下層はやや粘質の黒褐色土で、下層にいくにしたがって植物遺存体が多く含まれるようになる。浅間C軽石はトレンチの一部を深掘りした地点で確認できた。沖積地の中央部で、浅間C軽石を確認したのは地表下2mのところである。浅間Bテフラ・浅間C軽石両テフラ直下水田の有無は、調査時には確定できなかった。

荒砥上ノ坊遺跡の調査は、6月19日からの女堀の

発掘が始まった。1～11区の発掘調査は、女堀の調査が終了間近の9月17日から、女堀の兩岸の微高地にある1・2区の表土掘削作業から開始した。その後、工事工程との調整と体制の強化を図りながら、調査を実施した。そして、荒砥上ノ坊遺跡の発掘調査は1月25日に完全に終了した。24日には一部の体制で、K工事の下押切遺跡の低地部分の調査に移行し、25日には全体制が下押切遺跡に移った。なお、荒砥上ノ坊遺跡の調査で記録した図面・写真の基本整理・遺物の洗浄・注記作業は、下押切遺跡の調査が終了した2月5日から3月5日まで実施した。



第6図 荒砥上ノ坊遺跡の発掘区

0 1:5,000 200m

第2章 縄文～歴史時代の遺構と遺物 (既刊補遺)

既刊の報告書で、縄文および古墳から歴史時代と確定できる遺構は、報告したが、これに漏れたものが判明したので、ここで補っておきたい。6区1号土坑は「荒砥上ノ坊遺跡I」P27で記述したが、出土遺物が掲載できなかった。本書では土器1点、石器2点を掲載した。また、2区および6区の遺構は、遺構に伴う遺物が希少なため時期が明確にならないが、歴史時代以前の遺構と考えられるものである。

6区1号土坑

位置 j-1グリッド 写真 第1分冊PL6

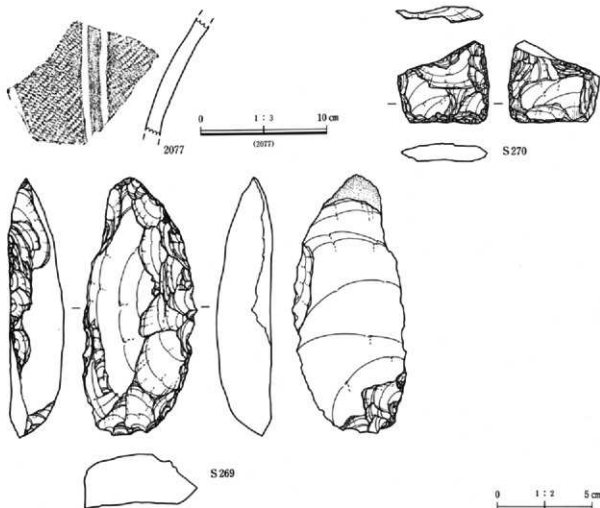
重複 1号溝と2号溝の交差する位置にあたる。

形状 平面形は隅丸方形に近く、断面は不定形。規模は長軸0.70m、短軸0.42mである。

底面 底面には凹凸が著しく、中央に小ピット。埋没土 黒褐色の土で埋まっており、縄文時代の住居を埋めていたものとは異なっていた。

遺物 埋没土から諸磯式土器2点、底面から石器3点が出土した。

所見 埋没土の様子からは縄文時代の遺構とは考えにくい。溝の掘削に伴って縄文時代前期の遺構が壊された可能性はあるだろう。



第7図 6区1号土坑の出土遺物

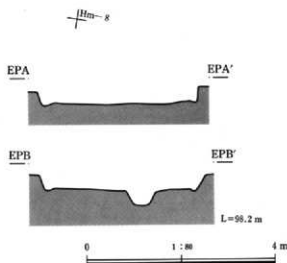
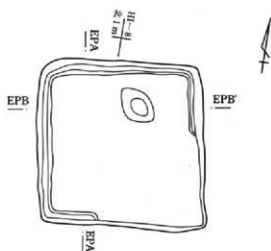
周溝 北壁・西壁沿いと、南壁西1/3および東壁北1/3に検出された。周溝の幅は15~22cm、深さ3~7cmである。

柱穴 検出されなかった。

貯蔵穴 住居北部に、長径0.90m、短径0.62m、深さ0.30mの楕円形の土坑が検出された。検出位置からすれば貯蔵穴とは考えにくく、土層からも住居に伴う土坑かどうかを確定できなかった。

遺物 ほとんど出土しなかった。

所見 出土遺物がほとんどないことから住居の時期は不明である。



第8図 2区78号住居

2区78号住居

位置 Hn-7・8グリッド **写真** P L 1
重複 無し。

形状 北壁をほぼ東西方向にする正方形を呈する。周壁はほぼ直線的に掘られているが、東壁南端がやや東にふれて確認された。四隅は比較的角張っている。規模は一辺3.55mである。

面積 測定不可 **北壁方位** N-83°-E

床面 遺構確認面から14cm掘り込んで床面となる。床面はほぼ平坦である。

2区81号住居

位置 H1・m-11グリッド **写真** P L 1
重複 南西部が80号住居に切られている。

形状 長軸を南北方向にする長方形を呈する。周壁はほぼ直線的に掘られている。四隅は比較的角張っている。規模は長軸4.60m、短軸2.93mである。

面積 測定不可 **方位** N-76°-E
埋没土 軽石粒を含む黒褐色土で埋まっていた。

床面 遺構確認面から33cm掘り込んで床面となる。床面はほぼ平坦である。

竈 東壁ほぼ中央に竈が付設されていた。住居壁より内側に竈袖がやや張り出す形態の竈で、右側は27cm、左側は16cmほどの袖の基部が残存していた。焚口幅は40cmである。燃焼部の左壁の焼土化は顕著に残っていた。煙道部は壁から外へ72cm突出していた。燃焼部はほぼ平らで、煙道部に緩やかに傾斜していた。

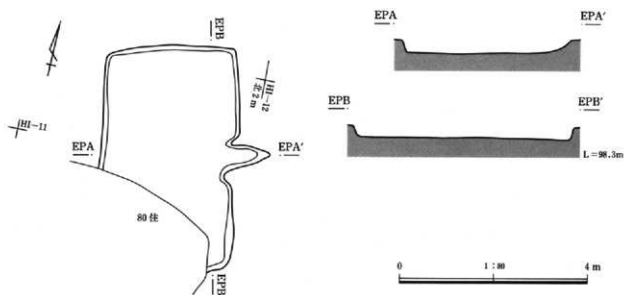
周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

遺物 竈左脇壁際に棒状礫が4点床面直上で出土した。

所見 時期がわかる出土遺物がないため、住居の時期は不明である。



第9図 2区81号住居

2区2号竪穴

位置 Hs・t-16グリッド 写真 PL1

重複 無し。

形状 わずかに長い長軸を南北方向にする隅丸方形を呈する。周壁はやや膨らんで掘られている。四隅は丸い。規模は長軸2.30m、短軸2.20mである。

面積 4.9m² 長軸方位 N-15°-W

埋没土 軽石粒を含む黒褐色土で埋まっていた。最下層には炭化物を多量に含む。

床面 遺構確認面から30cm掘り込んで床面となる。床面はほぼ平坦である。床面には炭化材が数本残っていた。

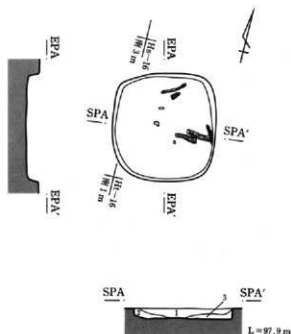
周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

遺物 遺物はほとんど出土しなかった。

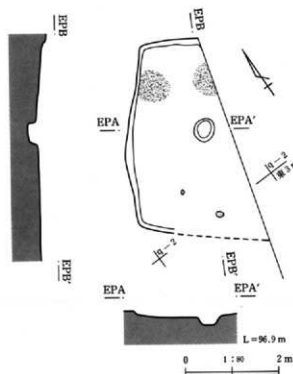
所見 竪穴状の遺構であるが、竈や炉という燃焼施設を持たない遺構である。出土遺物がないこと、2m四方という規模が小さいことを考えると、通常の住居とは考えにくい。また長方形を呈する火葬墓とは形状や規模が異なっている。埋没土の所見からは古代の遺構と考えられる。



1. 黒色土 軽石粒・軽石を含む。炭化物をわずかに含む。
2. 黒褐色土 軽石粒・軽石ともに少ない。暗褐色土塊(直径1~3cm)を含む。
3. 黒色土 軽石粒・軽石ともに少ない。炭化物を多く含む。



第10図 2区2号竪穴



第11図 6区1号整穴

6区1号整穴

位置 p・q-2グリッド 写真 PL1

重複 東半分は調査区域外で確認できなかった。

形状 方形と考えられるが、長軸がどちらかは不明である。周壁は、やや北西壁が膨らんで掘られている。四隅は確認できた北隅・西隅は比較的角張っている。規模は西壁長4.03m、残存南壁長3.0m。

面積 測定不可 西壁方位N-52°-E

床面 遺構確認面から7~10cm掘り込んで床面となる。床面は凹凸が著しい。北隅の床面には焼土化している地点があった。

竈 調査範囲内の中では検出されなかった。

周溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

貯蔵穴 中央部に、長径0.50m、短径0.45m、深さ0.16mの楕円形の土坑が検出されたが、住居に伴うものかどうかは不明である。

遺物 ほとんど遺物は出土していない。

所見 埋没土からの出土遺物から、古代の遺構と考えられる。

2区1号井戸

位置 Kc-13・14グリッド 写真 PL1

重複 2号井戸と近接するが、重複・新旧関係は確認できなかった。

形状 確認面では大型の円形であるが、底部の形状は不定形である。断面形は箱形を呈する。規模は長軸2.20m、短軸1.95m、深さ1.52mである。

底面 底面は平坦である。

遺物 埋没土中から土師器・須恵器破片が出土したが、そのうち2点（1906・1907）を図示した。

2区2号井戸

位置 Kc-13・14グリッド 写真 PL1

重複 1号井戸と近接するが、重複・新旧関係は確認できなかった。

形状 確認面では小形の円形で、断面形は箱形を呈する。規模は長軸1.00m、短軸0.96m、深さ1.18mである。

底面 底面は平坦である。

遺物 須恵器の杯形土器・甕形土器（1908・1909）破片が埋没土中から出土した。

所見 埋没土からの出土遺物から、古代の遺構と考えられる。

2区3号井戸

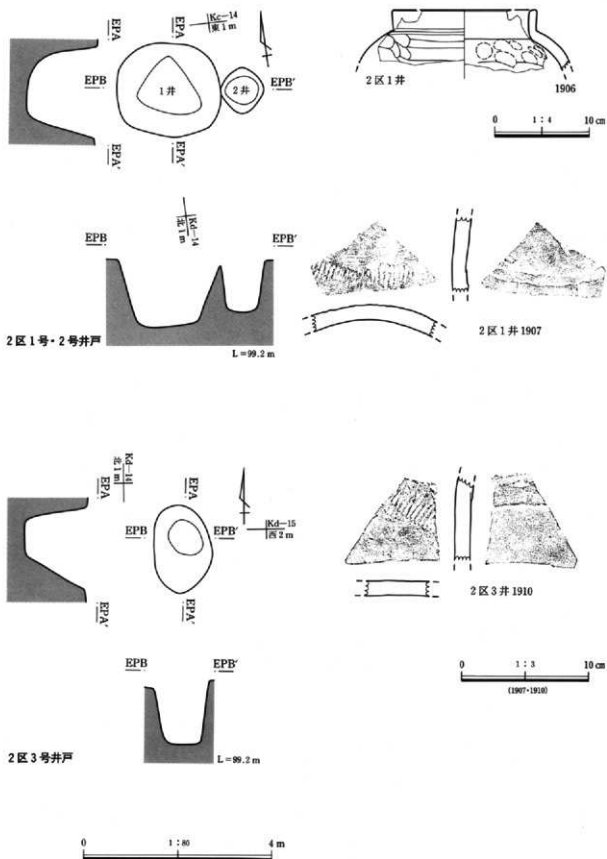
位置 Kc・d-14グリッド 写真 PL1

形状 確認面では大型の円形であるが、底部の形状は不定形である。断面形は箱形を呈する。規模は長軸1.84m、短軸1.32m、深さ1.38mである。

底面 底面は平坦である。

遺物 埋没土中から須恵器破片が出土したが、そのうち1点（1910）を図示した。

所見 埋没土からの出土遺物から、古代の遺構と考えられる。



第12図 2区1号～3号井戸と出土遺物

7区69号土坑

位置 Ck・1-11・12グリッド 写真 PL1
重複 無し。

形状 平面形は大形の円形を、断面形はすり鉢状を呈する。規模は長軸3.00m、短軸2.84mである。

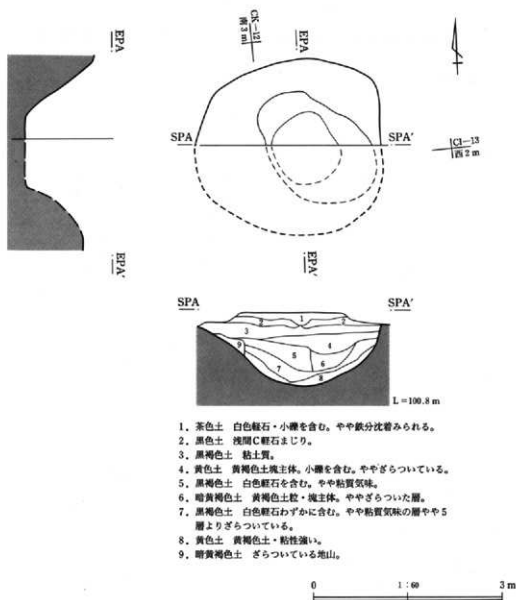
底面 遺構確認面から1.12m掘り込んで底面となる。底面は直径1.00mほどの円形で平坦である。

埋没土 黒褐色の砂質の土で埋まっていた。

遺物 遺物は出土しなかった。

所見 本土坑は出土遺物がなく、時期を判断しか

ねるが、形状の類似から1・2区で検出された大形円形の土坑と同種の遺構と考えられる。これらの遺構は1・2区の台地西端に掘られており、出土遺物から、8世紀から9世紀にかけて継続的につくられていたとみられる。7区では同種の遺構は本土坑のみで、1・2区のような偏在性と継続性は看取できなかった。このような土坑については、今回の調査で機能や性格を明確にすることができなかったが、井戸あるいは水室ではないかとの見解が出されている。



第13図 7区69号土坑

第3章 中世以降の遺構と遺物

1. 概要

荒砥上ノ坊遺跡の既刊3冊の報告書では、歴史時代以前の住居跡を中心に報告した。第Ⅳ分冊である本書では中世以降の遺構について報告するが、中世あるいは近世に時期を確定できた遺構は少ない。その他の遺構は時期不明といわざるを得ないが、形態から見ると、中世と判明したものと同様の遺構がほとんどである。したがって本書では時期の判明しなかったものも含めて遺構を形態分類して、発掘区ごとにまとめて記述する。本章で報告した各遺構の数は、第1表の通りである。

遺構は、1・2区と7区にほぼ集中して検出された。1・2区は歴史時代までの住居や土坑が数多く検出された地点で中世以降も継続して土地利用されている。調査以前は桑畑であった。また、7区は古代以前の遺構が少なく、中世以降の遺構が多く検出された地点である。この区域も調査以前は桑畑であったが、南側に現在の宅地が接していた(第6図)。

検出された遺構は、溝・掘立柱建物・井戸・土坑・竪穴・火葬墓等である。溝は1区の台地東端に並んで検出された溝群に砂礫の堆積があり水路と考えられるほかは、土地区画の溝と考えられる直線状で方形に屈曲した遺構である。特に7区で検出された1号溝や3号溝・8号溝は、規模も大きく土坑群や井戸を

伴うことから、屋敷地割りでの区画溝と考えられよう。

掘立柱建物は、中央台地先端の1・2区と北部の8区に集中して18棟が検出された。1・2区では2間2間あるいは3間2間の建物が多く、1区の東南部と2区の北半に分布している。8区には5棟の掘立柱建物が検出されているが、中央部の3棟が近接し並ぶように分布していた。

井戸は全体で38基が検出されているが、そのうち既に報告した4基と本書第2章で報告した2基が古代の井戸と判明した。残りの32基のうち22基が7区に集中している。

土坑は全体で282基が検出されているが、そのうち24基が古代の遺構と確認でき、既刊および本書第2章に掲載した。本章では残りの258基を掲載・報告する。土坑の形態を検討した結果、ピット状・円形・楕円形・隅丸方形・帯長方形・長方形・不定形の7つに形態分類して報告することとする。また、各区ごと・形態別に一覧表を掲げ、土坑や他の遺構の図や写真を掲載した。なお、これらの土坑からの出土遺物は少なく、時期を確定できるものは少ないが、遺構図とともに掲載した。

竪穴は住居と断定できないものを分類した。火葬墓は掘り込みの中に炭化材や焼土粒が多量に含まれていた土坑で、骨片や副葬されたカワラケなどが出土している。

第1表 荒砥上ノ坊遺跡各区の検出遺構数(各遺構右欄は既刊および補遺で報告の遺構数)

区	住居	掘立柱建物	井戸	溝	土坑	墓	竪穴							
1区	0	73	5	0	3	4	9	0	100	19	1	0	0	0
2区	0	111	8	0	4	2	9	0	63	3	1	0	0	2
3区	0	9	0	0	0	0	5	1	5	0	0	0	0	0
4区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5区	0	11	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0
6区	0	16	0	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0	1
7区	0	10	0	0	22	0	14	0	72	1	2	0	0	0
8区	0	14	3	2	0	0	1	0	9	0	0	0	0	0
9区	0	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10区	0	3	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0
11区	0	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1
小計	0	255	16	2	32	6	42	1	258	24	4	0	0	4
合計		255	18		38		43		282		4			4

2. 1区の遺構

1区は中央台地の発掘区のうち女堀の南側の部分である。女堀北側の2区とは一体の遺構群と考えられるが、便宜上本書では1・2区に分けて述べる。

1区では、住居73軒・掘立柱建物5棟・井戸7基・溝9条・土坑119基・火葬墓1基が検出された。このうち住居73軒・井戸4基・土坑19基は古代以前の遺構で、既刊の報告書に記載した。本書では、掘立柱建物5棟・溝9条・井戸3基・土坑100基・火葬墓1基を報告する。

遺構の分布をみると、竪穴住居群は1区全体に分布し、台地の東西端部に近いやや傾斜した部分にもつられていたが(付図2)、本書で報告する中近世の遺構は、ほとんどが台地中央部の平坦地に掘り込まれていた。これらの多くは台地中央部の住居と重複して検出された。したがって埋没土の中に古墳時代から平安時代の遺物が多く混入しており、遺構の時期決定を困難にしている。明確に中近世の遺物を出土した遺構はその時期と考えたが、それ以外は時期不明といわざるを得ない。ここでは、これらの遺構について形態別に遺構図を示し、図示できる出土遺物があれば併載した。

掘立柱建物 (第15図～第19図)

1区の掘立柱建物は東南部に4棟、北東部に1棟を確認することができた。他に柱穴と考えられる小ピットが多数検出され、部分的に直線上に位置するピット列も確認できたが、掘立柱建物と認めるまでには至らなかった。

1号・2号・5号掘立柱建物は南東部に近接して検出されている。周辺には一直線にほぼ等間隔で掘られた柱列と考えられるピットの列も4列確認されている。1号掘立柱建物の主軸方位が他と異なっているが、2号・5号掘立柱建物は方位がほぼ一致している。2号柱列は2号・5号掘立柱建物と方向が一致している。これらは一連の建物群の可能性が高いが、土層堆積の様子や出土遺物からは同時に建っ

ていたという確証は得られなかった。全体からみると土坑群1～4や6号溝の方向とも関連する。

3号・4号掘立柱建物は、それぞれ1区北東部と南部にそれぞれ独立して検出された。4号掘立柱建物は他の遺構との関連性には乏しい。3号掘立柱建物の方位は、土坑群5の長方形土坑の長軸にほぼ一致している。これらは一連の遺構とも考えられるが調査では確認することはできなかった。なお、3号掘立柱建物の南側に近い形に並ぶピット群が確認できるが、東側のピットが未確認であること、柱間寸法が一定でないこと等から掘立柱建物としなかった。

溝 (第20図～第24図)

1区で検出された溝は9条である。これらは、1号溝・2～4号溝・5～9号溝のほぼ3種に分けられる。

1区中央をほぼ東西に横断する1号溝は、緩やかに湾曲した走向を示す菜研堀の水路である。上幅は0.65～1.10m、下幅0.26～0.32m、深さ0.45～1.45mで、埋没土下層には砂が堆積していた。東西117mにわたって調査することができたが、東西両端の状況は発掘区域外のため不明である。発掘区東部では南北方向の2～4号溝に切られている。底面の標高は西端が低くなっており、東から西に傾斜している。出土遺物はきわめて少なく土師器の破片が30片ほど出土したのみである。5軒の竪穴住居と重複しているが、最も新しい9世紀後半の18号住居を1号溝が切っている。したがって、それ以降の溝とわかるが、掘削時期の詳細は不明である。

2～4号溝は中央台地の東端に南北方向に掘られた水路である。2号溝は、形態や埋没土層が1号溝と類似しており、発掘区の南北端から外へ伸びている。南北36mにわたって調査したが、発掘区外の南北両端の状況は不明である。3・4号溝は調査前まで使われていた水路と平行して検出された。2号溝のように南方に延び、Lt-6グリッドで東方に直角に屈曲する。これらの溝も9世紀後半の住居を

第3章 中世以降の遺構と遺物

切っている。出土遺物は各溝ごとに分離することができなかったが、古墳時代から江戸時代までの土器（第22図）が出土した。

一方、5～9号溝は1区中央部に検出された小規模な溝で、直角に屈曲する走向や規模から土地区画に関わる溝と考えられる。5号溝は独立した区画を示すが、6号溝と7号溝はそれぞれ区画の東と南の溝、8号溝は東の6号溝に平行する。6号溝埋没土中から須恵器杯形土器（第24図1569）が出土したが、溝出土遺物と断定できないので、溝掘削の時期は確定できなかった。

井戸（第25図）

井戸は、7基検出されている。そのうち1～4号井戸は8～9世紀の遺物がまぎって出土しており、既刊報告書で報告した。

本書では5～7号井戸を報告するが、これらにほとんどなく時期決定の決め手がない。6号井戸は小型円形で1号・4号井戸と同形態の井戸である。分布状況も他の遺構との関連を確認することは困難である。

土坑（第26図～第37図）

1区の土坑は119基が検出された。そのうち19基は古代の遺構と確認でき、既刊報告書および本書補遺で報告した。残りの土坑は時期を決定できる遺物に

乏しく、実測可能な46号・57号土坑の出土遺物もその出土状態から混入の可能性が高いと考えられる。したがって時期が明確になった土坑はほとんど無い。

土坑は平面形態からビット状・円形・楕円形・方形・長方形・帯長方形・不定形の7種に分けられる。このうち、円形・楕円形の土坑は発掘区全体に散在する。一方、方形・長方形の土坑は西半中央部に集中していた。

これらの集中する方形土坑は土坑群として5群に分けて図を掲載した。このうち土坑群1・3・4はやや離れているが、土坑の各辺の方向が一致するので一区画の中の一連の土坑配置である可能性も考えられよう。土坑群2は長軸（一部短軸）の方向を同じくする長方形土坑が密集しており、一定の方形地割りの中で掘られたものと考えられる。また土坑群5の土坑群の長軸方向は3号掘立柱建物の柱通りに一致しているが、土坑群1～4の土坑の方向とは異なっており、別の地割りも存在したことが推定される。

火葬墓（第38図）

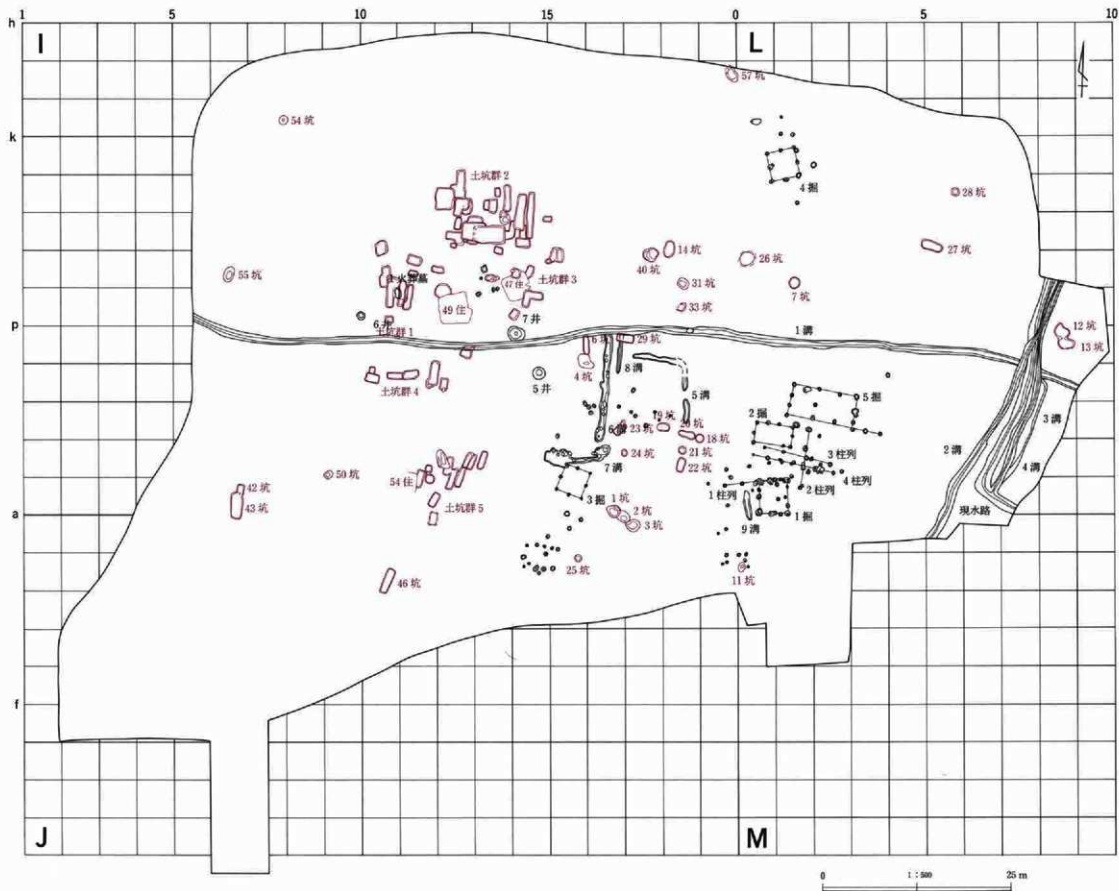
1号火葬墓は土坑群1に重複して検出された。火葬墓は群在する方形土坑群に切られており、土坑群より古い遺構である。埋没土中から焼骨片が出土している。

第2表 第3章掲載の1区掘立柱建物一覧表

建物番号	グリッド	柱間	建物種	主軸方位	出土遺物	時期	備考
1区1号掘立柱建物	Lt・Ma-0・1	2間×2間	南北棟	N-1°-E			
1区2号掘立柱建物	Li・s-0・1	3間×2間	東西棟	N-8°-E			
1区3号掘立柱建物	Is・t-15・16	2間×2間	南北棟	N-19°-E			
1区4号掘立柱建物	Lk・f-0・1	2間×2間		N-12°-W			
1区5号掘立柱建物	Lq・r-2・3	2間×2間	東西棟	N-12°-E			

第3表 第3章掲載の1区溝一覧表

溝番号	グリッド	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	傾斜(%)	走向方位	出土遺物	時期	備考
1区1号溝	Io・p-5~20 Lp・q-1~8	0.65~1.10	0.26~0.32	0.45~1.45	117	ほぼ東西	土器1石器1	18号住居(9世紀後半)より新	
1区2号溝	Lu・r-7・8	1.07~1.32	0.42~0.55	0.67~1.10	36	N-30°-E	土器7	18号住居(9世紀後半)より新	
1区3号溝	Lu・r-7・8	0.62~1.00	0.15~0.40	0.40~0.50	26	N-16~20°-E	土器1	11号住居(9世紀後半)より新	
1区4号溝	Lu・r-7・8	0.35~0.52	0.12~0.16	0.15~0.21	16	N-30~40°-E		11号住居(9世紀後半)より新	



第14図 I区規模遺構の位置

2. 1区の遺構

調査番号	グリッド	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	敷設(m)	走向方位	掲載遺物	時期	備考
1区5号溝	Ip-q-18	0.50~0.70	0.28~0.42	0.05~0.12	12	東溝N-3°-E 北溝N-83°-W		22号住居(7世紀末)より新	L字形
1区6号溝	Ip-s-16	0.65~1.25	0.30~0.95	0.12~0.22	14	N-5°-E	土層1	1号溝との新田開墾不明	直線に小ピット
1区7号溝	Is-15-16	0.45~0.62	0.25~0.40	0.02~0.09	8.5	N-82°-E		不明	直線に方形土坑
1区8号溝	Ip-q-16	0.35~0.45	0.22~0.30	0.05~0.09	4.2	N-5°-E		1号溝との新田開墾不明	
1区9号溝	Lt-0	0.55~0.75	0.25~0.48	0.05~0.10	4	N-6°-W		不明	

第4表 第3章掲載の1区井戸一覧表

井戸番号	グリッド	形態分類	短径(m)	長径(m)	深さ(m)	掲載遺物	時期	備考
1区5号井戸	Iq-14	円形・大形	1.72	1.8	1.83		49住より新	←1区49土坑
1区6号井戸	Io-9・10	円形・小形	0.93	1.12	2.47			←1区53土坑
1区7号井戸	Io-p-14・15	円形・大形	1.99	2.35	2.73			←1区58土坑

第5表 第3章掲載の1区土坑一覧表

土坑番号	土坑群	グリッド	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	掲載遺物	時期	備考
1区11号土坑	Mb-0		ピット状	1.29	0.94	0.7			最浅部は方形
1区50号土坑	Is-t-9		ピット状	1.35	1.02	1.05			最浅部は方形
1区1号土坑	It-Ja-16		円形	1.65	1.58	0.8			西側に突出部
1区2号土坑	It-Ja-16・17		円形	1.54	1.54	0.84			1・3号土坑に先行
1区3号土坑	Ja-17		円形	1.72	1.54	0.91		土層2	
1区7号土坑	Ln-o-1		円形	1.55	1.4	0.18			断面整状
1区18号土坑	Ir-s-18・19		円形	1.3	1.29	0.2			断面整状
1区21号土坑	Is-18		円形	1.62	0.97	12.5			断面整状
1区25号土坑	Jb-15		円形	0.98	0.96	0.33			断面整状
1区28号土坑	Ll-5		円形	1.07	1.04	0.12		土層1	断面整状
1区54号土坑	I-j-7・8		円形	1.12	1.12	0.65			断面内線状
1区73号土坑	Im-o-12		円形	2.18	1.5	0.1			断面整状
1区115号土坑	It-11		円形	1.3	1.22	0.25			
1区14号土坑	Im-n-18		楕円形	2.25	1.55	0.45			東側直線凹む
1区24号土坑	Is-16・17		楕円形	0.91	1.75	0.16			断面整状
1区55号土坑	Im-6		楕円形	2.22	1.28	0.83			断面線跡状
1区96号土坑	Im-13		楕円形	1.84	1.4	1.35			N-162°-E
1区60号土坑	Im-n-10		方形	1.82	1.52	0.34			N-167°-E
1区61号土坑	Im-10		方形	1.38	1.08	0.38			N-0°-E
1区62号土坑	Im-10		方形	1.68	1.2	0.32			N-0°-E
1区63号土坑	Im-10・11		方形	1.5	1.409	0.48			N-109°-E
1区69号土坑	Io-11		方形	1.14	1	調査無し			N-12°-E
1区74号土坑	Io-10		方形	1.1	1.82	0.29			N-89°-E
1区75号土坑	Im-12		方形	2.02	1.74	0.41			N-174°-E
1区76号土坑	Im-12		方形	2.84	2.4	0.59			N-3°-E
1区78号土坑	Im-m-12		方形	2.66	1.20	0.41			N-3°-E
1区81号土坑	Im-12		方形	1.24	0.24	0.19			N-161°-E
1区82号土坑	Im-12・13		方形	3.7	1.9	0.34			N-169°-E
1区83号土坑	Im-12・13		方形	3	2.58	0.6			N-84°-E
1区93号土坑	Il-13		方形	1.8	1.24	0.2			N-174°-E
1区94号土坑	Il-13		方形	1.39	0.68	0.11			N-0°-E
1区101号土坑	Im-14		方形	1.32	1.1	0.65			N-21°-E
1区102号土坑	Im-n-13		方形	1.1	0.92	0.54			N-19°-E
1区104号土坑	Io-14		方形	1.32	1.1	0.28			N-133°-E
1区107号土坑	Ip-12		方形	1.5	1.1	0.32			N-112°-E
1区108号土坑	Ip-12		方形	1.38	0.64	0.43			N-111°-E
1区125号土坑	Is-11		方形	1.68	1.68	0.23			N-9°-E
1区126号土坑	Is-11		方形	0.40	0.71	0.1			N-9°-E
1区19号土坑	Ir-17・18		長方形	1.67	0.98	0.11			N-93°-E
1区22号土坑	Is-18		長方形	1.85	1.1	0.43			N-16°-E
1区23号土坑	Ir-16・17		長方形	1.83	1.08	0.26			N-46°-E
1区27号土坑	Lm-4・5		長方形	2.87	1.35	0.12			N-109°-E
1区29号土坑	Ip-16・17		長方形	2.18	1.63	0.29			N-100°-E
1区42号土坑	It-6		長方形	1.05	0.96	0.44			N-10°-E

第3章 中世以降の遺構と遺物

土坑番号	土層	グリッド	形番	長さ[m]	短径[m]	深さ[m]	長軸方位	掲載遺物	時期	備考
1区43号土坑		It・Ja-6	長方形	3.44	1.6	0.4	N-0°-E		61住より新	断面陥形
1区46号土坑		Jb・c-10	長方形	3.38	1.1	0.45	N-23°-E	土器3	71住より新	断面陥形
1区64号土坑	1	lo-10	長方形	2.70	1	0.41	N-1°-E			断面陥形
1区65号土坑	1	lo-11	長方形	0.95	0.76	0.2	N-12°-E			断面陥形
1区66号土坑	1	ln・o-11	長方形	2.1	0.86	0.19	N-12°-E			断面陥形
1区67号土坑	1	lo-11	長方形	1.72	0.84	0.12	N-13°-E			断面陥形
1区68号土坑	1	ln・o-11	長方形	2.28	0.68	測定漏	N-9°-E			断面陥形
1区70号土坑	1	ln-11	長方形	1.86	1.18	0.28	N-108°-E			断面陥形
1区71号土坑	1	ln-11	長方形	1.3	0.76	0.19	N-104°-E			断面陥形
1区72号土坑	1	ln-11・12	長方形	1.64	0.88	0.13	N-95°-E			断面陥形
1区77号土坑	2	ll・m-12	長方形	2.18	1.06	0.43	N-11°-E			
1区79号土坑	2	lm-12	長方形	1.7	0.88	0.19	N-12°-E			
1区80号土坑	2	lm-12	長方形	2.10	1.05	0.25	N-95°-E			
1区84号土坑	2	lm-13	長方形	4.14	2.36	0.7	N-88°-E			
1区85号土坑	2	lm-13	長方形	0.70	1.32	0.15	N-87°-E			
1区86号土坑	2	lm-14	長方形	2.20	0.8	0.2	N-12°-E			
1区87号土坑	2	lm-14	長方形	1.93	1.22	0.3	N-95°-E			
1区88号土坑	2	lm-14	長方形	1.80	0.8	0.13	N-3°-E			
1区89号土坑	2	ll-13	長方形	1.15	0.7	0.35	N-0°-E			
1区95号土坑	2	lk・l-12	長方形	2.50	1.12	0.63	N-1°-E			
1区97号土坑	2	lm・l-14	長方形	1.06	0.74	0.2	N-96°-E			
1区98号土坑	3	ln-15	長方形	1.78	0.9	0.28	N-95°-E			
1区100号土坑	3	ln-14	長方形	1.70	0.9	0.17	N-109°-E			
1区105号土坑	3	lo-14	長方形	1.24	0.92	0.47	N-118°-E			
1区106号土坑	3	lo-14	長方形	1.56	0.98	0.55	N-9°-E			
1区109号土坑	4	lq-12	長方形	1.6	1.44	0.34	N-9°-E			南端にピット
1区110号土坑	4	lq-11・12	長方形	2.88	1.12	0.76	N-8°-E			南北端にピット
1区111号土坑	4	lq-11	長方形	2	0.96	0.56	N-90°-E			
1区113号土坑	4	lq-10	長方形	0.80	0.74	0.18	N-12°-E			
1区114号土坑	4	lq-10	長方形	1.92	1.2	0.46	N-117°-E			
1区116号土坑	5	ls-12	長方形	2.46	0.9	0.15	N-13°-E			
1区117号土坑	5	ls・t-12	長方形	3	0.85	0.22	N-20°-E			
1区118号土坑	5	ls-12	長方形	2.22	0.7	0.55	N-25°-E			
1区119号土坑	5	ls・t-12	長方形	2.72	0.76	0.18	N-21°-E			
1区120号土坑	5	ls-12	長方形	2.18	0.68	0.18	N-19°-E			
1区121号土坑	5	ls-13	長方形	2.4	0.9	0.2	N-19°-E			
1区122号土坑	5	ls-11・12	長方形	1.96	1	0.15	N-33°-E			
1区123号土坑	5	ls-11・12	長方形	1.58	1	0.07	N-7°-E			
1区124号土坑	5	ls・t-11	長方形	2.28	0.98	0.34	N-12°-E			
1区6号土坑		lp-15・16	帯長方形	2.5	0.77	0.36	N-0°-E			断面陥形 北端欠損
1区89号土坑	2	ll・m-14	帯長方形	4.75	1.3	0.54	N-9°-E			
1区90号土坑	2	ll・m-14	帯長方形	6.12	1.02	0.38	N-2°-E			
1区91号土坑	2	ll-13	帯長方形	3.5	0.84	0.43	N-0°-E			
1区112号土坑	4	lq-10・11	帯長方形	3.88	0.88	0.44	N-82°-E			
1区12号土坑		Lp-8	不定形	2	1.5	0.34	N-111°-E			13土坑と重複
1区13号土坑		Lp-8	不定形	2.15	1.3	0.26	N-90°-E			12土坑と重複
1区20号土坑		lr・s-18	不定形	2.27	1.12	0.06	N-101°-E			断面陥状
1区26号土坑		lm-0	不定形	2.06	1.78	1	N-46°-E			断面陥凸
1区31号土坑		lo-17・18	不定形	1.56	1.38	0.57	N-122°-E			断面陥状
1区33号土坑		lo-18	不定形	1.2	0.63	0.88	N-27°-E			断面陥凸
1区40号土坑		ln-17	不定形	2.05	1.95	0.84	N-69°-E			→風筒木痕
1区4号土坑		lp・q-16	不定形	2.45	1.78	0.93	N-89°-E			1住より新
1区56号土坑	5	ls-12	不定形	2.82	1.4	0.97	N-154°-E			→風筒木痕
1区57号土坑		ll-19	不定形	2.3	1.4	0.71	N-152°-E	土器2	30住より新	
1区99号土坑	3	ln-15	不定形	1.94	0.64	0.17	N-105°-E			
1区103号土坑	3	ln-13	不定形	1.6	0.84	0.31	N-0°-E			東端にピット

第6表 第3章掲載の1区火葬墓一覽表

墓番号	グリッド	形番分類	長さ[m]	短径[m]	深さ[m]	長軸方位	掲載遺物	時期	備考
1区1号火葬墓	lo-10・11	隅丸長方形	1.18	0.65	0.15	N-4°-E		中世	

1区1号掘立柱建物

位置 Lt・Ma-0・1グリッド

写真 PL 2

重複 1号柱列と梁行北列が重複している。新旧関係は確認できなかった。

形状 南北棟建物と考えられ、基本的には2間×2間(4.4m×3.8m)の規模をもつ。柱間寸法は桁行寸法西列(P1・P11・P10)は2.2m-2.2mの間である。一方、東列(P4~P7)は0.75m-2.55m-1.1mの変動的な間口で、比較的小さな柱穴で構成されている。梁行寸法は北列(P1・P2・P4)が1.4m-2.4m-2.0m、(P1・P3・P4)が2.0

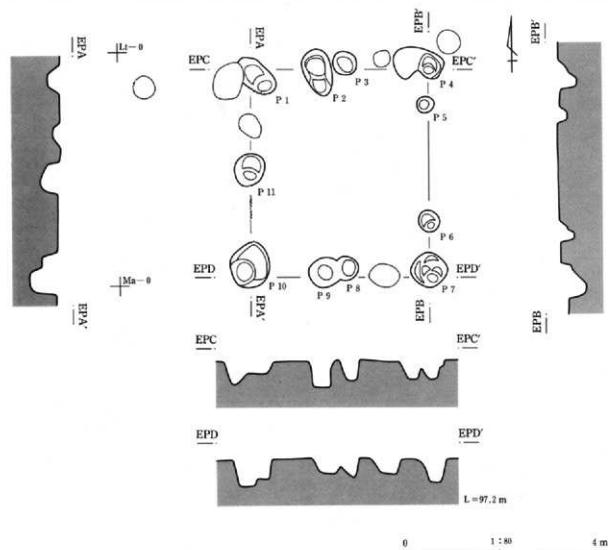
m-1.8mである。南列は(P10・P9・P7)が1.6m-2.2m、(P10・P8・P7)が2.0m-1.8mである。建て換えと考えられるが、P2・P9では柱間が異なり、P3・P8では同一寸法で東間口が広い構造となる。

主軸方位 N-1°-E

柱穴 柱穴掘形は直径0.50m、深さ0.50-0.60mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

遺物 無し。

所見 桁行東列の柱間が変動的で、中央が開いた形になっている。あるいは入り口の可能性がある。



第15図 1区1号掘立柱建物

1区2号掘立柱建物

位置 Lr・s-0・1グリッド

1号掘立柱建物の北5mに位置する。

写真 PL2

重複 無し。

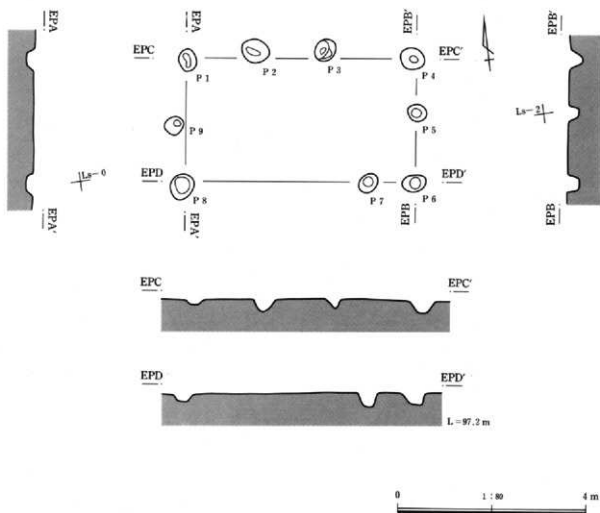
形状 東西棟で、3間×2間(4.9m×2.6m)の建物である。桁行南列の柱を欠く。柱間寸法は桁行寸法北列(P1~P4)は1.4m-1.5m-2.0mで東間口が広くなっている。南列(P8・P7・P6)は柱穴一つ検出できなかつた上、P7が東に偏っているので変則的柱間寸法3.8m-1.0m.になっ

ている。梁行寸法は西列(P1・P9・P8)は中央のP9が外側にずれているが、芯心間の距離は1.3m-1.3mの等間である。東列(P4~P5)は1.1m-1.5mで南間口が広くなっている。

主軸方位 N-8'-E

柱穴 柱穴掘形は直径0.40~0.50m、深さ0.40~0.50mほどの円形あるいは楕円形を呈する。ほとんどの柱穴で柱痕は検出できなかった。

所見 東側・南側に主軸の方位を同じくする柱列が検出されている。本建物と関連のある施設の可能性もあるが確定的でない。



第16図 1区2号掘立柱建物

1区3号掘立柱建物

位置 Is・t-15・16グリッド

写真 PL 2

重複 無し。

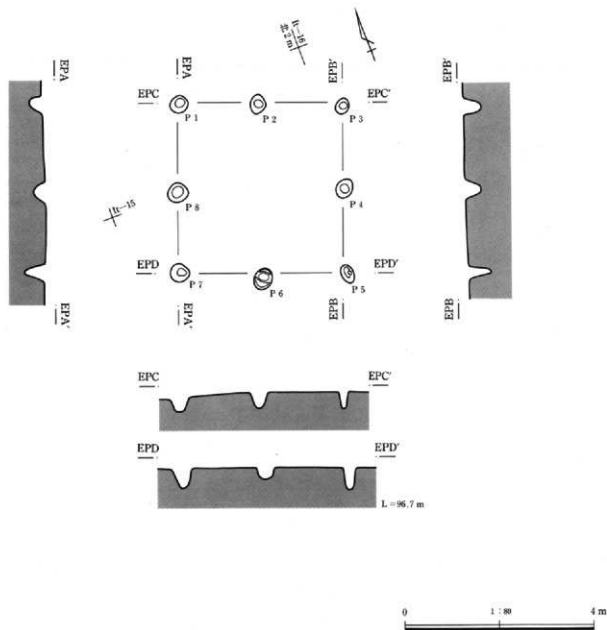
形状 南北棟で、2間×2間(3.6m×3.7m)の建物である。柱間寸法は桁行寸法西列(P1・P8・P7)・東列(P3~P5)ともに1.8m~1.8mの等間である。梁行寸法も北列(P1~P3)・南列(P

7・P6・P5)とも1.75m~1.75mの等間である。相対する各列は同一寸法で、桁間・梁間とも近似した柱間の建物である。

主軸方位 N-19°-E

柱穴 柱穴掘形は直径0.40m、深さ0.20~0.40mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

遺物 無し。



第17図 1区3号掘立柱建物

第3章 中世以降の遺構と遺物

1区4号掘立柱建物

位置 Lk・1-0・1グリッド

写真 PL2

重複 無し。

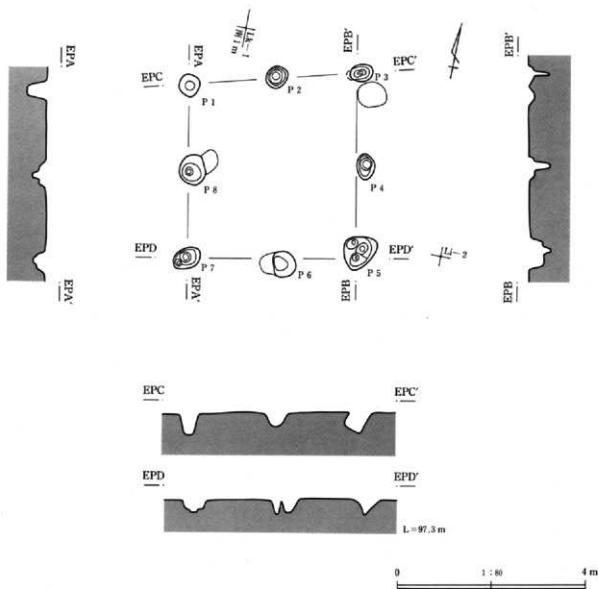
形状 北列P3が北に位置するので台形を呈するが、基本的には2間×2間(3.6m×3.6m)の方形の建物と考えられる。柱間寸法は西列(P1・P8・P7)は1.8m-1.8mの等間である。一方、東列(P3~P5)は、P3が北側にずれているために、1.9m-2.0mと変則的である。また中央のP4はやや東

側にずれている。北列(P1~P3)と南列(P7・P6・P5)はともに1.9m-1.7mで、西間口が広くなっている。

主軸方位 N-12°-W

柱穴 柱穴掘形は直径0.4~0.5m、深さ0.20~0.40mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかったが、柱穴底部が細くなっているものが多い。

遺物 無し。



第18図 1区4号掘立柱建物

1区5号掘立柱建物

位置 $Lq \cdot r - 2 \cdot 3$ グリッド

写真 PL2

重複 無し。

形状 東西棟建物と考えられ、基本的には2間×2間(5.2m×3.9m)の規模をもつ。柱間寸法は桁行寸法北列(P1~P3)が2.9m~2.3mで、南列(P8・P7・P6)も、東端のP6がやや東南にずれているが、2.9m~2.3mの同一寸法と推定できる。この柱通りの東の延長には2.0m~2.0mの間隔で柱穴(P14・P15)が検出されている。梁行寸法は西列(P1・P9・P8)が2.1m~1.8m、東列(P3~P6)が1.9m~2.0mである。梁行西列の西側には主軸方位が同じ柱列(P10~P13)が検出されている。(図はp.28第19図)

主軸方位 N-12°-E

柱穴 柱穴掘形は直径0.50~1.20m、深さ0.20~0.70mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

遺物 無し。

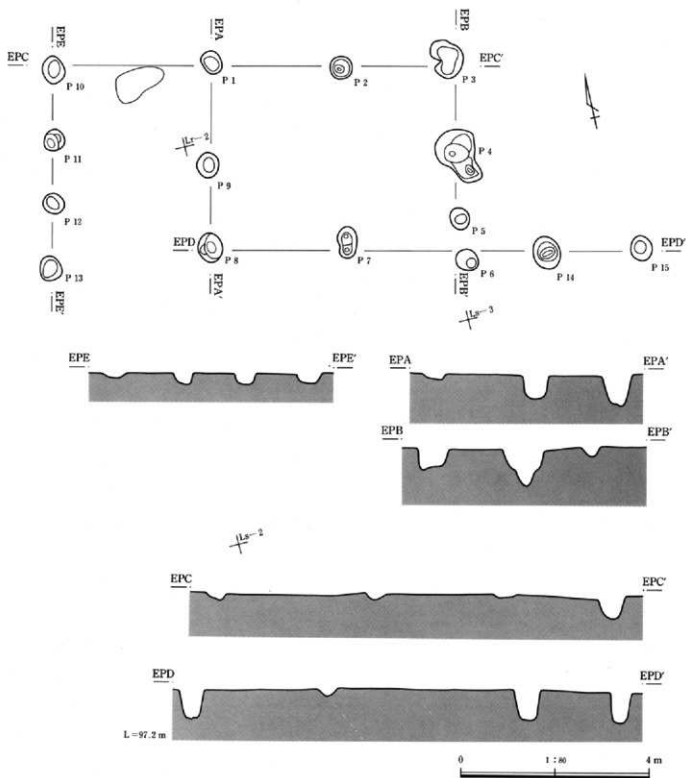
所見 本建物の東西には、柱通りおよび主軸方向を同一にする柱列が展開している。P10~P13は梁行西列に平行する柱列で、柱間寸法は1.65m~1.3m~1.3mとやや短い。P14・P15は桁行南列の延長に検出された柱列で柱間は2m~2mである。これらの柱列は、建物に直接関わる柱穴とはいえないが、付随する施設の可能性がある。

柱列

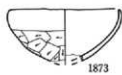
1区では、5棟の掘立柱建物の他に多数のピットを検出したが、調査時には建物としての構造を確認することができなかった。そこで整理作業の際にピットの平面的位置を確認する作業をおこなった。検討の結果、一直線上に同じ柱間と並ぶ柱の列として確認できる地点があり、4カ所の柱列を抽出した。

柱列は1号掘立柱建物と2号掘立柱建物の間に集中している。1号柱列は1号掘立柱建物梁行北列に沿うようにあるが若干の方位のずれがある。2号柱列は2号掘立柱建物の梁行東列に平行する位置にある。3号・4号柱列は5号掘立柱建物の桁行南列に平行する位置にある。このような柱列と掘立柱建物の位置関係からすると、柱列は建物に付随した何らかの構造物と考えられるが詳細は不明である。ここでは第14図に位置を示し、計測値を下記にまとめて報告としたい。

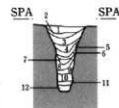
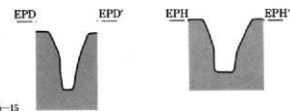
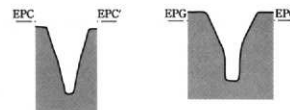
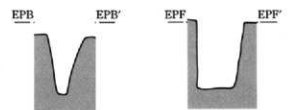
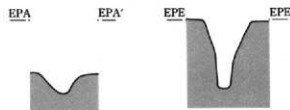
1号柱列の方位はN-82°-E、柱間寸法は西から2.3m-1.9m-1.8m-1.4m-1.5mである。2号柱列の方位はN-8°-E、柱間寸法は北から2.5m-2.5m-3.0mである。3号柱列の方位はN-77°-W、柱間寸法は西から2.6m-3.2m-3.2mである。4号柱列の方位はN-78°-W、柱間寸法は西から1.9m-1.6m-1.8m-1.5m-1.6m-2.4mである。



第19図 Ⅰ区5号掘立柱建物

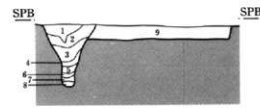


0 1:4 10 cm



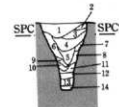
A-A'

1. 暗褐色土 暗褐色土を主体に黄褐色土・黒色土塊 (直径0.5~4cm) が多く入る。土はやわらかく、しまりが無い。
2. 黒褐色土 黒色土を主体に黄褐色土・暗褐色土塊が入る。土はやわらかく、しまりが無い。
3. 黒褐色土 軽石は少ないが小石が多い。土はやわらかく、しまりが無い。
4. 暗黄褐色土 暗褐色土・黄褐色土の細かいまじり。土はやわらかく、しまりが無い。
5. 暗黄褐色土 暗黄褐色土に暗褐色土がまじる。土はやわらかく、しまりが無い。
6. 黒褐色土 黒色土を主体にしたまじり。土はやわらかく、しまりが無い。
7. 暗褐色土 暗褐色の土が多い。土はやわらかく、しまりが無い。
8. 暗黄褐色土 暗黄褐色土に暗褐色土がまじる。土はやわらかく、しまりが無い。
9. 暗褐色土 暗褐色の土が多い。土はやわらかく、しまりが無い。
10. 黒褐色土 暗褐色土と黒色土が1cmづつ位サンドイッチ状になる。土はやわらかく、しまりが無い。
11. 黒褐色土 暗褐色土と黒色土が1cmづつ位サンドイッチ状になる。土はやわらかく、しまりが無い。
12. 暗褐色土 土はやわらかく、しまりが無い。



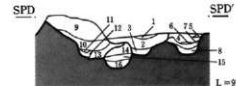
B-B'

1. 暗褐色土 地山 (暗黄褐色) 塊 (直径0.5~4cm) を多く含む。
2. 黒色土 浅層に軽石をわずかに含み、浅層に軽石? を多く含むため、土がサラサラしている。
3. 黒色土 やや粘質。
4. 暗褐色土 土はやわらかい。
5. 暗黄褐色土 地山のくずれた土。やわらかく粘質。
6. 暗黄褐色土と黒色土の混土。
7. 黒褐色土 暗褐色土と暗黄褐色土の混土。
8. 砂層 ラミナはない。
9. 1号住居埋設土。



C-C'

1. 暗褐色土 黒褐色土・暗褐色土・黄褐色土のまじり。
2. 暗褐色土 1層に順すが、暗褐色土が多い。
3. 黒褐色土 1層に順すが、黒褐色土を主体にしたまじり。
4. 黒褐色土 軽石・小石が多い。
5. 暗黄褐色土 黒・黄褐色土塊 (直径1~10cm) を含む。
6. 暗褐色土 小石を多く含む。
7. 暗褐色土 小石を多く含む。
8. 暗黄褐色土 地山塊土体。
9. 暗黄褐色土 地山塊土体。
10. 暗褐色土 暗褐色土塊土体。
11. 黒褐色土 軽石・小石を含まず。
12. 暗褐色土 微細砂層が数枚入り、土はやわらかい。
13. 暗褐色土 微細砂層が数枚入り、土はやわらかい。
14. 暗褐色土 微細砂層 ラミナなし。

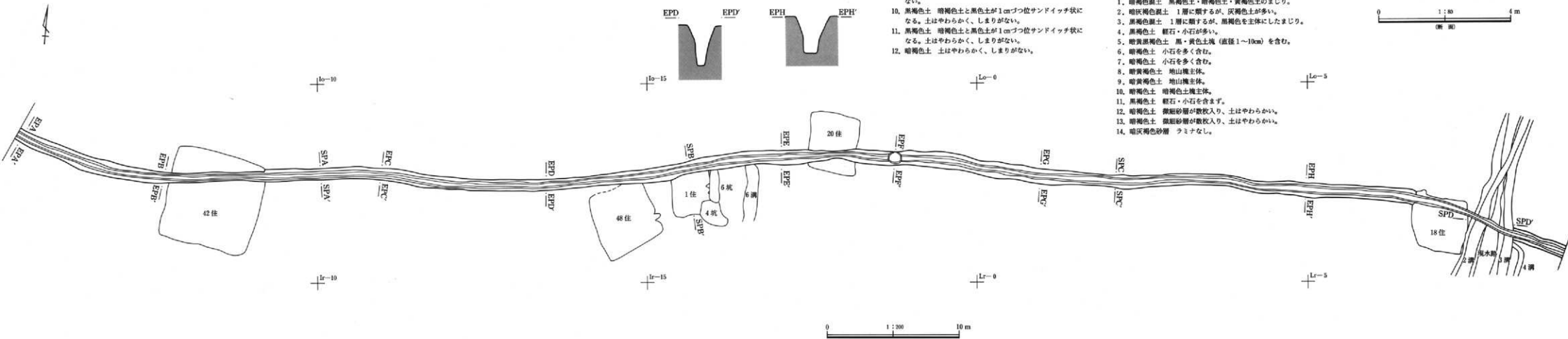


L=97.0 m

D-D' (1区2. 3. 4現溝B-B')

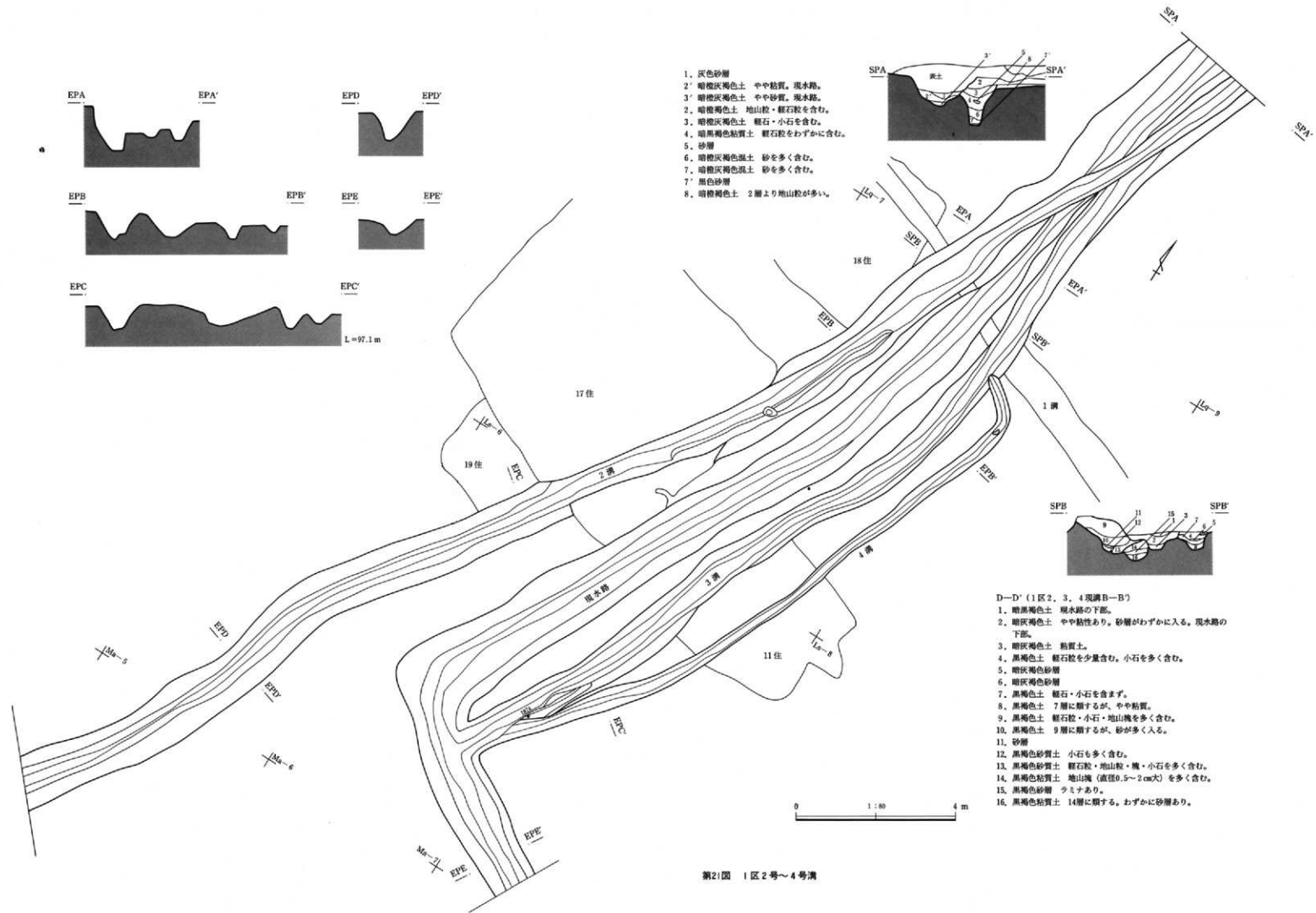
1. 暗褐色土 現水路の下層。
2. 暗褐色土 やや粘性あり。砂層がわずかに入る。現水路の下層。
3. 暗褐色土 粘質土。
4. 黒褐色土 軽石を少量含む。小石を多く含む。
5. 暗褐色土 粘質土。
6. 暗褐色土 粘質土。
7. 黒褐色土 軽石・小石を含まず。
8. 黒褐色土 7層に順すが、やや粘質。
9. 黒褐色土 軽石・小石・地山塊を多く含む。
10. 黒褐色土 9層に順すが、砂が多く入る。
11. 砂層
12. 黒褐色土 小石も多く含む。
13. 黒褐色土 軽石・地山塊・塊・小石を多く含む。
14. 黒褐色土 地山塊 (直径0.5~2cm) を多く含む。
15. 暗褐色土 ラミナあり。
16. 黒褐色土 14層に順すが、わずかに砂層あり。

0 1:50 4 m



0 1:200 10 m

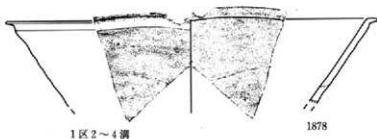
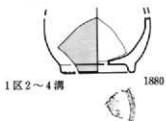
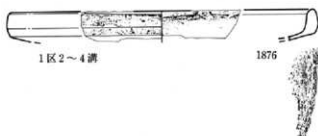
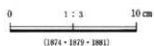
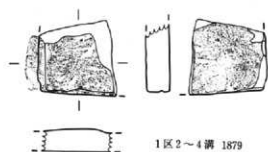
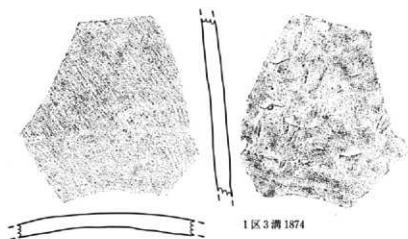
第20図 1区1号溝と出土遺物



1. 灰色砂層
2. 暗褐色土 中や粘質、現水路。
3. 暗褐色土 中や砂質、現水路。
2. 暗褐色土 地山粒・軽石粒を含む。
3. 暗褐色土 軽石・小石を含む。
4. 暗黒褐色粘質土 軽石粒をわずかに含む。
5. 砂層
6. 暗褐色土 砂を多く含む。
7. 暗褐色土 砂を多く含む。
- 7' 黒色砂層
8. 暗褐色土 2層より地山粒が多い。

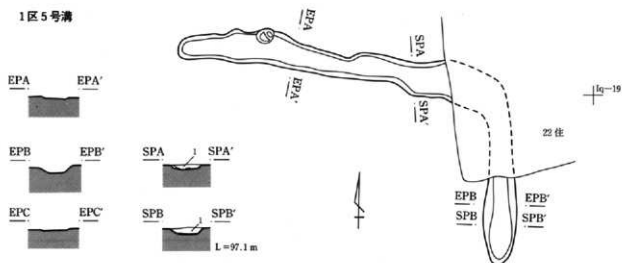
- D-D' (1区2, 3, 4現溝B-B')
1. 暗褐色土 現水路の下部。
 2. 暗褐色土 中や粘質あり。砂層がわずかに入る。現水路の下部。
 3. 暗褐色土 粘質土。
 4. 黒褐色土 軽石粒を少量含む。小石を多く含む。
 5. 暗褐色土 砂層
 6. 暗褐色土 粘質土
 7. 黒褐色土 軽石・小石を含みます。
 8. 黒褐色土 7層に類するが、中や粘質。
 9. 黒褐色土 軽石粒・小石・地山粒を多く含む。
 10. 黒褐色土 9層に類するが、砂が多く入る。
 11. 砂層
 12. 黒褐色土 小石も多く含む。
 13. 黒褐色土 軽石・地山粒・塊・小石を多く含む。
 14. 黒褐色土 地山塊 (直径0.5~2cm) を多く含む。
 15. 黒褐色土 粘質土あり。
 16. 黒褐色土 14層に類する。わずかに砂層あり。

第21図 1区2号~4号溝

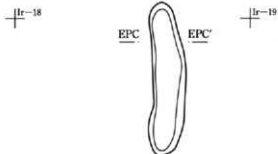


第22図 1区2号~4号溝出土遺物

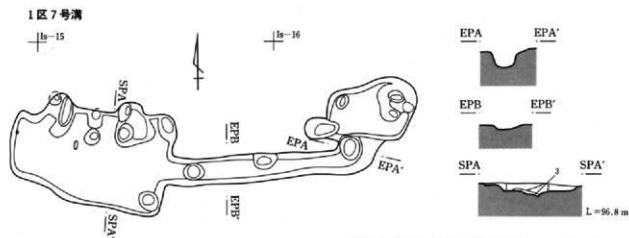
1区5号溝



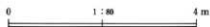
1. 黒褐色土 軽石粒（白色）を多く含む。浅間B軽石？を含む
 為かザラザリである。



1区7号溝

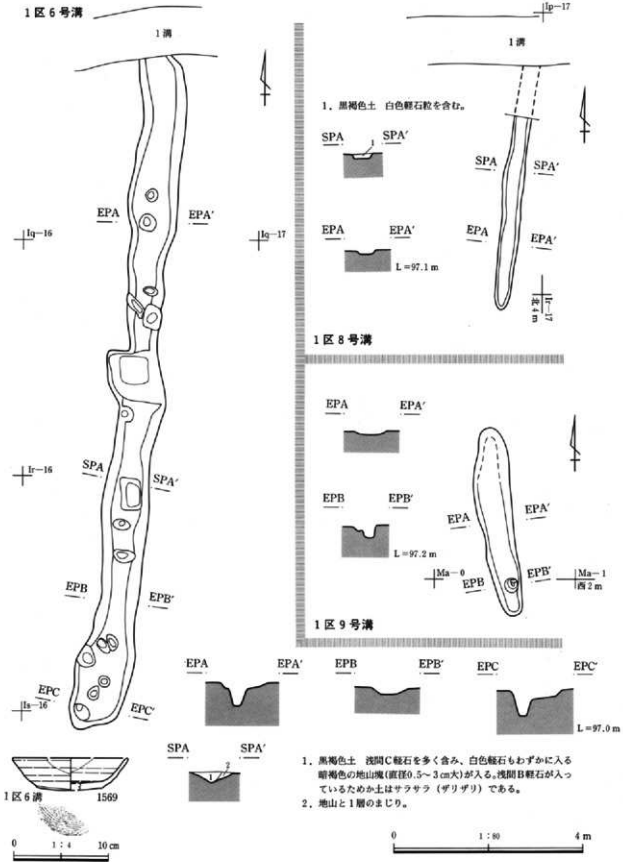


1. 黒褐色土 軽石粒・地山粒・地山塊（直径1～3cm大）を含む。
 2. 黒褐色土 1層に類するが、ややサラサラしている。
 3. 1層と地山のまじり。



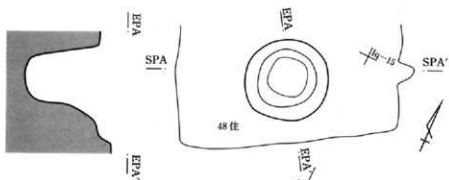
第23図 1区5号・7号溝

2. 1区の遺構

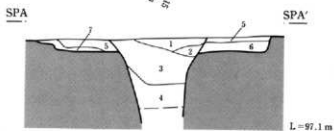


第24図 1区6号・8号・9号溝と出土遺物

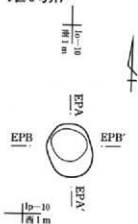
1区5号井戸



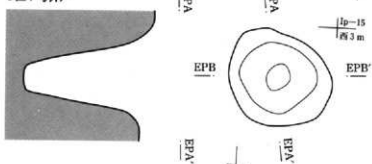
1. 灰褐色土 黄褐色土塊・黄褐色粘質土塊を含む。
2. 褐色土 黄褐色土塊を少量含む。
3. 黒褐色砂質土 黄褐色土粒・白色軽石を少量含む。人頭大の石が数個出土。
4. 地山黄褐色土と黒色砂質土のラミナ。
5. 黒色土 白色軽石・焼土粒を多量に含む。
6. 黒褐色土 黄褐色土塊・焼土粒を含む。
7. 褐色土 白色軽石・焼土粒・黄褐色土粒を含む。



1区6号井戸



1区7号井戸

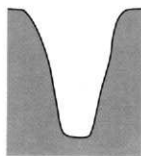


EPA EPA'

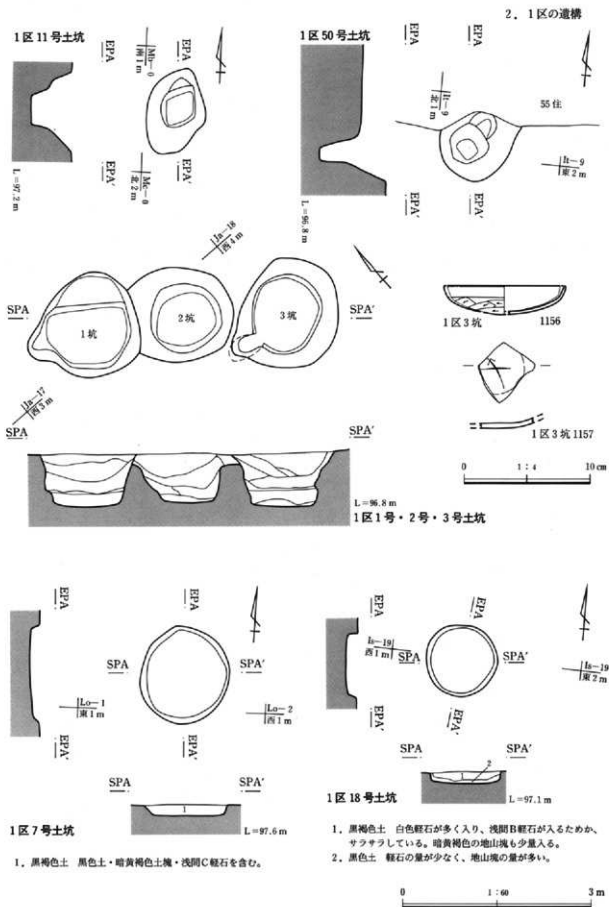
EPB EPB'

EPB

EPB'

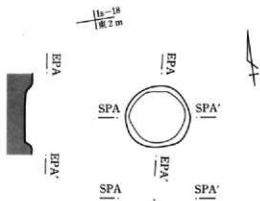


第25図 1区の井戸



第26図 1区の土坑(1)と出土遺物

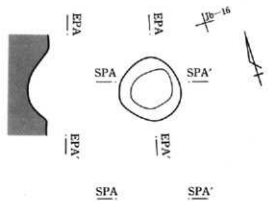
第3章 中世以降の遺構と遺物



1区 21号土坑

L=97.6m

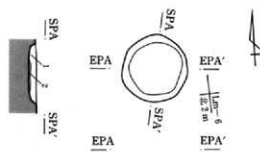
1. 黒褐色土 白色軽石が多く入り、洗間日軽石?が入るためか、サラサラしている。暗黄褐色の地山塊も入るが少量。



1区 25号土坑

L=96.5m

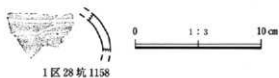
1. 黒褐色土 洗間日軽石?が入るためかサラサラしている。地山粒塊（直径0.5~1cm大）が多く入る。
2. 黒褐色土 1層に類するが塊が大きく（直径1~4cm大）量も多い。
3. 2層と地山のまじり。
4. 暗褐色土



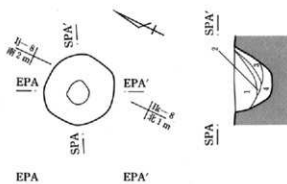
1区 28号土坑

L=97.4m

1. 黒褐色土 地山（暗褐色土）塊（直径0.5~2cm）・軽石・小石が少量入る。
2. 黒色土 洗間B軽石?が入るためか、サラサラしている。



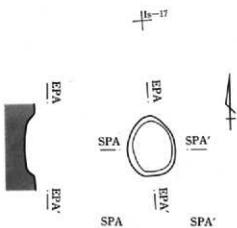
1区 28坑 1158



1区 54号土坑

L=97.7m

1. 黒色土 大粒の焼土粒を多量に含む。少量の白色軽石を含む。
2. 黒色土 黄褐色土粒を含む。
3. 黒色土 小粒の焼土粒を多量に含む。
4. 黒褐色土 黄褐色土粒を含む。



1区 24号土坑

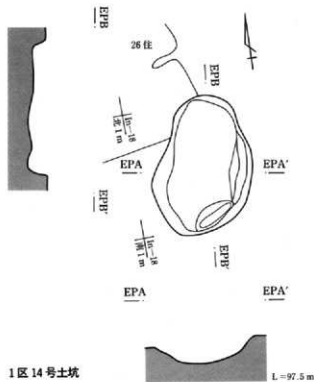
L=96.9m

1. 黒褐色土 白色軽石が多い。

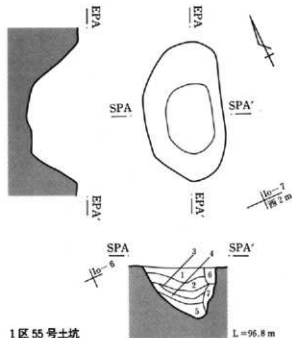
第27図 1区の土坑②と出土遺物



2. 1区の遺構

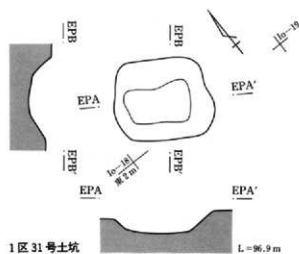


1区14号土坑

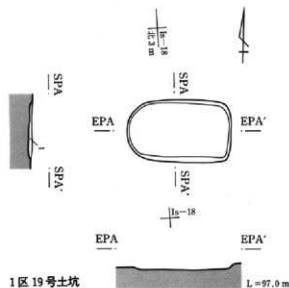


1区55号土坑

1. 黒色土 浅間C軽石まじり。
2. 灰褐色土 黄褐色土小塊を多く含む。
3. 黒褐色土 黄褐色土粒を含む。
4. 灰褐色土 黄褐色土小塊を多く含む。
5. 黒色土 黄褐色土塊を含む。
6. 地山崩落。
7. 灰褐色土 黄褐色土(崩落?)。



1区31号土坑



1区19号土坑

1. 黒色土 軽石粒を多く含む。暗黄褐色土塊(直径0.5~5cm大)が多く入る。

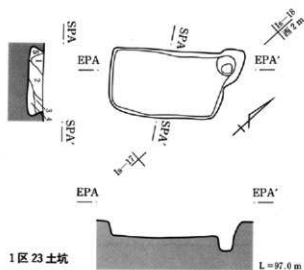


第28図 1区の土坑(3)



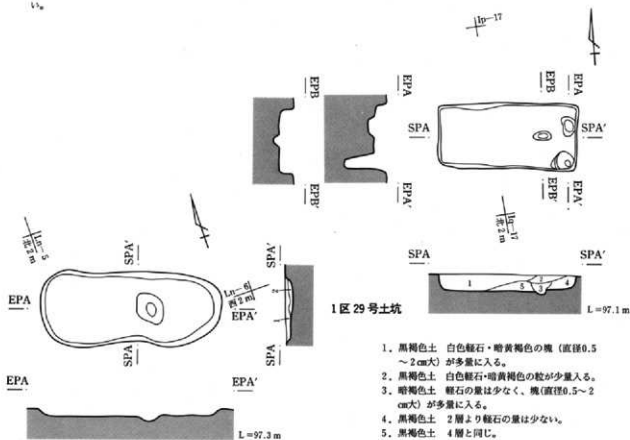
1区 22号土坑

1. 暗黄褐色土 直径0.5~3cmの暗黄褐色の塊が多く入る。
2. 黒褐色土 1層より塊が少ない。
3. 黒色土 塊がわずかに入り、浅層に軽石?が入るためかサラサラしている。
4. 暗褐色土 塊は入るが量は少ない。
5. 暗黄褐色土 直径0.5~3cmの暗黄褐色の塊が、1層より大きい。



1区 23号土坑

1. 暗褐色土 暗黄色の地山塊 (直径0.5~3cm)が入る。
2. 暗黄褐色土 暗黄色の地山塊 (直径0.5~3cm)が極めて多く入る。
3. 暗褐色土 1層に類する。
4. 暗黄褐色土 2層より、塊の量が少ない。
5. 暗黄褐色土 4層に類する。



1区 27号土坑

1. 黒色土 軽石粒がわずかに入る。
2. 黒褐色土 軽石粒がわずかに入る。

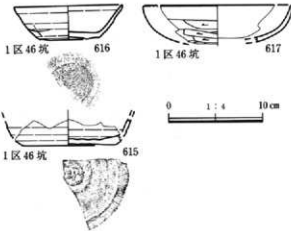
1区 29号土坑

1. 黒褐色土 白色軽石・暗黄褐色の塊 (直径0.5~2cm大)が多量に入る。
2. 黒褐色土 白色軽石・暗黄褐色の粒が少量入る。
3. 暗褐色土 軽石の量は少なく、塊 (直径0.5~2cm大)が多量に入る。
4. 黒褐色土 2層より軽石の量は少ない。
5. 黒褐色土 4層と同じ。

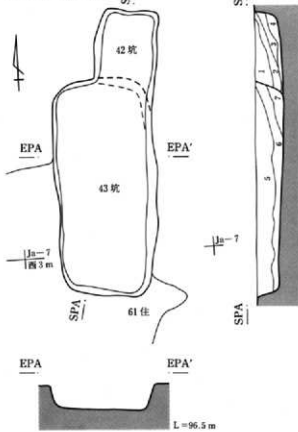


第29図 1区の土坑(4)

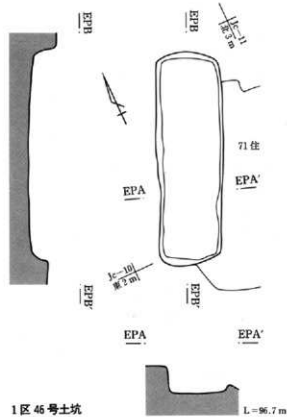
2. 1区の遺構



1区42号・43号土坑

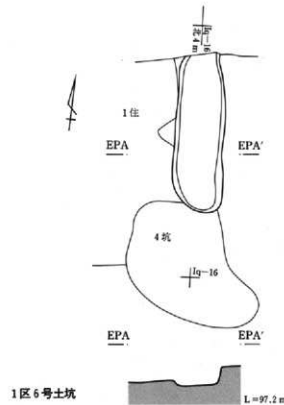


1. 黒褐色土 黄褐色土塊・白色軽石を含む。
2. 黒褐色土 1層より黄褐色土塊が多い。
3. 黒色土 黄褐色土塊を含まない。
4. 褐色土 黄褐色土塊を多く含む。
5. 黒褐色土 多量の白色粒子と焼土粒・黄褐色土を含む。
6. 黒色砂質土 黄褐色土塊を含む。
7. 黒色砂質土 黄褐色土粒を含む。



1区46号土坑

L=96.7 m

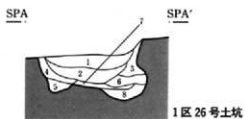
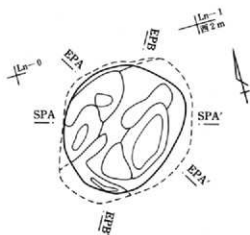
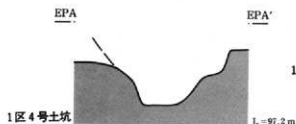
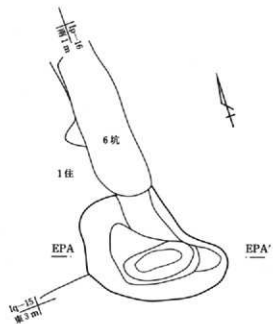


1区6号土坑

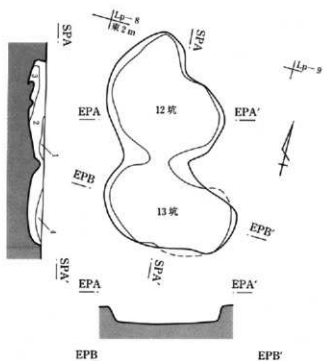
L=97.2 m



第30図 1区の土坑(5)と出土遺物

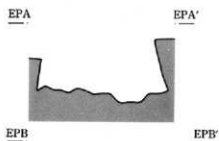


1区26号土坑



1区12号・13号土坑 L=97.0m

1. 暗黒褐色土 黒色・暗褐色・暗褐色土のまじり。軽石を多く含む。
2. 黒褐色土 軽石を多く含む、暗褐色の塊を含む。
3. 黒褐色土 2層より暗褐色の塊が少ない。
4. 暗黒褐色土 1層に類する。

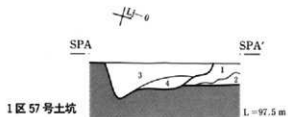
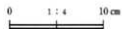
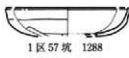
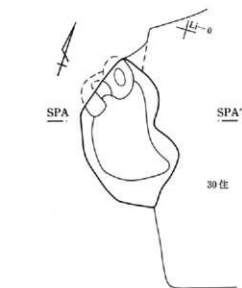
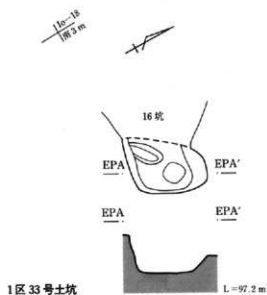
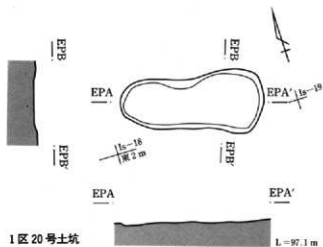


1. 黒褐色土 軽石・軽石粒・地山粒を多く含む。小石も含む。
2. 黒色土 軽石・軽石粒・地山粒を多く含む。小石も含む。
3. 暗黒褐色土 黒色土・暗褐色土塊（直径4～6cm）のまじり。
4. 暗褐色土 黒色土・暗褐色土塊のまじり。
5. 暗褐色土 4層に類する。
6. 黒色土 軽石粒がわずかに入る。
7. 暗灰黒色土 6層と地山のまじり。
8. 暗灰白色土 黒色土がまじる。



第31図 1区の土坑(6)

2. 1区の遺構

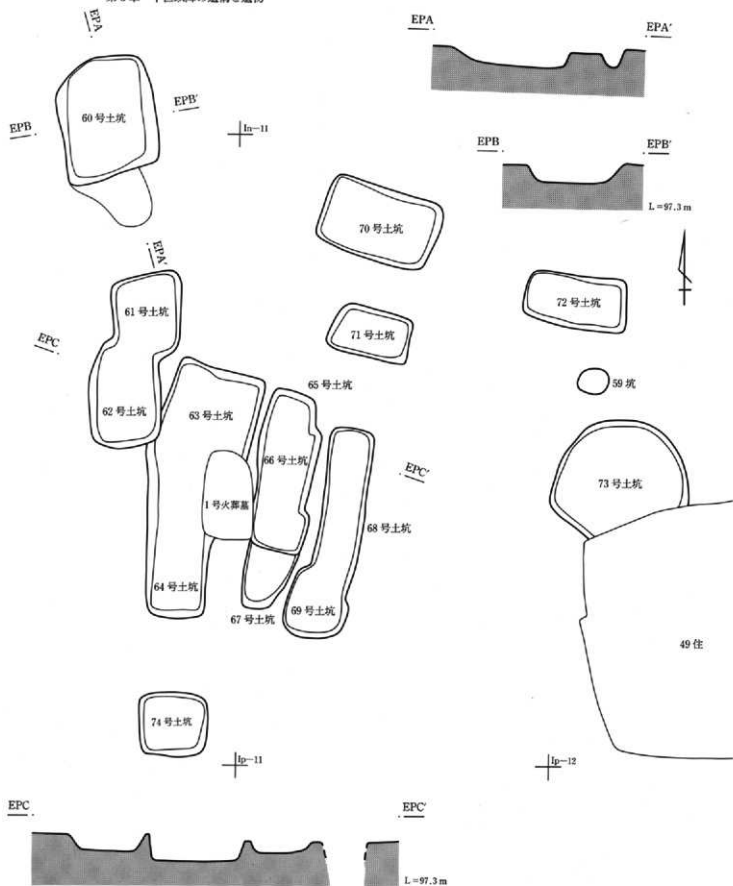


1. 黒色土 白色軽石・焼土粒を含む。
2. 黄褐色土 白色軽石・砂粒・地山(砂質)塊を含む。粘質。
3. 黒褐色土 白色軽石・粘土粒を含む。
4. 黒灰色土 白色軽石を少量含む。

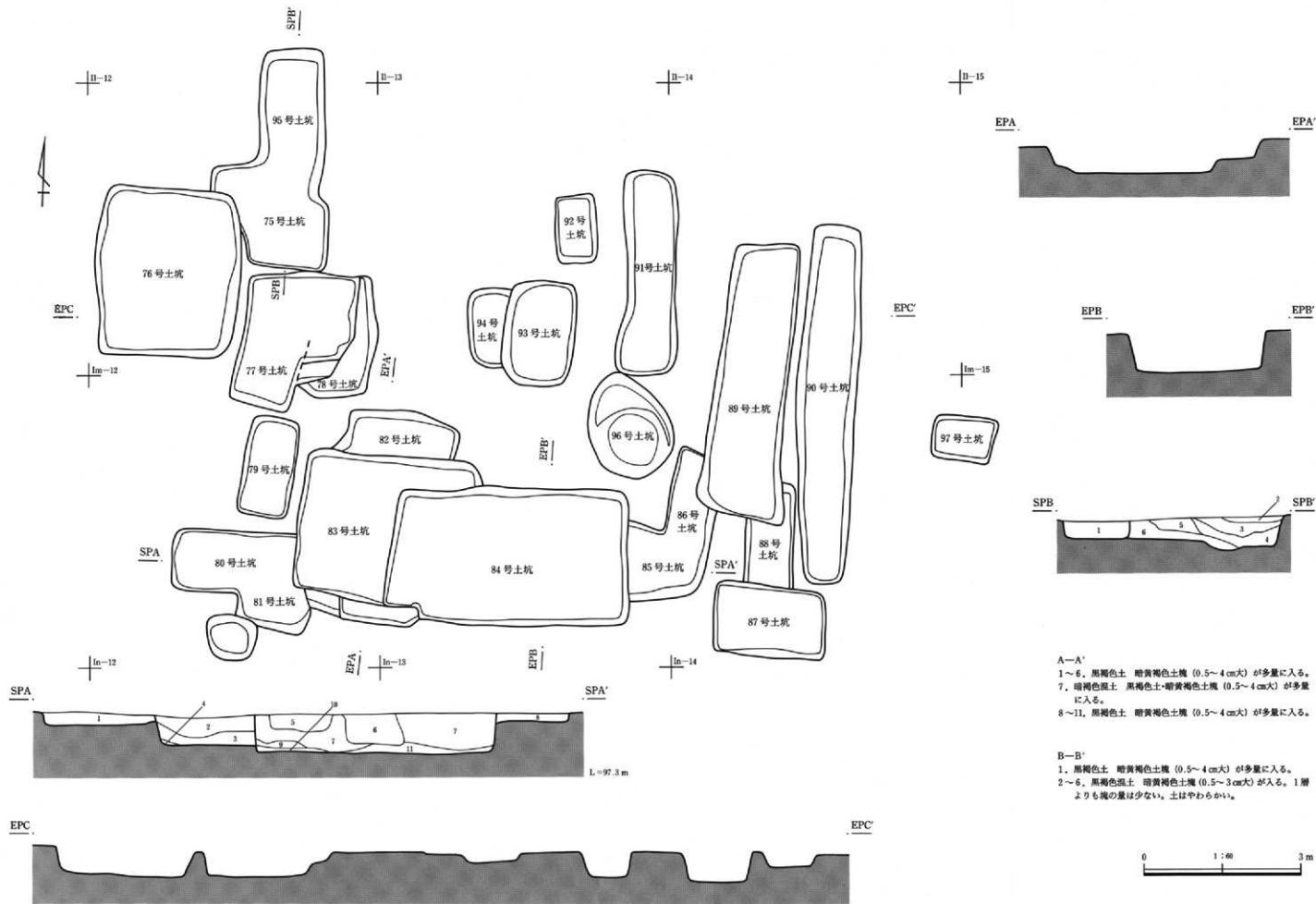


第32図 1区の土坑(7)と出土遺物

第3章 中世以降の遺構と遺物



第33図 I区土坑群I

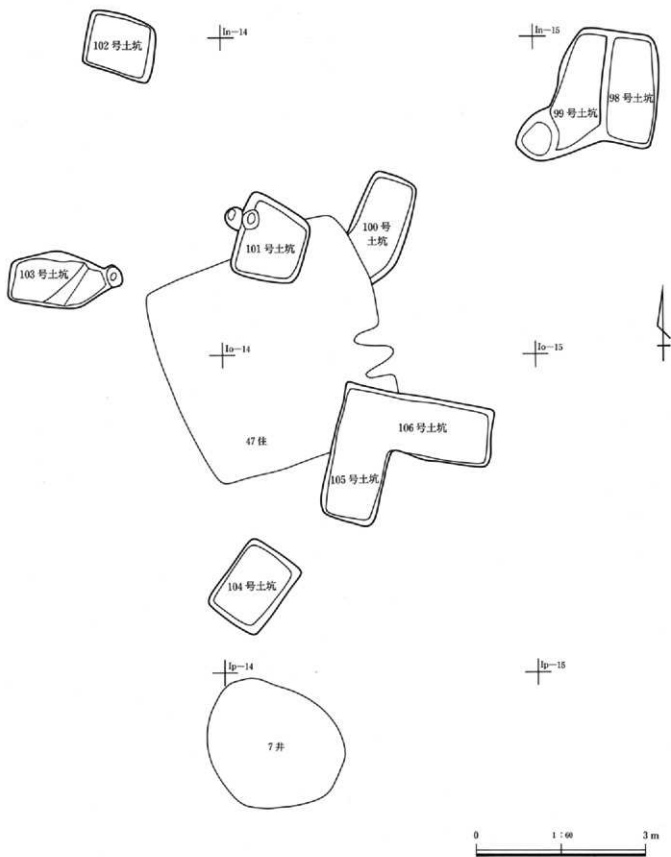


A-A'
 1~6, 黒褐色土 暗黄褐色土塊 (0.5~4cm大) が多量に入る。
 7, 暗褐色混土 黒褐色土・暗黄褐色土塊 (0.5~4cm大) が多量に入る。
 8~11, 黒褐色土 暗黄褐色土塊 (0.5~4cm大) が多量に入る。

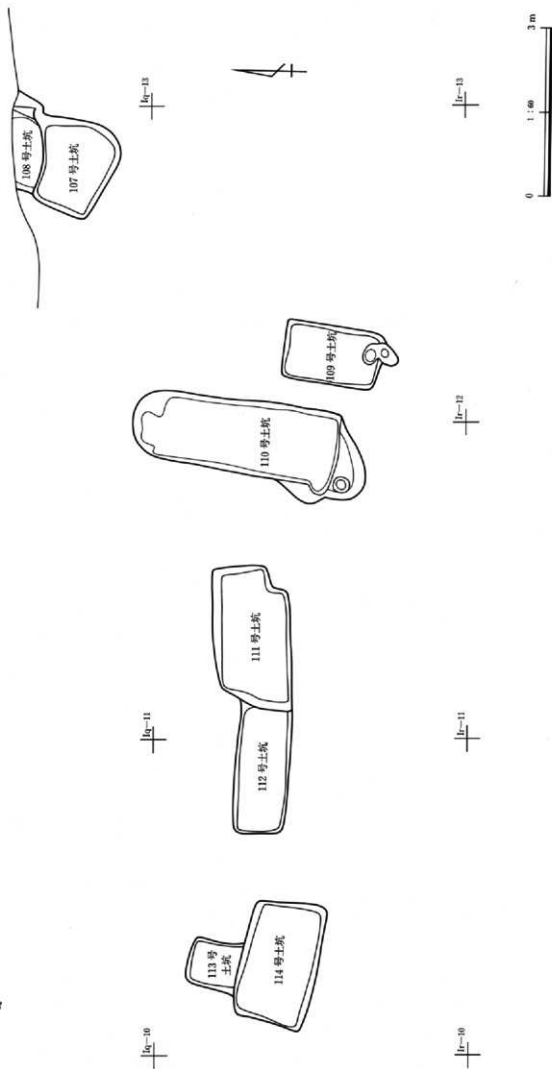
B-B'
 1, 黒褐色土 暗黄褐色土塊 (0.5~4cm大) が多量に入る。
 2~6, 黒褐色混土 暗黄褐色土塊 (0.5~3cm大) が入る。1層より土の量は少ない。土はやわらかい。

第34図 Ⅰ区土坑群2

2. 1区の遺構

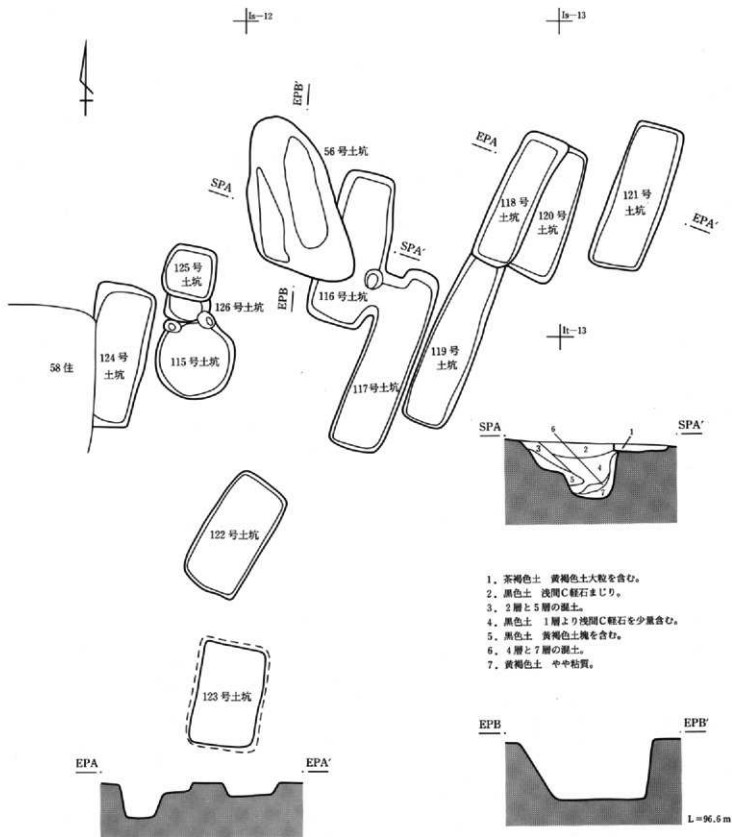


第35図 1区土坑群3



第36区 I 区土坑群 4

2. 1区の遺構



第37図 1区土坑群5

1区1号火葬墓

位置 In・o-11グリッド

写真 PL10

重複 土坑群1の63~66号土坑に切られている。

形状 長軸1.18m、短軸0.65m、深さ0.15mの隅丸長方形を呈する。断面形は箱形を呈し、底面はほぼ平坦である。

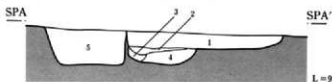
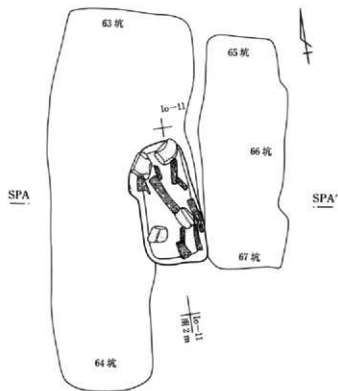
主軸方位 N-2°-E

埋没土 炭化物や骨片を含む黒色土で埋まっていた。墓坑内には炭化材が散乱し、壁や底面・角礫は

火熱を受けていた。

遺物 4個の角礫が四隅近くに置かれていた。礫のうち北側の2個は北壁に接する位置にあり、南側の2個はやや内側にあった。焼骨も散乱した状態で出土し、埋葬された状態を復元することはできなかった。

所見 鑑定によれば、埋没土中の焼骨は成人のもので、確認できる部位は大腿骨と考えられる1点で、他は細片で部位を同定できなかった。墓の時期は他の出土遺物がなく不明である。



1. 暗褐色土 軽石粒・地山粒・小石を含む。暗灰褐色土塊（直径0.5~2cm大）が入る。
2. 炭化材と焼土の混土。
3. 炭化物層 炭化物・骨片を含む。この面に炭化物の形を認められるものが横たわる。
4. 炭化物層 炭化物・骨片を含む。土はやや黒っぽい。
5. 64号土坑埋没土。



第38図 1区1号火葬墓

3. 2区の遺構

2区は、中央台地の女堀より北側の部分である。竪穴住居111棟、掘立柱建物8棟、井戸6基、溝9条、土坑66基、火葬墓1基、竪穴状遺構2基が検出された。このうち、竪穴住居と3基の井戸と土坑は古代の遺構と判明して、既刊報告書および本書第2章で報告した。他はその出土遺物から中世あるいは近世の遺構と判明したものもあるが、多くは中近世の遺構と考えられるものの、時期を特定できない遺構である。遺構は中央部から北東部にかけて集中する。ここでは、これらの遺構について形態別に遺構図を示し、図示できる出土遺物があれば併載した。

掘立柱建物（第40図～第47図）

2区の掘立柱建物は8棟が検出された。2間2間と2間3間の東西棟がほとんどで、3号掘立柱建物のみ2間2間の総柱の南北棟の建物である。これらの建物のほかに柱穴と考えられる小ピットが数多く検出されたが、建物としてその構造を確認できるものは報告した8棟のほかはなかった。また、他の遺構と有機的な関係をもって位置する掘立柱建物も看取できなかった。

溝（第48図～第53図）

2区の溝は9条が検出されたが、1号溝を除き、いずれも幅1m弱、深さ0.3m以下の小規模なもので、埋没土に砂礫の堆積はない。したがって、これらの溝は水路ではなく地割りに関わる溝と考えられる。

発掘区北西部にある4号・5号・6号溝はその一部が検出されたのみであるが、ほぼ同一の走向をもつ。台地の平坦面の東限にあたる位置に掘られている。さらに東側に8号・9号溝が平行して掘られている。4号・5号・6号溝とはやや走向を異にするが、台地東縁の傾斜地点に掘られている。

一方、1号溝は走向がほぼ南北方向の直線で特徴的であるが、確認面からの深さが0.02～0.13mで溝底部をかるうじて確認できた。底面には粘土や砂層

が堆積しており水路の可能性もある。しかし調査では南北両端を確認できなかったため、1号溝の機能を明確にすることはできなかった。60号住居（3世紀後半）・6号住居（9世紀前半）・41号住居（9世紀前半）・46号住居（10世紀後半）と重複しているが、1号溝との関係は確認できなかった。

溝の出土遺物は、埋没土中からの土師器・須恵器破片が大半である。古墳時代から平安時代の住居の分布と重なることから、混入遺物と考えられる。そのなかで、2区7号溝には中世と考えられる焼締陶器挫鉢片（第52図1917）や時期は明確でないが焼締陶器甕破片（1916）、陶器挫鉢破片（1918）が出土している。土器の時期の詳細は不明であるが、7号溝の時期はこれらの遺物の時期まで下ると考えられる。2区北東部で検出された小規模な溝群は形態や埋没土が類似しており、7号溝と近接した時期に掘られたものと推定される。

井戸（第54図）

井戸は、6基が検出された。1号・3号井戸はその出土遺物から古墳時代の井戸と考えられる。これらは本書第2章（第12図）で報告した。

一方、2号井戸は、発掘区北東部の8号溝西側に1号・3号井戸とともに検出されたが、中世の遺物が出土している。（本文・平面図は本書p.13・14第12図）。4号・5号井戸も発掘区北東部の5号・6号溝の周辺で検出された。やや大型の円形掘りの井戸である。一方、6号井戸は発掘区南西部の1号溝の東縁で検出された。井戸周囲にピットが多数検出された。主要なピットは五角形に並ぶ。これを柱穴とすれば、井戸に上層があった可能性が高い。

いずれの井戸も出土遺物が少なく、時期を決定するのが困難であるが、2号井戸から中世（14・15世紀）と考えられる軟質陶器挫鉢の底部（第54図1909）が、4号井戸から中世焼締陶器甕の破片（1913・1914）が出土している。溝と近接する井戸のあり方は、中世遺構が顕著に検出された7区でも見られる形態であり、屋敷地割を想定させる。

第3章 中世以降の遺構と遺物

土坑 (第55図～第67図)

土坑は66基が検出された。このうち3基は、古墳時代の土坑2基と平安時代の土坑1基で既刊の報告書に報告した。本書では63基を報告する。

これらの土坑は、ピット状・円形・楕円形・方形・長方形・不定形の7形態に分けられる。土坑は2区全体に散在していたが、方形・長方形土坑の一部がHd-g-17・18グリッドに集中する傾向があった。Hg-16-17グリッドには8号掘立柱建物があり、その主軸方向はこれらの土坑の長軸方向とほぼ一致していた。一部に重複している土坑もあるので即断できないが、掘立柱建物と方形・長方形土坑は関連

する遺構群の可能性もあろう。円形の土坑は、比較的大きなものが多く、台地周辺部に分布している。

図示できる遺物が出土した土坑は9基であるが、そのほとんどが平安時代の遺物であり、出土層位も遺構に伴うと判断できるものではなかった。土坑の時期は不明と云わざるを得ない。

火葬墓 (第68図)

2区の火葬墓は、発掘区東北部に1基検出された。長軸を南北方向にする楕円形の墓坑で、炭化材とともに焼骨が出土した。

第7表 第3章掲載の2区掘立柱建物一覧表

建物番号	グリッド	柱間	建物種	主軸方位	掲載遺物	時期	備考
2区1号掘立柱建物	Ia-12・13	2間×2間	東西棟	N-84°-E			
2区2号掘立柱建物	Hi-j-11・12	3間×2間	東西棟	N-69°-E			
2区3号掘立柱建物	Hg-h-15・16	2間×2間	南北棟・総柱	N-10°-E			
2区4号掘立柱建物	Hi-18・19	3間×2間	東西棟	N-117°-E			
2区5号掘立柱建物	Ki-j-3・4	3間×2間	東西棟	N-1°-E			
2区6号掘立柱建物	Hi-m-6・7	2間×2間	東西棟	N-6°-W			
2区7号掘立柱建物	Hi-m-9・10	2間×2間	東西棟	N-13°-W			
2区8号掘立柱建物	Hg-16・17	3間×2間	東西棟	N-16°-E			

第8表 第3章掲載の2区溝一覧表

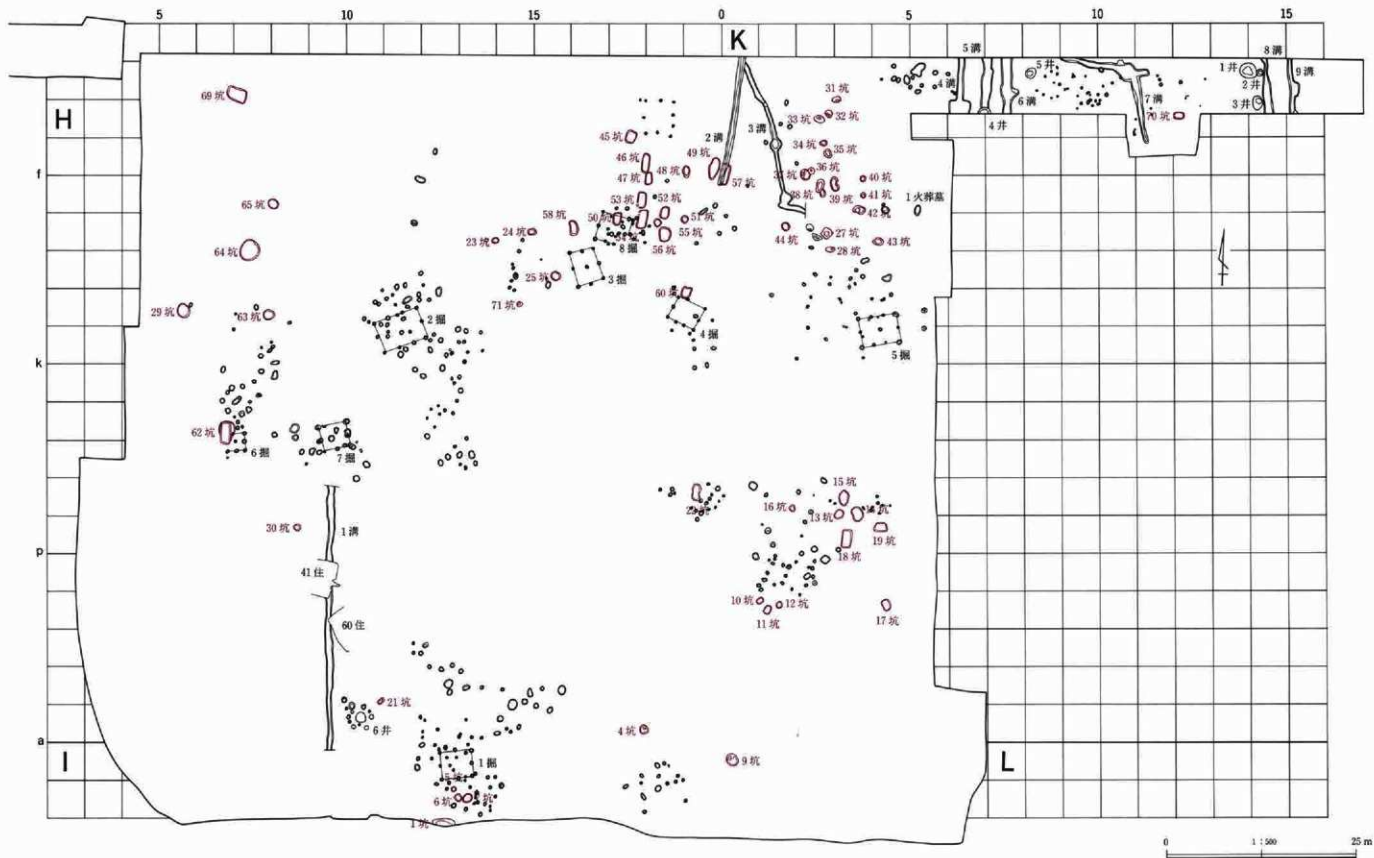
溝番号	グリッド	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	断面積(m ²)	走向方位	掲載遺物	時期	備考
2区1号溝	Hn-t-9 Ia-9	0.70-1.00	0.60-0.85	0.62-0.13	35	N-1°-W			41号住居(9世紀前半)との関係不明
2区2号溝	Kb-d-0 He-f-1	0.60-0.80	0.20-0.25	0.36-0.45	16.8	N-10°-15°-E	土器1	不明	
2区3号溝	Kb-d-0 He-f-1	0.50-0.72	0.38-0.52	0.62-0.05	22.5	N-10°-18°-W		不明	土坑・ピット
2区4号溝	Kc-d-6	0.65-0.78	0.45-0.68	0.12-0.26	6.5	N-6°-E		不明	南端に方形土坑
2区5号溝	Kc-d-6	1.00-1.42	0.75-1.20	0.11-0.14	6	N-5°-E		不明	4号井戸との新旧関係不明
2区6号溝	Kc-d-7	0.85-1.50	0.70-1.15	0.13-0.19	7	N-6°-E		不明	5号溝と並行
2区7号溝	Kc-d-8-10	1.10-0.89	0.48-0.75	0.18-0.38	11.5	東端N-7°-W 北端N-90°-W	土器3	不明	方形土坑と重複
2区8号溝	Kc-d-14	0.35-1.20	0.23-1.08	0.15-0.34	7.5	N-16°-W		不明	断面にピット
2区9号溝	Kc-d-15	0.50-0.65	0.38-0.52	0.20-0.28	7.6	N-5°-W		不明	8号溝と並行

第9表 第3章掲載の2区井戸一覧表

井戸番号	グリッド	形態分類	短径(m)	長径(m)	深さ(m)	掲載遺物	時期	備考
2区2号井戸	Kc-14	円形・小形	0.95	0.99	1.18	土器2	中世	
2区4号井戸	Kd-6・7	円形・大形	0.95径	1.82	1.3	土器1	中世	
2区5号井戸	Kc-8	円形・小形	1.3	1.49	1.65			
2区6号井戸	Hi-10・11	円形・小形	1.4	1.5	1.87			周囲に5ピット

第10表 第3章掲載の2区土坑一覧表

土坑番号	土坑	グリッド	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位	掲載遺物	時期	備考
2区10号土坑		Kq-0・1	ピット状	0.98	0.74	0.35				
2区16号土坑		Kn-1	ピット状	0.99	0.86	0.87				
2区28号土坑		Kg-h-2	ピット状	1.24	0.74	0.62				東半にピット
2区32号土坑		Kd-2	ピット状	1.16	0.82	0.63				断面に2穴
2区33号土坑		Kd-2	ピット状	1.34	0.94	0.54				中央にピット



第39図 2区埴輪遺構の位置

3. 2区の遺構

土坑番号	土坑	グリッド	形番	長径[m]	短径[m]	深さ[m]	長軸方位	掲載遺物	時期	備考
2区36号土坑		Ke-2	ビット状	0.84	0.81	0.52				
2区37号土坑		Ke+f-2	ビット状	1.5	1.34	0.52				
2区40号土坑		Kf-3	ビット状	0.86	0.68	0.49				
2区41号土坑		Kf-3	ビット状	0.71	0.7	0.6				
2区42号土坑		Kf-3	ビット状	1.68	1.02	0.62				中央にビット
2区71号土坑		Hi-14	ビット状	0.86	0.74	1.04		土器4		深いビット
2区9号土坑		La-9	円形	1.7	1.5	0.26				断面輪状
2区23号土坑		Hg-13・14	円形	1.01	0.84	0.26				断面輪形
2区25号土坑		Hh-15	円形	1.28	1.2	0.27				断面輪形
2区27号土坑		Kg-2	円形	1.6	1.41	0.53		石器1		両端にビット
2区29号土坑		Hi-5	円形	1.76	1.7	0.36				断面輪状
2区44号土坑		Kg-1	円形	1.07	1	0.11				断面輪状
2区51号土坑		Hg-18・19	円形	1.03	0.9	0.29		土器1		
2区55号土坑		Hg-18	円形	1.02	1.02	0.34				中央にビット
2区63号土坑		Hi-7・8	円形	1.5	1.35	0.34				断面輪形
2区64号土坑		Hg+h-7	円形	2.78	2.45	0.36				断面輪状
2区65号土坑		Hi-7・8	円形	1.46	1.32	0.23				両面に小ビット
2区7号土坑		lb-13	楕円形	1.4	1.13	0.19	N-54°-E			断面輪状
2区12号土坑		Kq-1	楕円形	0.5	0.36	0.33	N-0°-E			断面輪形
2区14号土坑		Kn+o-3	楕円形	1.96	1.57	0.37	N-158°-E			断面輪形
2区15号土坑		Kn-3	楕円形	2	1.34	0.25	N-0°-E			断面輪形
2区30号土坑		Ho-8	楕円形	0.96	0.87	0.4	N-122°-E	鎌出土		断面輪形
2区34号土坑		Ke-2	楕円形	0.94	0.88	0.29	N-90°-E			断面輪形
2区35号土坑		Ke-2	楕円形	1.2	0.88	0.42	N-142°-E	土器2		断面輪形
2区43号土坑		Kg-4	楕円形	1.5	1.06	0.53	N-90°-E			断面輪形
2区48号土坑		He+f-19	楕円形	1.53	0.87	0.23	N-0°-E			断面輪形
2区49号土坑		He+f-19	楕円形	3	1.4	0.17	N-14°-E			断面輪状 中央にビット
2区56号土坑		Hg-18	楕円形	1.88	1.5	0.19	N-2°-E			断面輪状 北底面にビット
2区58号土坑		Hg-15・16	楕円形	1.93	1.97	0.3	N-0°-E			断面輪状 北底面にビット
2区4号土坑		Hi-17	方形	1.22	1.14	0.34	N-78°-E			断面輪形 北側にビット
2区5号土坑		lb-12	方形	0.7	0.69	0.17	N-60°-E			断面輪状
2区6号土坑		lb-12・13	方形	1.05	0.93	0.2	N-144°-E			断面輪状
2区11号土坑		Kq-1	方形	1.04	0.92	0.3	N-38°-E			断面輪形 南西部にビット
2区17号土坑		Kq-4	方形	1.38	1.03	0.4	N-152°-E			断面輪形
2区21号土坑		Ha-10	方形	0.99	0.57	0.5	N-45°-E			断面輪形 深い
2区24号土坑		Hg-14・15	方形	1.04	0.8	0.38	N-85°-E			断面輪形 南側にビット
2区45号土坑		Hi+e-17	方形	1.08	0.82	0.21	N-17°-E			断面輪形
2区52号土坑		Hi+g-18	方形	1.64	1.08	0.05	N-12°-E			断面輪状
2区60号土坑		Hi-18・19	方形	1.42	1.22	0.12	N-12°-E			断面輪状
2区69号土坑		Hi+e-17	方形	2.6	1.7	0.2	N-108°-E	土器1		断面輪状 中央部にビット
2区18号土坑		Ko-3	長方形	2.38	1.22	0.26	N-6°-E			断面輪形
2区19号土坑		Ko-4	長方形	1.89	1.2	0.1	N-97°-E			断面輪状
2区46号土坑		He-17・18	長方形	2.5	0.99	0.2	N-7°-E			断面輪状
2区47号土坑		He+f-17・18	長方形	1.58	0.92	0.07	N-7°-E			断面輪状 中央部にビット
2区50号土坑		Hg-17	長方形	1.66	1	0.11	N-5°-E			断面輪状
2区53号土坑		Hi-17	長方形	2.07	1.14	0.22	N-5°-E			断面輪形
2区54号土坑		Hi+g-17・18	長方形	2.5	1.2	0.08	N-9°-E			断面輪状
2区57号土坑		Ke+f-19・0	長方形	2.9	0.71残	0.17	N-19°-E			断面輪状
2区62号土坑		Hi+m-6	長方形	2.9	2.05	0.49	N-3°-E	2溝より古		断面輪状
2区66号土坑		Kc-11	長方形	2.25	0.97	0.38	N-102°-E			断面輪形 上覆層元3.32m
2区67号土坑		Kd-12	長方形	1.35	0.89	0.24	N-83°-E			
2区70号土坑		Kd-12	長方形	1.31	8	0.28	N-96°-E	土器1	110位より新	断面輪形
2区1号土坑		lc-12	不定形	2.96	1.60残	0.88	N-94°-E	土器1	女塚より古	側面に挟れ
2区13号土坑		Kn+o-2・3	不定形	1.45	1.18	0.28	N-48°-E			底面凹凸
2区22号土坑		Hn-19	不定形	2.22	1.12	0.43	N-5°-E			中央にビット
2区31号土坑		Ke+d-2・3	不定形	1.18	0.82	0.51	N-85°-E	土器1		東壁に挟れ
2区38号土坑		Kf-2	不定形	1.85	0.92	0.4	N-8°-E	土器1		南東隅にビット
2区39号土坑		Kf-2・3	不定形	2	1	0.6	N-166°-E			2ビットの連結

第11表 第3章掲載の2区火葬墓一覧表

墓番号	グリッド	形番	長径[m]	短径[m]	深さ[m]	長軸方位	掲載遺物	時期	備考
2区1号火葬墓	Kf+g-5	楕円形	1.37	0.71	0.21	N-14°-E		中世	

2区1号掘立柱建物

位置 Ia-12・13グリッド

写真 PL11

重複 無し。周囲に柱穴が多く検出されており、一直線上に並ぶ柱列も確認できるが、建物跡と確認できたのは本遺構だけである。

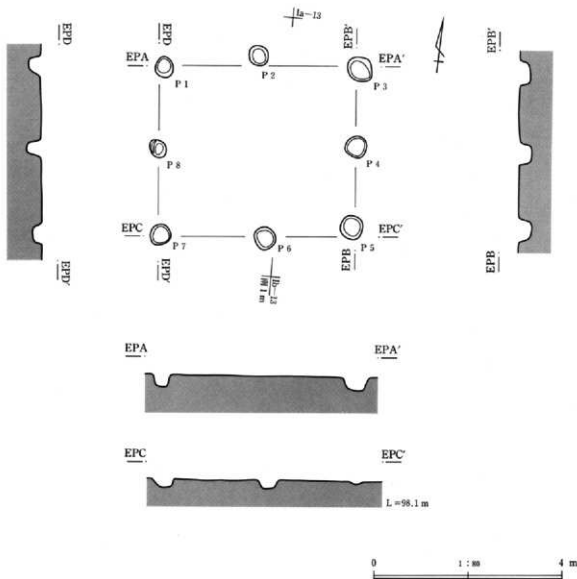
形状 東西棟建物と考えられ、2間×2間(4.2×3.6m)の規模をもつ。柱間寸法は、桁行寸法北列(P1~P3)はP2が北側にずれているが、2.1m~2.1mの等間である。一方、南列(P7・P6・P5)

はP6が東にずれているが、やはり2.1m~2.1mの等間である。梁行寸法は西列(P1・P8・P7)が1.8m~1.8m、東列(P3~P5)が1.8m~1.8mの等間である。

主軸方位 N-84°-E

柱穴 柱穴掘形は直径0.50m、深さ0.20mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

遺物 無し。



第40図 2区1号掘立柱建物

3. 2区の遺構

2区2号掘立柱建物

位置 Hi・j-11・12グリッド

写真 PL11

重複 無し。周辺には柱穴が多数検出されているが、建物跡と確認できたのは本遺構のみである。

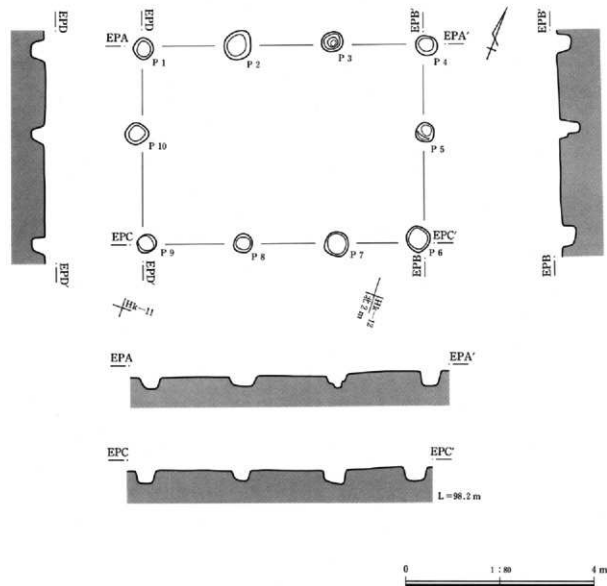
形状 東西棟建物と考えられ、3間×2間(6.0m×4.2m)の規模をもつ。柱間寸法は桁行寸法北列(P1~P4)は.2m-2.1m-1.9mである。一方、南列(P9・P8・P7・P6)も2.0m-2.1m-1.9

mの同一寸法で東間口がやや狭くなっている。梁行寸法は西列(P1・P10・P9)が1.8m-2.4m、東列(P4~P6)が1.8m-2.4mの同一寸法である。

主軸方位 N-69°-E

柱穴 柱穴掘形は直径0.40~0.50m、深さ0.3~0.40mほどの円形を呈する。柱痕は検出できなかったが、P3の中央は柱痕状になっていた。

遺物 無し。



第41図 2区2号掘立柱建物

2区3号掘立柱建物

位置 Hg・h-15・16グリッド

写真 PL11

重複 無し。

形状 P3とP5が中央寄りにずれているので、梁行北列と南列は桁行東列の柱間寸法を狭める形になっているが、基本的には総柱の南北棟建物と考えられる。特にP3は桁行東列に載らないほどずれているが、ここでは2間×2間(4.8m×3.6m)の規模をもつ建物跡と考えておきたい。柱間寸法は桁行寸法西列(P1・P8・P7)は2.4m—2.4mの等

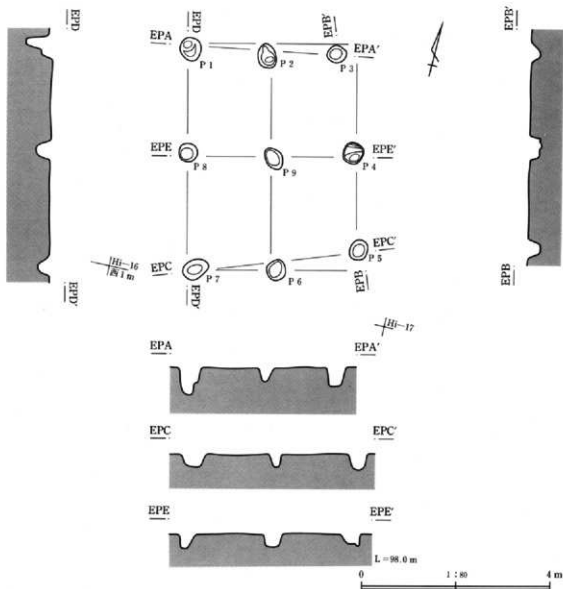
間である。一方、東列(P3~P5)は2.2m—2.2mである。梁行寸法は北列(P1~P3)、中列(P8・P9・P4)、南列(P7・P6・P5)ともに1.8m—1.8mの等間と推定できる。

主軸方位 N—93°—E

柱穴 柱穴掘形は直径0.50m、深さ0.30~0.50mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

遺物 無し。

所見 P3・P5のズレによって、桁行東列が短くなり、柱列は台形を呈する。



第42図 2区3号掘立柱建物

2区4号掘立柱建物

位置 Hi-18・19グリッド

写真 PL11

重複 無し。

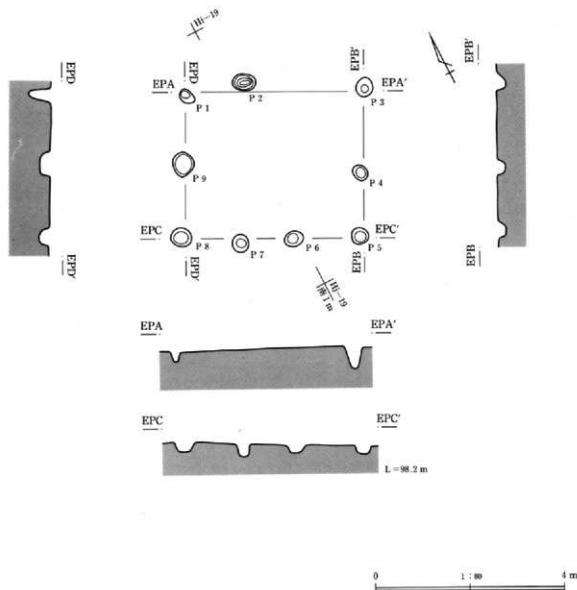
形状 東西棟建物と考えられる。桁行北列のP2が北にずれ、その東側の柱穴が検出できなかったが、基本的には3間×2間(3.8m×3.1m)の規模をもつ。柱間寸法は桁行寸法北列(P1~P3)は1.2m—2.6mである。一方、南列(P8・P7・P6・P

5)は1.2m—1.1m—1.5mの変則的な間口である。梁行寸法は西列(P1・P9・P8)が1.6m—1.5m、東列(P3~P5)が1.6m—1.5mの間隔である。

主軸方位 N-117-E

柱穴 柱穴掘形は直径0.30~0.50m、深さ0.30~0.90mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

遺物 無し。



第43図 2区4号掘立柱建物

2区5号掘立柱建物

位置 Ki・j-3・4グリッド

写真 PL11

重複 無し。

形状 東西棟建物と考えられる。基本的には3間×2間(5.0m×3.8m)の規模をもつ。柱間寸法は桁行寸法北列(P1~P4)は1.6m-1.7m-1.7m、南列(P9・P8・P7・P6)は1.5m-1.6m-1.9mで、P2・P8とP3・P7の柱通りがややずれている。梁行寸法は西列(P1・P9・P10)

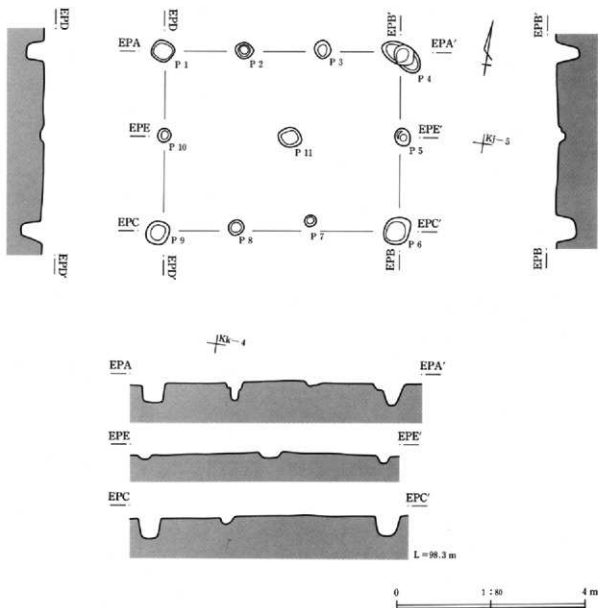
が1.8m-2.0m、東列(P4~P6)も1.8m-2.0mの同一寸法で南東間口が広い構造となる。

主軸方位 N-1°-E

柱穴 柱穴掘形は直径0.50m、深さ0.50~0.60mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

遺物 無し。

所見 桁行東列の柱間が変則的で、中央が開いた形になっている。あるいは入り口の可能性がある。



第44図 2区5号掘立柱建物

2区6号掘立柱建物

位置 H1・m-6・7グリッド

写真 P L 11

重複 62号土坑と重複しているが、新旧関係は確認できなかった。

形状 62号土坑に重なる位置にある梁行西列の2本の柱穴が検出できなかったが、総柱の東西棟建物と考えられる。建物は2間×2間(2.4m×2.2m)の規模をもつ。柱間寸法は中央列(P7・P13)が1.3m、南列(P6・P5・P4)が1.3m-1.1mで同一寸法と推定され、西間口が広くなっている。一方、桁行寸法北列(P1・P2)は、P1が西にず

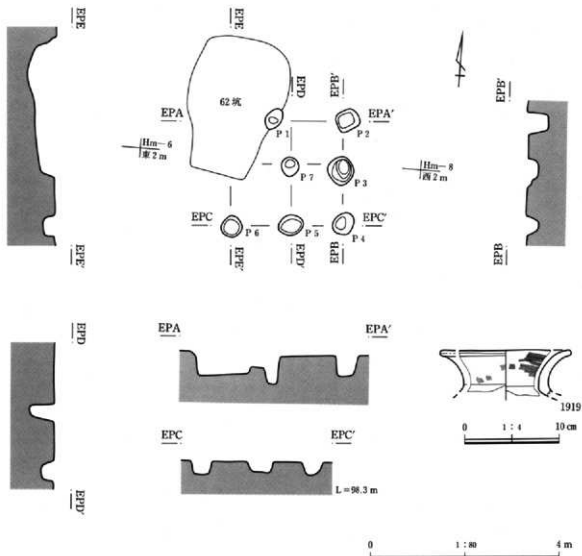
れて検出されたために1.5mである。梁行寸法は東列(P2~P4)が0.9m-1.3m、中央列(P1・P7・P5)のうちP7-P5が1.3mで同一寸法と推定され、南間口が広くなっている。

主軸方位 N-6°-W

柱穴 柱穴掘形は直径0.50~0.60m、深さ0.40~0.60mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

遺物 無し。

所見 P1が西にずれているので、確定的でないが、建物跡と考えておきたい。



第45図 2区6号掘立柱建物と出土遺物

2区7号獨立柱建物

位置 H1・m-9・10グリッド

重複 無し。

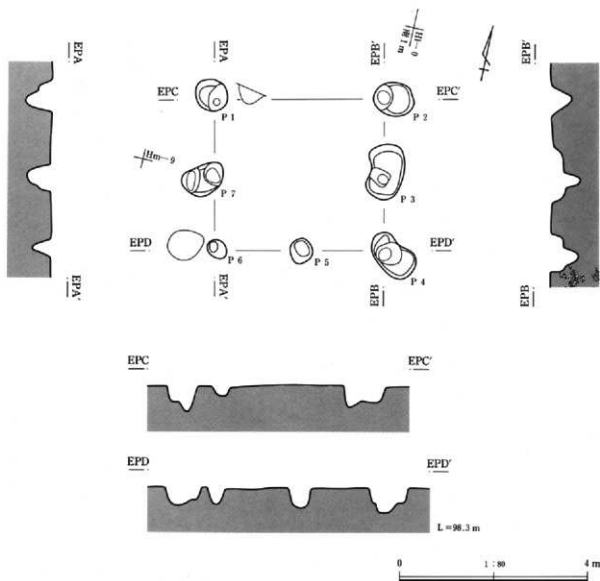
形状 棟行北列の1本の柱穴が検出できなかったが、東西棟建物と考えられる。建物は2間×2間(3.8m×3.2m)の規模をもつ。柱間寸法は桁行寸法北列(P1・P2)は3.8mで、南列と等間とすると、P1・P2の中央に柱穴があったものと推定されるが、調査では検出することができなかった。南列(P6・

P5・P4)は1.8m-1.8mの間である。梁行寸法は東列(P2~P4)、西列(P1・P7・P6)ともに1.6m-1.6mの間である。

主軸方位 N-13°-W

柱穴 柱穴掘形は直径0.70~1.10m、深さ0.40~0.60mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

遺物 無し。



第46図 2区7号獨立柱建物

2区8号掘立柱建物

位置 Hg-16・17グリッド

重複 94号住居・50号土坑と重複しているが、新旧関係は確認できなかった。

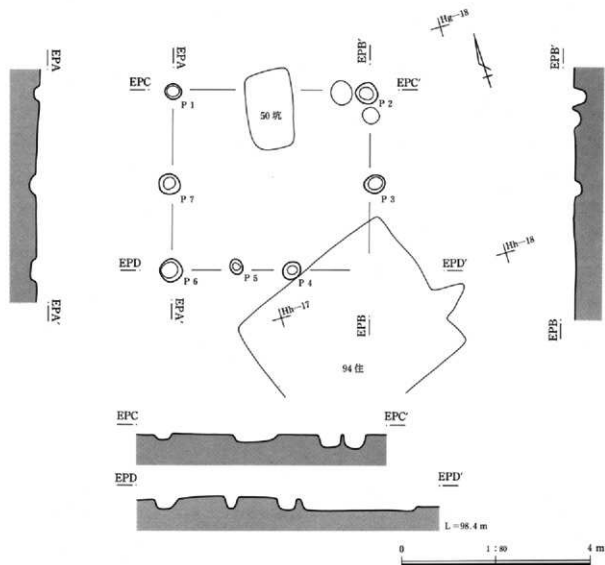
形状 調査時に検出できなかった柱穴が多く、建物跡とするには疑問も残るが3間×2間(4.2m×3.8m)の規模をもつ東西棟の建物と考えておきたい。柱間寸法は桁行寸法北列(P1・P2)は4.2mで、南列と同様に柱穴があったものと推定されるが、50号土坑の周囲の精査が十分でなく、確認できなかった。南列(P6・P5・P4)は東端の柱穴が

検出できなかったが、梁行の柱通りから推定すれば1.4m-1.2m-1.6mとなり、東間口が広がる。梁行寸法は西列(P1・P7・P6)が2.0m-1.8mである。東列(P2・P3)は南端の柱穴が検出できなかったが、P2-P3が2.0mで西列と同一寸法で、北間口が広がっていることがわかる。

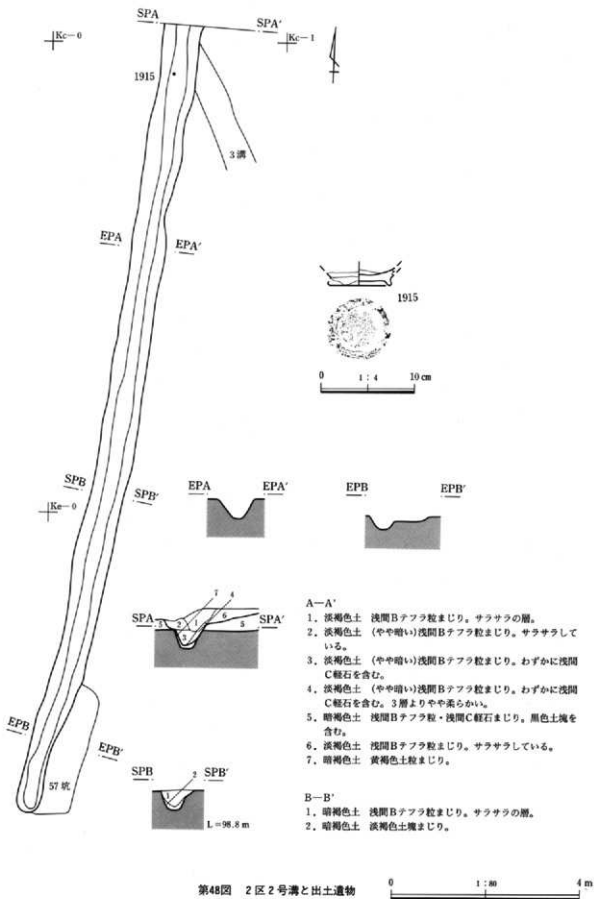
主軸方位 N-16°-E

柱穴 柱穴掘形は直径0.40~0.50m、深さ0.25~0.30mほどの円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

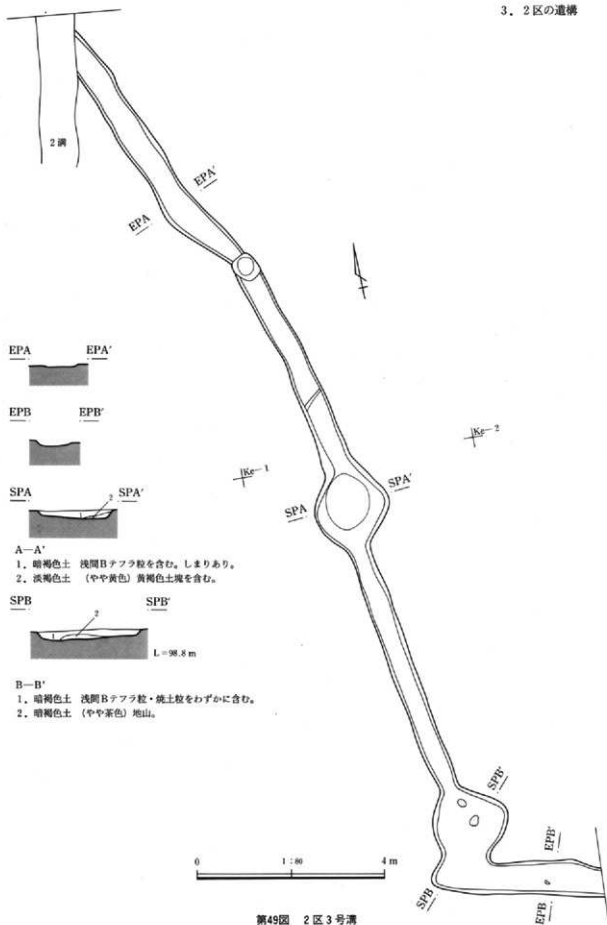
遺物 無し。

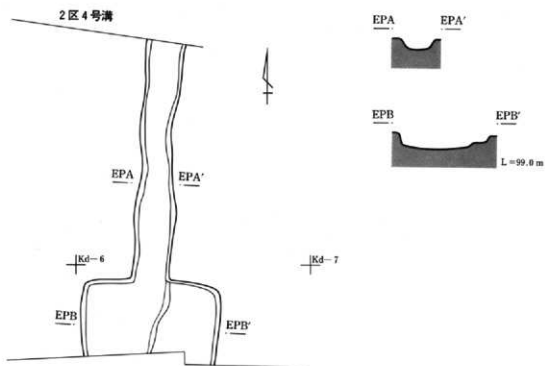


第47図 2区8号掘立柱建物

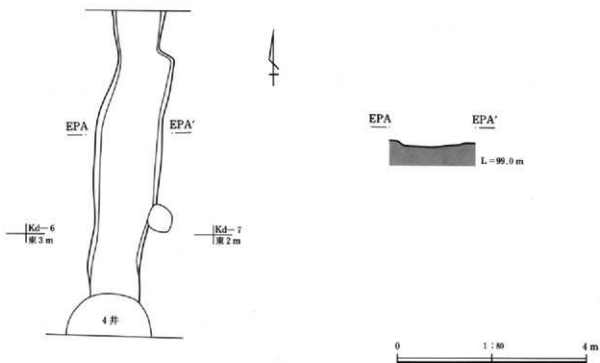


第48図 2区2号溝と出土遺物

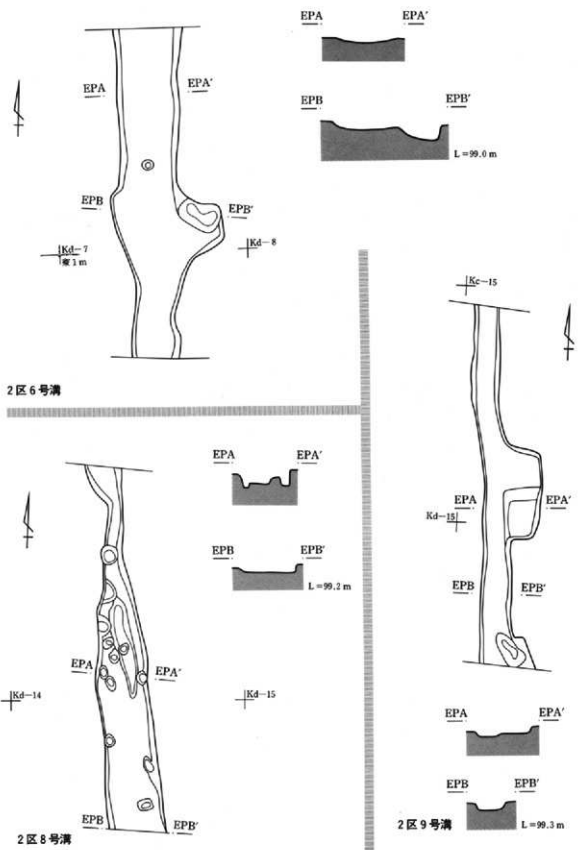




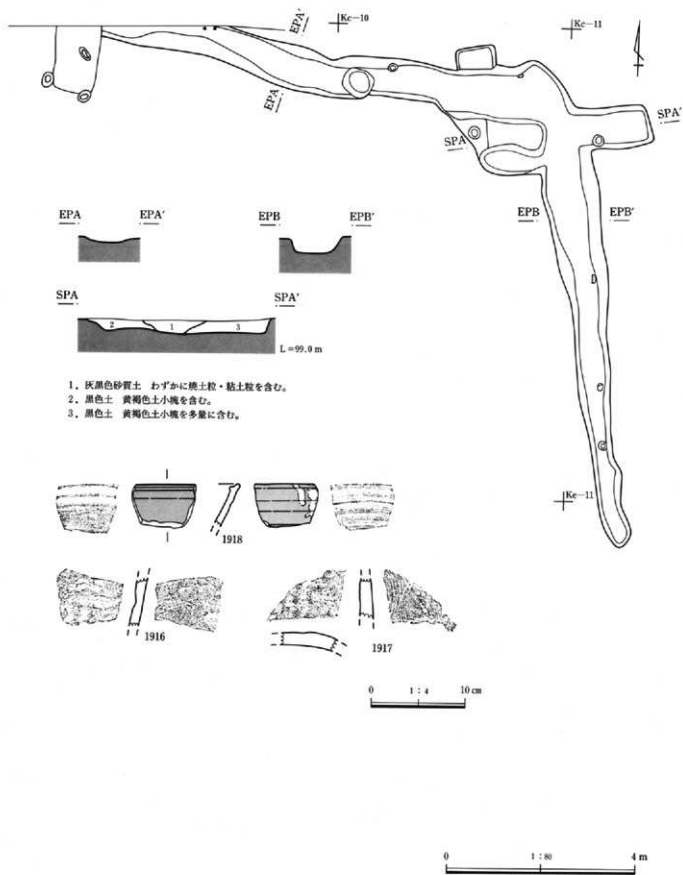
2区5号溝



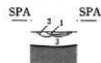
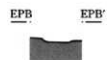
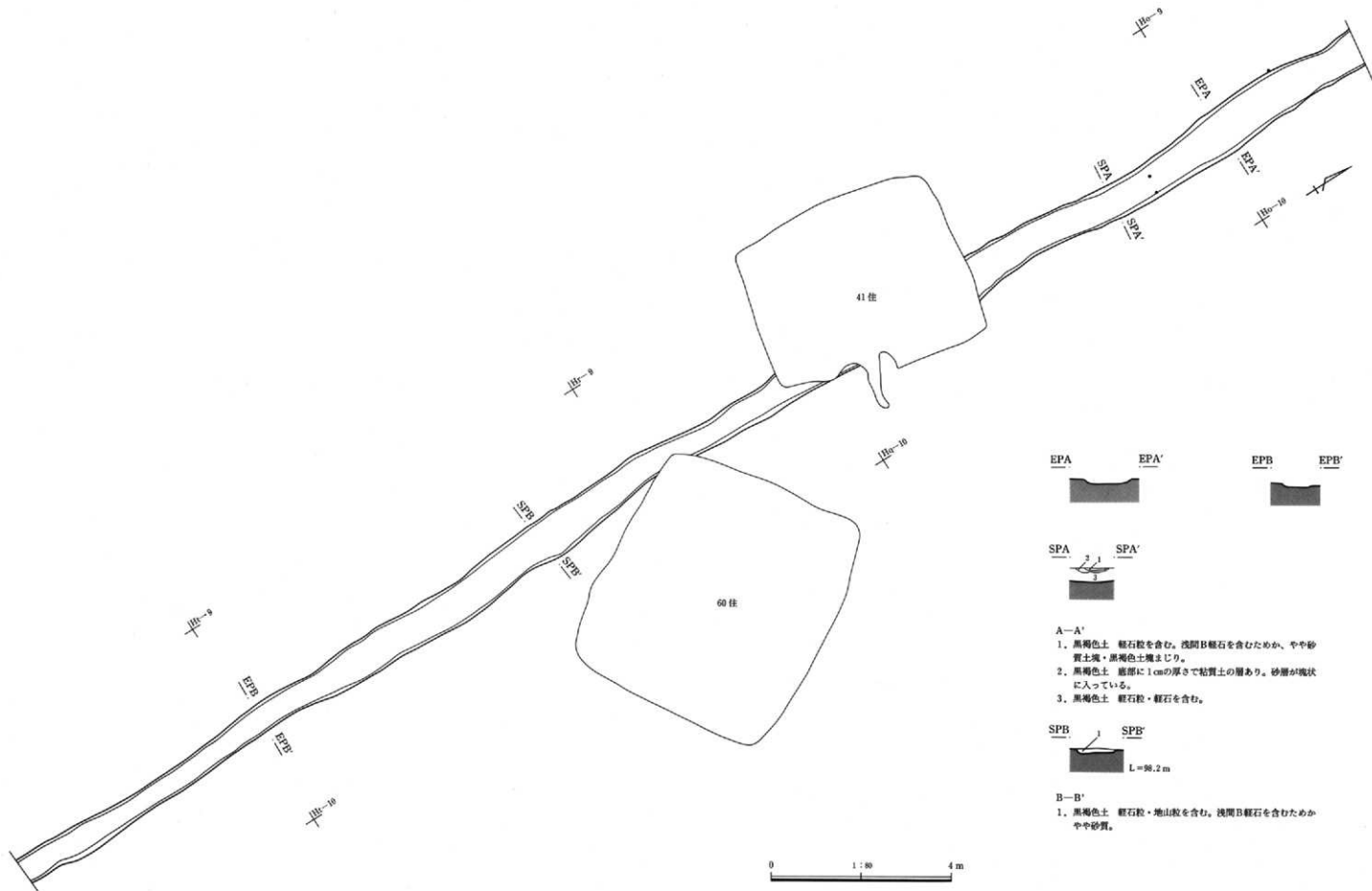
第50図 2区4号・5号溝



第51図 2区6号・8号・9号溝

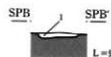


第52図 2区7号溝と出土遺物



A-A'

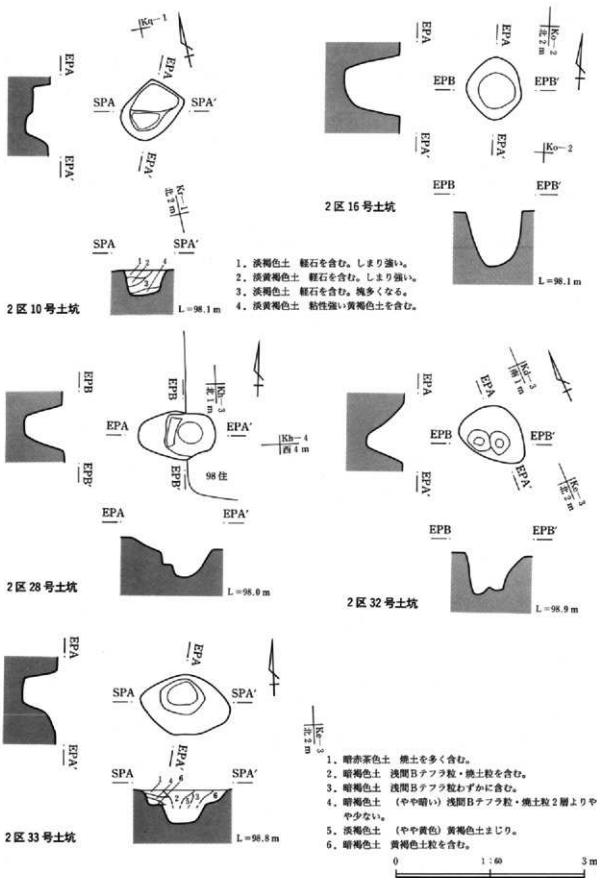
1. 黒褐色土 軽石粒を含む。浅間B軽石を含むため、やや砂質土塊・黒褐色土塊まじり。
2. 黒褐色土 直前に1cmの厚さで粘質土の層あり。砂層が塊状に入っている。
3. 黒褐色土 軽石粒・軽石を含む。



L=98.2m

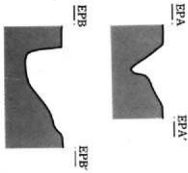
B-B'

1. 黒褐色土 軽石粒・地山粒を含む。浅間B軽石を含むため、やや砂質。

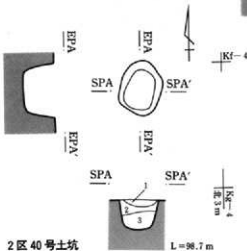
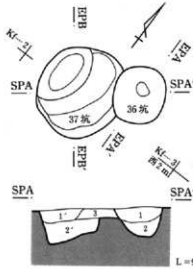


第55図 2区の土坑(1)

3. 2区の遺構



2区 36号・37号土坑

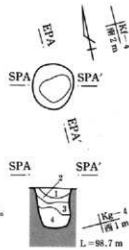


2区 40号土坑

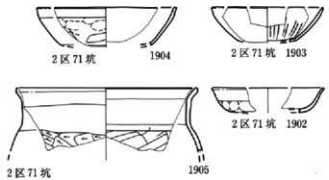
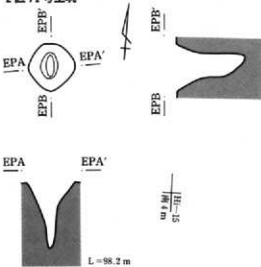
1. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒を含む。
2. 暗褐色土 黄褐色土粒・塊を含む。
3. 暗褐色土 粘性強く、黄褐色土粒を含む。

1. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒を含む。
2. 暗褐色土 わずかに黄褐色土粒を含む。
3. 暗褐色土 黄褐色土粒・塊を含む。
4. 暗褐色土 粘性強く、黄褐色土粒を含む。

2区 41号土坑



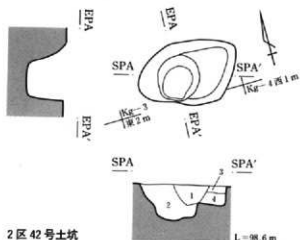
2区 71号土坑



0 1 : 4 10m

0 1 : 60 3m

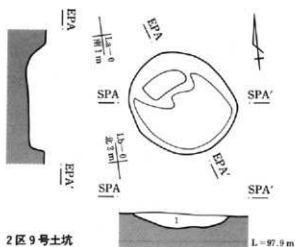
第56図 2区の土坑(2)と出土遺物



2区42号土坑

L=98.6m

1. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒・焼土粒・黄褐色土塊を含む。
2. 暗褐色土 (黒色に近い) 浅間Bテフラ粒・焼土粒・黄褐色土塊をわずかに含む。
3. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒・黄褐色土粒を含む。
4. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒わずかに含む。黄褐色土粒を含む。

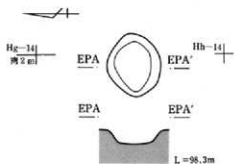


2区9号土坑

L=97.9m

1. 黒褐色土 軽石粒・軽石を含む。白色軽石もわずかに入る。暗茶褐色の地山塊(直径3cm大)がわずかに入る。

2区23号土坑

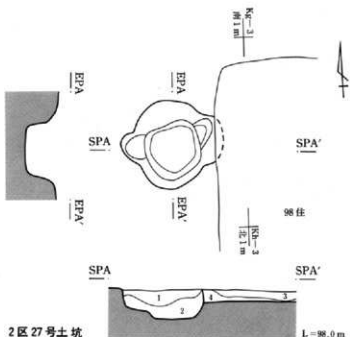


L=98.3m



2区25号土坑

L=98.2m



2区27号土坑

98住

Kr=3南1m

Kr=21南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

Kr=3南1m

1. 黒色土 黄色粘質土塊を含む。
2. 黒色土 粘性強い。
- 3・4. 2区98号住居埋没土。

0 1:60 3m

第57図 2区の土坑(3)

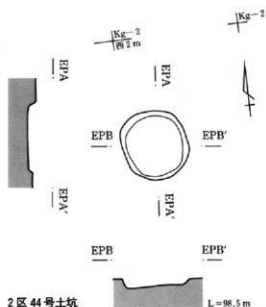
3. 2区の遺構



2区29号土坑

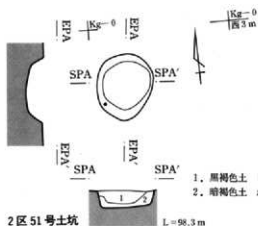
L=98.2m

1. 黒色粘質土 軽石・炭化物わずかに含む。



2区44号土坑

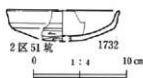
L=98.5m



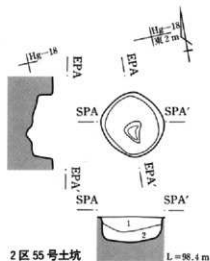
2区51号土坑

L=98.3m

1. 黒褐色土 しまり弱い。
2. 暗褐色土 わずかに黄褐色土粒含む。



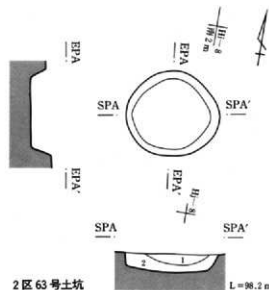
2区51号



2区55号土坑

L=98.4m

1. 黒褐色土 黄褐色土塊・軽石をわずかに含む。
2. 暗褐色土 黄褐色土塊を含む。

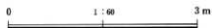


2区63号土坑

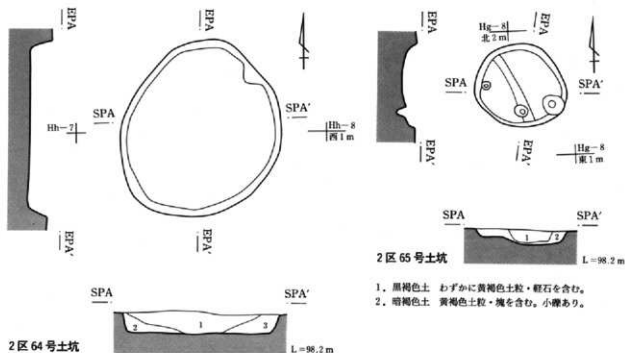
L=98.2m

1. 黒褐色土 斑紋・小礫を含む。
2. 暗褐色土 斑紋・小礫を含む。ややザラザラした土。

第58図 2区の土坑(4)と出土遺物



第3章 中世以降の遺構と遺物

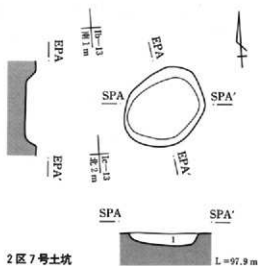


2区64号土坑

1. 黒褐色土 黄褐色土粒・塊・斑鉄を含む。軽石をわずかに含む。
2. 暗褐色土 黄褐色土粒・塊・小礫をわずかに含む。ザラザラした土。
3. 黒褐色土 黄褐色土粒・塊・小礫をわずかに含む。

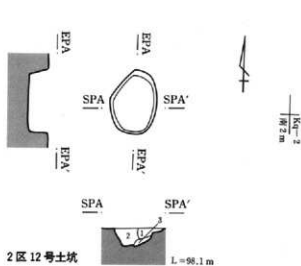
2区65号土坑

1. 黒褐色土 わずかに黄褐色土粒・軽石を含む。
2. 暗褐色土 黄褐色土粒・塊を含む。小礫あり。



2区7号土坑

1. 黒褐色土 5土坑の埋没土に類するが、焼土粒は6土坑よりさらに少ない。



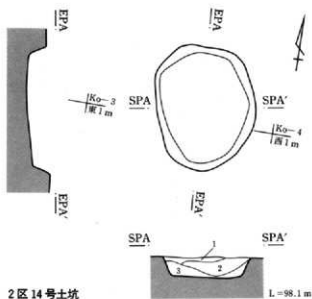
2区12号土坑

1. 淡黄褐色土 黄褐色土粒塊を含む。
2. 淡褐色土 わずかに軽石らしいものを含む。
3. 淡褐色土 固い塊を含む。



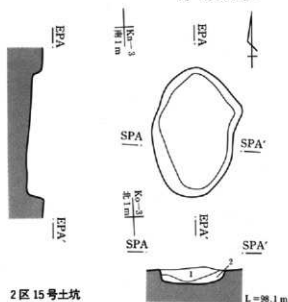
第59図 2区の土坑(5)

3. 2区の遺構



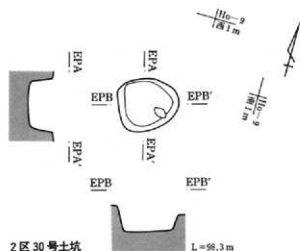
2区14号土坑

1. 暗褐色土 サラサラしている。
2. 暗褐色土 軽石を多量に含む。炭土わずかにあり。
3. 暗褐色土 わずかに軽石を含む。しまりあり。

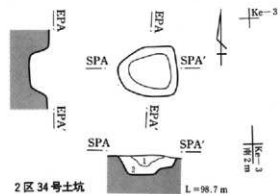


2区15号土坑

1. 暗褐色土 軽石・固い塊を含む。
2. 淡黄褐色土 黄褐色土粒・固い塊を含む。

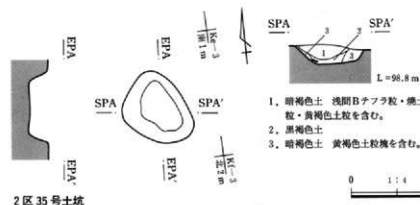


2区30号土坑



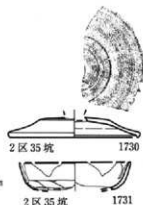
2区34号土坑

1. 淡褐色土 洗間Bテフラ粒・焼土粒・黄褐色土粒をわずかに含む。
2. 淡褐色土 黄褐色土粒・塊を含む。

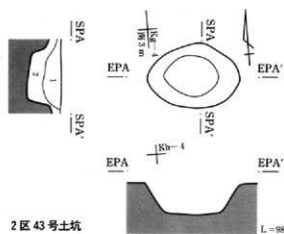


2区35号土坑

1. 暗褐色土 洗間Bテフラ粒・焼土粒・黄褐色土粒を含む。
2. 黒褐色土
3. 暗褐色土 黄褐色土粒塊を含む。

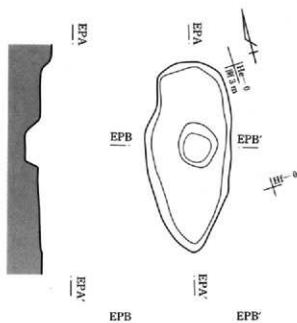


第60図 2区の土坑(6)と出土遺物



2区43号土坑

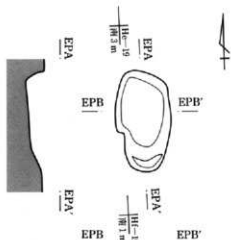
1. 淡褐色土 浅間日テフラ粒・黄褐色土粒をわずかに含む。ややざらつく。
2. 暗褐色土 黄褐色土粒・塊をわずかに含む。



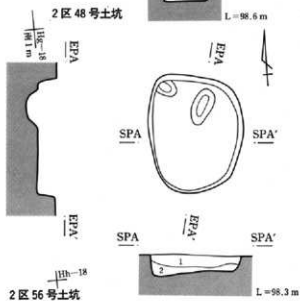
2区49号土坑

- 2区56号土坑
1. 黒褐色土 わずかに軽石・斑鉄含む。
 2. 暗褐色土 黄褐色土塊をわずかに含む。

- 2区58号土坑
1. 黒褐色土 軽石・斑鉄・小礫を含む。
 2. 黒褐色土 軽石・斑鉄わずかに含む。
 3. 暗黄褐色土 ゼラザラしている。



2区48号土坑



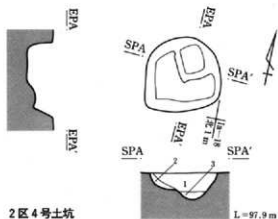
2区56号土坑



2区58号土坑

第61図 2区の土坑(7)

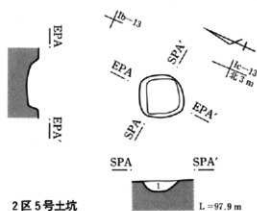
3. 2区の遺構



2区4号土坑

L=97.9m

1. 黒色土 軽石粒・軽石を多く含む。点線部分に砂が入っている。
2. 黒褐色粘質土
3. 黒色土 軽石は少なく、やや固い。



2区5号土坑

L=97.9m

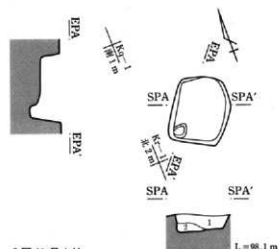
1. 黒褐色土 軽石粒・軽石・小石を含む。



2区6号土坑

L=97.9m

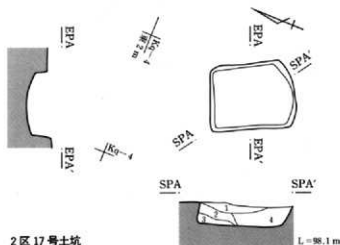
1. 黒褐色土 5号坑の埋没土に類するが、焼土粒・土器片は少ない。



2区11号土坑

L=98.1m

1. 淡褐色土 軽石を含む。しまりあり。
2. 黒色土 わずかに軽石を含む。しまりあり。



2区17号土坑

L=98.1m

1. 淡褐色土 黄褐色土粒・塊・軽石まじり。
2. 黒褐色土 黄褐色土粒・軽石を含む。
3. 淡褐色土 黄褐色土粒を含む。
4. 黒褐色土 黄褐色土粒・炭化物粒・軽石をわずかに含む。



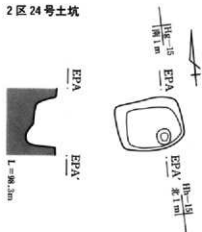
2区21号土坑

L=97.9m

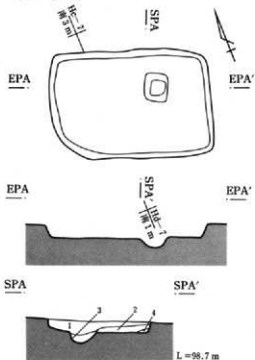
第62図 2区の土坑(8)

第3章 中世以降の遺構と遺物

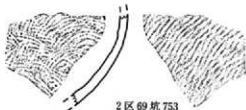
2区 24号土坑



2区 69号土坑

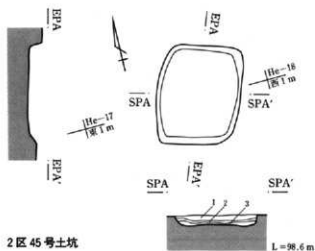


1. 黒褐色土 小石・軽石粒を含む。
2. 暗褐色土 軽石粒を含む。
3. 暗灰褐色土 地山粒を含む。
4. 暗褐色土



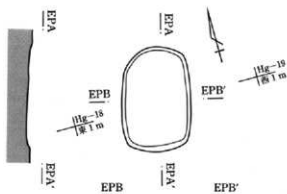
2区 69坑 753

0 1:3 10cm

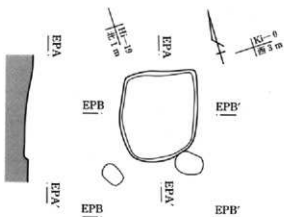


2区 45号土坑

1. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒まじりサラサラした土。
2. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒まじりやしまりあり。
3. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒まじり黄褐色土粒わずかに含む。



2区 52号土坑

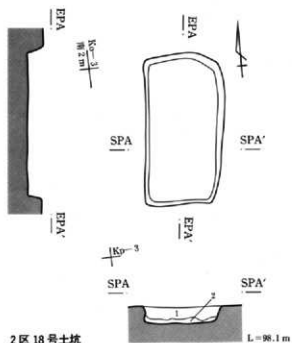


2区 60号土坑

0 1:60 3m

第63図 2区の土坑(9)と出土遺物

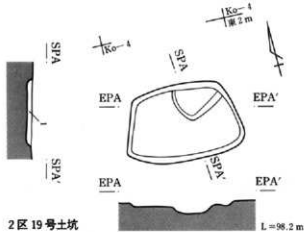
3. 2区の遺構



2区18号土坑

L=98.1m

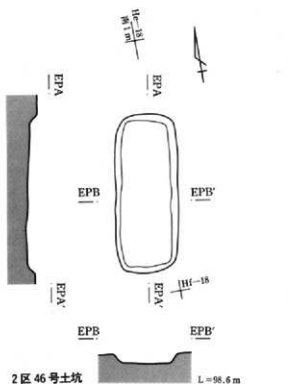
1. 暗褐色土 黄褐色土粒・軽石まじり。しまり弱い。
2. 暗褐色土 黄褐色土粒・軽石まじり。ややしまりあり。



2区19号土坑

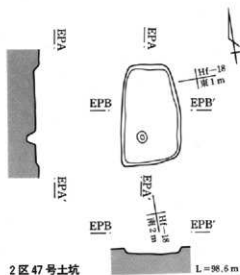
L=98.2m

1. 淡褐色土 サラサラした層。



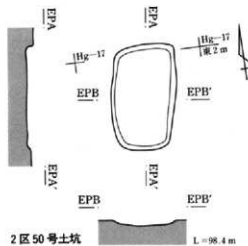
2区46号土坑

L=98.6m



2区47号土坑

L=98.6m



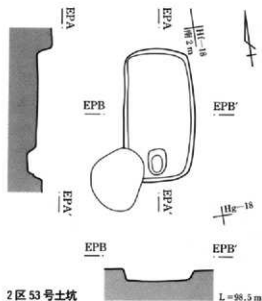
2区50号土坑

L=98.4m

第64図 2区の土坑(順)

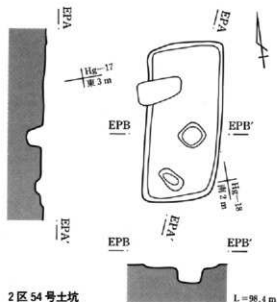


第3章 中世以降の遺構と遺物



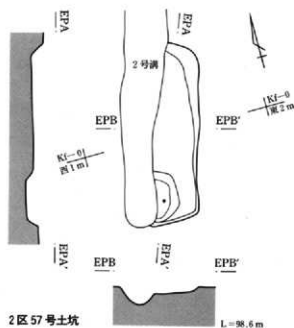
2区 53号土坑

L=98.5m



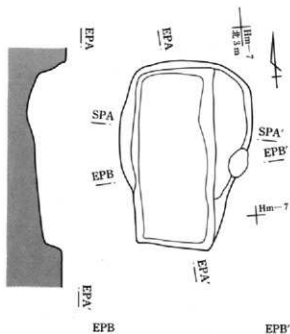
2区 54号土坑

L=98.4m



2区 57号土坑

L=98.6m



2区 62号土坑

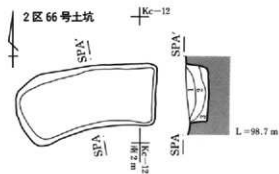
L=98.2m

1. 淡褐色土 わずかに黄褐色土粒を含む。サラサラした土。
2. 暗茶褐色土 黄褐色土粒を多量に含む。小礫あり、しまり弱くサラサラした土。
3. 淡褐色土 黄褐色土粒を含む。小礫まじり、ややサラサラした土。
4. 淡褐色土 黄褐色土塊を含む。小礫まじり、ややサラサラした土。
5. 淡褐色土 黄褐色土塊粒を含む。しまりあり。小礫を含む。

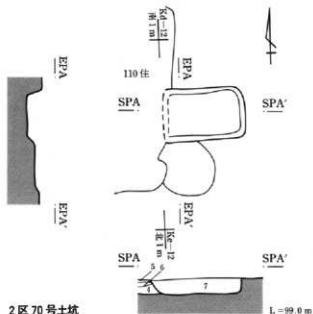
第65図 2区の土坑00

0 1:40 3m

3. 2区の遺構



1. 灰色砂質土
2. 黒褐色土 黄褐色土塊を多く含む。
3. 黒色土 少量の黄褐色土塊を含む。



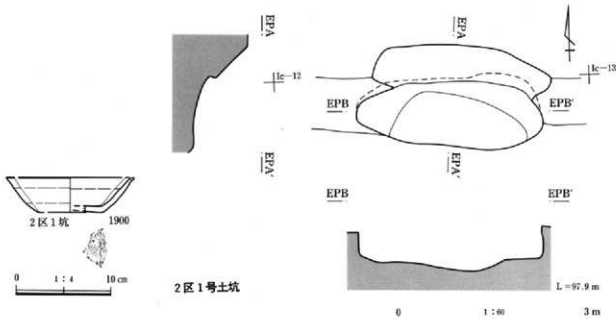
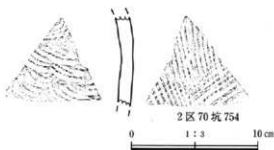
2区70号土坑

- 1~6. 2区110号住居埋没土
7. 黒褐色土 焼土粒・暗黄褐色土塊(直径1cm大)を含む。

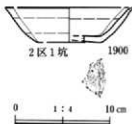


2区67号土坑

1. 黒灰色土 黄褐色土小塊を含む。
2. 黄灰色土 黄褐色土小塊を含む。

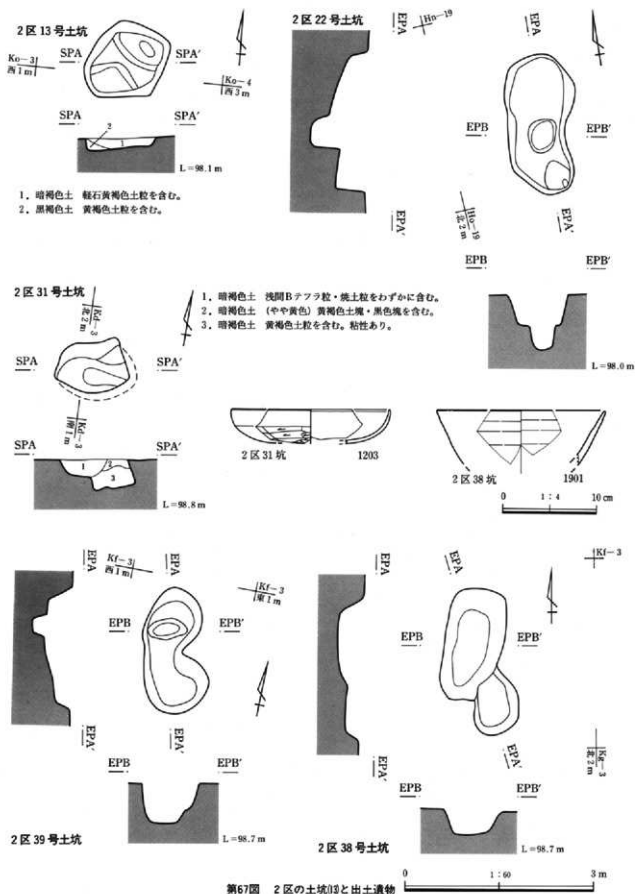


2区1号土坑

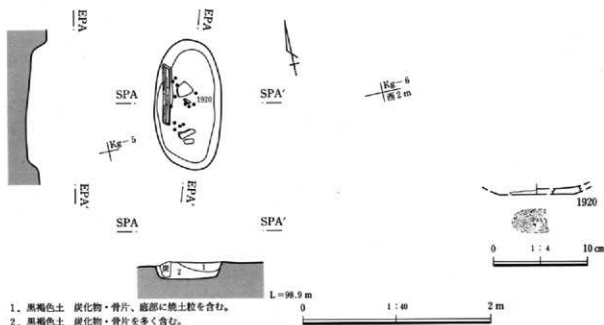


第66図 2区の土坑断面と出土遺物

第3章 中世以降の遺構と遺物



第67図 2区の土坑①と出土遺物



第68図 2区1号火葬墓と出土遺物

2区1号火葬墓

位置 Kf・g-5グリッド

写真 PL20

重複 無し。

形状 長軸1.37m、短軸0.71m、深さ0.21mの楕円形を呈する。断面形は箱形を呈し、底面はほぼ平坦で赤く焼土化していた。

主軸方位 N-14°-E

埋没土 炭化物や骨片を含む黒色土で埋まっていた。

遺物 埋没土上層で須恵器杯形土器(1920)の底部破片・土師器杯形土器小破片・灰陶器器口縁部破片が出土しているが、墓墳に伴う遺物かどうか判然としない。また焼骨が出土したが、全体の残存状態はあまり良好でない。

所見 鑑定によれば、埋没土中の焼骨は成人のもので、確認できる部位は頭蓋骨・頭蓋骨岩様部・歯根・中指骨等が認められる。墓の時期は他の出土遺物がなく不明である。

4. 3区の遺構

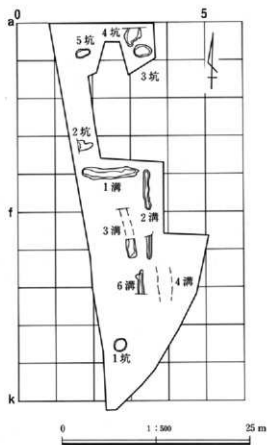
3区では、6条の溝と5基の土坑が検出された。これらの溝のうち、5号溝は8世紀の土器がまぎって出土しており、第3分冊で報告した。

本書で報告した1号溝と2号溝は走向がL字形になっており、一連の方形区画の溝とも考えられる。その場合1号溝は北辺の溝、2号溝は東辺の溝ということになる。2号溝は南北11.8mにわたって調査したが、それより南側は確認することができなかった。南辺の溝および西辺の溝は調査区内では検出されなかった。1号溝・2号溝からなる区画内には建物群は検出されなかった。2号溝は7世紀前半の1号住居を切っている。埋没土中から須恵器蓋形土器(第70図1204)が出土したが、溝の時期を確定できる遺物ではない。1号溝の出土遺物はなかった。

3号・4号・6号溝は、1号・2号溝とは走向をやや異にする小溝群である。3号溝は北端が、6号溝は南端が確認できなかった。4号溝は幅が1.70~1.83mで箱形の断面を呈する溝である。8世紀後半の6号住居周辺で確認されたが、住居との新旧関係は確認できなかった。

土坑は5基が検出されているが、3・4号土坑は不定形で底面も凹凸が多い。1号土坑は円形で中央に長径0.77m、短径0.67m、深さ0.82mのピットがある。湧水はなく機能は明確でない。2号土坑は全

掘できなかったので詳細は不明であるが、隅丸方形の平面形を呈し、0.73mの深さがある。5号土坑は楕円形の小さな土坑である。埋没土中から黒笹14号窯式期の緑釉陶器椀形土器底部破片(第73図1338)が出土したのが特筆される。



第69図 3区掘取遺構の位置

第12表 第3章掲載の3区溝一覧表

溝番号	グリッド	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	延長(m)	走向方位	掲載遺物	時期	備考
3区1号溝	d-e-1~3	0.95~1.38	0.42~0.68	0.22~0.78	7.5	N-89°-E		不明	実測
3区2号溝	d-g-3	0.69~0.85	0.40~0.50	0.15~0.26	11.8	N-9°-E	土器1	1号住居(7世紀前半)より新	
3区3号溝	f-g-2・3	1.20~1.25	0.65~0.80	0.51	6.6	N-13°-W		1号住居(7世紀前半)より新	
3区4号溝	g-h-3・4	1.70~1.83	1.60~1.70	0.32	1.1	N-2°-W	土器1	6号住居(8世紀後半)との新旧関係不明	
3区6号溝	g-h-3	0.55~0.85	0.24~0.35	0.38~0.46	3.2	N-7°-W		不明	

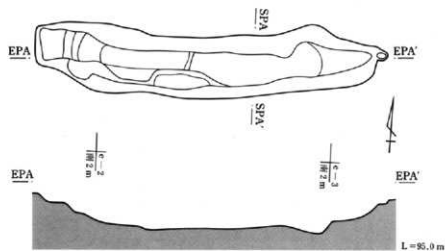
第13表 第3章掲載の3区土坑一覧表

土坑番号	土坑群	グリッド	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位	掲載遺物	時期	備考
3区1号土坑		i-2	円形	1.79	1.53	0.23				中央にピット0.77×0.67×0.82
3区2号土坑		d-1	不定形	0.99	1.45	0.73	N-89°-E			東側に楕円形ピット
3区3号土坑		a-3	不定形	2.34	1.6	0.39	N-86°-E			風筒木版
3区4号土坑		a-2・3	不定形	2.15	2.06	0.67	N-30°-E			風筒木版
3区5号土坑		a-1	楕円形	1.92	1.68	0.3	N-74°-E	土器2		断面箱形

3区1号溝

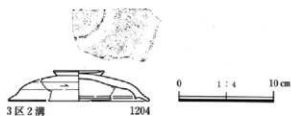
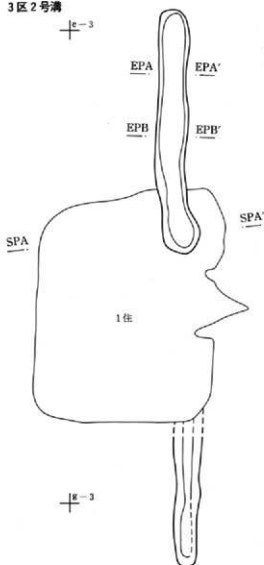


1. 黒褐色土 わずかに焼土・軽石を含む。しまり強い。
2. 暗褐色土 軽石を含む。わずかに焼土・黄褐色土粒を含む。
3. 暗褐色土 (やや黄色) 黄褐色土粒・塊・軽石を含む。
4. 暗褐色土 黄褐色土粒・塊・軽石を含む。しまり粘性強い。

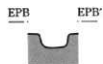


L=95.0 m

3区2号溝



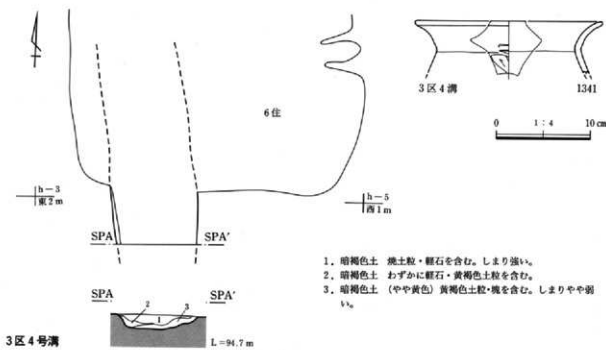
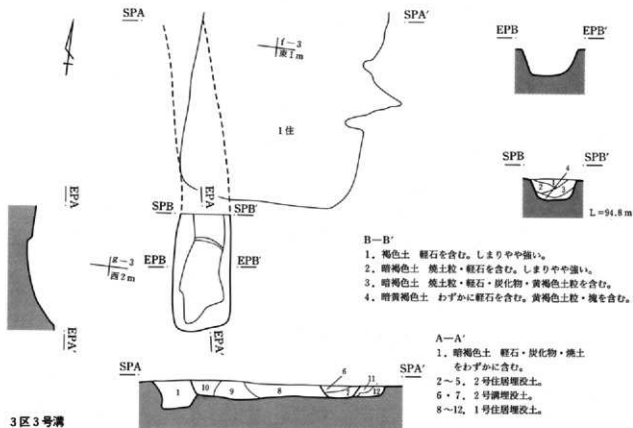
3区2溝 1204



L=94.9 m

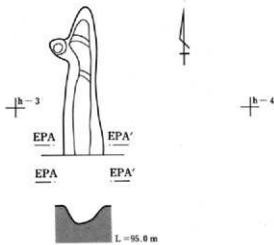
- 1・2. 2号溝埋設土。
- 3～7. 1号住居埋設土。

第70図 3区1号・2号溝と出土遺物

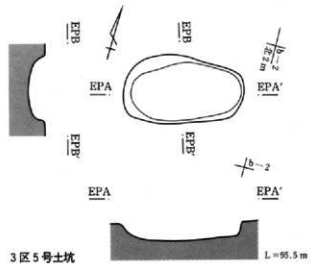
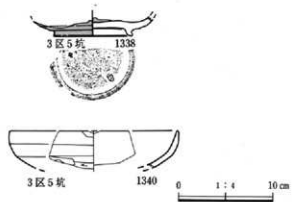
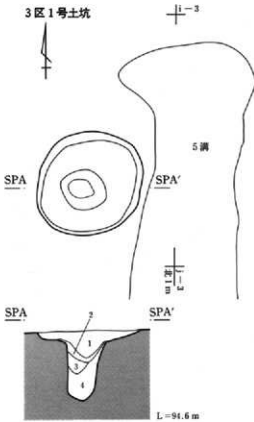


第71図 3区3号・4号溝と出土遺物





第72図 3区6号溝



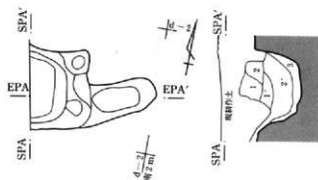
3区5号土坑



1. 暗褐色土 軽石を含む。黄褐色土塊・焼土粒・炭化物をわずかに含む。
2. 暗黄褐色土 黄褐色土粒・塊を含む。しまり弱い。
3. 黒褐色土 粘性強く、しまり弱い。
4. 暗褐色土 粘性強く、しまり弱い。わずかに黄褐色土粒を含む。

第73図 3区1号・5号土坑と出土遺物

第3章 中世以降の遺構と遺物

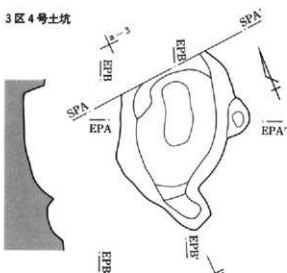


3区2号土坑

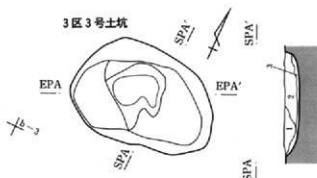
1. 暗褐色土 わずかに軽石を含む。粘性ややあり。
- 1' 暗褐色土 軽石・黄褐色土粒を含む。粘性ややあり。しまりあり。
2. 黒褐色土 軽石・黄褐色土粒を含む。粘性ややあり。しまりあり。
- 2' 黒褐色土 軽石・黄褐色土粒を含む。粘性あり。
3. 暗茶褐色土 黄褐色土粒・塊を多く含む。しまり2層よりやや弱い。



3区4号土坑

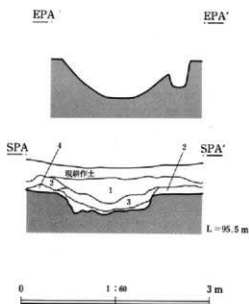


3区3号土坑



1. 黒褐色土 黄褐色土粒・浅間目軽石を含む。しまりあり。
2. 暗褐色土 黄褐色土粒・塊・浅間目軽石を含む。ザラザラした層。
3. 暗黄茶褐色土 黄褐色土主体。黒色塊・軽石わずかに含む。

1. 黒褐色土 浅間目軽石・小礫を含む。しまり弱い。
2. 淡褐色土 黄褐色土粒・小礫をわずかに含む。ザラザラした層。
3. 黄茶褐色土 黄褐色土主体。塊・褐色土まじり。
4. 黄茶褐色土 地山。
5. 茶褐色土 地山。粘性強い。



第74図 3区2号～4号土坑

5. 5区の遺構

5区では、1条の溝と3基の土坑が検出された。

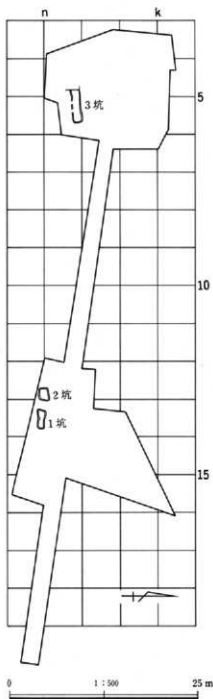
1号溝は9世紀中葉の1号住居を切って掘られている。上幅2.4~4.0m、深さ0.45~0.76mの比較的大きな溝である。発掘区の北端から南端まで15mにわたって検出されたが、機能は明確でない。図示する遺物は埋没土中の須恵器蓋形土器(第76図1205)破片があるが、溝の時期を決める遺物ではない。

土坑は、方形の土坑が3基検出されている。

1号土坑は東西に長い長方形で、南西隅がやや不定形になっていた。出土遺物はなく、時期は不明である。

2号土坑は方形であるが、北東隅がやや広がっていた。底面中央には直径0.3~0.5mの円形ピットが掘られている。

3号土坑は幅1.27mの帯状の長方形土坑である。西部が9世紀中葉の9号住居と重複しており、土坑の西壁は検出できず、9号住居以東の長さ4.4m分が確認された。3号土坑と9号住居の新旧関係は確認できなかった。また3号土坑は1号溝とも重複しているが、その新旧関係は確認できなかった。いずれの土坑も時期を特定できる遺物の出土はなかった。



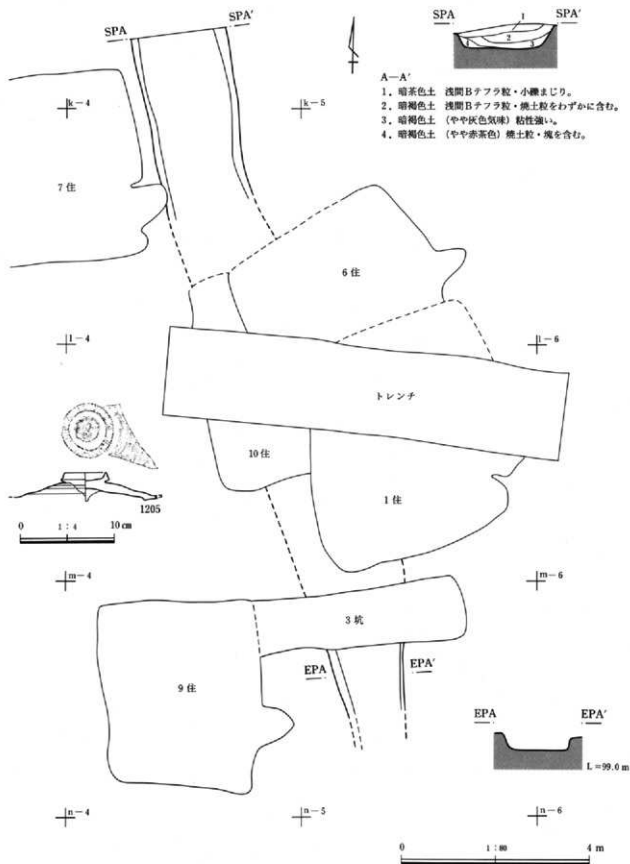
第75図 5区掲載遺構の位置

第14表 第3章掲載の5区溝一覧表

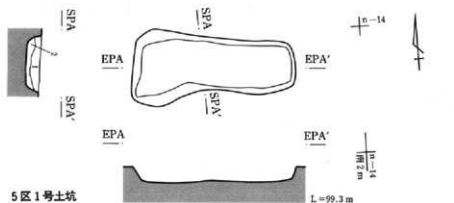
溝番号	グリッド	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	敷設日	走向方位	掲載遺物	時期	備考
5区1号溝	j~m・4・5	2.40~4.00	2.00~3.00	0.45~0.76	15	N-20°-E	土器1	1号住居(9世紀中葉)より新	

第15表 第3章掲載の5区土坑一覧表

土坑番号	土坑形	グリッド	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位	掲載遺物	時期	備考
5区1号土坑	n-13		長方形	2.58	0.81	0.28	N-90°-E			断面箱形 西端が広がる
5区2号土坑	m・n-12・13		方形	1.55	1.32	0.26	N-80°-E			断面箱形 南部に2ピット
5区3号土坑	m-4・5		帯状方形	4.40残	1.27	0.5	N-80°-E			断面箱形



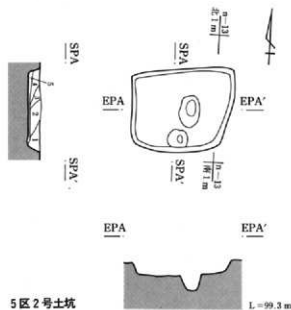
第76図 5区1号溝と出土遺物



5区1号土坑

L=99.3m

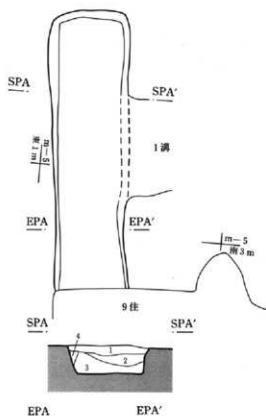
1. 淡褐色土 黒色土粒・黄褐色土粒・白色軽石を含む。
2. 暗褐色土 黒色土粒・黄褐色土粒・白色軽石を含む。



5区2号土坑

L=99.3m

1. 淡褐色土 浅間Bテフラ粒まじり。サラサラした土。
2. 黒褐色土 浅間Bテフラ粒・淡褐色土粒まじり。
3. 淡褐色土 浅間Bテフラ粒・黒色土粒まじり。
4. 淡褐色土 浅間Bテフラ粒まじり。ややサラサラした土。
5. 淡褐色土 地山。



5区3号土坑

L=99.6m

1. 淡褐色土 浅間Bテフラ粒まじり。フカフカしている。
2. 褐色土 浅間Cテフラ粒・黒色粒まじり。ややフカフカしている。
3. 褐色土 浅間Cテフラ粒・黒色粒・塊・黄褐色土粒を含む。
4. 黒褐色土 浅間Cテフラ粒まじり。

6. 6区の遺構

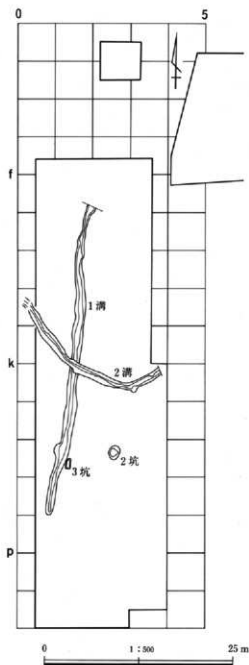
6区では、2条の溝と3基の土坑を調査した。溝は比較的長い距離を検出・調査することができた。

1号溝は41m、2号溝は23mを調査した。

1号溝は南北方向の溝で上幅は0.50~1.45m、深さ0.04~0.19mの浅い溝である。2号溝とは中央部で交差しているが、重複部の土層観察から1号溝の方が古いことが確認された。確認面では一部で現代の畑のサクにより分断されている。北部は幅が狭く不定形になり、底面に小ピットがみられる。南端近くで18世紀のものともみられる陶器灯皿受皿(第79図1948)が底面直上で出土している。

2号溝は上幅0.85~1.30m、深さ0.21~0.51mで南側に膨らんだ弧状に23mにわたって検出された。重複部の土層観察から、8世紀前半の11号住居より新しい。埋没土中から須恵器高台付碗形土器(第80図1796)が出土したが、これは2号溝の時期を示す遺物とはいえない。

土坑は3基検出した。このうち1号土坑は縄文時代中期の土器・石器を出土しており、本書第2章(第7図)に報告した。2号土坑は長径1.83m、深さ0.92mの円形の土坑で、断面形は摺鉢状を呈する。段のある底面の形態などから見ると、大きさはやや小さいが、「荒砥上ノ坊遺跡II」で報告した8世紀代の大形円形の土坑に類似している。3号土坑は小型の長方形土坑で深さ0.62mの深い土坑である。いずれも遺物が出土していないので時期は不明である。



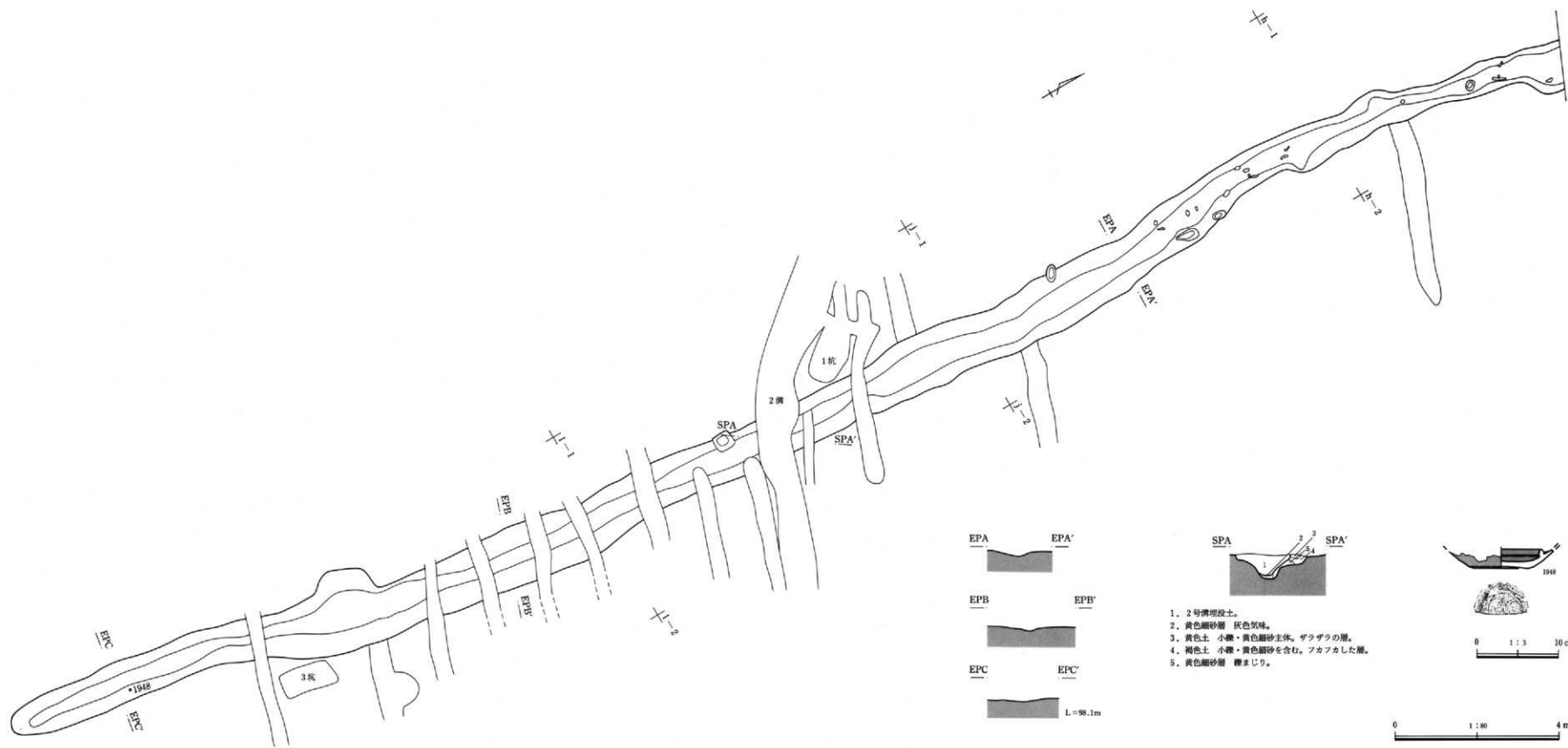
第78図 6区掲載遺構の位置

第16表 第3章掲載の6区溝一覧表

調査号	グリッド	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	延長(m)	走向方位	掲載遺物	時期	備考
6区1号溝	f~m-0-1	0.50~1.45	0.20~0.52	0.04~0.19	41	N-12°-E	土器1	18世紀	
6区2号溝	i~k-0-3	0.85~1.30	0.25~0.50	0.21~0.51	23		糜状	土器1	11号住居(8世紀前半)より新

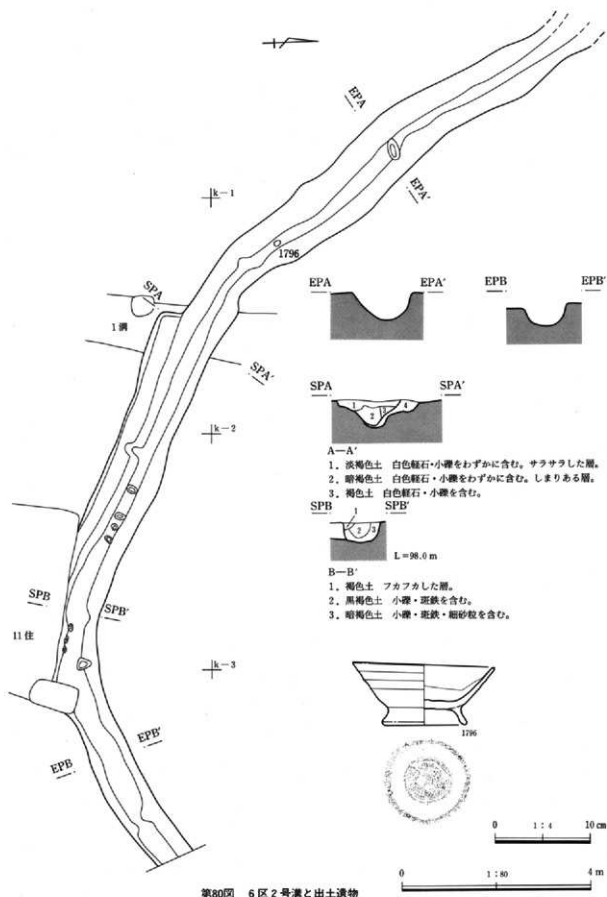
第17表 第3章掲載の6区土坑一覧表

土坑番号	土坑型	グリッド	形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位	掲載遺物	時期	備考
6区2号土坑		m-2	円形	1.83	1.47	0.92				断面摺鉢状
6区3号土坑		m-1	長方形	1.32	0.65	0.62	N-10°-E			断面円形

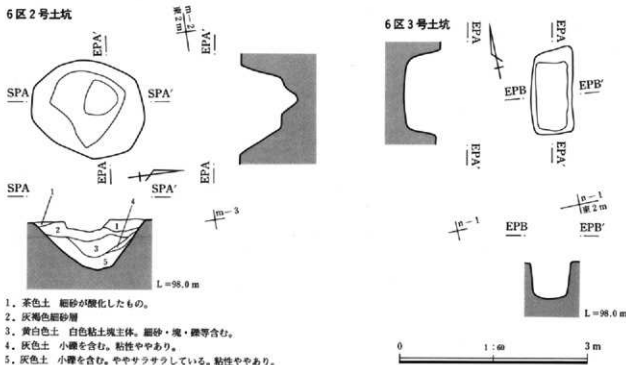


1. 2号溝埋込土。
2. 黄色細砂層 灰色灰味。
3. 黄色土 小礫・黄色細砂主体。ガラザラの層。
4. 褐色土 小礫・黄色細砂を含む。フカフカした層。
5. 黄色細砂層 礫まじり。

第79図 6区1号溝と出土遺物



第80図 6区2号溝と出土遺物



第81図 6区2号・3号土坑

1. 茶色土 細砂が酸化したものである。
2. 灰褐色細砂層
3. 黄白色土 白色粘土塊主体。細砂・炭・礫等含む。
4. 灰色土 小礫を含む。粘性ややあり。
5. 灰色土 小礫を含む。ややサラサラしている。粘性ややあり。

7. 7区の遺構

7区では、溝14基、井戸22基、土坑72基、火葬基2基が検出された。これらの遺構の一部からはまとも中世・近世の遺物が出土しており、本遺跡の中では、最も中世・近世の遺構が分布していた地点である。他に古代の住居10軒と土坑1基が検出されている。

溝 (第83図～第99図)

溝は、1号・3号・8号溝のような上幅1.0～4.0mの方形に屈曲する大型の溝と、2号・5号・9号・10号・11号・12号・13号溝のような上幅1m前後の直線的な溝、4号・6号・7号・14号溝のような上幅1m前後の緩やかに屈曲する溝の3種に分けられる。

1号・3号・8号溝は、方形に屈曲して土地を区画する溝と考えられる。これらの3区画は台地西縁に並ぶように位置している。1号溝の南限は確認できなかったが、西溝は4ヶ所のトレンチで確認することができた。この復元が正しいとすれば、一辺75

m以上の区画ということになる。1号溝の底面には、大型の礫が多量に落ち込んでおり、そのなかには五輪塔・茶臼・粉ひき臼等の石製品や板碑の破片(第87・88図)が含まれていた。土器は16・17世紀の陶器や15～19世紀の軟質陶器が出土している。第89図2001・2002は16世紀と考えられる瀬戸・美濃系の陶器摺鉢、1990～1992は15世紀と考えられる内耳鍋、1995も15世紀と考えられる焙烙である。

3号溝・8号溝の区画はいずれも北西隅が確認できたにとどまるが、1号溝の区画より小さく、一辺30～40mの方形区画を想定し得る。これらの溝からは中世の土器が限定的に出土している。3号溝からは12・13世紀の知多窯産と見られる焼締陶器壺破片(第90図2025・2026)や14～16世紀の軟質陶器鍋(2015)、焙烙(2016)、内耳鍋(2017・2018)が出土した。8号溝からは13世紀龍泉窯系の青磁碗破片(第90図2036)、14～15世紀知多窯産とみられる焼締陶器壺破片(2034・2035)が出土した。

これらの遺物の状況から、3号・8号溝の方が1号・2号溝よりやや古い溝と考えられる。なお、三区

画とも区画内の建物等の痕跡は検出されなかった。

2号・5号・9号・10号・11号・12号・13号溝は、直線的な走向を示す。検出範囲の狭かった11号・12号・13号溝は不明な点が多いが、13号溝からは13世紀と考えられる龍泉窯系の青磁碗の口縁部破片(2036)が出土している。他に14～15世紀の焼締陶器破片(2034・2035)、15世紀後半と考えられるカワラケ(1032)、16世紀後半と考えられる軟質陶器焙烙(2033)が出土している。

2号・5号・9号・10号溝は先述した方形区画の溝と平行あるいは直行する走向を示し、地割に関係する溝と考えられる。2号溝は、上幅1.65～2.60mで1号溝北辺とほぼ平行し、小規模な5号・9号・10号溝とは様相が異なる。1号溝の区画に関連する遺構の可能性が高い。掘削は3号・4号溝より新しい。埋没土中から15世紀頃と考えられる軟質陶器内耳鍋(第93図2019)やカワラケ(1968)が出土した。5号・9号・10号溝は出土遺物が無く、時期等は不明である。

4号溝は1～3号溝と交差する不定形な溝である。10世紀前半の9号住居より掘削は新しい。出土遺物は古代の土師器・須恵器が大半であるが、内耳鍋の破片も3点含まれていた。掘削時期は明確でない。6号溝は埋没土の大半が砂で水流のあったことが推定される溝である。出土遺物はない。7号・14号溝は調査範囲が狭く詳細は不明である。7号溝と8号井戸との新旧関係も確認できなかった。

井戸(第100図～第110図)

井戸は22基が検出されたが、直径1m前後の小型・円形のものが多い。直径1.8～1.9mの大型・円形ものは3基にすぎない。小型の井戸の多くは溝と重複して検出された。土層の観察からは井戸の埋没土の上に溝の埋没土が堆積していた。したがって溝の埋没以前に井戸が機能し、埋没したことがわかる。しかし溝の掘削時に井戸が機能していたかどうかは不明である。

井戸の出土遺物はあまり多くなかったが、1号井

戸からは15世紀とみられるカワラケ(第100図1967)、17号井戸からは14・15世紀と考えられるカワラケ(第108図1970・1972)、15世紀と考えられる軟質陶器内耳鍋(1975・1976)や17世紀前半の瀬戸・美濃系の陶器丸皿(1977～1981)等及び板碑・粉ひき臼の破片が出土した。21号井戸からも15世紀とみられる軟質陶器内耳鍋(第110図1983・1984)が出土した。このように井戸の出土遺物の時期は、溝の出土遺物の時期傾向と等しく、井戸と溝は同時に使われていた可能性も考えられよう。

また、出土遺物のなかった井戸も多いが、その形態や立地が出土遺物のある井戸と基本的に同じであることから、7区の井戸は中世の遺構である可能性が高い。

土坑(第111図～第127図)

土坑は72基が検出されたが、平面形態からピット状・円形・楕円形・方形・長方形・帯長方形・不定形の7つに分けられる。ピット状・円形・長方形・不定形の土坑は出土遺物も非常に少なく、時期を明確にすることができなかった。このうち8号溝東側にある長方形の土坑群は、長軸あるいは短軸が8号溝に平行あるいは直交しており、8号溝と土坑群は関連性のある遺構とも考えられる。

方形の土坑は、長軸：短軸の比が3：2の定型的な土坑で、18基が調査できた。土坑の大きさは、長軸2m以上の大型6基、1.5～1.8mの中型6基、1.0～1.3mの小型6基である。このうち大型の方形土坑は、確認面からの深さが0.5m以上と他に比べて深く、出土遺物も豊富であった。埋没土はやや砂質の土で、1号・2号・22号土坑では瀬戸石製品破片が多く出土した。特に22号土坑では茶臼(第116図S221)・粉引き臼(S219・S220・S222)が出土している。

土器は、2号土坑で中世と考えられるカワラケ(第117図1956)、軟質陶器焙烙(1957)、内耳鍋(1958)、播鉢(1959)が出土した。また、39号土坑で中世とみられる軟質陶器の茶釜形の鍋の破片(第115図

第3章 中世以降の遺構と遺物

1963)が出土した。中型方形土坑の55号土坑からはカワラケ(第119図1964)が出土している。

これらの遺物の状況から、方形土坑は中世の遺構と考えられるが、井戸と同様に、大型の方形土坑は溝に方向をあわせるように近接あるいは重複していた。重複関係からは22号土坑→8号溝、3号溝→1号・2号土坑、3号土坑→2号溝が確認できた。大型方形土坑は、溝による方形区画の変遷の合間に溝の位置に規定されながら掘られていることが推定できるが、調査で実態を明らかにすることはできな

かった。類例を集めて、今後検討する必要がある。

火葬墓・土壌墓(第128図)

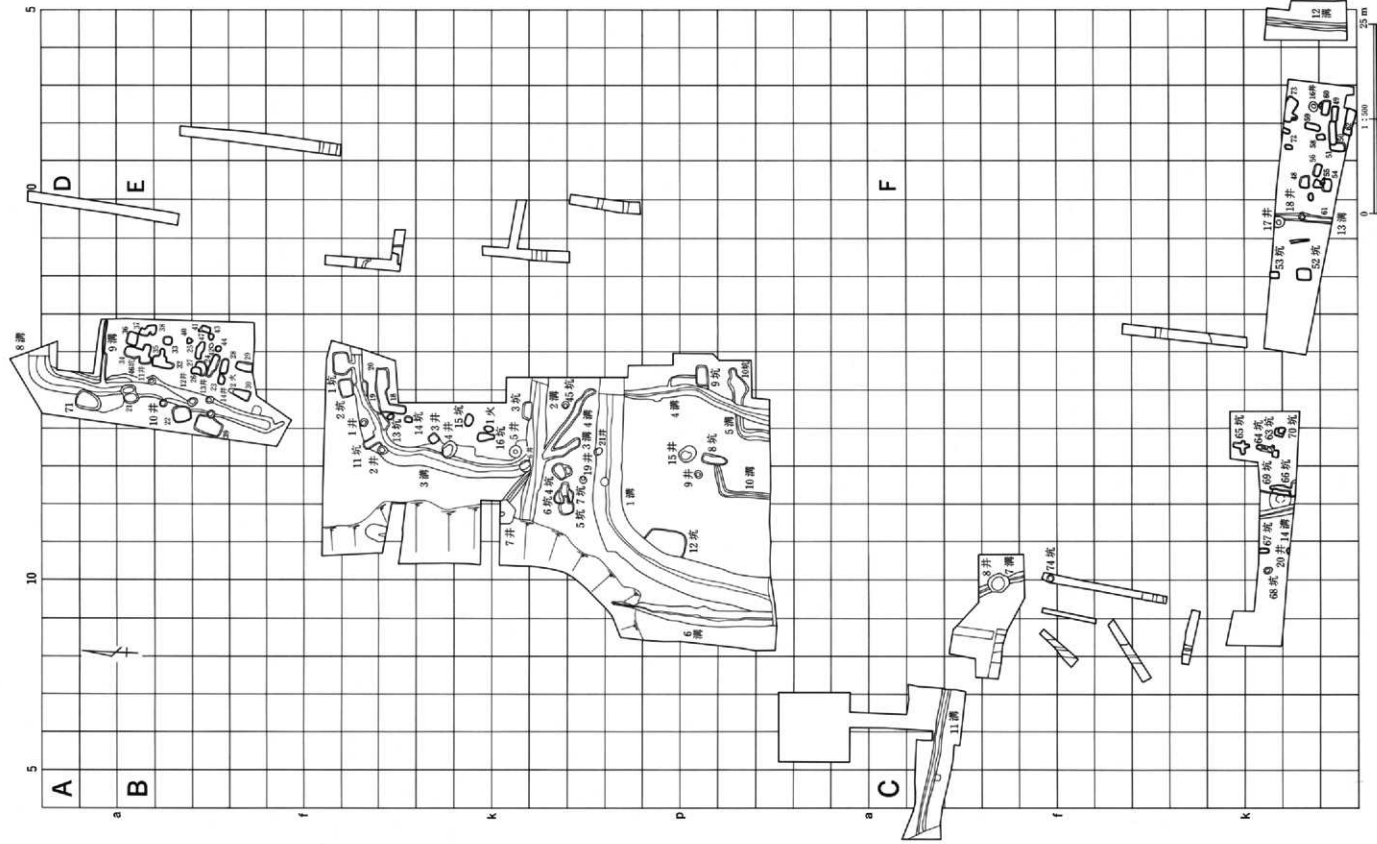
7区では火葬墓1基、土壌墓1基が検出された。1号火葬墓は3号溝区画の内側、1号土壌墓は8号溝区画の内側に位置する。いずれも隅丸方形で、1号火葬墓には炭化材が残っていた。1号火葬墓からは焼骨片が散乱した状態で出土した。1号土壌墓の埋没土中からは、人歯13点と15世紀後半から16世紀前半と考えられるカワラケ(第128図1960)が出土した。

第18表 第3章掲載の7区溝一覽表

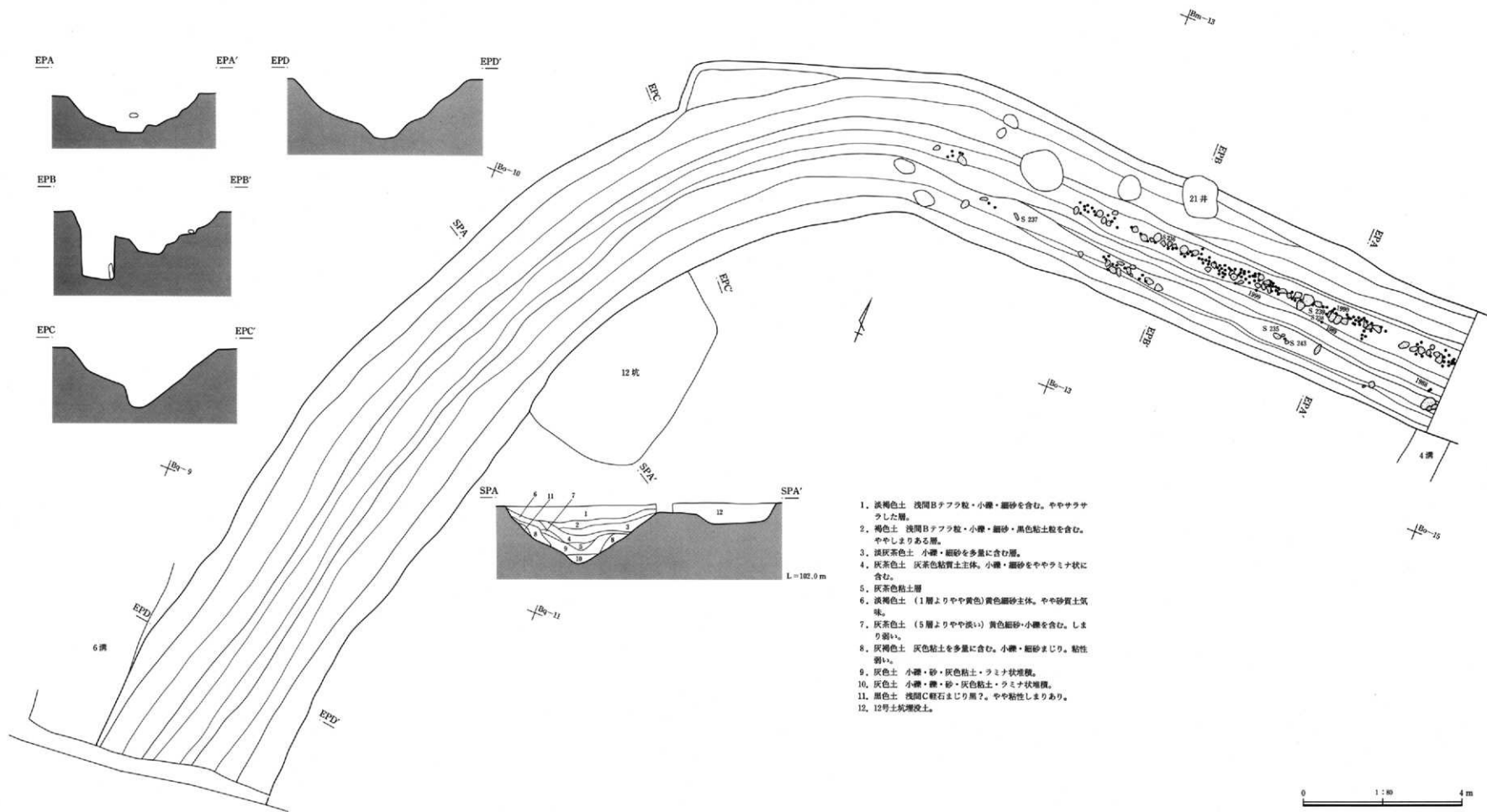
調査号	グリッド	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	距離(m)	走向方位	掲載遺物	時期	備考
7区1号溝	Bm-q-9~14	3.30~4.42	0.30~0.78	1.01~1.49	43	東溝N-7°-W 北溝N-60°-W	土器27石器13	13世紀	L字形
7区2号溝	Bk-r-11~15	1.65~2.60	0.40~0.92	0.46~0.70	18	N-80~85°-E	土器2	中世。4号溝より新	
7区3号溝	Bg-m-12~15	1.10~2.33	0.42~0.68	0.33~0.42	32	西溝N-15°-E	土器6	中世。土坑や井戸より古	L字形
7区4号溝	Bi-p-13~15	0.50~0.80	0.25~0.70	0.15~0.45	38.5	N-55°-W	土器4	9号住居(19世紀前半)より新	
7区5号溝	Bq-r-13~15	0.88~0.36	0.24~0.64	0.44~0.52	13	西溝N-5°-E 北溝N-60°-E		4号溝より古	L字形
7区6号溝	Bn-r-8・9	1.30~1.90	0.10~0.20	0.60~0.86	22	N-2°-E		不明	遺水の痕跡
7区7号溝	Cd-e-9・10	0.85~1.35	0.18~0.25	0.49	4	N-23°-W		不明	8号井戸との新旧関係不明
7区8号溝	Ar-t-14・15 Ba-e-14・15	1.80~2.70	0.80~1.30	0.45~0.65	35	西溝N-20°-E	土器5石器2	中世。10号井戸・22号土坑より新	
7区9号溝	At-15・16	0.35~0.70	0.12~0.52	0.12~0.26	8	N-86°-W		8号溝より新	
7区10号溝	Bp-r-12	0.70~0.90	0.17~0.50	0.26~0.33	10.3	西溝N-1°-E 北溝N-70°-E		不明	
7区11号溝	Cb-e-3~7	0.83~1.16	0.40~0.54	0.42~0.72	20	N-82°-W		不明	
7区12号溝	Fk-m-4	0.83~1.10	0.17~0.42	0.25~0.29	11	N-2°-E		不明	
7区13号溝	Fk-m-19	0.74~0.80	0.45~0.54	0.25~0.45	9.6	N-4°-E	土器5石器1	中世。17号・18号井戸との新旧関係不明	
7区14号溝	Ck-i-11	1.00~1.12	0.10~0.18	0.29~0.37	4.6	N-11°-W		不明	

第19表 第3章掲載の7区井戸一覽表(1)

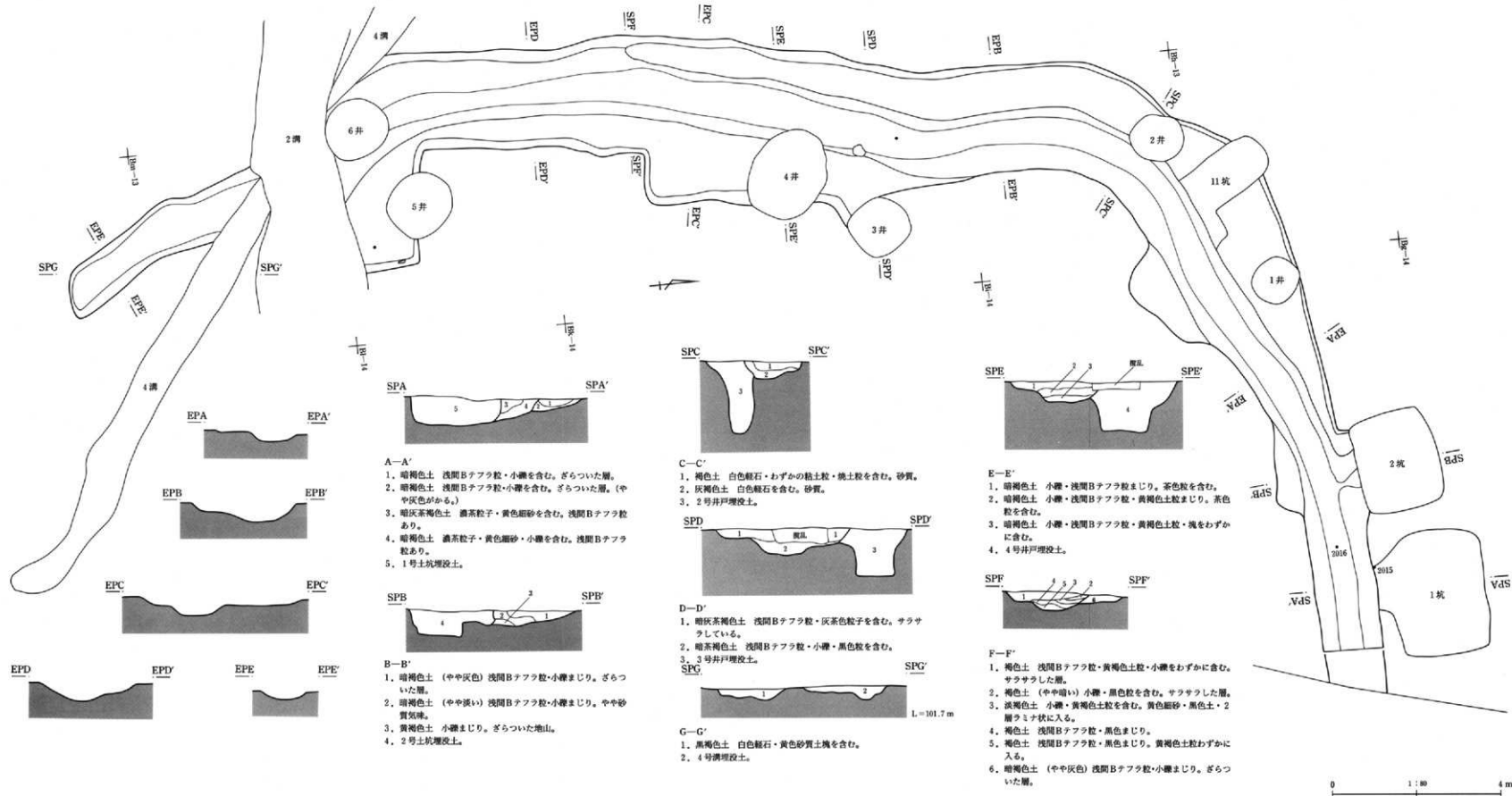
井戸番号	グリッド	形態分類	短径(m)	長径(m)	深さ(m)	掲載遺物	時期	備考
7区1号井戸	Bg-14	円形・小形	0.98	1.16	1.18	土器2石器1		
7区2号井戸	Cd-9・10	円形・小形	1.12	1.3	1.62	石器1	8溝より古	
7区3号井戸	Bk-13	円形・小形	0.82	0.84	1.22			
7区4号井戸	Bi-j-13	楕円形・大形	1.78	2.2	2.09			3溝内
7区5号井戸	Bg-h-13	円形・小形	1.18	1.2	1.72			
7区6号井戸	Bi-13	円形・小形	0.94	1.06	1.7	土器5	1溝との関係不明	
7区7号井戸	Bk-i-11・12	円形・小形	1.24	1.3	1.83			
7区8号井戸	Bk-l-12・13	円形・大形	1.99	2.32	1.87			
7区9号井戸	Bb-14	円形・小形	1.3	1.36	1.7			3溝内
7区10号井戸	Bp-12	円形・小形	0.33残	0.93	0.34+			
7区11号井戸	Ba-b-15	円形・小形	1.38	1.56	1.31	土器1	2溝より古	3溝と2溝の交点
7区12号井戸	Bm-12	円形・小形	1.0	1.0	1.94		8溝より古	
7区13号井戸	Ci-19	円形・小形	0.89	1.0	1.6			
7区14号井戸	Ck-19	円形・小形	1.45	1.6	1.9	石器2		3溝内
7区15号井戸	Bc-14	円形・小形	2.32	2.8	1.52	石器1		
7区16号井戸	Bp-13	円形・大形	1.9残	3.2	1.81			
7区17号井戸	Fi-2	円形・小形	0.9	1.0	2.02		8溝より古	
7区18号井戸	Bc-14	円形・小形	0.98	1.0	1.64		8溝より古	
7区19号井戸	Bb-c-14	円形・小形	0.7	1.0	1.6	土器1		
7区20号井戸	Ci-10	円形・小形	1.0	1.02	1.52	土器1		
7区21号井戸	Bm-13	円形・小形	0.82	0.85	1.7	土器4		
7区22号井戸	Ck-19	円形・小形	1.3	1.34残	1.88	土器14石器8		

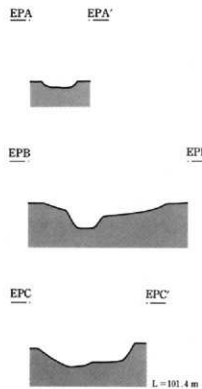


第82図 7区排水溝の位置

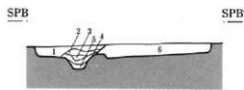


1. 淡褐色土 浅間Bテフラ粒・小礫・細砂を含む。ややサラサラした層。
2. 褐色土 浅間Bテフラ粒・小礫・細砂・黒色粘土粒を含む。ややしりある層。
3. 淡灰茶色土 小礫・細砂を多量に含む層。
4. 灰茶色土 灰茶色粘質土主体。小礫・細砂をややラミナ状に含む。
5. 灰茶色粘土層
6. 淡褐色土 (1層よりやや黄色) 黄色細砂主体。やや砂質土気味。
7. 灰茶色土 (5層よりやや淡い) 黄色細砂・小礫を含む。しりあり弱い。
8. 灰褐色土 灰色粘土を多量に含む。小礫・細砂まじり。粘性弱い。
9. 灰色土 小礫・砂・灰色粘土・ラミナ状堆積。
10. 灰色土 小礫・砂・灰色粘土・ラミナ状堆積。
11. 黒色土 粗粒に軽石まじり層?。やや粘性しりあり。
12. 12号土坑埋設土。

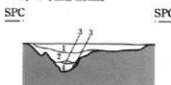




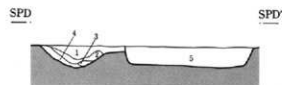
- A-A'
1. 黒褐色砂質土 灰黄色砂塊を含む。白色軽石まじり。
 2. 灰黄色砂層
 3. 3号溝埋設土。



- B-B'
1. 黒乱 堆山、黄褐色砂質土・褐色土の混土。
 2. 浅間C軽石まじり黒色土・褐色土の混土。面状。
 3. 浅間C軽石まじり黒色土・褐色土の混土。塊状。
 4. 褐色土 浅間C軽石まじり黒色土塊を含む。
 5. 褐色砂質土。
 6. 4号住居埋設土。



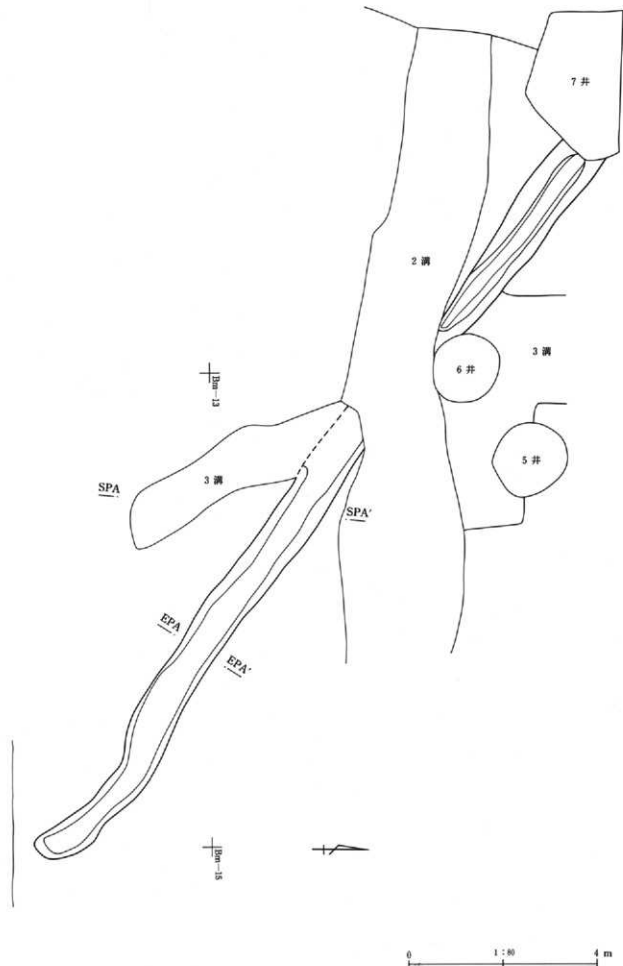
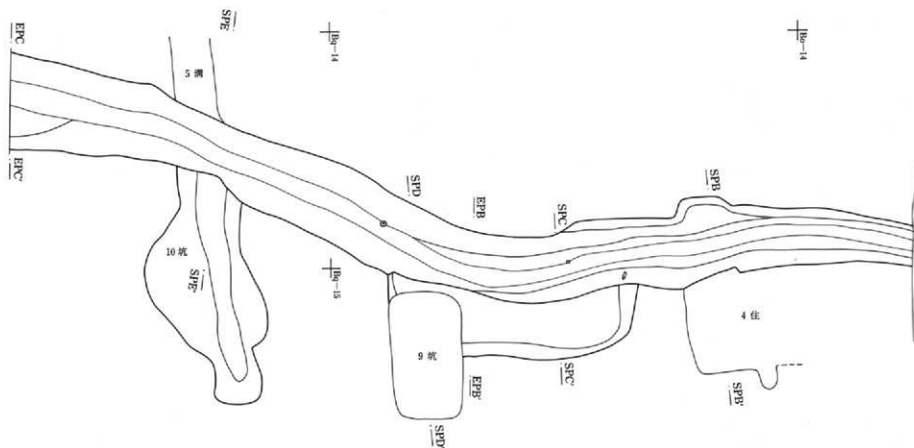
- C-C'
1. 褐色土 しまりない。浅間C軽石を含む。
 2. 褐色土 浅間C軽石まじり黒色土塊を含む。
 3. 砂
 4. 褐色砂質土。

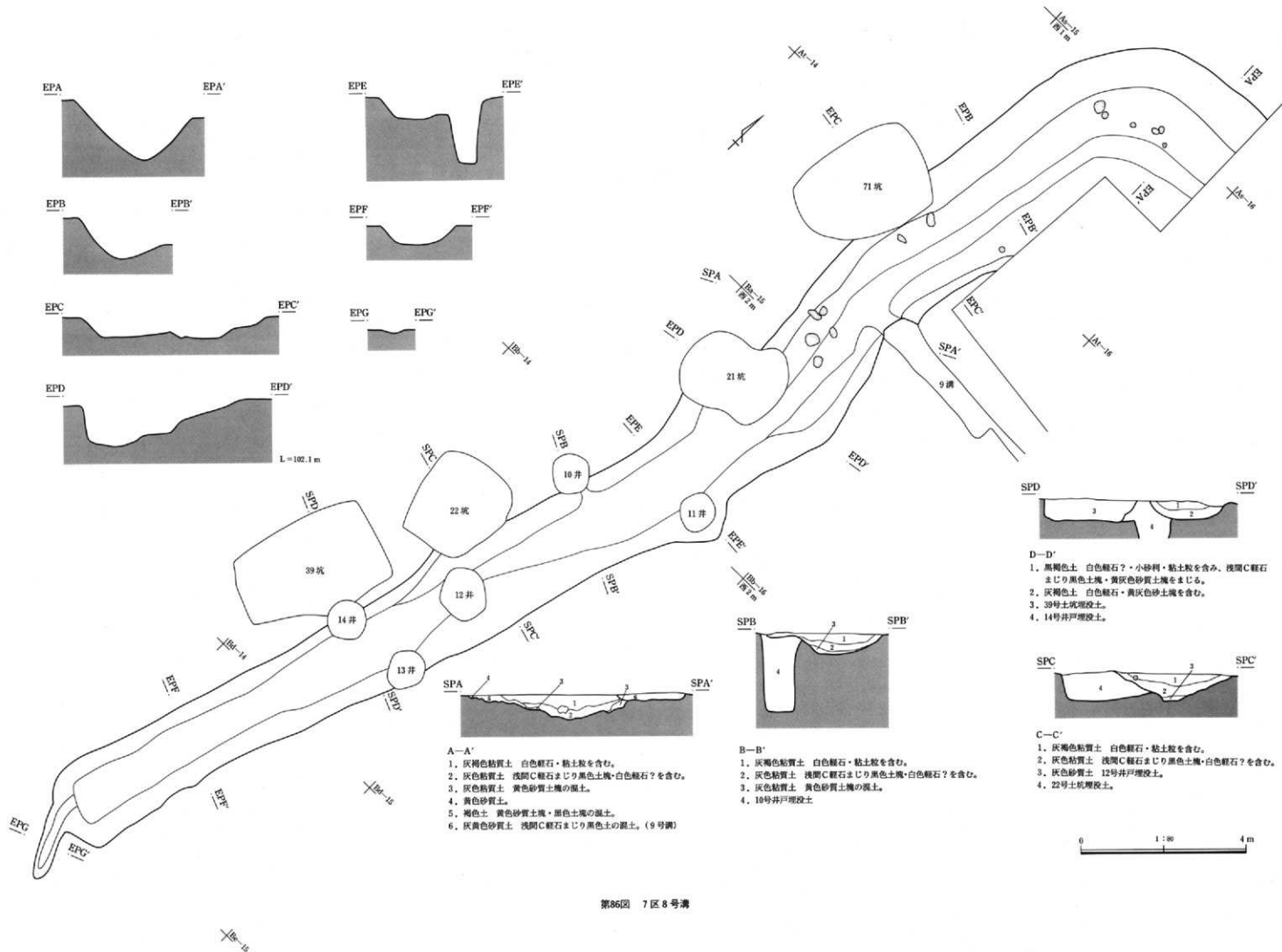


- D-D'
1. 褐色土 しまりない。浅間C軽石を含む。
 2. 褐色土 浅間C軽石まじり黒色土塊を含む。
 3. 砂
 4. 浅間C軽石まじり黒色土・褐色土の混土。面状。
 5. 9号土坑埋設土。



- E-E'
1. 5号溝埋設土。
 2. 10号土坑埋設土。
 3. 褐色土 焼土粒・炭化物粒・黄褐色土粒を含む。
 4. 黄褐色土 焼土粒・炭化物粒・黄褐色土粒を含む。
 5. 灰褐色土 焼土粒・炭化物粒・黄褐色土粒を含む。しまりあり。





L=102.1 m

- A-A'
1. 灰褐色粘質土 白色軽石・粘土粒を含む。
 2. 灰色粘質土 浅間C軽石まじり黒色土塊・白色軽石を含む。
 3. 灰色粘質土 黄色砂質土塊の覆上。
 4. 黄色砂質土。
 5. 褐色土 黄色砂質土塊・黒色土塊の混土。
 6. 灰黄色粘質土 浅間C軽石まじり黒色土の混土。(9号溝)

- B-B'
1. 灰褐色粘質土 白色軽石・粘土粒を含む。
 2. 灰色粘質土 浅間C軽石まじり黒色土塊・白色軽石を含む。
 3. 灰色粘質土 黄色砂質土塊の覆上。
 4. 10号井戸埋設土。

- C-C'
1. 灰褐色粘質土 白色軽石・粘土粒を含む。
 2. 灰色粘質土 浅間C軽石まじり黒色土塊・白色軽石を含む。
 3. 灰色粘質土 12号井戸埋設土。
 4. 22号井戸埋設土。

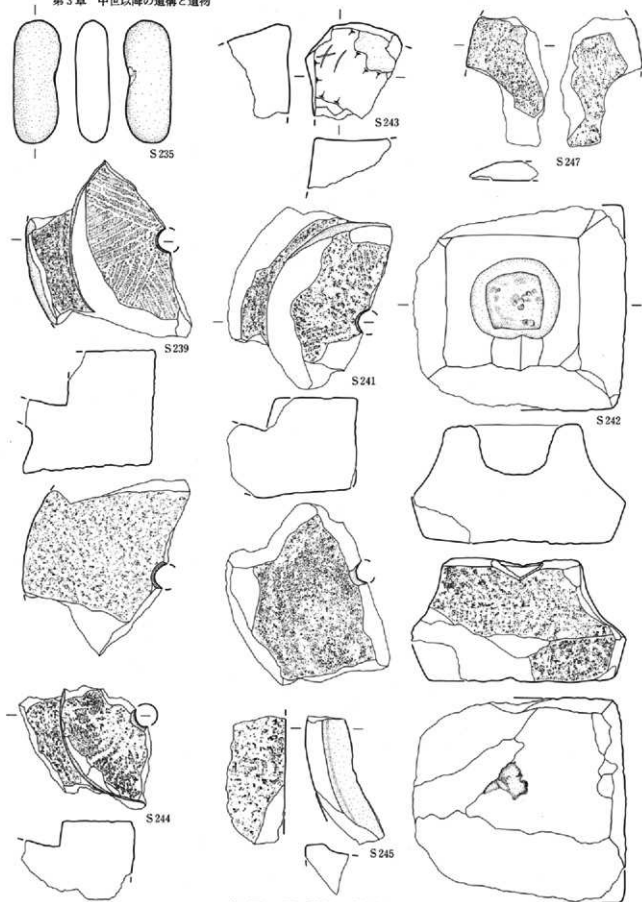
- D-D'
1. 黒褐色土 白色軽石・小砂粒・粘土粒を含む。浅間C軽石まじり黒色土塊・黄灰色粘質土塊をまじる。
 2. 灰褐色土 白色軽石・黄灰色砂土塊を含む。
 3. 39号土坑埋設土。
 4. 14号井戸埋設土。

第20表 第3章掲載の7区土坑一覧表(2)

土坑番号	土層	グリッド	形	長さ[m]	短径[m]	深さ[m]	長軸方位	掲載遺物	時 期	備 考
7区13号土坑	Bb-14		ビット状	0.95	0.82	0.6				
7区40号土坑	Bb-16		ビット状	0.82	0.82	0.42				三角形
7区42号土坑	Bc-16		ビット状	0.76	0.48	0.61				東南にビット
7区44号土坑	Bc-16		ビット状	0.49	0.4	0.27				中央にビット
7区70号土坑	Ck-1-13		ビット状	1	0.88	1.08				中央にビット
7区43号土坑	Bc-16		円形	0.93	0.78	0.68				断面形状
7区45号土坑	Bb-m-14		円形	0.98	0.98	1.01				断面形状
7区74号土坑	Ce-9・10		円形	0.98	0.9					断面形状
7区66号土坑	Ci-12		楕円形	2.3	0.48	0.28	N-96°-E			断面形状
7区68号土坑	Ck-10		楕円形	1.18	0.8	0.19	N-158°-E			
7区71号土坑	Aa-t-14		楕円形	3.29	2.36	0.49	N-36°-E			
7区1号土坑	Bf-g-15・16		方形	3	2.2	0.77	N-87°-E			3溝より新
7区2号土坑	Bf-g-14・15		方形	2.38	1.99	0.63	N-79°-E	土層4石器3		断面形状
7区3号土坑	Bb-t-14		方形	2.42	1.09	0.31	N-90°-E			2溝より古
7区3号土坑	Bb-t-11		方形	2	1.3	0.74	N-173°-E			断面形状
7区22号土坑	Bb-14		方形	2.43	2.12	0.59	N-165°-E			断面形状
7区39号土坑	Bb-13・14		方形	3.44	2.3	0.6	N-27°-E	土層1	石器4	8溝より古
7区14号土坑	Bb-14		方形	1.07	0.78	0.37	N-5°-E			14溝より新
7区15号土坑	Bb-14		方形	1.58	0.96	0.18	N-110°-E			断面形状
7区27号土坑	Bc-15		方形	1.77	1.53	0.1	N-96°-E			断面形状
7区33号土坑	Bb-16		方形	1.22	1.02	0.24	N-6°-E			断面形状
7区36号土坑	Ba-16		方形	1.77	1.4	0.23	N-109°-E			断面形状
7区48号土坑	Ff-0		方形	1.5	1.28	0.35	N-100°-E			断面形状
7区52号土坑	Ci-17・18		方形	1.88	1.3	0.26	N-3°-E			断面形状
7区53号土坑	Ck-17・18		方形	1.28	0.93	0.27	N-7°-E			断面形状
7区54号土坑	Fm-0		方形	1.68	1.18	0.22	N-69°-E			断面形状
7区55号土坑	Ff-m-0		方形	1.32	1.08	0.08	N-5°-E	土層1		54土坑と重複
7区63号土坑	Ck-1-13		方形	1.16	0.98	0.13	N-9°-E			断面形状
7区64号土坑	Ck-13		方形	0.94	0.79	0.24	N-100°-E			断面形状
7区62号土坑	Fm-n-1・2		併長方形	3.38	1.2	0.56	N-102°-E			断面形状
7区7号土坑	Bf-m-12		長方形	2.30	1.14	0.83	N-87°-E			底面に窪み
7区8号土坑	Bf-g-13		長方形	3.19	1.22	0.34	N-12°-E			10溝と2動石不明
7区9号土坑	Bp-15		長方形	2.68	1.32	0.42	N-88°-E			断面形状
7区11号土坑	Bg-13		長方形	2.20	1.11	0.45	N-145°-E			4溝より新
7区18号土坑	Bb-14		長方形	2.03	1.33	0.13	N-5°-E			3溝と1動石不明
7区19号土坑	Bb-14		長方形	3.2	1.3	0.15	N-73°-E			19土坑より新
7区20号土坑	Bg-h-15		長方形	2.67	1.72	0.13	N-172°-E			19土坑より新
7区23号土坑	Bc-15		長方形	0.72	0.8	0.5	N-111°-E			24土坑より古
7区24号土坑	Bc-15		長方形	2.38	1	0.54	N-110°-E			断面形状
7区25号土坑	Bc-15		長方形	1.12	0.84	0.32	N-95°-E			断面形状
7区28号土坑	Bc-15		長方形	1.38	0.93	0.2	N-15°-E			断面形状
7区28号土坑	Bc-15		長方形	1.98	1.67	0.18	N-102°-E			断面形状
7区29号土坑	Bd-15		長方形	2.23	1.22	0.13	N-12°-E			断面形状
7区34号土坑	Ba-15・16		長方形	2.37	1.37	0.09	N-19°-E			34・46土坑と重複
7区35号土坑	Ba-16		長方形	1.50	0.98	0.12	N-11°-E			34・46土坑と重複
7区37号土坑	Ba-16		長方形	1.24	0.92	0.2	N-20°-E			38土坑と重複
7区38号土坑	Ba-16		長方形	1.32	0.98	0.16	N-9°-E			37土坑と重複
7区41号土坑	Bc-16		長方形	1.3	0.79	0.23	N-19°-E			断面形状
7区46号土坑	Ba-15		長方形	1.03	0.9	0.16	N-6°-E			34・46土坑と重複
7区47号土坑	Bc-16		長方形	1.19	0.75	0.35	N-106°-E			断面形状
7区49号土坑	Fm-2		長方形	3	0.9	0.52	N-96°-E			50土坑より新
7区50号土坑	Fm-1		長方形	3.1	1.12	0.71	N-0°-E			49・51土坑より古
7区53号土坑	Fm-1		長方形	2.08	1.18	0.63	N-5°-E			断面形状
7区56号土坑	Ff-m-9		長方形	1.68	0.88	0.21	N-13°-E			50土坑より新
7区57号土坑	Ff-1		長方形	1.02	0.67	0.21	N-0°-E			断面形状
7区58号土坑	Ff-m-1		長方形	1.25	0.74	0.24	N-0°-E			断面形状
7区59号土坑	Ff-m-1・2		長方形	2.04	0.8	0.15	N-12°-E			断面形状
7区60号土坑	Fm-2		長方形	1.9	1.1	0.42	N-100°-E			断面形状
7区61号土坑	Ff-0		長方形	1.03	0.53	0.23	N-90°-E			断面形状
7区67号土坑	Ck-10		長方形	1.32	0.7	0.46	N-3°-E	土層1		断面形状
7区72号土坑	Ff-1		長方形	0.94	0.6	0.16	N-16°-E			断面形状
7区73号土坑	Ff-2		長方形	3.14	1.82	0.12	N-121°-E			断面形状
7区65号土坑	Ci-k-13		長方形	3.14	0.68	0.38	N-8°-E			66土坑と重複
7区65号土坑	Ci-13		長方形	1.8	0.63	0.34	N-82°-E			66土坑と重複
7区4号土坑	Bf-m-12・13		不定形	1.33	1.13	0.76	N-60°-E			断面形状
7区6号土坑	Bf-12		不定形	2.5	1.9	0.37	N-158°-E			
7区10号土坑	Bq-14・15		不定形	4	2.12	0.34	N-53°-E			4溝より新
7区12号土坑	Bb-p-11・12		不定形	1.88	1.32	0.48	N-110°-E			
7区16号土坑	Bj-k-13		不定形	2.26	1.28	0.23	N-0°-E			
7区21号土坑	Ba-14・15		不定形	2.6	2.02	1.16	N-69°-E	土層2		
7区30号土坑	Bd-14		不定形	2.96	1.22	0.3	N-22°-E			断面形状
7区32号土坑	Bc-d-15・16		不定形	3.92	2.5	0.19	N-10°-E			断面形状

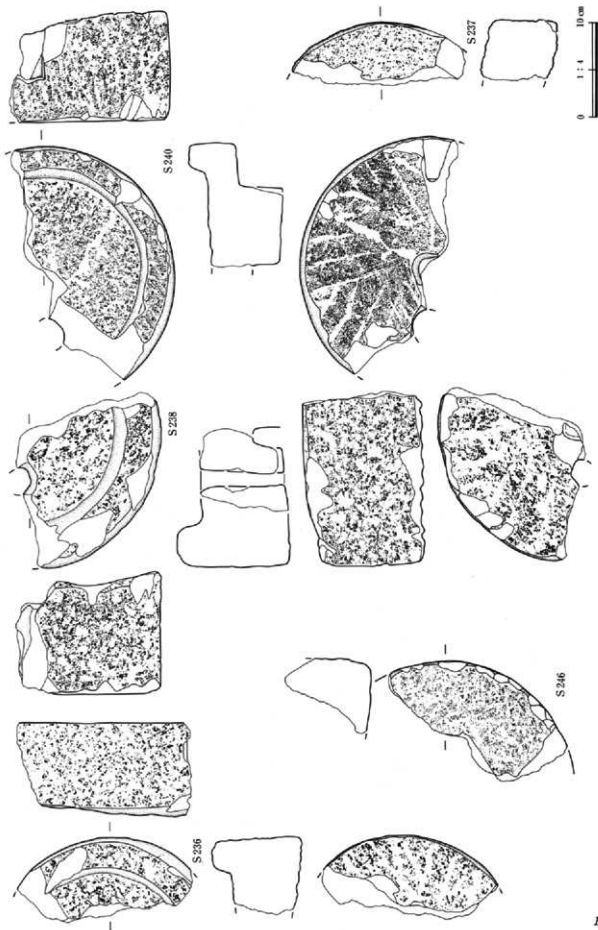
第21表 第3章掲載の7区火葬墓一覧表

墓 番 号	グリッド	形	長さ[m]	短径[m]	深さ[m]	長軸方位	掲載遺物	時 期	備 考
7区1号火葬墓	Bf-k-13・14	楕円形	1.28	0.86	0.1	N-9°-E	土層1石器1	中世	←7区17土坑
7区1号土坑墓	Bd-14	楕円長方形	1.42	0.96	0.14	N-102°-E	土層1	中世	←7区31土坑

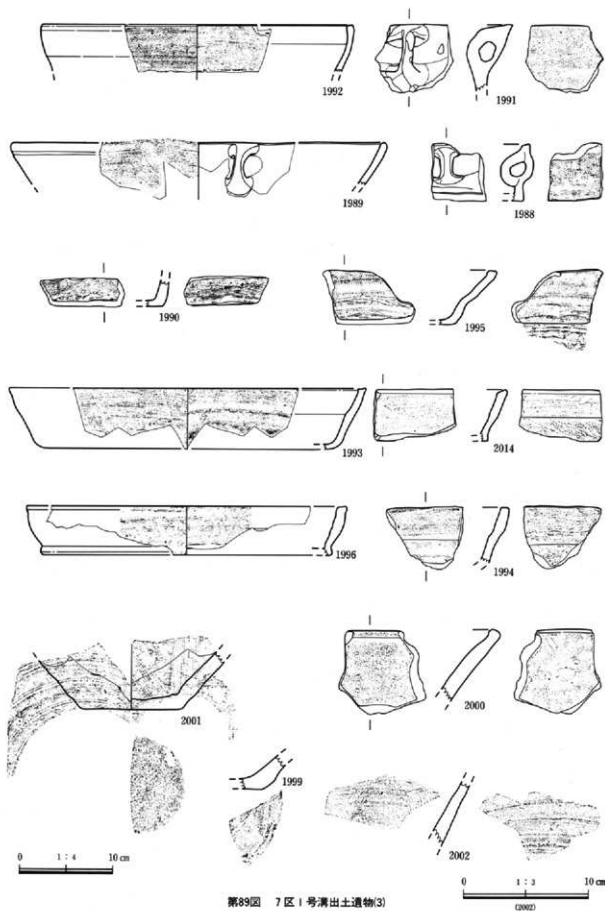


第87図 7区1号溝出土遺物(1)

0 1:4 10 cm

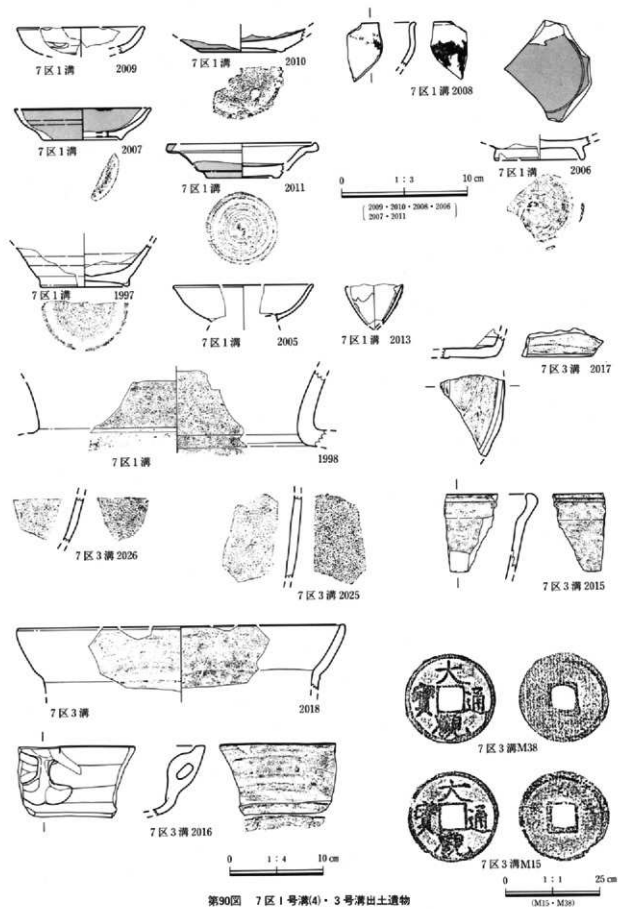


新88区 7区1号溝出土遺物(2)



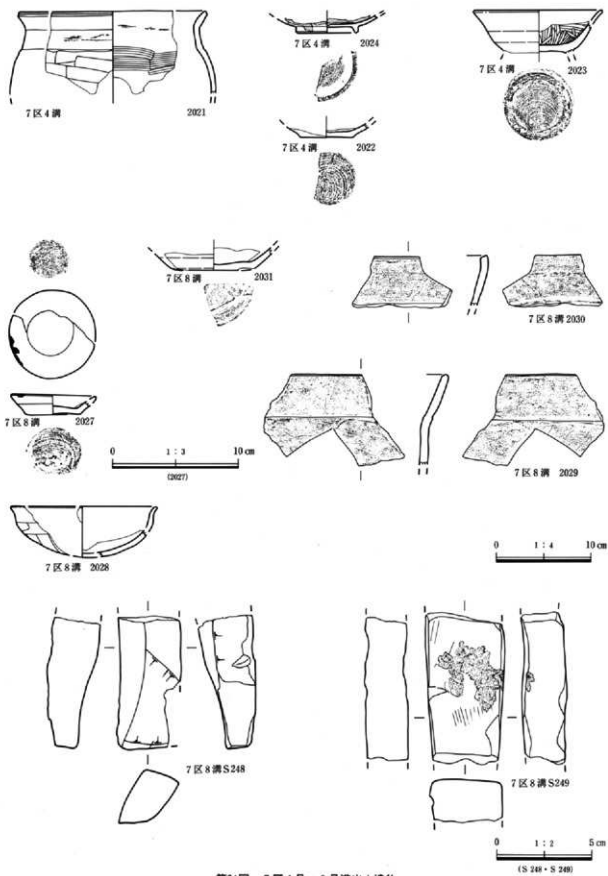
第89図 7区1号清出土遺物(3)

7. 7区の遺構

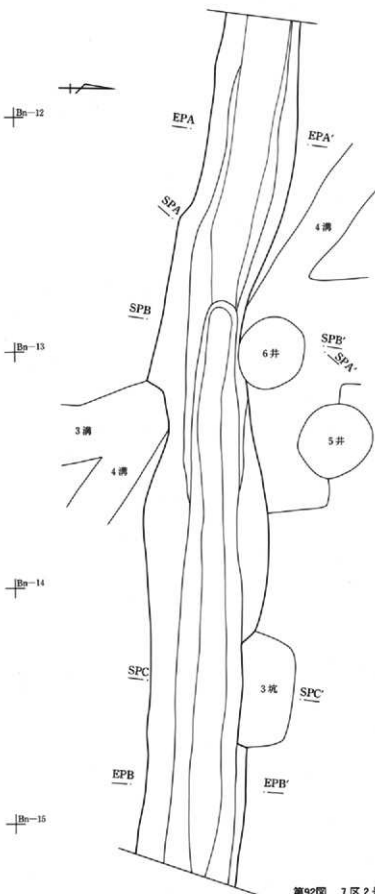


第90回 7区1号溝(4)・3号溝出土遺物

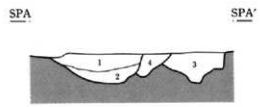
第3章 中世以降の遺構と遺物



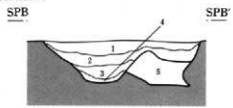
第91図 7区4号・8号溝出土遺物



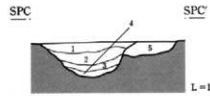
7. 7区の遺構



- A-A'
1. 暗灰茶褐色土 地山粒・軽石粒・小石を含む。やや砂質。
 2. 暗黒灰茶褐色土 地山粒・軽石粒を含むが、1層より少ない。小石は多い。
 3. 4号溝埋設土。
 4. 3号溝埋設土。



- B-B'
1. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒・小礫・茶色粒子を含む。
 2. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒・小礫を含む。ザラザラした層。
 3. 暗褐色土 小礫を含む。粘性あり。
 4. 暗褐色土 小礫・黄色細砂まじり。ザラザラした層。
 5. 6号井戸埋設土。



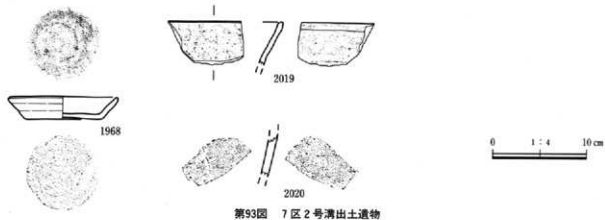
- C-C'
1. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒・小礫を含む。ザラザラした土。
 2. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒・小礫を含む。ザラザラした土。1層より粘性あり。
 3. 暗褐色土 小礫を含む。2層よりさらっていない。
 4. 暗褐色土 小礫・黄色細砂を含む。ザラザラした層。
 5. 3号土坑埋設土。

L=101.0m



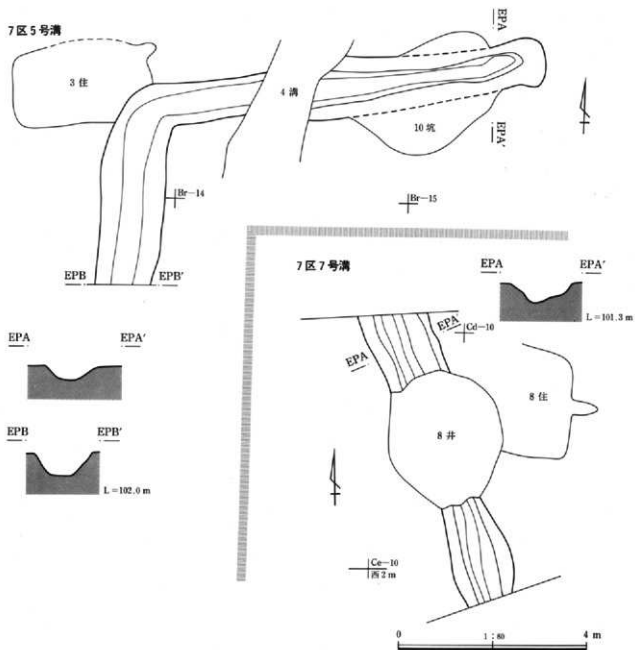
第92図 7区2号溝

第3章 中世以降の遺構と遺物



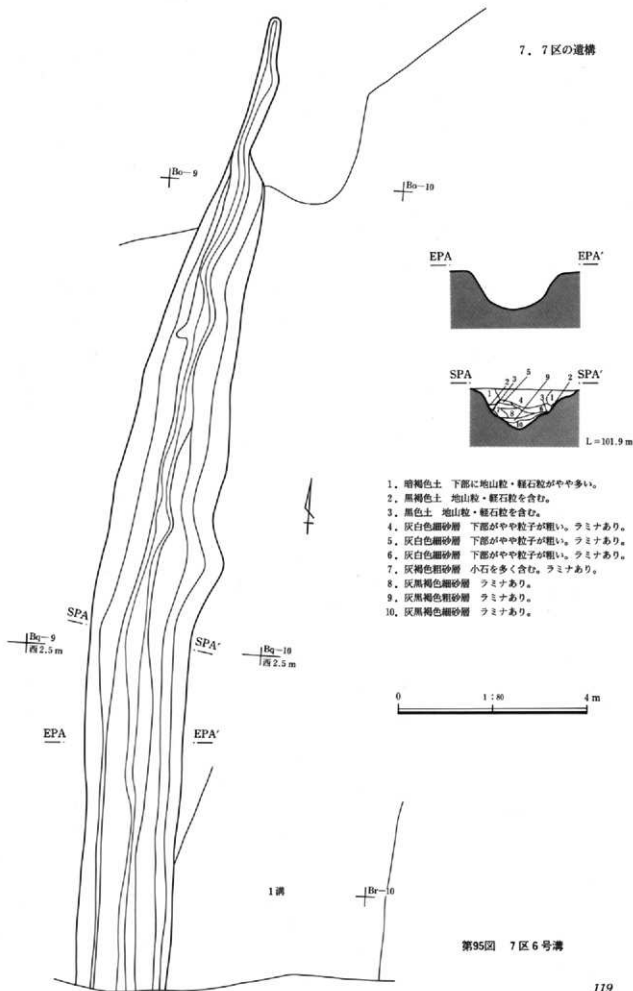
第93図 7区2号溝出土遺物

7区5号溝

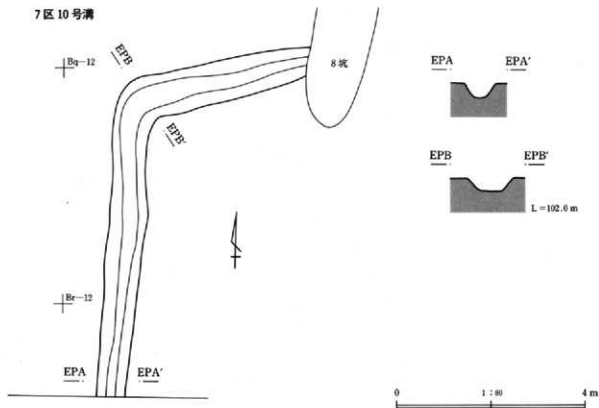
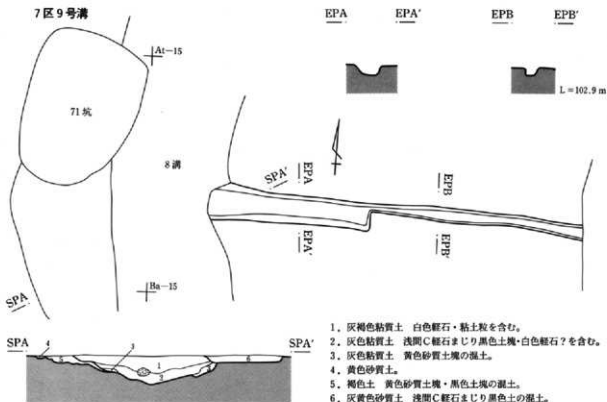


第94図 7区5号・7号溝

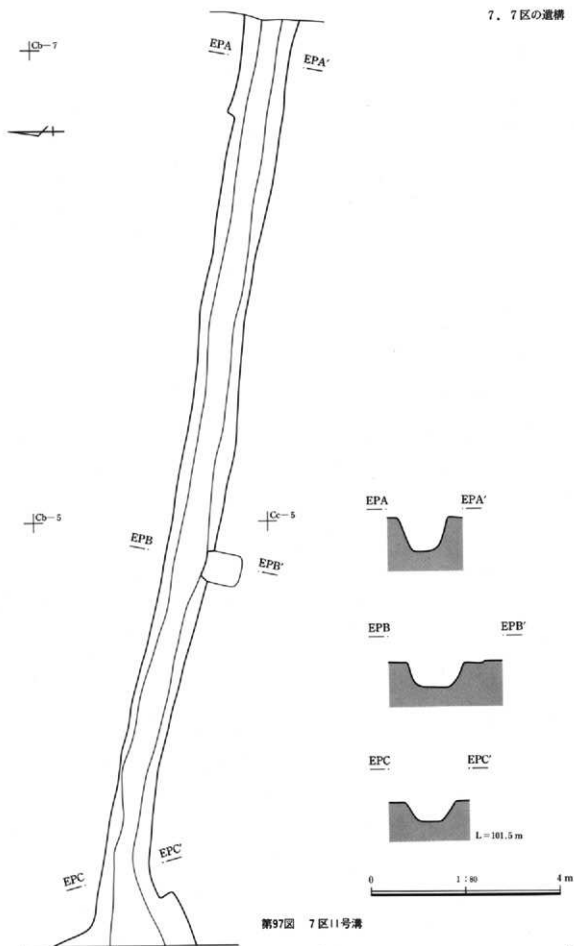
7. 7区の遺構



第3章 中世以降の遺構と遺物

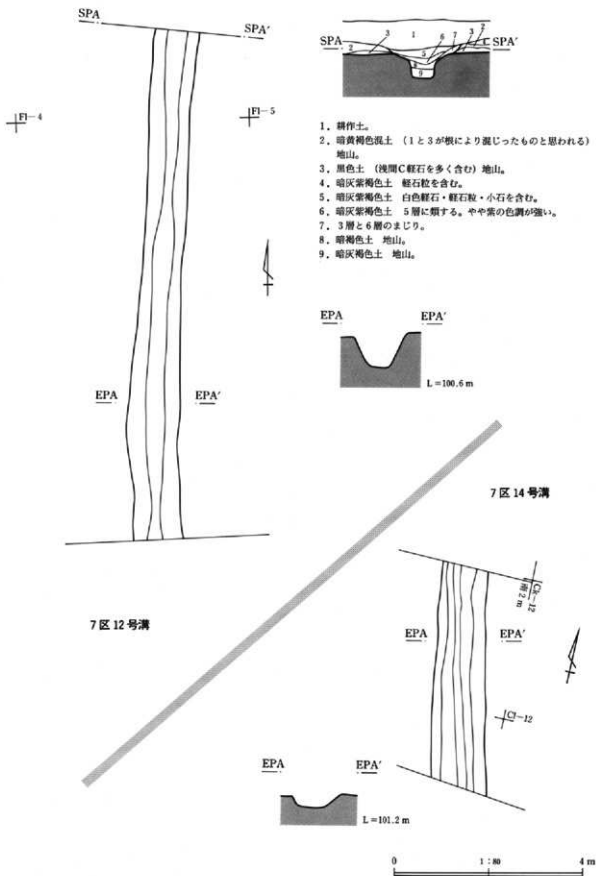


第96図 7区9号・10号溝



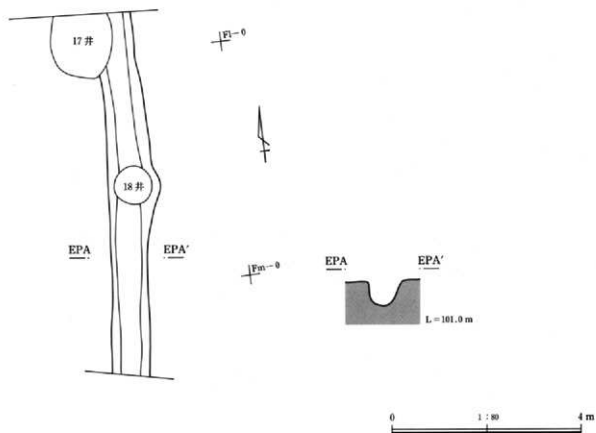
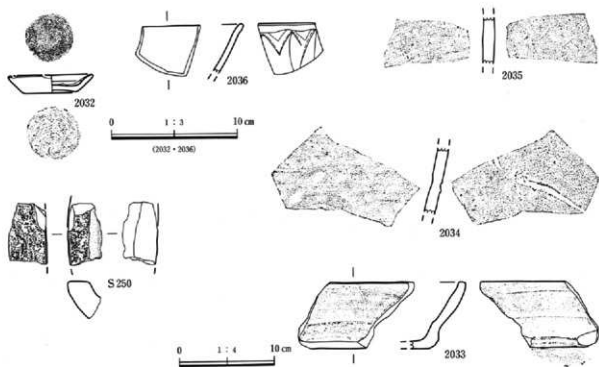
第97図 7区11号溝

第3章 中世以降の遺構と遺物

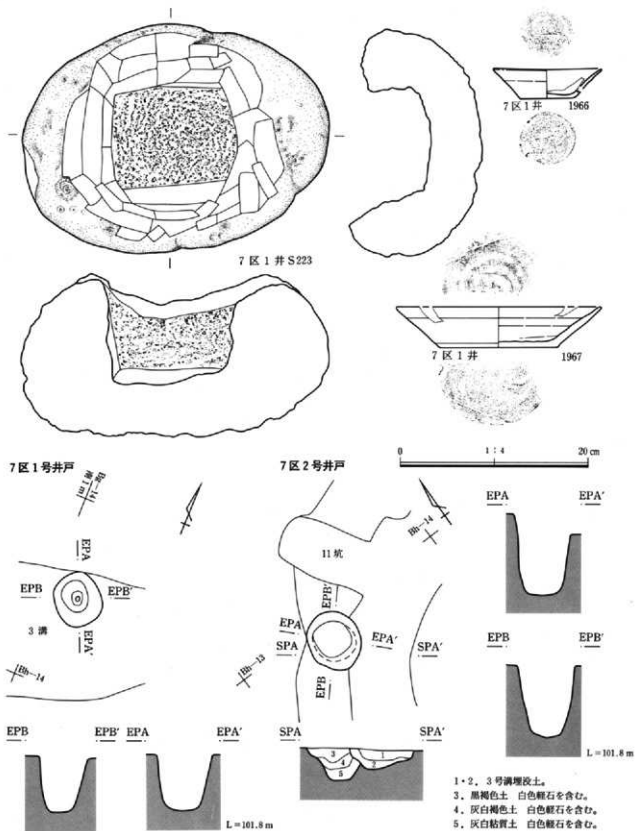


第98図 7区12号・14号溝

7. 7区の遺構

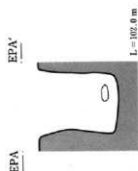
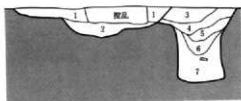
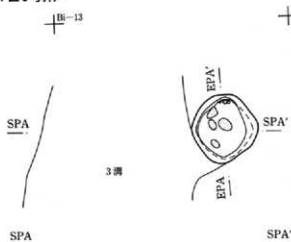


第99図 7区13号溝と出土遺物



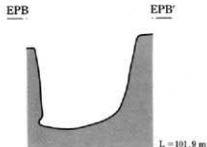
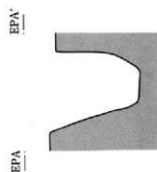
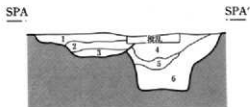
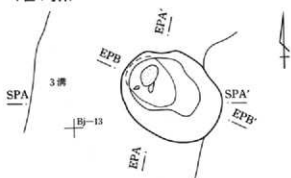
第100図 7区1号・2号井戸と出土遺物

7区3号井戸



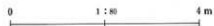
- 1・2. 3号溝埋設土。
3. 暗褐色土 浅間日テフラ粒・小礫・黄褐色土粒・黒色土粒を含む。
4. 淡灰黄色土 黄色細砂粒・塊主体。サラサラした土。
5. 淡褐色土 黄色細砂粒・黒色粒を含む。小礫あり。
6. 淡褐色土 黄色細砂粒・黒色粒を含む。小礫あり。ややしまりあり。
7. 褐色土 黄色細砂粒塊を含む。粘性ややあり。ややしまりあり。

7区4号井戸



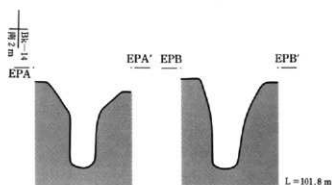
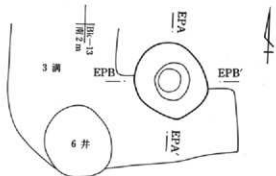
- 1～3. 3号溝埋設土。
4. 暗褐色土 浅間日テフラ粒 (白色軽石)・小礫・黄褐色土粒・黒色粒を含む。
5. 暗褐色土 浅間日テフラ粒・黒色粒塊・灰褐色粘土粒塊を含む。
6. 黒灰褐色土 黒色粒塊・灰色細砂・灰褐色粘土粒塊を含む。

第101図 7区3号・4号井戸

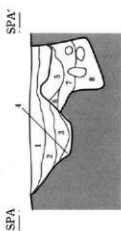
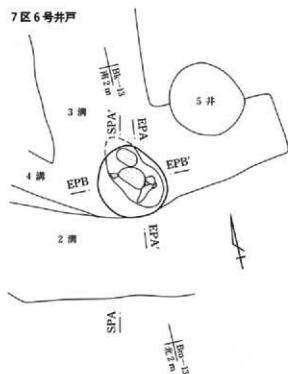


第3章 中世以降の遺構と遺物

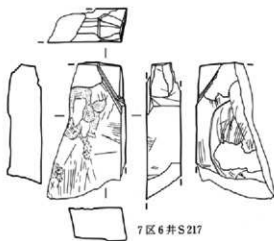
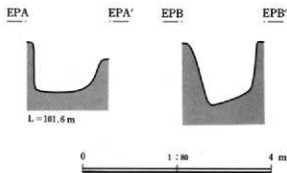
7区5号井戸



7区6号井戸

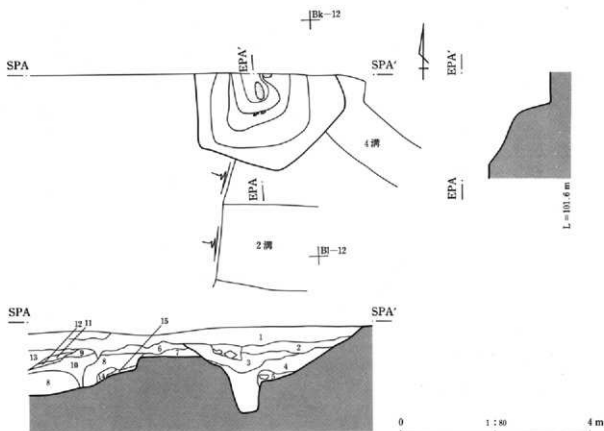


- 1～4. 2号溝埋没土。
5. 暗褐色土 (淡色) 小礫を含む。サラサラした層。砂質気味。
6. 暗褐色土 (淡色) 小礫・黄褐色土粒を含む。砂質層。
7. 暗褐色土 黄褐色土粒塊を含む。小礫わずかに含む。粘性あり。
8. 暗褐色土

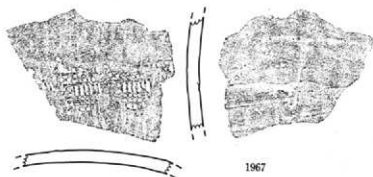


第102図 7区5号・6号井戸と出土遺物

7. 7区の遺構

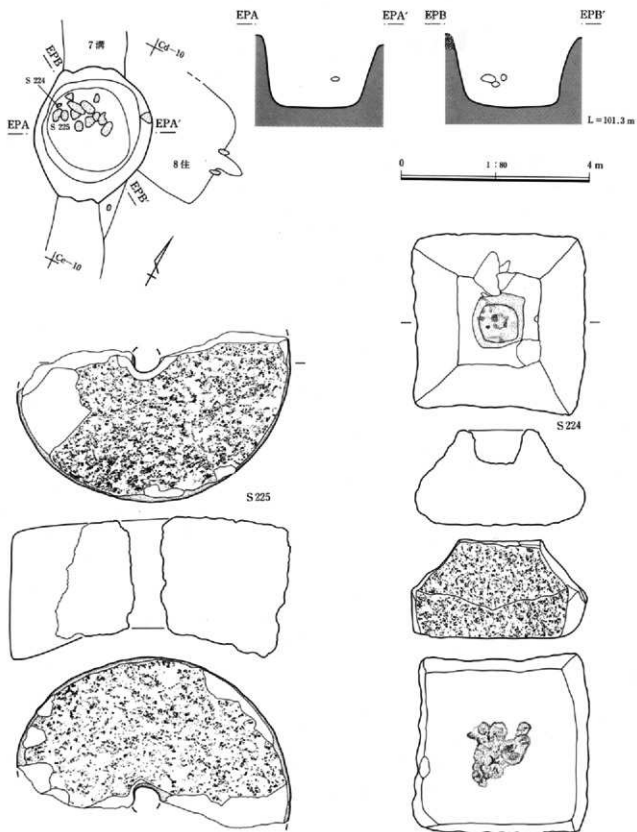


1. 褐色土 小礫・礫・細砂塊・黄褐色土粒を含む。
2. 褐色土 小礫・黄褐色土粒を含む。ややフカフカした層。
3. 暗褐色土 砂・細砂・小礫を多く含むラミナ状堆積。
4. 灰褐色土 砂・細砂・小礫を多く含むラミナ状堆積。
5. 灰褐色土 (4層よりやや暗い) 砂・細砂・小礫ラミナ状堆積。
6. 暗褐色土 礫・砂主体。ザラザラの砂礫層。
7. 暗褐色土 黄褐色土粒・塊を含む。
8. 灰褐色土 白色軽石・小礫・黒色粒・細砂塊を含む。
9. 黒褐色土 小礫・白色軽石を含む。砂質土。
10. 灰黒色土 小礫・白色軽石をわずかに含む。フカフカした層。
11. 灰褐色砂質土。
12. 灰黒砂質土。
13. 淡褐色砂質土。
14. 黒灰色土 黒色粘土塊を含む。しまりやや弱い。
15. 灰褐色土 細砂を多量に含む。



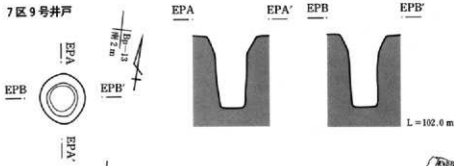
第103図 7区7号井戸と出土遺物

第3章 中世以降の遺構と遺物

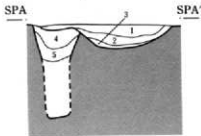
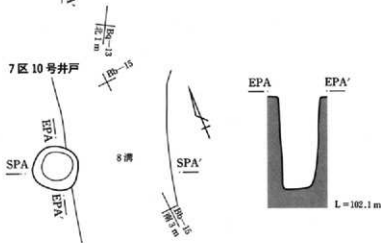


第104図 7区8号井戸と出土遺物

7区9号井戸



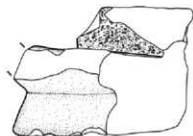
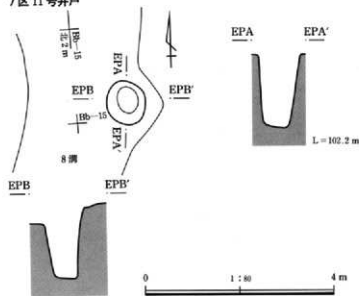
7区10号井戸



- 1～3. 8号溝埋設土。
 4. 灰黄褐色土。白色軽石をわずかに含む。黄色砂質土塊を含む。
 5. 灰黄褐色砂質土。白色軽石を含む。

7区11井 S226

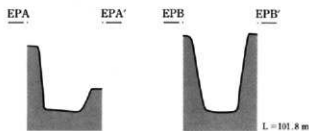
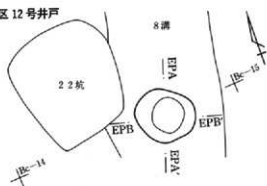
7区11号井戸



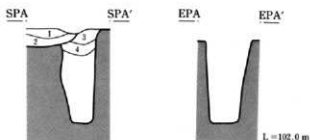
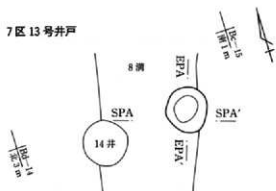
第105図 7区9号～11号井戸と出土遺物

第3章 中世以降の遺構と遺物

7区12号井戸

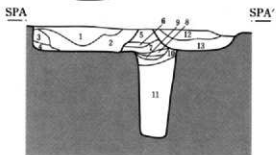
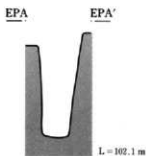
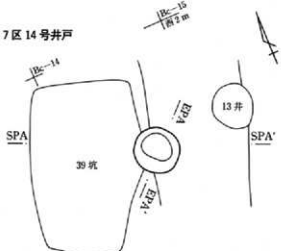


7区13号井戸



- 1・2. 8号溝埋設土。
3. 灰褐色土 浅間C軽石混じり黒色土の小塊を強じる。
4. 赤っぽい灰褐色土。

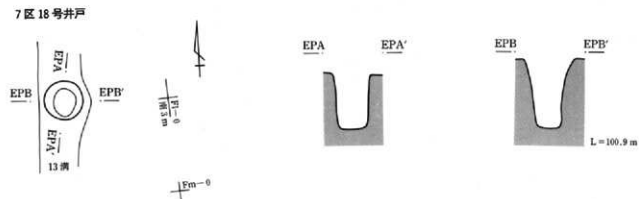
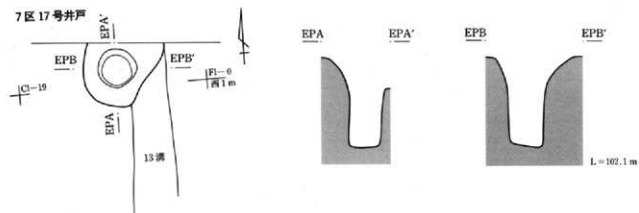
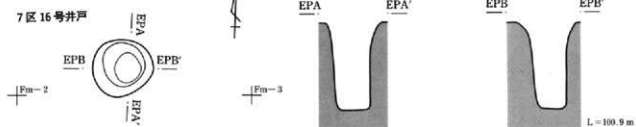
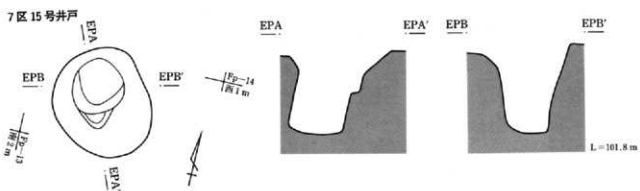
7区14号井戸



- 1～4. 39土坑埋設土。
5. 灰褐色土 白色軽石・黄灰色砂土小塊を含む。赤味が強い。
6. 灰白砂と浅間C軽石混じり黒色土の混土。瓶状。
7. 灰褐色土 小砂利・灰色砂小塊を含む。
8. 黄色小砂利。
9. 黒色粘質土 浅間C軽石混じり。
10. 灰褐色粘質土 灰黄色砂の混土。
11. 灰黄色砂。
- 12-13. 8号溝埋設土。

第106図 7区12号～14号井戸

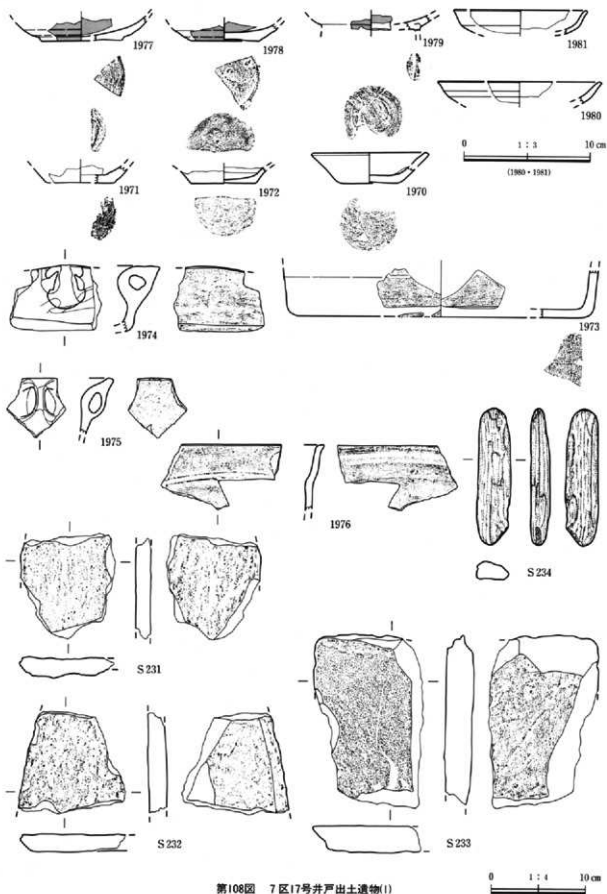




第107図 7区15号~18号井戸

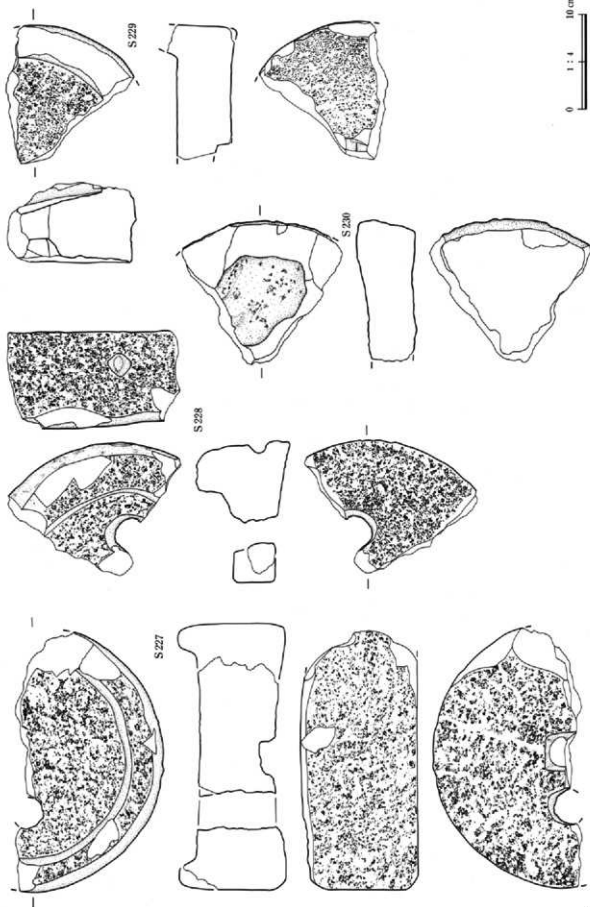
0 1 : 80 4 m

第3章 中世以降の遺構と遺物



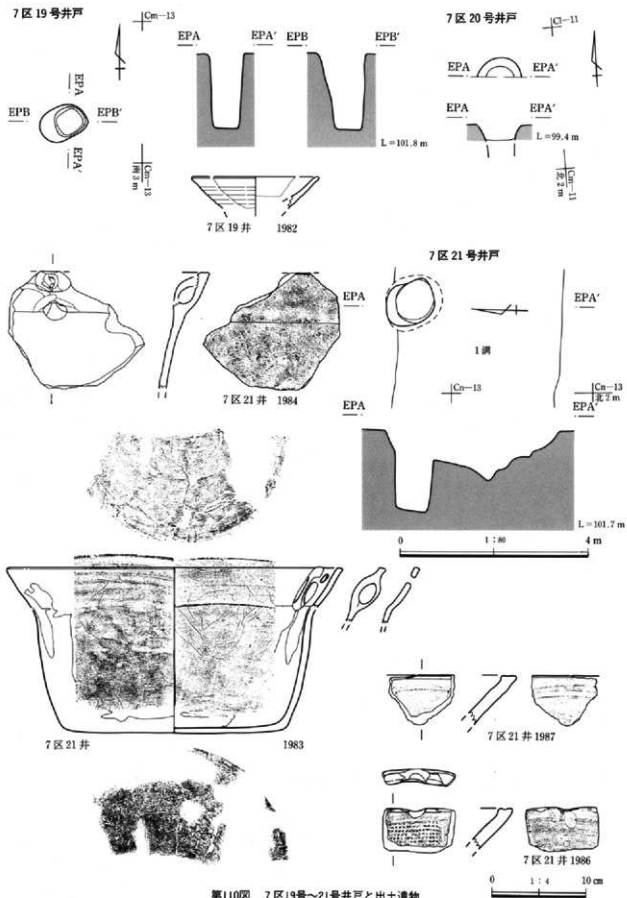
第108図 7区17号井戸出土遺物(1)

7. 7区の遺構

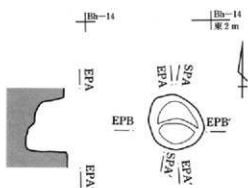


第109図 7区17号井戸出土遺物(2)

第3章 中世以降の遺構と遺物



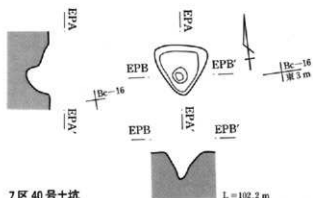
7. 7区の遺構



7区13号土坑

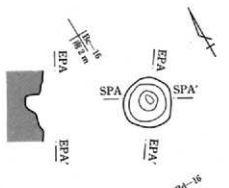


7区40号土坑



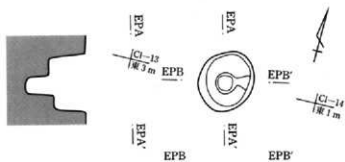
7区42号土坑

1. 褐色土 白色軽石・黄褐色土粒を含む。しまり強い層。
2. 褐色土 小礫・黄褐色土粒・黒色粒・白色軽石を含む層。
3. 黒褐色土 白色軽石・灰褐色粒を含む。しまりある層。
4. 暗褐色土 黒色土塊を含む。しまり弱い層。
5. 黒褐色土 洗間C軽石まじり。粘性しまりあり。



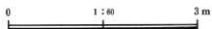
7区44号土坑

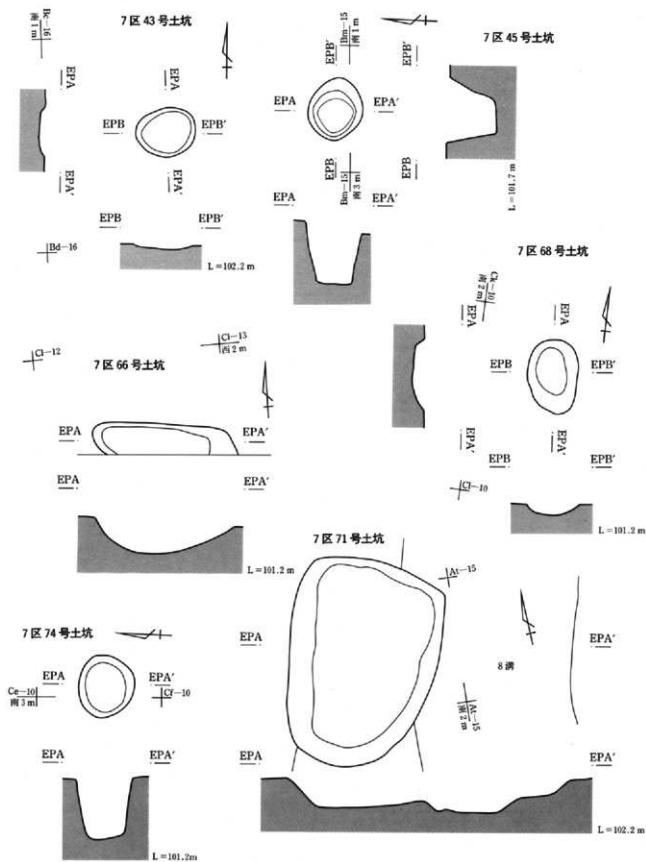
1. 洗間C軽石の純層。
2. 暗黄褐色土 黒色塊を含む。



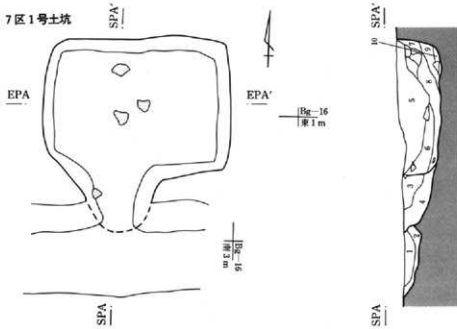
7区70号土坑

第111図 7区の土坑(1)

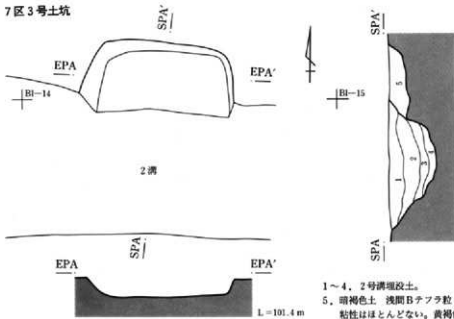




第112図 7区の土坑(2)



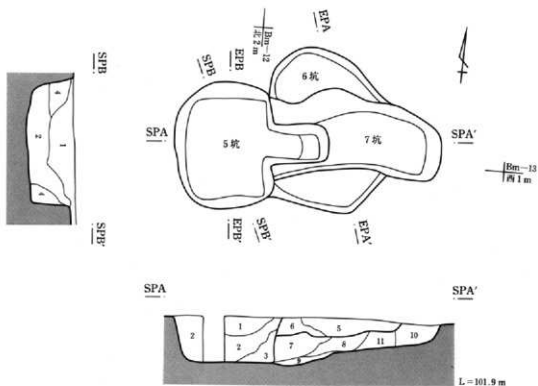
- 1～4. 3号溝埋没土。
5. 暗褐色土 濃茶粒子・黄色細砂・浅間Bテフラ粒・小礫・黄褐色土粒子を含む。
6. 暗灰茶褐色土 濃茶粒子・黄色細砂・浅間Bテフラ粒・小礫を含む。
7. 淡黄褐色土 黄色細砂ラミナ状に入る。砂質土。
8. 暗褐色土 (やや灰色) 黄色細砂・浅間Bテフラ粒・小礫を含む。
9. 暗褐色土 わずかに黄色細砂・浅間Bテフラ粒を含む。
10. 黒褐色土 黄色細砂・塊を含む。しまりあり。



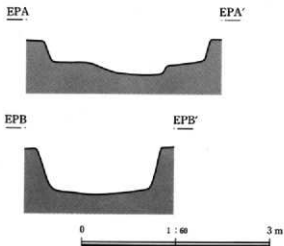
- 1～4. 2号溝埋没土。
5. 暗褐色土 浅間Bテフラ粒・小礫を含む。ザラザラした土。粘性はほとんどない。黄褐色土粒・黒色塊をわずかに含む。

第113図 7区1号・3号土坑

0 1:60 3m



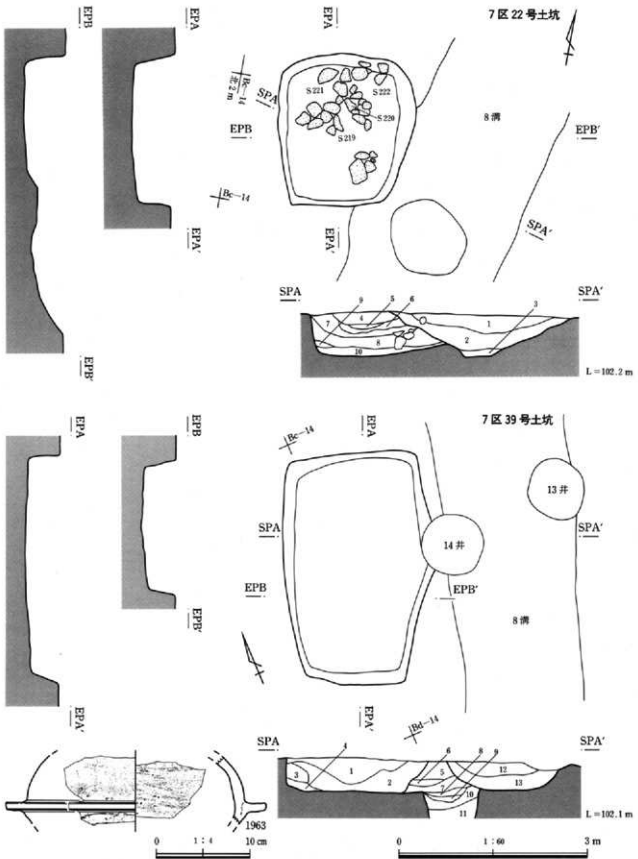
1. 2・3層の混土。
2. 灰黄色砂質土。
3. 黒色土 白色軽石・焼土粒を含む。
4. 黒褐色土 黒色土と暗灰茶褐色土が下部で互層をなす。
5. 黒色混土 黄色砂質土と白色軽石を含む。かたい。
6. 黒褐色土。
7. 黒褐色土 黄色粘土の小塊を含む。白色軽石のまじり。
8. 茶褐色砂質土 白色軽石を含む。砂層塊を少量含む。
9. 黒色土 黄色粘土の小塊を含む。非常にかたい。
10. 黄白色砂質土 黒色土の斑状混土。
11. 黒色土 砂質土と互層。



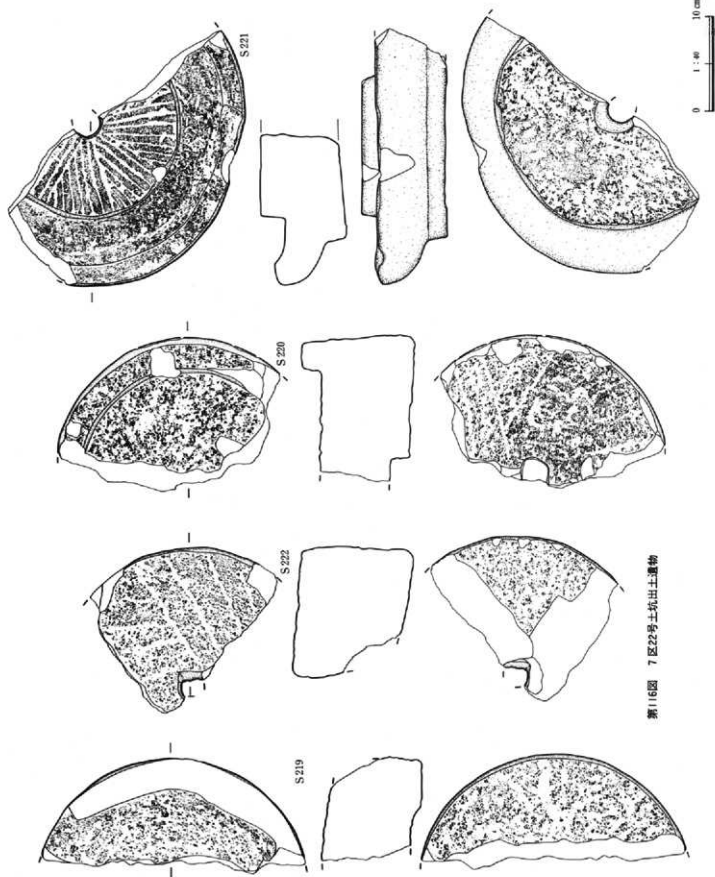
- 1～3. 12号井戸埋設土。
4. 黒褐色粘質土 白色軽石? 焼土粒を含む。
5. 黄褐色粘質土。
6. 黒褐色粘質土 黄褐色粘質土の小塊を含む。
7. 褐色粘質土 白色軽石? 小砂利を含む。
8. 褐色粘質土 浅間C軽石まじり黒色粘質土の小塊を含む。
9. 浅間C軽石まじり黒色粘質土の小塊。
10. 灰褐色砂質土。

1. 黒褐色土 白色軽石?・小砂利・粘土粒を含み、浅間C軽石混じり黒色土塊・黄灰色砂質土塊を含む。
2. 灰褐色土 白色軽石・黄灰色砂質土小塊を含む。
3. 黄灰色砂ラミナ。
4. 灰色砂質土と黒褐色粘質土の混土。
- 5～11. 14号井戸埋設土。
- 12・13. 8号溝埋設土。

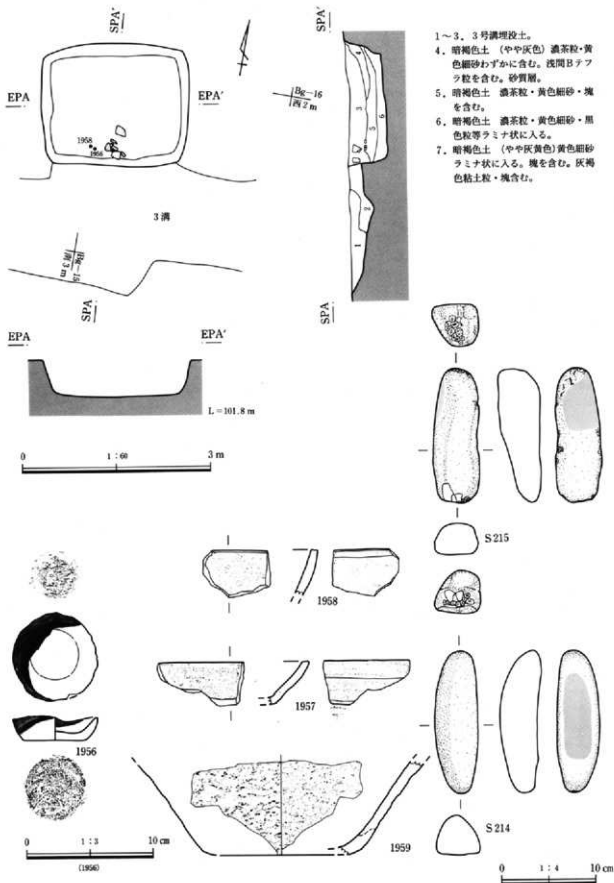
第114図 7区5号～7号土坑



第115図 7区22号・39号土坑と出土遺物

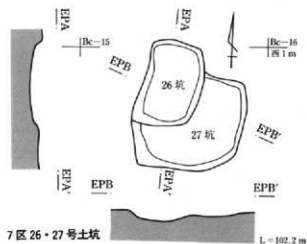


第116図 7区22号土坑出土遺物



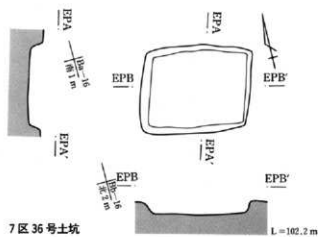
第117図 7区2号土坑と出土遺物

第3章 中世以降の遺構と遺物



7区 26・27号土坑

L=102.2m



7区 36号土坑

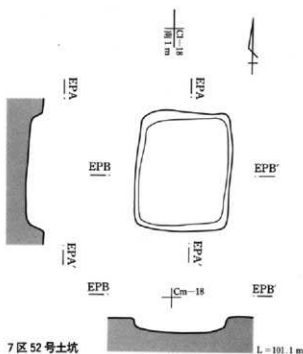
L=102.2m



7区 48号土坑

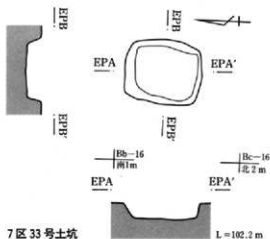
L=101.1m

1. 灰褐色砂質土 黄灰色粘土・白色軽石を多量に含む。
2. 黄灰褐色土 1層より黄灰色粘土の量が多く、やや砂質土。



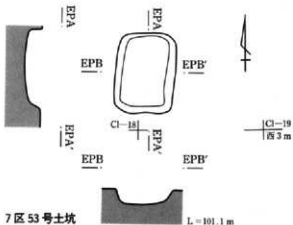
7区 52号土坑

L=101.1m



7区 33号土坑

L=102.2m



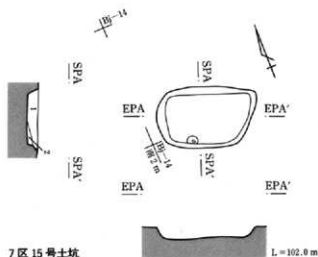
7区 53号土坑

L=101.1m

第118図 7区の土坑(3)

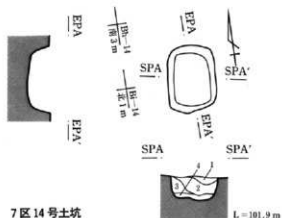


7. 7区の遺構



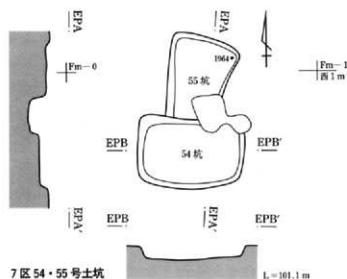
7区15号土坑

1. 暗褐色土 小礫・浅間Bテフラ粒・黄褐色土粒を含む。しまり強い層。
2. 暗褐色土 白色軽石を含む。しまりある層。

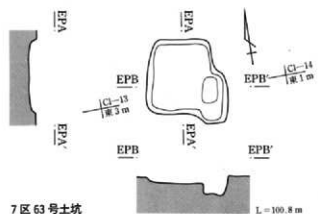
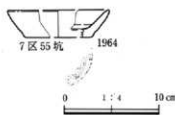


7区14号土坑

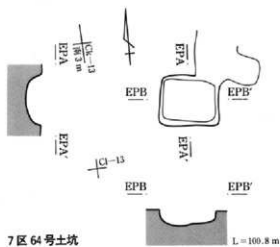
1. 暗黄褐色土 黄褐色土粒・塊を含む。黒色粒・白色軽石を含む。しまり強い。
2. 褐色土 黄褐色土粒・塊・黒色塊を含む。しまりある層。
3. 暗黄褐色土 黄褐色土粒・塊・黒色塊を含む。ややしまり弱い層。
4. 暗褐色土 黄褐色土粒・塊・黒色塊を含む。ややしまり弱い層。



7区54・55号土坑



7区63号土坑

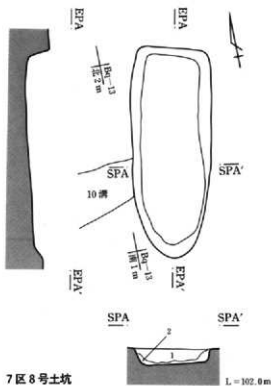


7区64号土坑

第119図 7区の土坑(4)と出土遺物



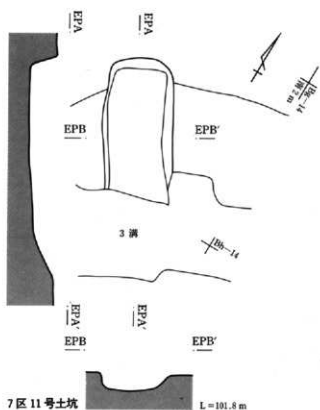
第3章 中世以降の遺構と遺物



7区8号土坑

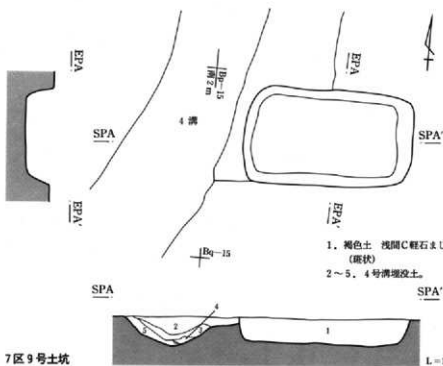
L=102.0m

1. 黄褐色土 浅間C軽石まじりの黒色土を含む。
2. 黒褐色砂質土 白色軽石・焼土粒を含む。



7区11号土坑

L=101.8m



7区9号土坑

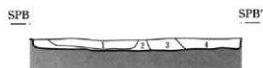
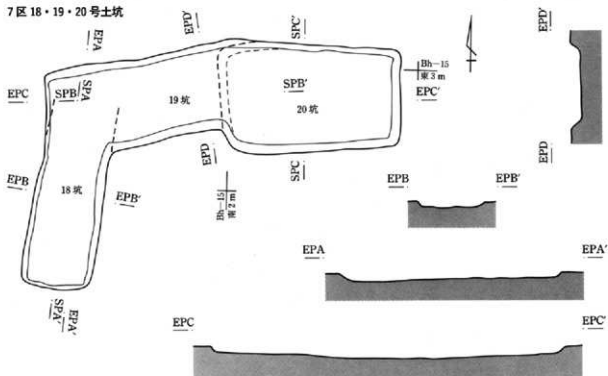
L=102.0m

1. 褐色土 浅間C軽石まじり黒色土塊・黄白色砂質土塊を含む。(底状)
- 2~5. 4号溝埋没土。

第120図 7区の土坑(5)



7区 18・19・20号土坑

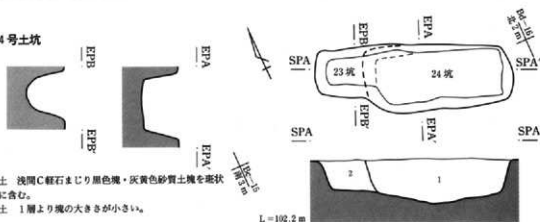


1. 黒褐色土 黒色粒を多量に含む。フカフカした土。
2. 暗褐色土 白色軽石を含む。しまり粘性のある層。

1. 淡褐色土 黄褐色土粒・黒色粒・白色軽石を含む。
2. 暗褐色土 わずかに小礫・白色軽石を含む。しまり粘質。
3. 暗褐色土 わずかに小礫・白色軽石を含む。しまり粘質。(やや白色軽石多い)
4. 暗褐色土 白色軽石・小礫を含む層。(やや赤色気味)

1. 黒褐色土 小礫・黒色粒を含む。フカフカした層。
2. 暗褐色土 小礫・黒色粒・白色軽石・黄褐色土粒を含む層。
3. 暗褐色土 白色軽石を含む。しまり粘性のある層。

7区 23・24号土坑



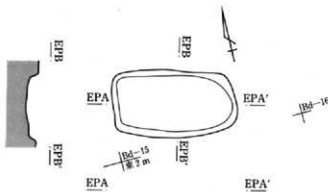
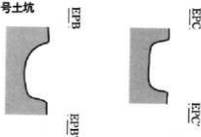
1. 灰褐色土 浅間C軽石まじり黒色塊・灰黄色砂質土塊を斑状に多量に含む。
2. 灰褐色土 1層より塊の大きさが小さい。

第121図 7区の土坑(6)

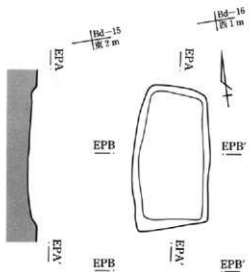
0 1:60 3m

第3章 中世以降の遺構と遺物

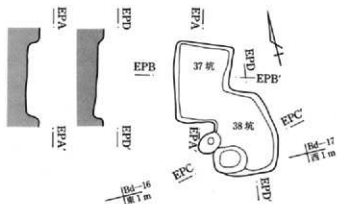
7区 25号・47号土坑



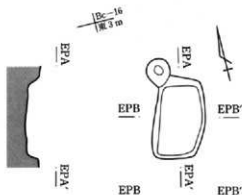
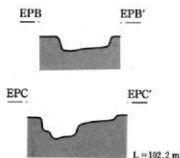
7区 28号土坑



7区 29号土坑



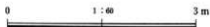
7区 37・38土坑



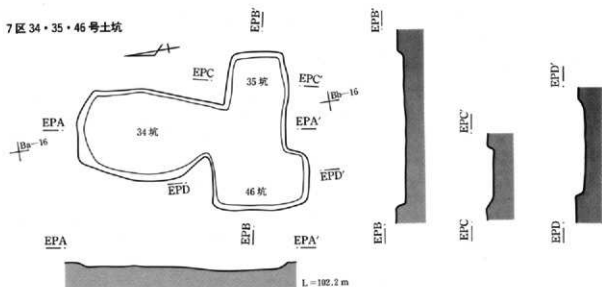
7区 41号土坑



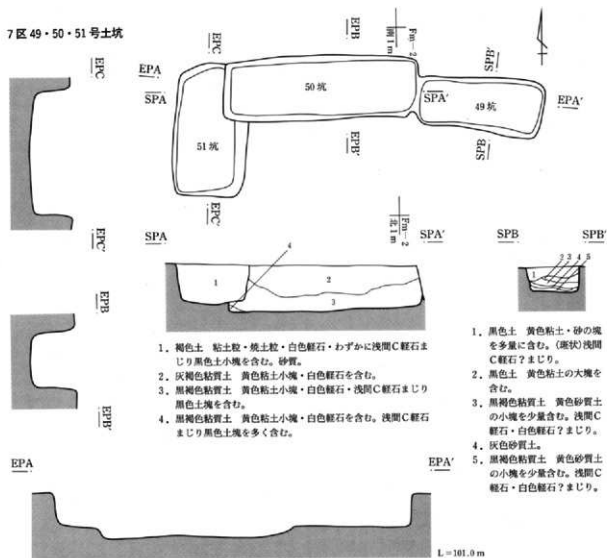
第122図 7区の土坑(7)



7区 34・35・46号土坑



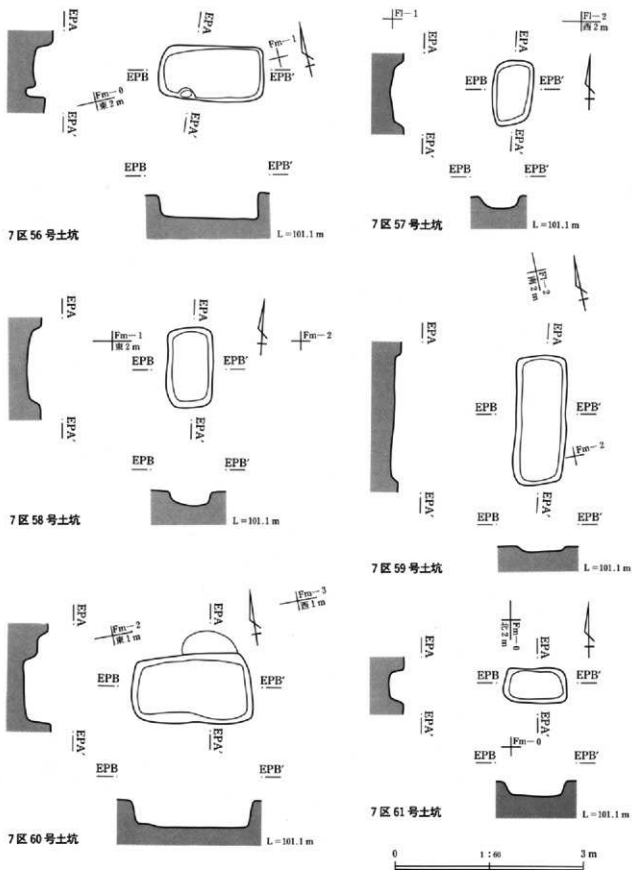
7区 49・50・51号土坑



第123図 7区の土坑(8)

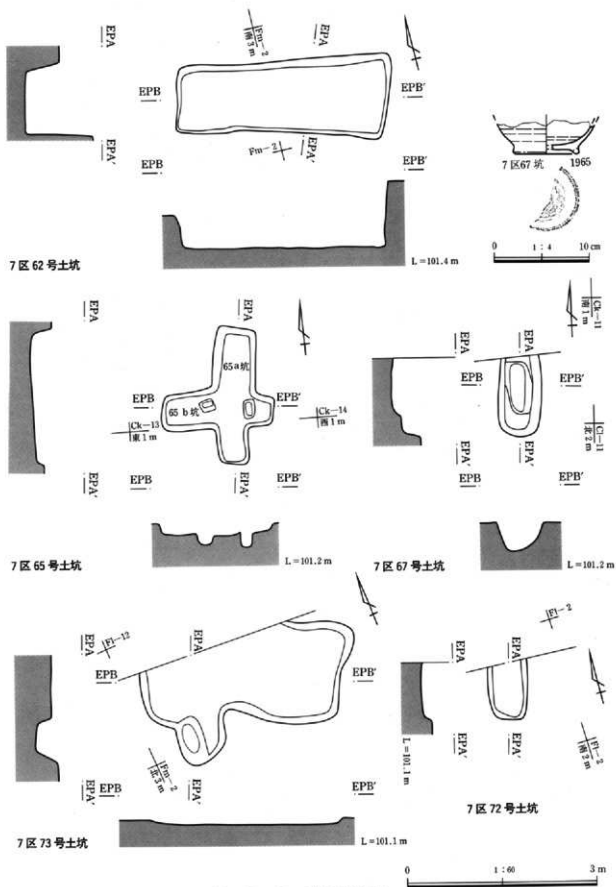
0 1:60 3 m

第3章 中世以降の遺構と遺物

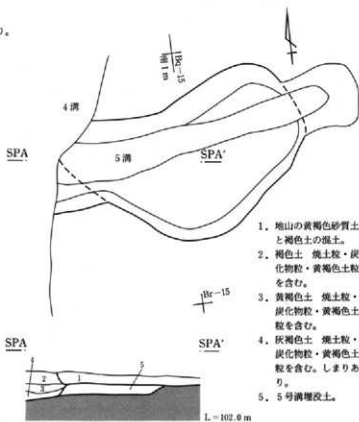
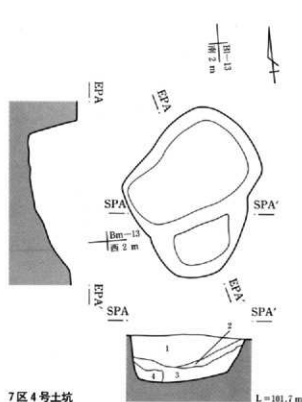


第124図 7区の土坑(9)

7. 7区の遺構



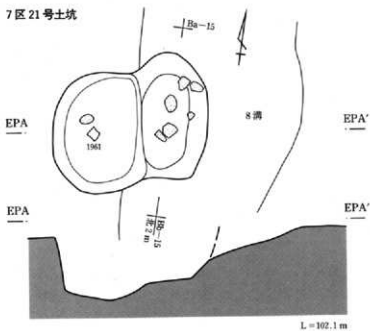
第125図 7区の土坑跡と出土遺物



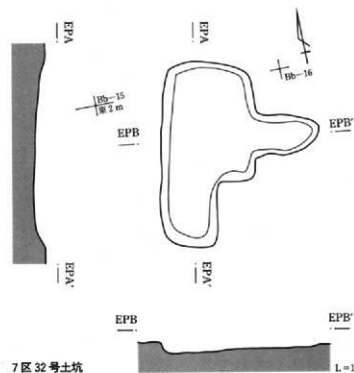
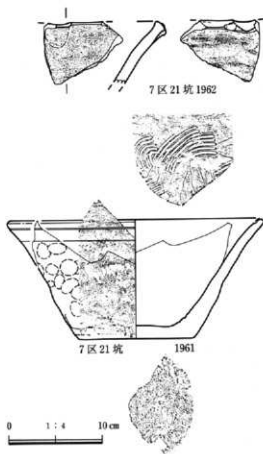
第126図 7区の土坑(II)



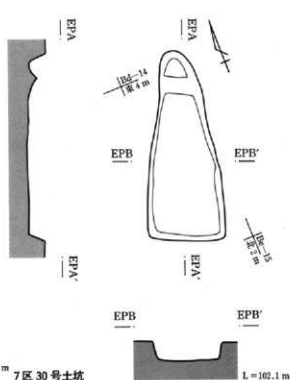
7区21号土坑



7. 7区の遺構



7区32号土坑

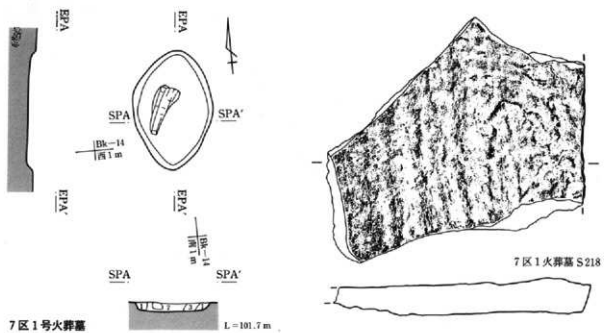


7区30号土坑



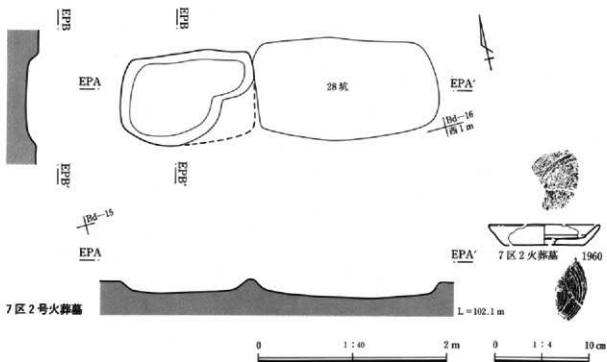
第127図 7区の土坑の出土遺物

第3章 中世以降の遺構と遺物



1. 暗褐色土 白色軽石を含む。しまりある層。
2. 黒色土 炭化物を多量に含む。焼土粒わずかに含む。
3. 暗黄褐色土 黄褐色土塊・白色軽石を含む。

0 1:60 15 cm



第128図 7区1号・2号火葬墓と出土遺物

7 区 1 号火葬墓

位置 Bj・K-13・14グリッド

写真 PL45 重複無し。

形状 長軸1.28m、短軸0.86m、深さ0.1mの楕円形を呈する。断面形は箱形を呈し、底面はほぼ平坦で赤く焼土化していた。

主軸方位 N-9°-E

埋没土 炭化物や骨片を含む黒色土で埋まっていた。

遺物 墓坑周辺で不明板石 (S218) が出土しているが、本火葬墓に直接関わる遺物ではない可能性が高い。また焼骨が出土したが、埋没土中に骨片が混じる程度であり、残存状態は極めて良くない。

所見 鑑定によれば、埋没土中の焼骨はヒトの焼骨であることは確認できたが、部位や年齢等の情報は得られなかった。墓の時期は出土遺物がなく不明である。

ほぼ平坦である。

主軸方位 N-102°-E

遺物 埋没土中から15世紀後半から16世紀前半と見られるカワラケ (第128図1960) が出土した。また歯冠が12個残存していた。

所見 鑑定によれば、埋没土中の歯は人歯で上下犬歯、永久歯の一部を確認した。また、歯の大きさ・咬耗度から10代後半、青年期直前くらいの時期の人歯であることが判明した。墓の時期は出土遺物がなく不明である。

8. 8 区の遺構

8 区では 5 棟の掘立柱建物と、1 条の溝・9 基の土坑を調査した。

掘立柱建物 (第130図～第132図)

掘立柱建物のうち、2号・3号掘立柱建物は出土遺物や重複関係から9世紀中葉の建物と考えられるとして、『荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ』p.137～140に報告した。

4号掘立柱建物もこれらと柱通りがほぼ一致しており同時期の可能性もあるが、3号と4号掘立柱建物は近接しているので同時に3棟の建物が建ってい

7 区 1 号土墳墓

位置 Bd-14グリッド 写真 PL45

重複 28号土坑と東壁が重複するが、新旧関係は確認できなかった。

形状 長軸1.42m、短軸0.96m、深さ0.14mの隅丸長方形を呈する。断面形は箱形を呈し、底面はほ

第22表 第3章掲載の8区掘立柱建物一覧表

建物番号	グリッド	柱間	建物種	主軸方位	掲載遺物	時期	備考
8区1号掘立柱建物	Bc-d-10・11	3間×2間	南北棟	N-7°-E			
8区4号掘立柱建物	Am-n-11・12	2間×2間	東西棟	N-1°-W			
8区5号掘立柱建物	Ac-d-9・10	2間×2間	東西棟	N-9°-E			

第23表 第3章掲載の8区溝一覧表

溝番号	グリッド	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	延長(m)	走向方位	掲載遺物	時期	備考
8区1号溝	Aa-c-9・10	0.90~0.36	0.32~0.50	0.35~0.38	12.5	N-47°-E		不明	

第24表 第3章掲載の8区土坑一覧表

土坑番号	土坑群	グリッド	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位	掲載遺物	時期	備考
8区3号土坑	Ai-10		ビット状	1.65	0.81	0.4				両端にビット
8区7号土坑	Aj-10		ビット状	0.9	0.85	0.44				薄いビット
8区9号土坑	Ai-11		円形	1.19	1.17	0.33				断面箱形 底面に小ビット
8区2号土坑	Ap-9・10		方形	1.44	1.1	0.25	N-9°-E		5住より新	断面箱形
8区10号土坑	Ad-10		方形	1.72	1.68	0.45	N-9°-E	土器1		断面箱形
8区1号土坑	Bf-g-9・10		長方形	2.64	0.94	0.1	N-85°-E		1住より古	断面盤状
8区11号土坑	Ae-f-9・10		長方形	2.15	0.9	0.56	N-10°-E		10住より新	断面箱形 中央部にビット
8区4号土坑	Ai-10		不定形	2.08	0.88	0.26	N-0°-E			断面箱形
8区6号土坑	Ai-10		不定形	1.72	1.45	0.16	N-100°-E			断面盤状

第3章 中世以降の遺構と遺物

たことは考えにくい。特に4号掘立柱建物の柱穴は3号掘立柱建物の柱穴に比べて小さいので、性格を異にすると考えられる。

1号掘立柱建物と5号掘立柱建物は発掘区内でそれぞれ単独に検出された。掘立柱建物の時期は、出土遺物が明確でなく、不明である。

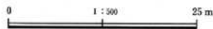
溝 (第133図)

溝は、発掘区の北西隅を直線的に掘られた1号溝を調査した。形状は薬研堀で、底面には掘削工具の痕跡と考えられる小孔が残っていた。遺物は土師器破片が60片ほど出土したが、溝の時期を示すような出土状態ではなかった。

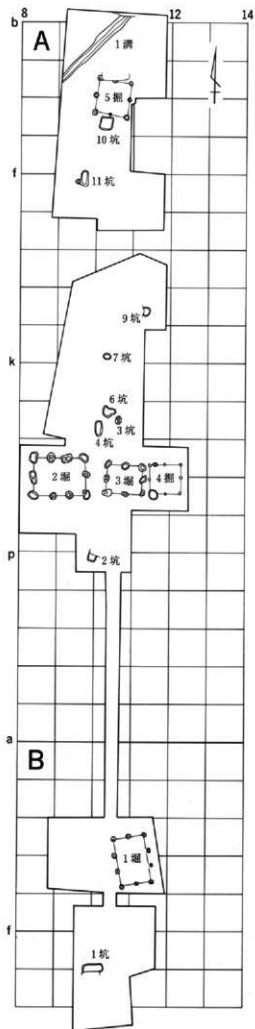
8区には弘仁9(818)年の大地震によると考えられている地割れが縦走している。(『荒砥土ノ坊遺跡II』p.158) 1号溝はこの地割れの上層から掘り込まれていたもので、それ以降の掘削と考えられよう。

土坑 (第134図～第136図)

土坑は9基が検出された。形態はピット状2基、円形1基、方形2基、長方形2基、不定形2基である。遺物は4号土坑から14片、6号土坑から1片、10号土坑から9片の土師器・須恵器破片が出土しているが土坑の時期を示すような出土状態でない。また、10号土坑埋没土から、江戸期のものと考えられる肥前青磁の瓶の破片(第135図2044)が出土している。住居との重複例は3例ある。2号土坑は9世紀前半の5号住居を、11号土坑は9世紀後半の10号住居を切っている。一方、1号土坑は10世紀後半の1号住居に切られていたことから、古代の遺構といえよう。



第129図 8区掲載遺構の位置



8区1号掘立柱建物

位置 Bc・d-10・11グリッド

写真 PL46

重複 無し。

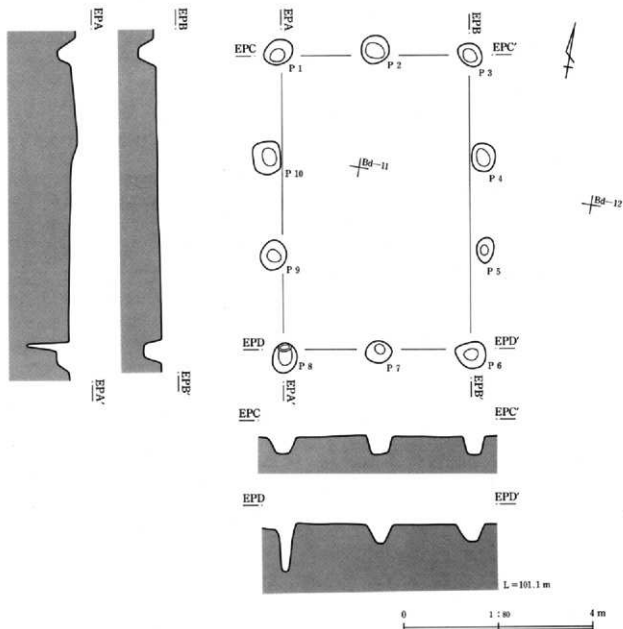
形状 南北棟建物で、3間×2間(6.2m×4.0m)の規模をもつ。桁行の西列・東列ともに内側の2本の柱穴はやや外側にずれており、柱穴は直線で通らない。柱間寸法は桁行寸法西列(P1・P10・P9・P8)は2.2m-2.0m-2.0m、東列(P3~P6)

で同一寸法である。北間口が広い構造になっている。梁行寸法は北列(P1~P3)が2.0m-2.0mの等間、南列(P8・P7・P6)も同一寸法で2.0m-2.0mの等間になっている。

主軸方位 N-7°-W

柱穴 柱穴掘形は直径0.50~0.60m、深さ0.40mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

遺物 無し。



第130図 8区1号掘立柱建物

8区4号掘立柱建物

位置 Am・n-11・12グリッド

写真 PL46

重複 重複はないが、西辺が3号掘立柱建物の東辺と接している。主軸はずれている。新旧関係は確認できなかった。

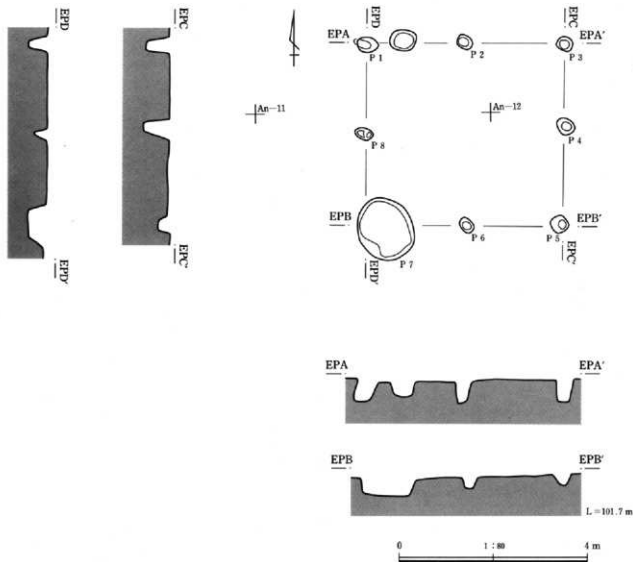
形状 東西棟建物と考えられ、2間×2間(4.2m×3.9m)の規模をもつ。柱間寸法は桁行寸法北列(P1~P3)は2.1m~2.1mの間隔である。南列(P6~P8)も2.1m~2.1mの間隔で、北列と同一寸法である。梁行寸法は中央の柱穴にずれがあり、

東列と西列とは異なっている。東列(P3・P5・P8)が1.8m~2.1m、西列(P1・P4・P6)が2.0m~1.9mである。

主軸方位 N-1'-W

柱穴 柱穴掘形は、P6を除いて直径0.40m、深さ0.40~0.60mほどの円形あるいは楕円形を呈する。P6は長軸1.60m、短軸1.20m、深さ0.40mほどの楕円形の土坑状に残っていたが、他の遺構との重複があるのか、抜き取り穴等の痕跡なのかは確認できなかった。柱痕は検出できなかった。

遺物 無し。



第131図 8区4号掘立柱建物

8区5号掘立柱建物

位置 Ac・d-9・10グリッド

写真 PL46

重複 9世紀中葉の12号住居南壁とP2が重複するが、新旧関係は最終的には確認できなかった。またP3が9世紀前半の13号住居の南壁を切っている。

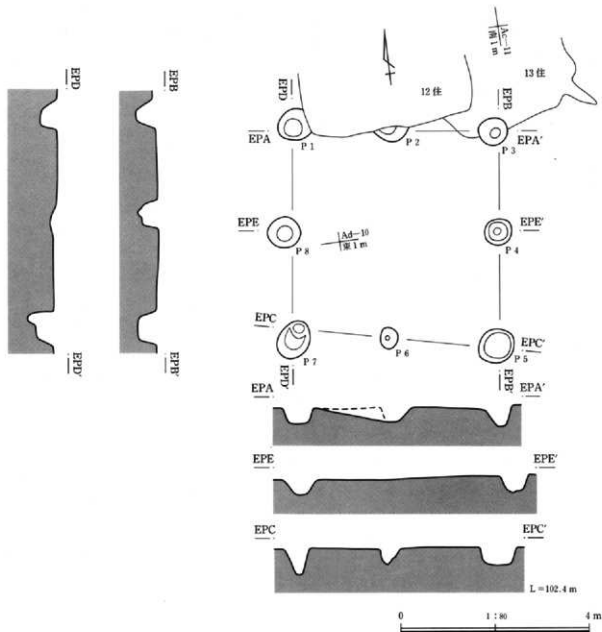
形状 P5がやや南にずれているが、基本的には2間×2間(4.3m×4.2m)の規模をもつ東西棟建物と考えられる。柱間寸法は、桁行寸法北列(P1

～P3)は2.0m—2.3m、南列(P7・P6・P5)も2.0m—2.3mの同一寸法で、東間口が広がっている。梁行寸法は西列(P1・P8・P7)が2.1m—2.1mの等間である。東列(P3～P5)はP5が南にずれているので2.1m—2.4mである。

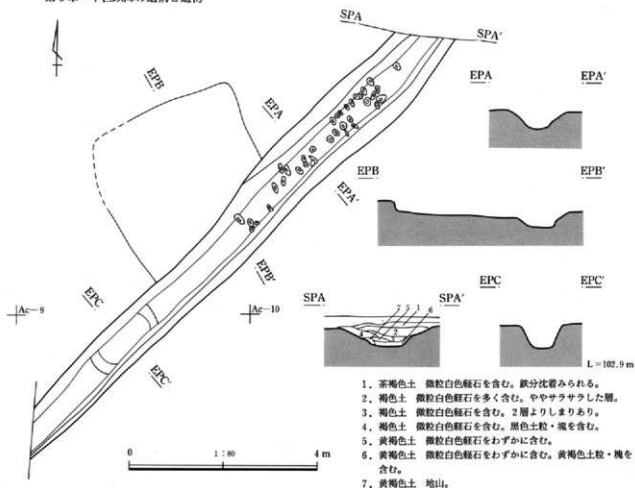
主軸方位 N—9°—E

柱穴 柱穴掘形はP6がやや小さいのを除いて、直径0.50～0.70m、深さ0.40～0.50mほどの円形あるいは楕円形を呈する。柱痕は検出できなかった。

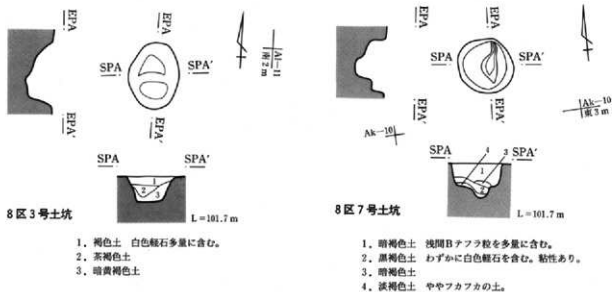
遺物 無し。



第132図 8区5号掘立柱建物

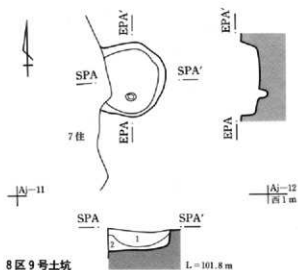


第133図 8区1号溝



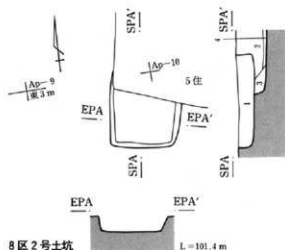
第134図 8区の土坑(I)

8. 8区の遺構



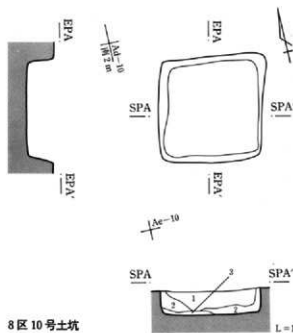
8区9号土坑

1. 褐色土 白色軽石（浅間Bテフラ粒）・黄褐色土粒を含む。サラサラした土。
2. 褐色土 わずかに浅間Bテフラ粒・黄褐色土粒を含む。



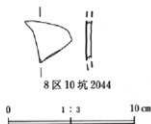
8区2号土坑

1. 黒灰褐色土 小石・軽石粒を含む。ザリザリしている。（浅間Bテフラを含むためか）
2. 暗赤灰褐色土 軽石粒・小石・焼土粒を含む。
3. 暗褐色土 軽石粒・小石をわずかに含む。
4. 暗褐色土 軽石粒・地山塊（直径2～3cm大）を含む。



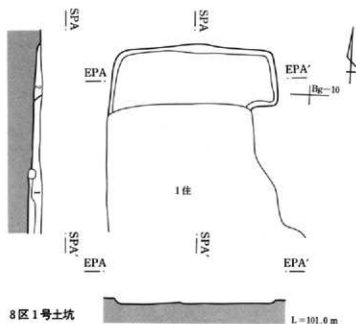
8区10号土坑

1. 灰褐色土 黄褐色土小塊・浅間C軽石混小塊を多く含む。しまりない。
2. 黒褐色土 黄褐色土小塊を少量含む。
3. 黒色土 黄褐色土を含む。



8区10坑 2044

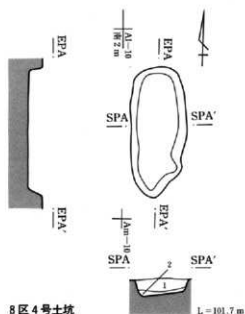
第3章 中世以降の遺構と遺物



8区1号土坑

L=101.6m

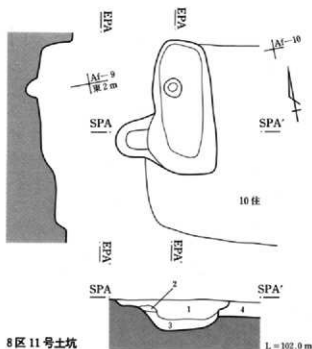
1. 1号住居埋没土。
2. 黒褐色土 軽石粒・小石を含む。



8区4号土坑

L=101.7m

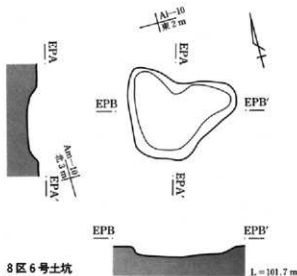
1. 褐色土 白色軽石多量を含む。
2. 黄褐色土



8区11号土坑

L=102.0m

1. 黒褐色土 白色軽石・焼土粒を含む。
2. 黒色土 浅間C軽石を含む。(地山崩落)
3. 褐色土 白色軽石を少量含む。
4. 白色軽石・焼土粒を多く含む。しまりあり。



8区6号土坑

L=101.7m

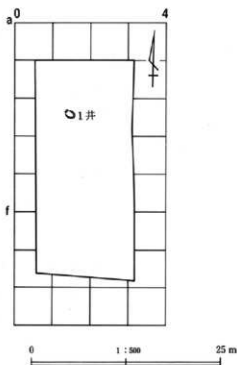


第136図 8区の土坑(3)

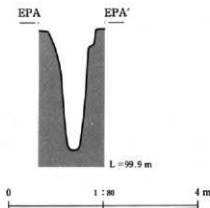
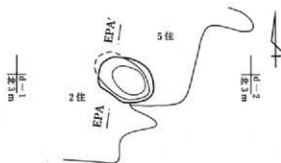
9. 9区の遺構

9区では、1基の井戸を調査した。1号井戸は9世紀後半の5号住居の床面で確認された。その出土遺物から、5列住居埋没土上から掘り込まれていたと考えられる。楕円形の小型の井戸で、土師器・須恵器破片10点の他、多くの石製品の破片が出土した。

最も新しい土器は図示した軟質陶器焙烙(第139図2047)の口縁部破片である。石製品は板碑(S261・S262)・粉引白上白(S253)・下白(第140図S254・S255・S256・S257)・窪み石(第141図S258・S259・S260)が出土した。図示した板碑は右上隅と基部の破片で、他に断片が5点出土しているが、詳細は不明である。第139図S262にはキリクの上位の一部が残る。S261は小型の基部である。白は粉引白が5点出土しているが、すべて破損している。目が磨耗によってつぶれているものがほとんどである。窪み石は削り痕や敲打痕が残るが、破損しており、全体の形状が明らかになったものはない。



第137図 9区掲載遺構の位置

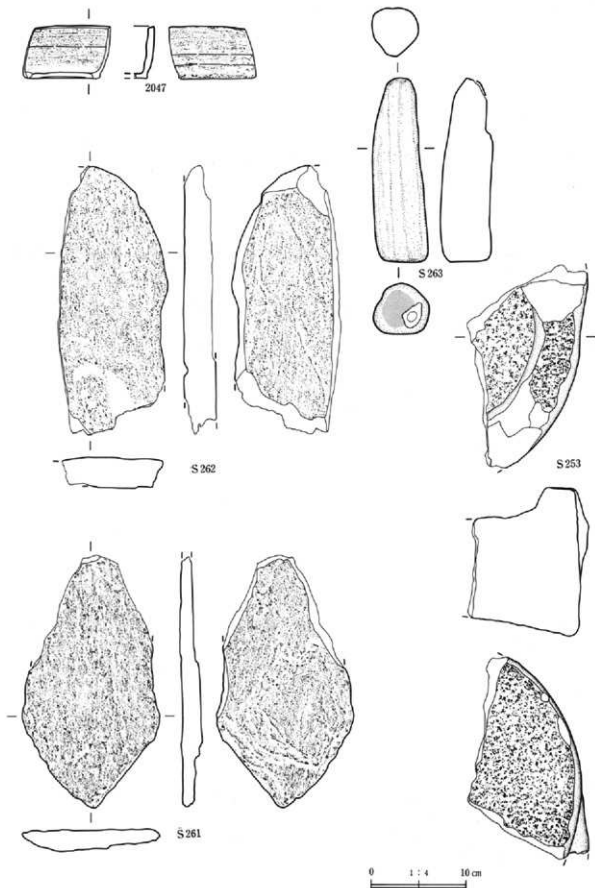


第138図 9区1号井戸

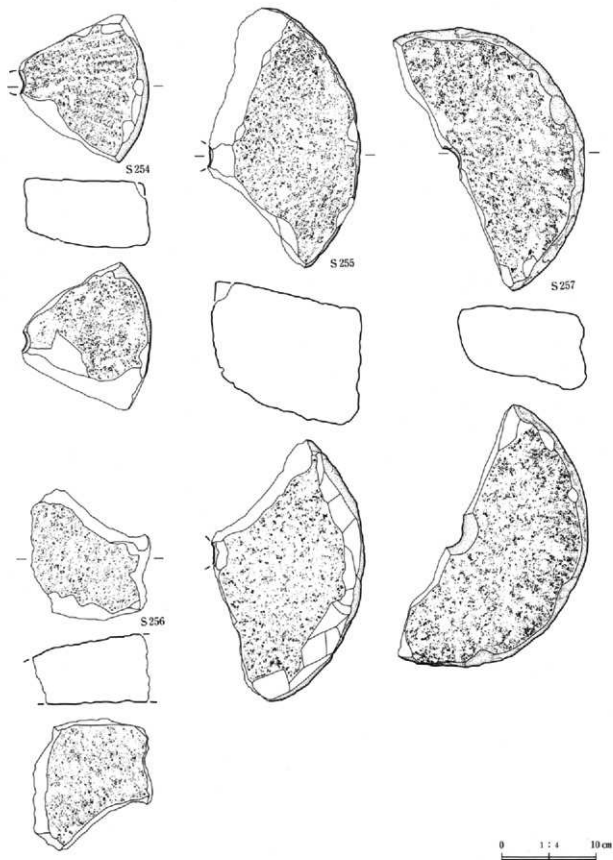
第25表 第3章掲載の9区井戸一覧表

井戸番号	グリッド	形態分類	短径(m)	長径(m)	深さ(m)	掲載遺物	時期	備考
9区1号井戸	c-1	楕円形・小形	0.85	1.25	2.05	土器1石器11	5住居(9世紀後半)より新	

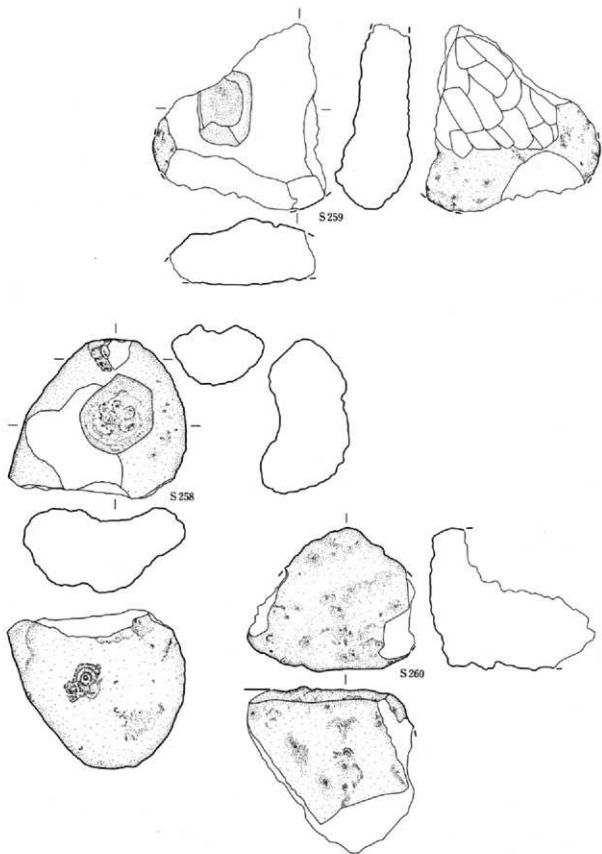
第3章 中世以降の遺構と遺物



第139図 9区1号井戸出土遺物(1)



第140図 9区1号井戸出土遺物(2)



第141回 9区1号井戸出土遺物(3)

0 1 : 4 10 cm

第26表 第3章掲載の10区井戸一覧表

井戸番号	グリッド	形態分類	短径(m)	長径(m)	深さ(m)	掲載遺物	時期	備考
10区1号井戸	e-2・3	円形・小形	0.84	0.84	2.05			

第27表 第3章掲載の10区土坑一覧表

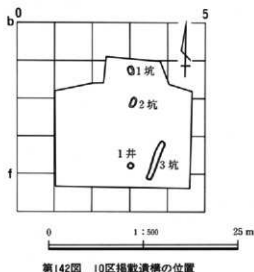
土坑番号	土坑跡	グリッド	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位	掲載遺物	時期	備考
10区1号土坑	c-2・3		方形	0.98	0.72	0.41	N-17°-E			断面輪形
10区2号土坑	d-3		楕円形	1.33	0.7	0.12	N-11°-E			断面盤状
10区3号土坑	e-f-3		帯長方形	5.32	0.88	0.2	N-21°-E			断面盤状

10. 10区の遺構

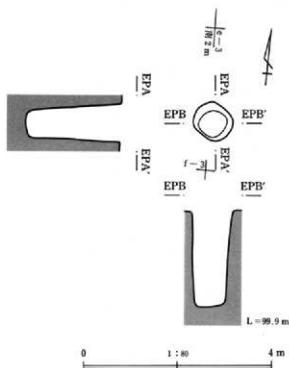
10区では、1基の井戸と3基の土坑を調査した。

1号井戸は小型の円形で、深さは確認面から2.05mである。出土遺物はなく、重複遺構もないので時期を確定することができなかった。

土坑は方形・楕円形・帯長方形の3種類の土坑が1基ずつ検出された。1号土坑は、7区でみられた長軸：短軸が3：2の方形土坑の小型にあたる。3号土坑は帯状の土坑で、長さは5.32mにおよぶ。土坑も出土遺物がなく、他の遺構との重複もないので時期を明らかにすることができなかった。



第142図 10区掲載遺構の位置



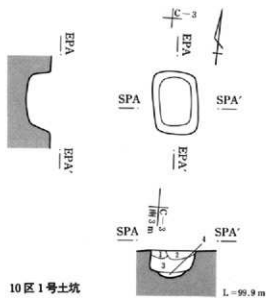
第143図 10区1号井戸

11. 11区の遺構

11区はやや他の発掘区から離れた台地内部の地点にある。井戸と溝と土坑1基ずつが検出された。

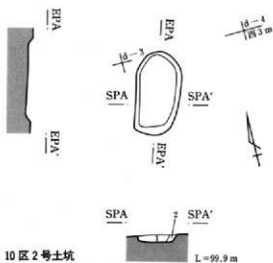
1号井戸は小型円形で、深さは確認面から2.25mである。

1号溝は、11区西部のトレンチで検出した南北方向の溝である。発掘区北端はやや西に湾曲する。出土遺物は土師器2片の他、図示した須恵器壺形土器(第147図2050)・17世紀後半から18世紀初頭と考えられる肥前陶器碗(2059)、扁平な磁石(S266)が出土した。出土遺物からは近世以降の溝と考えられる。



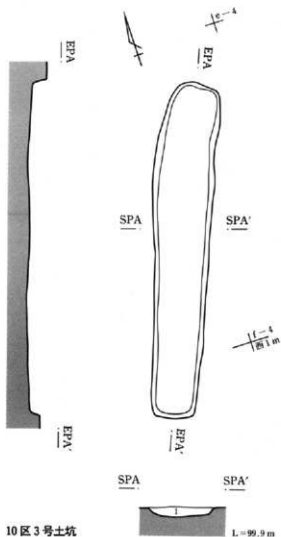
10区1号土坑

1. 黒褐色土 軽石粒・地山粒を含む。
2. 黒褐色土 軽石粒・地山粒を少量含む。
3. 黒褐色土 1層に類するが焼土粒を含む。
4. 暗褐色土 黄褐色の地山塊(直径2~3cm大)を含む。



10区2号土坑

1. 暗褐色土 軽石粒・地山粒を含む。
2. 暗褐色土 軽石粒・地山粒を多く含む。



10区3号土坑

1. 黒褐色土 白色軽石粒を含む。暗褐色の地山塊(直径1cm大)を含む。



第144図 10区1号~3号土坑

1号土坑は大型の方形土坑で、断面は箱形を呈する。やや東側が膨らむように掘られている。重複遺構はない。

遺物は数片の土師器・須恵器破片の他、13世紀後半と考えられる知多窯焼締陶器壺口縁部（第148図

2055）、14・15世紀と考えられる知多窯焼締陶器壺体部（2056・2057）、窪み石の破片（S264）が出土した。これらの遺物の様相や形状の特徴から、本土坑は7区に大小併せて18基が検出された長軸：短軸が3：2の方形土坑と同類のものであろう。

第28表 第3章掲載の11区溝一覧表

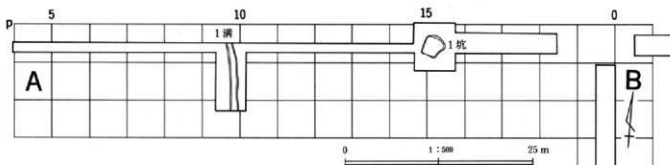
溝番号	グリッド	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	長さ(m)	走向方位	掲載遺物	時期	備考
11区1号溝	Ap-r-9	0.90~1.00	0.70~0.80	0.18~0.19	9	N-5°-W	土師2石器1	江戸	

第29表 第3章掲載の11区井戸一覧表

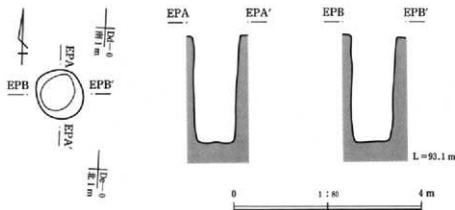
井戸番号	グリッド	形態分類	短径(m)	長径(m)	深さ(m)	掲載遺物	時期	備考
11区1号井戸	Cd-19	円形・小形	0.95	1.05	2.25			

第30表 第3章掲載の11区土坑一覧表

土坑番号	土師	グリッド	形態	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方位	掲載遺物	時期	備考
11区1号土坑		Ap-14・15	方形	2.7	2.05	0.65	N-15°-E	土師3石器1	中世	断面箱形

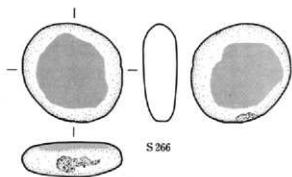
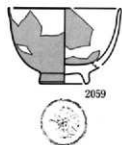
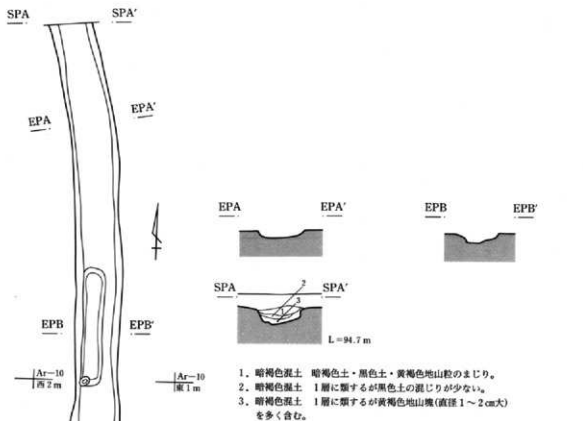


第145図 11区掲載遺構の位置

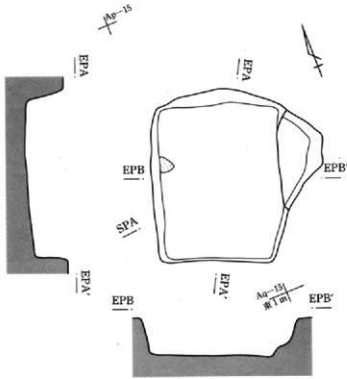


第146図 11区1号井戸

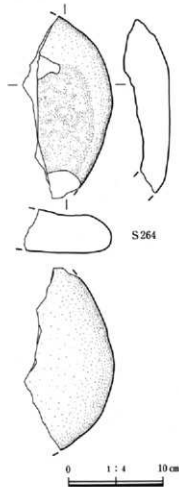
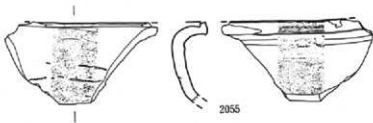
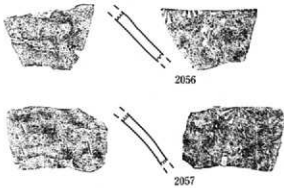
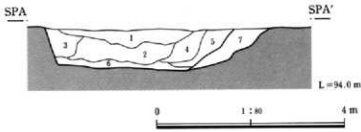
第3章 中世以降の遺構と遺物



第147図 II区1号溝と出土遺物



1. 黒褐色凝土 黒色土・暗褐色土・黄褐色土のまじり。
2. 黒色土 下部に黄褐色土粒を少量含む。
3. 黄褐色凝土 2層と地山のまじり。
4. 黒褐色土 2層と暗褐色土のまじり。
5. 暗褐色土 6層と4層のまじり。
6. 暗褐色凝土 2層と地山のまじり。6層に類するが黄褐色土粒が少ない。
7. 暗褐色凝土 暗褐色土・黄褐色土のまじりで、細かくまじる。黄褐色土粒が目立つ。

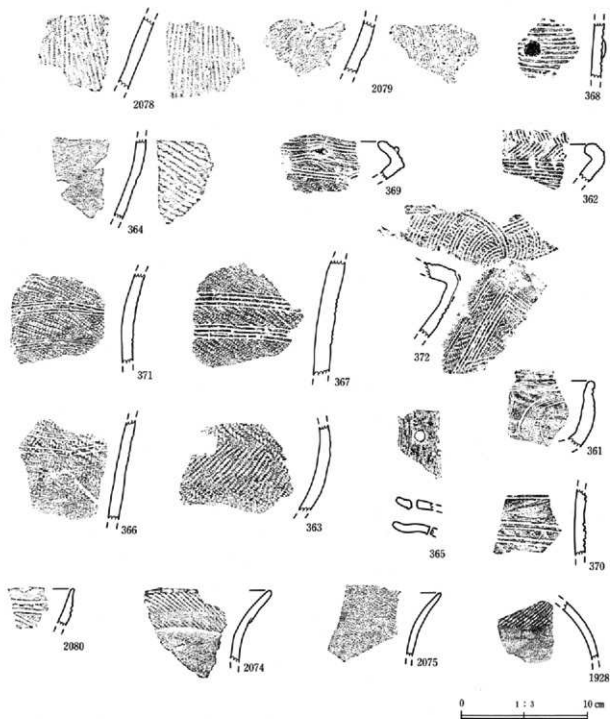


第148図 11区1号土坑と出土遺物

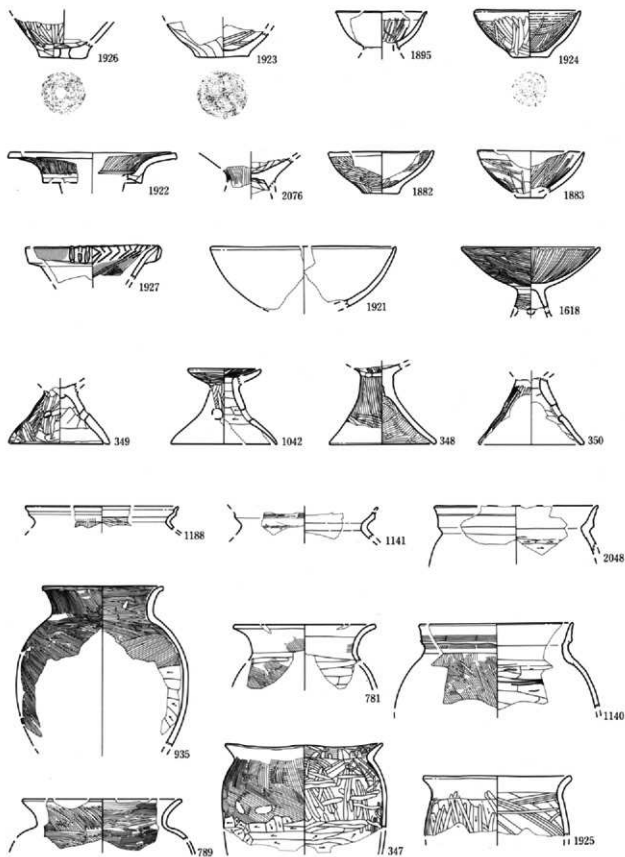
第4章 遺構外の出土遺物

本章では、各区で遺構確認作業中に出土した遺物や、時期の異なる遺構の埋没土から出土した遺物をまとめた。表裏条痕のある縄文土器(第149図2078)、

口縁部に刺突のあるS字甕(第150図1141)、北陸系の菱形土器(1140・2048)、龍泉窯系の青磁鍋手碗破片(1809)等が出土している。

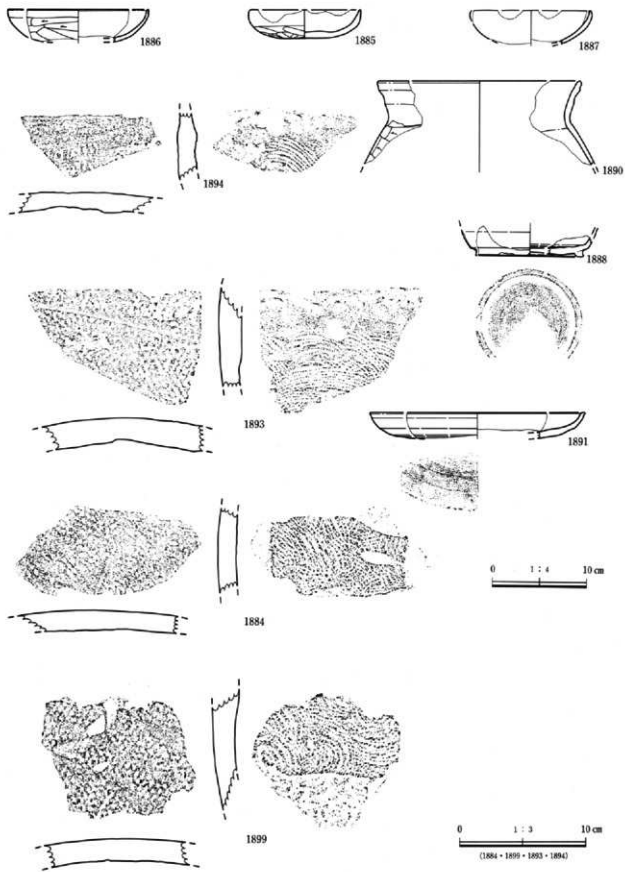


第149図 遺構外の出土遺物(1)縄文土器・弥生土器

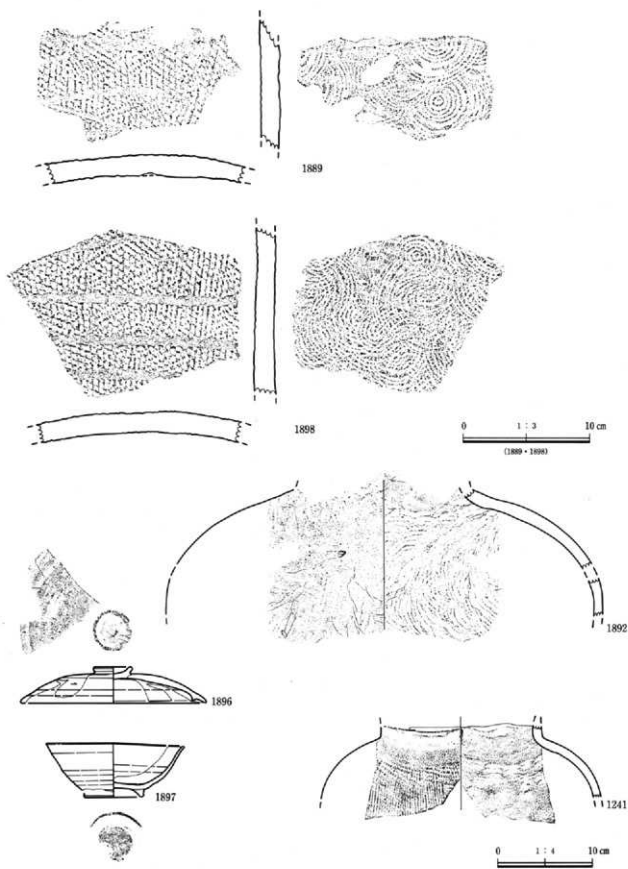


第150回 遺構外の出土遺物(2)土師器

第4章 遺構外の出土遺物

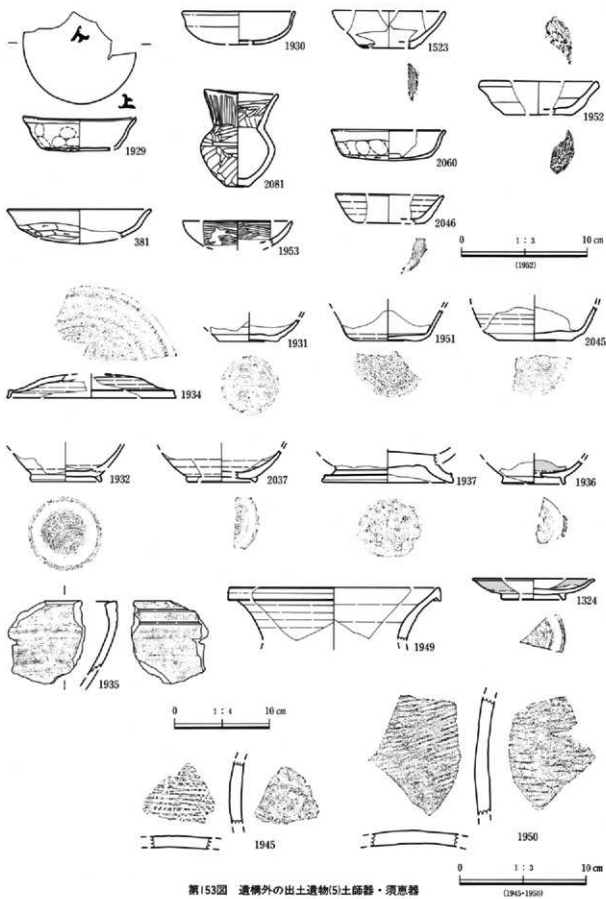


第151図 遺構外の出土遺物(3)土師器・須恵器

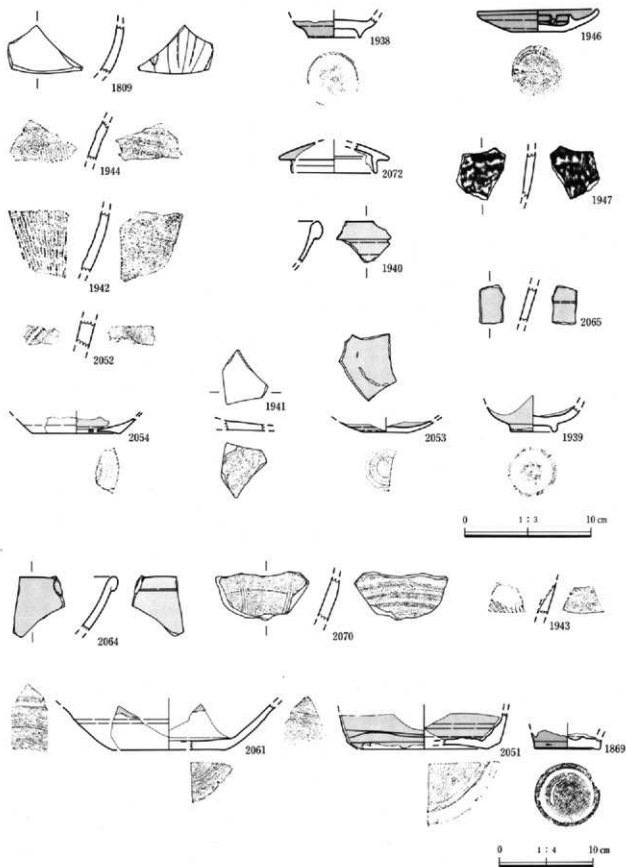


第152図 遺構外の出土遺物(4)須恵器

第4章 遺構外の出土遺物

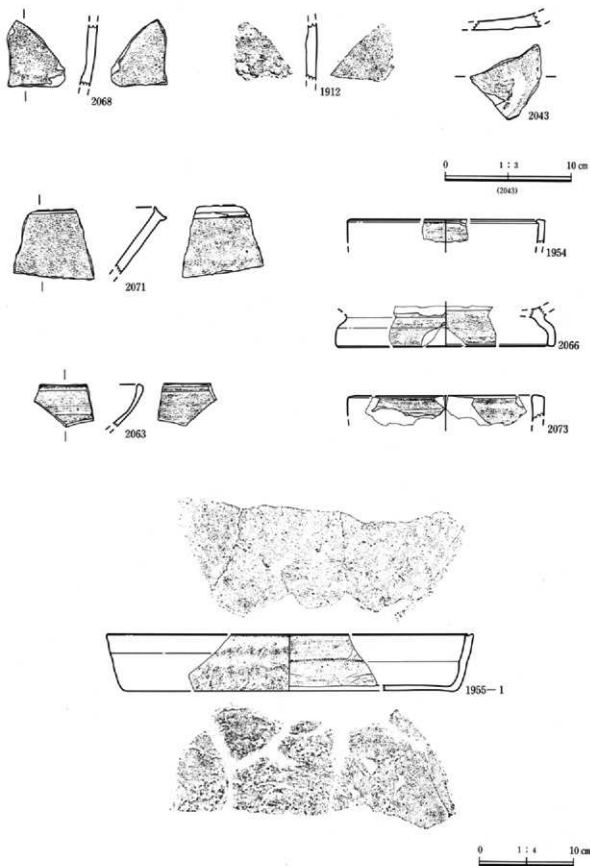


第153図 遺構外の出土遺物(5)土師器・須恵器

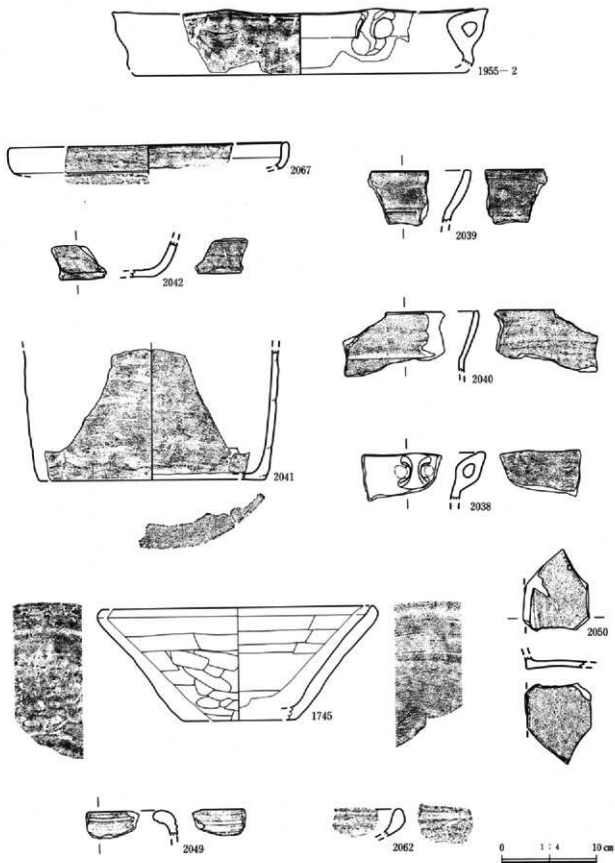


第154図 遺構外の出土遺物(6陶器)

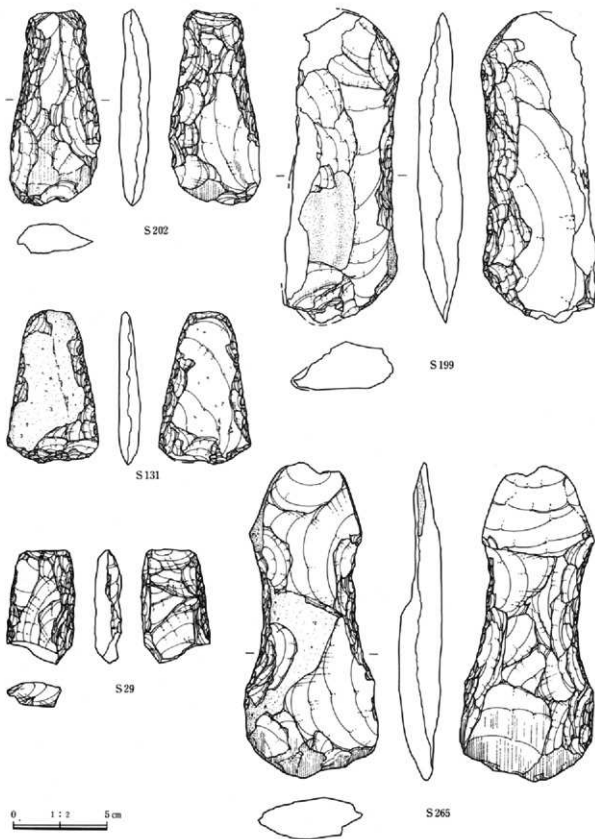
第4章 遺構外の出土遺物



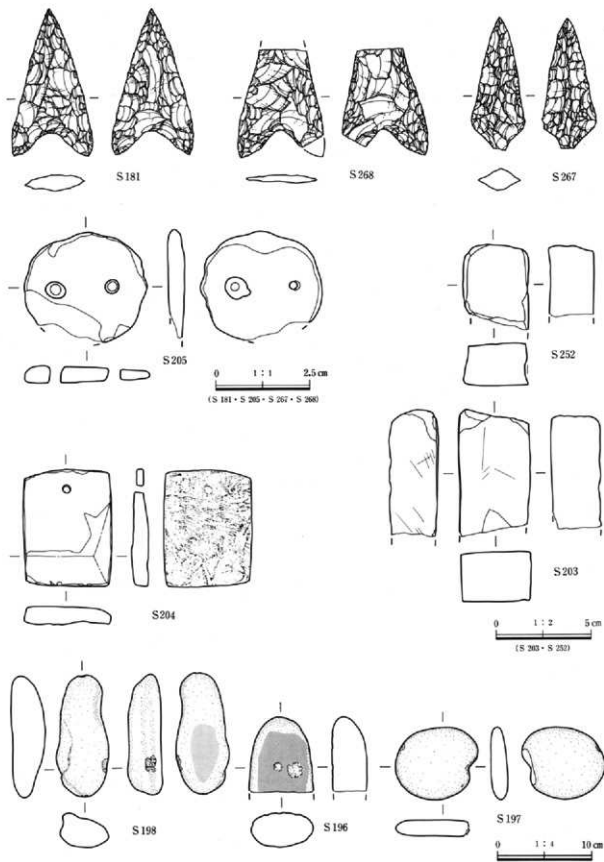
第155図 遺構外の出土遺物(7)軟質陶器



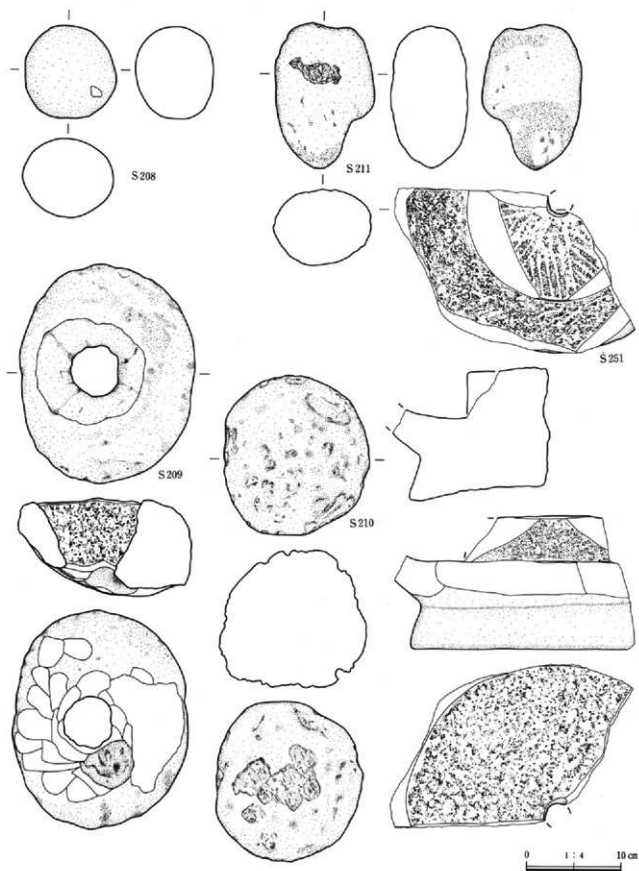
第156図 遺構外の出土遺物(8)軟質陶器



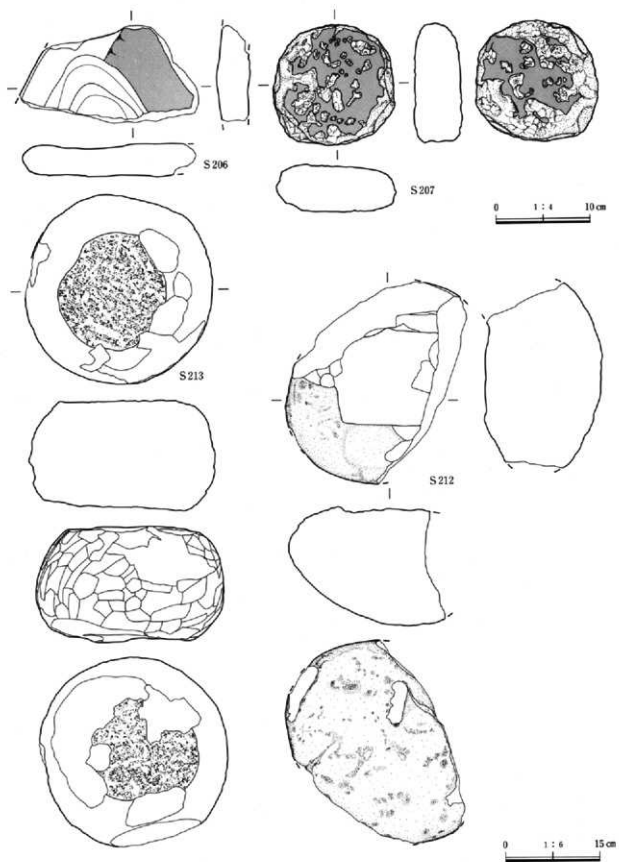
第157図 遺構外の出土遺物(9)打製石斧



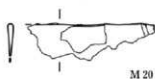
第158図 遺構外の出土遺物(石鏃・碇石等)



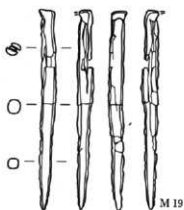
第159図 遺構外の出土遺物(石臼・窪み石等)



第160図 遺構外の出土遺物(五輪塔・磨き石等)



M 20



M 19



M 17



M 24



M 18



M 25



M 21



M 26



M 40



M 23



第161図 遺構外の出土遺物(鉄製品・古銭)

第5章 荒砥上ノ坊遺跡調査の成果

1. 調査の成果と課題

荒砥上ノ坊遺跡は、群馬県の中央部、赤城山南麓に立地する複合集落遺跡である。発掘調査では11調査区に縄文時代前期と古墳時代初頭から近世にわたる遺構と遺物が検出された。発掘調査は昭和57年度に、整理作業は平成6年度から9年度にかけての4年間でおこなった。報告書は年度ごとに1冊ずつ作成し、『荒砥上ノ坊遺跡1』から本書『荒砥上ノ坊遺跡IV』まで4冊を刊行した。

検出された遺構を通観すると、縄文時代の遺構は前期の住居3軒のみで、発掘区内で検出された遺構は古墳時代初頭まで途絶える。しかし、古墳時代初頭から平安時代後期までの住居は、一定地域内に継続的につくられていたことが判明した。このようなあり方は、群馬県の水田農耕を基盤とする里積み農耕集落の典型的な形であり、周辺低地に拓いた水田を保持する荒砥上ノ坊遺跡の農耕集落としての性格を確認できたことになる。(注1)

ここでは、検出された遺構・遺物の時期ごとに、その成果と課題を述べ、4年間の整理事業のまとめとしたい。

縄文時代

検出された縄文時代の遺構は、住居3軒と土坑状の遺構1カ所である。住居・土坑ともに諸磯b式土器と石器を出土した。これらの遺構は中央低台地の西側にある帯状低地を囲むように分布していた。低地の北端には谷頭があり、縄文集落の水場であったと考えられる。(第1分冊第19図☆印)

赤城山南麓の丘陵性地形には縄文時代前期の小規模な遺跡が多く分布することがわかっている。本遺跡はこの丘陵性地地の末端部にあたり、縄文時代前期の小規模な遺跡が卓越する地域の南縁辺部にたつのである。

また、本遺跡で検出されたような、少数の住居が散在するあり方は、群馬県の縄文時代前期集落の一般的な様相であることが近年の発掘調査で明らかになってきている。本遺跡でも一時期2～3軒の住居が散在する集落景観を想定できた。荒砥上ノ坊遺跡の調査では、群馬県の丘陵性地域における諸磯b式前期集落の一般的傾向を追認したといえよう。

遺物で特筆されるのは、1区72号住居で出土した小型石棒である。石棒は、これまで縄文時代中期の出土例が多く中期の遺物と考えられがちであったが、近年前期の石棒の出土例も増えている。これらはすべて小型で、形態的にも型式を意識した共通した造形がみられる。この小型石棒は中期に盛行する石棒の原形として、今後精神文化の重要な研究素材となろう。(第1分冊p.165)

もう一つは早期表裏条痕文土器の検出である。これらは2区47号住居(5世紀前半)と5区8号住居(8世紀後半)の埋没土中から1片ずつ出土した。(本書第149図2078・2079)発掘調査では縄文時代早期の遺構は検出されなかった。これらの土器の存在は、周辺に早期の遺構が砂壤土を掘り込んでつくられているか、あるいは地山の砂壤土に包含されていたかのどちらかを示しているのであろう。

この赤城山南麓の砂壤土については、飯土井二本松遺跡の発掘調査において、堆積層が複数あることが判明し、同層の遺物包含層の時期から縄文期の砂壤土層の堆積は縄文時代早期・前期・中期前半であったことが確認されている。(注2)荒砥上ノ坊遺跡で出土した早期表裏条痕文土器が地山に含まれていたとすれば、検出された砂壤土は飯土井二本松遺跡の早期遺物包含層を覆う砂壤土層に対比できよう。

砂壤土を掘り込む早期の遺構の有無を確定することはできなかったが、荒砥上ノ坊遺跡で出土した早期表裏条痕文土器は砂壤土の堆積時期を示す資料の1つとなろう。

弥生時代

今回の荒砥上ノ坊遺跡の発掘調査では、弥生時代の遺構は検出できなかった。荒砥地域でも公表されている弥生時代の調査例は多くない。管見にふれたもので、中期後半が5遺跡、後期が5遺跡である。

(第1分冊第7図)

近年、土器編年の進捗によって本地域の弥生土器は、古墳時代初頭まで残存していることがわかっている。弥生土器破片の出土だけで弥生時代後期の遺構とするのは困難である。弥生時代後期から古墳時代初頭の土器編年の充実と、住居形態の再検討等を通して、弥生時代後期の遺跡・遺構の分析が必要となろう。

古墳時代

古墳時代の遺構は、住居60軒、土坑5基、方形周溝墓6基、畠址2カ所を調査した。住居から出土した土器から、遺構の時期は古墳時代初頭と古墳時代中期・後期(5世紀前半～7世紀後半)に大きく分けられる。その間の4世紀頃の遺構は発掘区内では検出できなかった。

古墳時代初頭の遺構は、住居32軒、土坑3基、方形周溝墓6基、畠址4カ所が検出された。これらの遺構は中央台地西縁に集中しており、台地の西側にある帯状低地に臨むように分布している。これらの遺構の分布状況から、台地西縁を居住域、西側帯状低地(水田)と台地中央部(畠)を生産域、対岸を墓域とする農耕集落と考えることができる。(第1分冊第19図)

これらの住居からは弥生時代終末から古墳時代にかけての良好な土器資料を得ることができた。この時期の土器は、弥生時代の残存形態と古墳時代の新しい土器が混在するのが特徴である。群馬県ではこの新しい土器として他地域の影響を受けた外来系土器が顕著である。本遺跡でも、縄文を施文した在地弥生土器の赤井戸式土器を出土する住居から、小型器台形土器が出土している。本書では、この新しい器種の伴出を社会の変化の現れと考え、古墳時代初

頭の土器とした。

外来系土器は、北陸系や東海西部系・畿内系と考えられ、特に北陸系の土器を主体とする住居も確認された。これらの土器は、赤井戸式土器の変化と伴出傾向から、2～3段階に細分が可能と考えられる。伴出した北陸系や東海西部系・畿内系の土器からは庄内式後半段階に比定することができた。(第1分冊第161図)

これらの土器に後続する4世紀と、5世紀後半～6世紀前半の遺構は発掘区内から検出されなかった。

5世紀前半の住居は3軒が検出された。これらの住居は古墳時代初頭の住居と同様に中央台地西縁に分布していた。

6世紀後半以降の遺構は26軒の住居が調査された。発掘区内の状況に限れば、本遺跡の居住域は6世紀後半に分布傾向が変化し、中央低台地の台地全体に分布が広がる。さらに7世紀後半には、帯状低地を挟んだ東西の台地にも住居が分布する。

これらの調査結果から、①古墳時代初頭に中央台地西縁に居住を始めた人々が、低地での水田耕作と居住域外縁での畠作を開始したこと、②6世紀ころには周辺の低地や、低地から台地に接する傾斜地に水田耕地を拡大して、居住域が台地内部に移転していること、③7世紀後半には、周辺の低地の開発がすすみ、新開の居住域がつけられていることが考えられよう。

奈良時代

8世紀代の遺構は、住居55軒、土坑15基、溝1条が検出された。遺構の分布は7世紀代と基本的に一致している。7世紀代に新開された居住域にも継続して住居がつけられている。

8世紀代の遺構で特筆されるのは、直径が2.5～4.5mの大型円形で、断面が掘り鉢状を呈する土坑である。この土坑は中央低台地の西縁に偏在し、8世紀前半には4基が群在していた。8世紀後半から9世紀前半にかけては同型式の土坑がほぼ1基ずつ低

台地西縁に検出された。土坑の機能は不明であるが、集落内で継続的に使われていたと考えられよう。

そのうちの1区35号土坑（8世紀前半）からは多量の杯形土器が出土し、刻書土器も含まれていた。類例は栃木県上横田A遺跡等で検出され、水室と考えられている。（注3）本地域でもいくつかの遺跡で検出されていることから、今後県内の類例を集めて検討する必要がある。

8世紀の遺物で特筆されるのは、3区6号住居で検出された鉄生産関連遺物である。この住居は8世紀後半の大型方形住居で、床面から鍛冶遺構が検出された。埋没土中から鉄滓や鉄塊、鉄鏝、鍛冶薄片等が出土した。遺構の形状は確認できなかったが、出土した鉄生産関連遺物の金属の解析を通して、鍛冶遺構と判明した。この解析から、外部から供給された鉄素材を住居内の炉で砂鉄を使って脱炭し鋼を製造していたこと、製造された鋼を用いて鉄器（鉄鏝）を製作していた可能性が高いことが判明したのである。（第Ⅱ分冊 p.159）

赤城山南麓地帯は、7世紀後半と考えられている粕川村三ヶ尻西遺跡の箱形炉をはじめ、大胡町や宮城村で奈良時代から平安時代にかけての製鉄遺構が検出されている。本遺跡の成果は、鉄器素材の流通や生産・消費を地域のなかで考える必要性を再確認させたといえよう。

平安時代

9世紀から10世紀にかけての遺構は、住居120軒が検出された。これらの住居は台地縁辺だけでなく、台地の内部につくられており、発掘区内でこれまで遺構が検出されなかった西側台地内部の11区にも9世紀後半の住居がつくられている。このような住居の分布はそれ以前の分布傾向と一致しており、この地域に定着して農耕集落が営まれたことを示している。

竪穴住居の形態は、古墳時代以降正方形から長方形に新移的に変化している。検出された住居は発掘区内に限られるので全容を把握できるわけではない

が、時期ごとに大きさの変化の傾向を看取することが可能である。

古墳時代初期の1a・b段階とした住居は一辺が3～7mの比較的大型の正方形に近い形態を示す。2段階の住居は前段階よりやや小さくなり、2～6mの正方形である。古墳時代は5・6世紀には大型の正方形住居が目立つが、7世紀になると長軸3m～6mの長方形住居も多くなり、長軸3m程の小型長方形住居が見られるようになる。

8世紀の住居には、7世紀に見られた住居規模の規格化が進む。住居の規模は長軸3m以内の長方形、長軸3～5mの正方形・長方形住居、長軸6～8mの長方形住居の3種類に大きく分かれる。9世紀も同様の傾向が続く。

10世紀になると住居の小型化および画一化が始まり、長軸2～5mの長方形住居がほとんどになる。このような住居形態の推移は他遺跡でも見られる傾向であり、その点でも本遺跡は一般農耕集落といえよう。

また、1区・2区と8区には掘立柱建物それぞれ5棟・8棟・5棟検出されているが、建物の時期を明確にすることができなかった。そのなかで8区2号・3号建物は、竪穴住居との重複関係から9世紀中葉の建物と推定できた。これらは他の建物址に比べて柱穴が大きく、8区中央に東西に並んでいた。他の掘立柱建物は古代集落に関連するとの確証は得られなかった。

荒砥上ノ坊遺跡の古墳時代中期以降の土器を整理すると、須恵器の変化や灰胎陶器の出現時期などは県内の他遺跡の状況とほぼ同様な状況であることが確認できた。（第Ⅲ分冊第149～151図）しかし、土師器の杯形土器や壺形土器（土釜）・羽釜が10世紀まで残存していることは特徴的であり、群馬県西部から中央部の様相とは大きく異なることも判明した。須恵器生産があまり盛んでなかった群馬県東部の地域では、10世紀後半まで土師器が使われているといわれている。（注4）荒砥地域はこの東部地域の西縁にあたるのであろう。

個別の遺物で特筆されるのは、文字資料と馬具である。文字資料は墨書・刻書土器が11点、刻書のある石製紡錘車3点が出土している。他に円面硯の破片2点と風字硯1点が出土した。これらは8世紀から10世紀にかけての住居から出土している。特に刻書のある石製紡錘車は9世紀後半の住居3軒から1点ずつ出土した。(第三分冊口絵)荒砥地域には、荒砥洗橋遺跡の「芳郷」、荒砥天の宮遺跡の「大郷長」等の墨書土器が出土しており、注目されている。本遺跡の文字資料もこれらと総合化することによって、古代社会の解明の一資料とすることができよう。

馬具は9世紀中葉の1区33号住居の床面付近から銜および引手金具と鉤具が出土した。馬具は副葬品としての研究は進んでいるが、集落出土の馬具については不明な点が多い。今回、県内の集落遺跡馬具出土例を調査したところ、29遺跡63点の馬具が出土していることが判明した。(第三分冊 p.160)のうち4点が時期不明、10点が古墳時代で、残りの49点は奈良時代以降の資料である。また、これらの古代の馬具出土遺跡は、平野部縁辺から山麓部にかけて分布していることも確認できた。集落出土馬具については、今後資料の増加を待って、古墳時代以来の農耕集落発達過程のなかで考えること、地域内での馬の総合的な使役の実態を明らかにする方向性が必要であろう。

中近世

荒砥上ノ坊遺跡では古代以前と特定できた遺構のほか、溝・土坑・井戸・獨立柱建物・火葬墓が多数検出された。しかし、これらのなかで中世あるいは近世に時期を確定できた遺構は少なく、その他の遺構は時期不明といわざるを得ない。本書では形態の類似性から時期不明の遺構も含め形態分類して、発掘区ごとにまとめて記述した。

荒砥上ノ坊遺跡で中世の幕開けとなった遺構は女堀である。女堀は赤城山南麓裾野に東西12kmに亘って現存していた用水堀であった。調査では掘削廃土の直下から浅間B軽石(1108年降下)を鋤込んだ畠

が検出され、軽石降下後、少したって掘削され、未完成で放棄されていることが判明した。火山災害で荒廃した水田の再開発のために荘園勢力によって掘られたと考えられている。(注5)

この他に掘立柱建物18棟、溝43条、土坑256基、井戸39基、火葬墓4基が検出された。これらの遺構は、1区・2区・7区にほぼ集中して検出された。1・2区は歴史時代までの住居や土坑が数多く検出された地点で中世以降も継続して土地利用されている。また、7区でも館の堀と考えられる方形区画の溝が複数検出され、最も大きな1号溝では15・16世紀の土器が出土している。

荒砥上ノ坊遺跡では中近世の遺構は断片的であったが、今後は地域内の各遺跡の成果と文献史学の成果を総合化して考えていくことが必要であろう。

以上、荒砥上ノ坊遺跡の発掘調査で確認できた内容について、成果の概要と今後の課題をまとめた。ここに調査報告を完結するにあたり、関係された方々に末尾ながら感謝する次第である。

註

1. 能登 健 1986「里棲み集落の研究—集落変遷からみた農耕地の拡大過程とその背景—」『内陸の生活と文化』
2. 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991『飯土井二本松遺跡・下江田前遺跡』
3. 中山 晋 1996「古代日本の「水室」の実態—栃木県下の例を中心として—」立正史学第79号
4. 群馬県埋蔵文化財調査センター 1997「最近情報展出土した「古代の土器」展示レポート」
5. 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984『女堀』

写 真 图 版



1. 2区78号住居全景 (南から)



2. 2区81号住居全景 (南西から)



3. 2区2号整穴全景 (南から)



4. 同 土層断面 (北から)



5. 6区1号整穴状遺構全景 (北西から)



6. 2区1号・2号井戸全景 (北から)



7. 2区3号井戸全景 (北から)



8. 7区69号土坑土層断面A-A' (南から)



1. I 区 1号掘立柱建物全景 (南から)



2. I 区 2号掘立柱建物全景 (南から)



3. I 区 3号掘立柱建物全景 (南東から)



4. I 区 4号掘立柱建物全景 (東から)



5. I 区 5号掘立柱建物全景 (南から)



6. I 区 2号～4号溝全景 (北東から)



7. I 区 1号溝土層断面A-A' (東から)



1. 1区1号溝全景(東から)



2. 1区2号～4号溝全景(北東から)



1. 1区2号～4号溝全景（北東から）



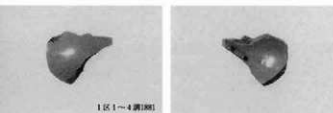
2. 同 土層断面A-A'（北から）



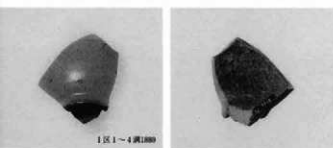
1区1～4溝1879



1区1～4溝1877



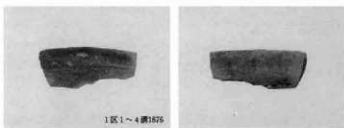
1区1～4溝1881



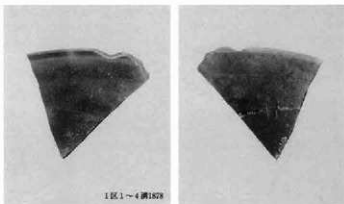
1区1～4溝1880



1区1溝1873



1区1～4溝1875



1区1～4溝1878

3. 1区1号・2号～4号溝出土遺物



4. 1区5号溝全景（東から）



5. 同 土層断面A-A'（西から）



1. I区6号溝全景 (南から)



2. I区7号溝全景 (北から)



3. I区7号溝土層断面A-A' (東から)



4. I区8号溝全景 (南から)



5. I区8号溝土層断面A-A' (南から)



6. I区9号溝全景 (北から)



1. 1区5号井戸全景 (南西から)



2. 1区6号井戸全景 (北から)



3. 1区7号井戸全景 (西から)



4. 同 遺物出土状態



5. 1区1号～3号土坑全景 (北東から)



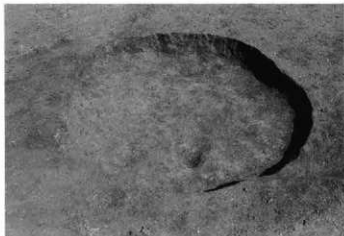
6. 1区1号土坑土層断面A-A' (南西から)



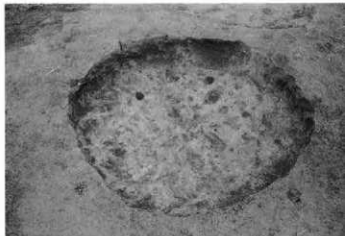
7. 1区2号土坑土層断面A-A' (南西から)



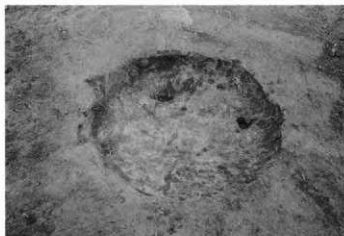
8. 1区3号土坑土層断面A-A' (南西から)



1. Ⅰ区7号土坑全景 (東から)



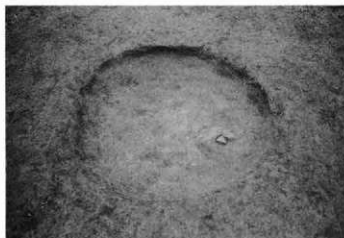
2. Ⅰ区18号土坑全景 (西から)



3. Ⅰ区21号土坑全景 (東から)



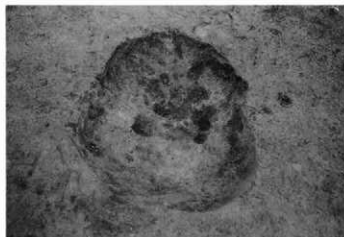
4. Ⅰ区25号土坑全景 (南から)



5. Ⅰ区28号土坑全景 (東から)



6. Ⅰ区54号土坑全景 (南東から)



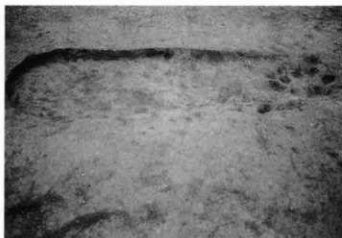
7. Ⅰ区24号土坑全景 (南から)



8. Ⅰ区55号土坑全景 (北西から)



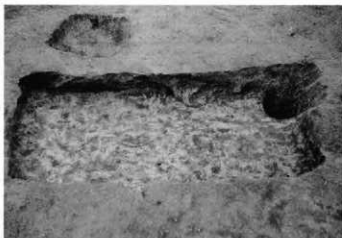
1. 1区19号土坑全景 (南から)



2. 1区27号土坑全景 (南西から)



3. 1区22号土坑全景 (東から)



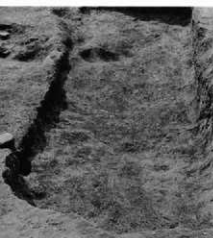
4. 1区23号土坑全景 (南東から)



5. 1区29号土坑土層断面A-A' (南から)



6. 1区42号・43号土坑全景 (西から)



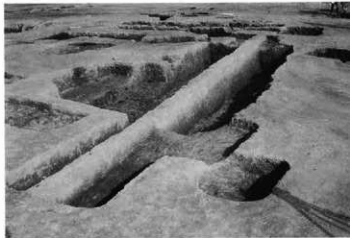
7. 1区46号土坑全景 (北東から)



8. 1区6号土坑全景 (南から)



1. 1区土坑群2全景(南から)



2. 同 土層断面A-A'(南西から)



3. 同 79号~84号土坑全景(西から)



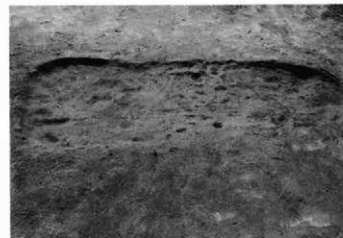
4. 1区土坑群4全景(111号・112号・北から)



5. 1区4号土坑全景(南東から)



6. 1区12号土坑層断面A-A'(西から)



7. 1区20号土坑全景(北から)



8. 1区26号土坑全景(南東から)



1. I 区33号土坑周辺土坑群 (南から)



2. I 区40号土坑土層断面 (南西から)



3. I 区56号土坑土層断面A-A' (北から)



4. I 区57号土坑全景 (西から)



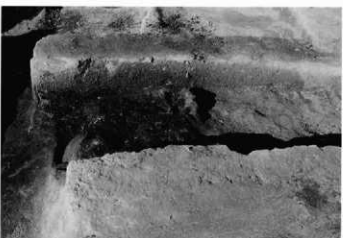
5. I 区1号火葬墓全景 (西から)



6. 同 (南西から)



7. 同 土層断面A-A' (北から)



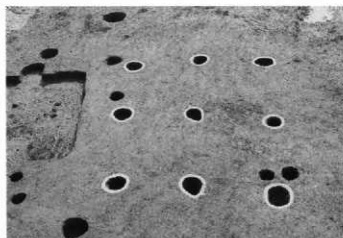
8. 同 遺物出土状態 (南から)



1. 2区1号掘立柱建物全景（北から）



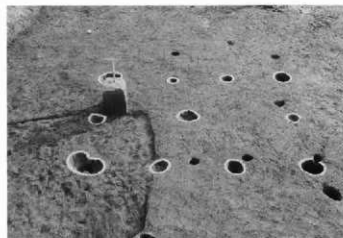
2. 2区2号掘立柱建物全景（北西から）



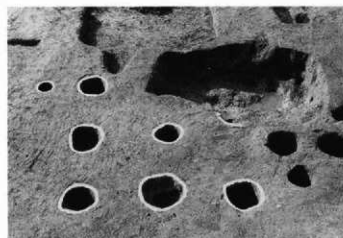
3. 2区3号掘立柱建物全景（北から）



4. 2区4号掘立柱建物全景（北東から）



5. 2区5号掘立柱建物全景（北から）



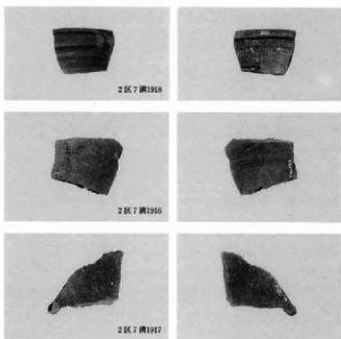
6. 2区6号掘立柱建物全景（東から）



7. 2区1号溝全景（北から）



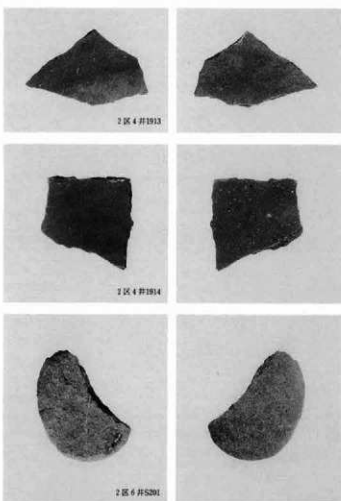
1. 2区2号・3号溝全景(北から)



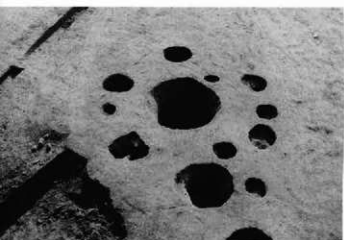
2. 2区7号溝出土遺物



3. 2区4号井戸全景(北から)



5. 2区4号・6号井戸出土遺物



4. 2区6号井戸全景(北西から)



1. 2区5号井戸全景 (北から)



2. 2区10号土坑全景 (西から)



3. 2区28号土坑全景 (西から)



4. 2区32号土坑全景 (南から)



5. 2区33号土坑全景 (南から)



6. 2区36号土坑全景 (南から)



7. 2区37号土坑全景 (南から)



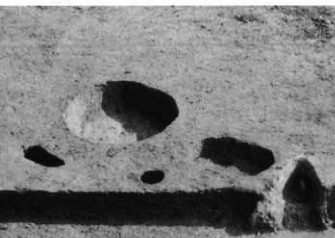
8. 2区40号土坑全景 (南から)



1. 2区41号土坑全景 (南から)



2. 2区42号土坑全景 (南東から)



3. 2区71号土坑全景 (西から)



4. 2区9号土坑全景 (南から)



5. 2区23号土坑全景 (南から)



6. 2区25号土坑全景 (南から)



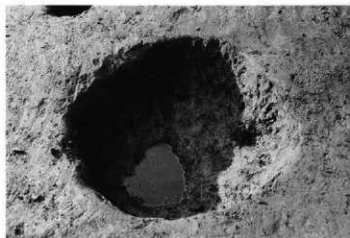
7. 2区27号土坑全景 (西から)



8. 2区44号土坑全景 (西から)



1. 2区51号土坑全景 (南から)



2. 2区55号土坑全景 (東から)



3. 2区64号土坑全景 (西から)



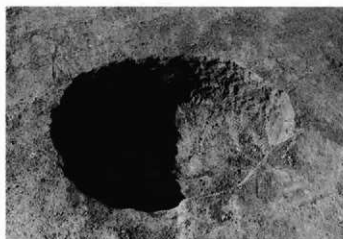
4. 2区63号土坑全景 (北から)



5. 2区65号土坑全景 (南から)



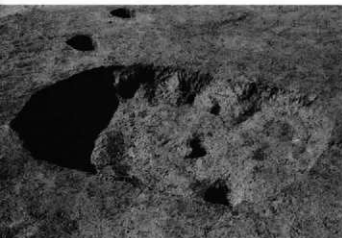
6. 2区7号土坑全景 (南から)



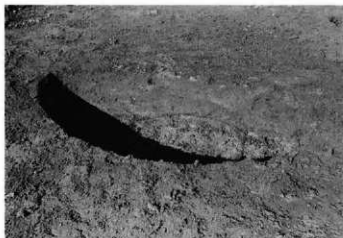
7. 2区12号土坑全景 (東から)



8. 2区14号土坑全景 (南東から)



1. 2区15号土坑全景(東から)



2. 2区30号土坑土層断面(南から)



3. 2区34号土坑全景(北から)



4. 2区35号土坑全景(南東から)



5. 2区43号土坑土層断面A-A'(西から)



6. 2区48号土坑全景(南から)



7. 2区56号土坑全景(東から)



8. 同 土層断面A-A'(南から)



1. 2区49号土坑全景 (南から)



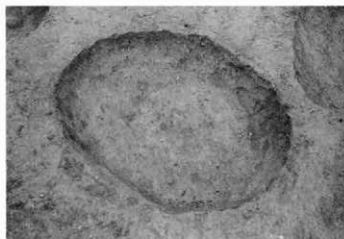
2. 2区58号土坑全景 (東から)



3. 2区4号土坑全景 (南から)



4. 2区5号土坑全景 (南西から)



5. 2区6号土坑全景 (南から)



6. 2区11号土坑全景 (南東から)



7. 2区17号土坑全景 (北東から)



8. 2区21号土坑土層断面



1. 2区24号土坑全景 (南から)



2. 2区45号土坑全景 (南から)



3. 2区52号土坑全景 (東から)



4. 2区60号土坑全景 (北東から)



5. 2区69号土坑全景 (東から)



6. 2区18号土坑全景 (東から)



7. 2区19号土坑土層断面A-A' (西から)



8. 2区46号・47号土坑全景 (南から)



1. 2区50号土坑全景(東から)



2. 2区53号土坑全景(南から)



3. 2区54号土坑全景(東から)



4. 2区57号土坑全景(南から)



5. 2区62号土坑全景(南から)



6. 2区70号土坑全景(西から)



7. 2区66号土坑全景(北から)



8. 同 土層断面A-A'(東から)



1. 2区1号土坑全景 (南東から)



2. 2区31号土坑全景 (南から)



3. 2区13号土坑全景 (南東から)



4. 2区22号土坑全景 (西から)



5. 2区38号土坑全景 (南から)



6. 2区39号土坑全景 (南から)



7. 2区1号火葬墓全景 (南から)



8. 同 土層断面A-A' (南西から)



1. 3区1号溝全景(西から)



2. 同 土層断面A-A'(西から)



3. 3区2号溝全景(南から)



4. 3区3号溝全景(南から)



5. 同 土層断面B-B'(南から)



6. 3区4号溝全景(南から)



7. 同 土層断面A-A'(南から)



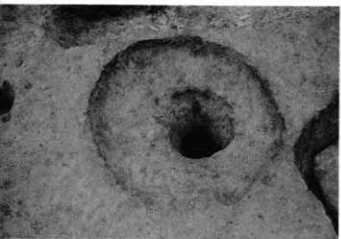
1. 3区6号溝全景 (南から)



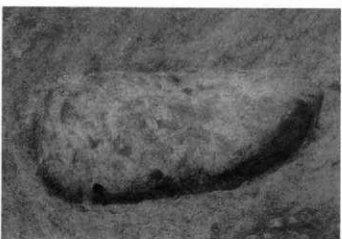
2. 同 土層断面A-A' (南から)



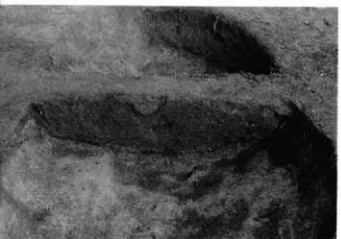
3. 3区5号溝全景 (北から)



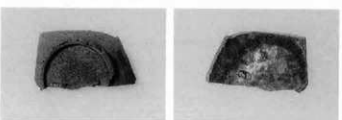
4. 3区1号土坑全景 (北西から)



5. 3区5号土坑全景 (北から)



6. 3区5号土坑土層断面 (西から)



7. 同 出土遺物



1. 3区2号土坑土層断面A-A' (東から)



2. 3区3号土坑全景 (東から)



3. 3区4号土坑全景 (南東から)



4. 同 土層断面A-A' (南から)



5. 3区全景 (南から)



1. 5区1号溝土層断面A-A' (南から)



2. 5区1号土坑土層断面A-A' (西から)



3. 5区2号土坑土層断面A-A' (東から)



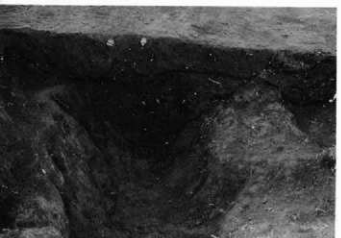
4. 5区3号土坑土層断面A-A' (西から)



5. 6区2号溝全景 (南東から)



6. 同 底面



7. 同 土層断面A-A' (南東から)



8. 同 遺物出土状態



1. 6区1号溝全景(北から)



6区1溝1948



2. 同 出土遺物



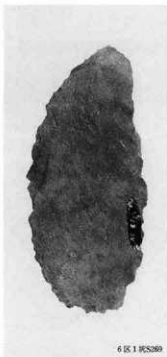
6区1坑2077



6区1坑279



3. 6区1号土坑出土遺物



6区1坑2089



4. 同 全景



5. 6区3号土坑全景(東から)



6. 6区2号土坑全景(東から)



7. 同 土層断面A-A'(東から)



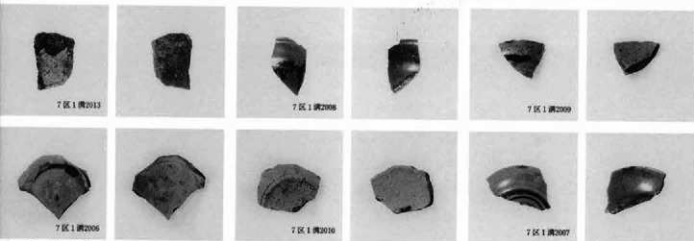
1. 7区南半全景 (南西から)



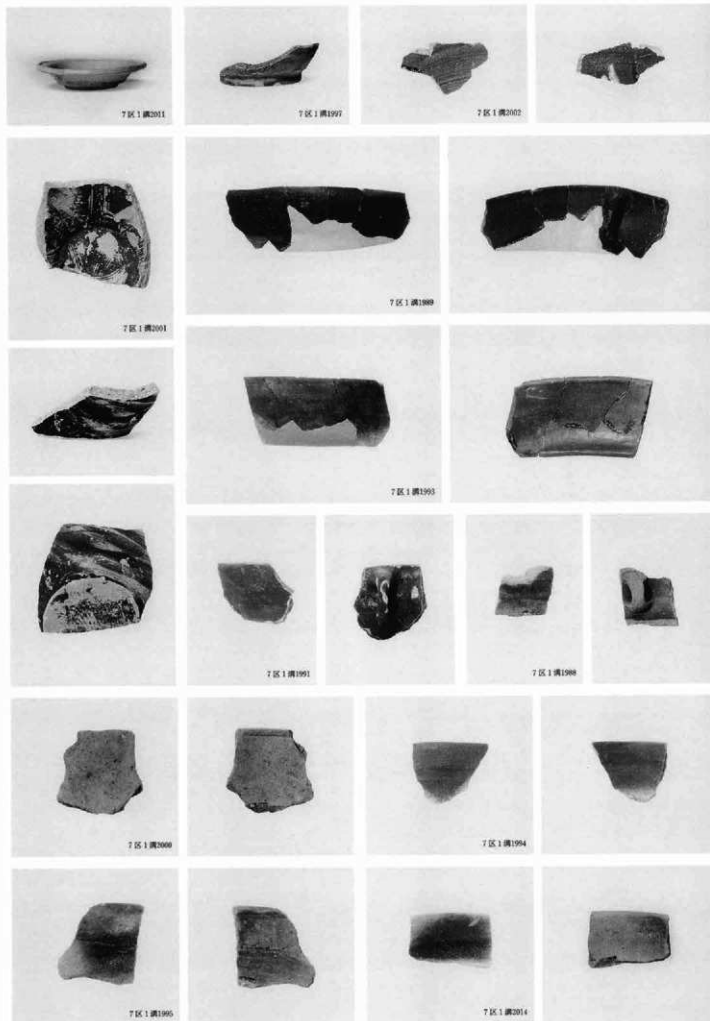
2. 7区1・2・4・6号溝 (北西から)



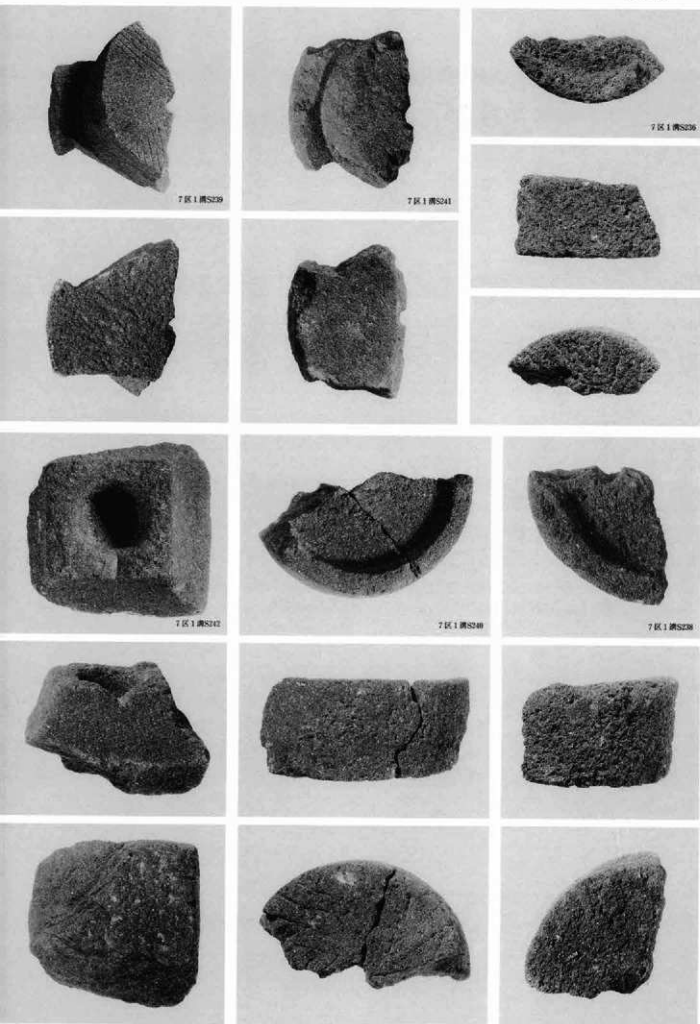
3. 7区1号溝全景 (東から)



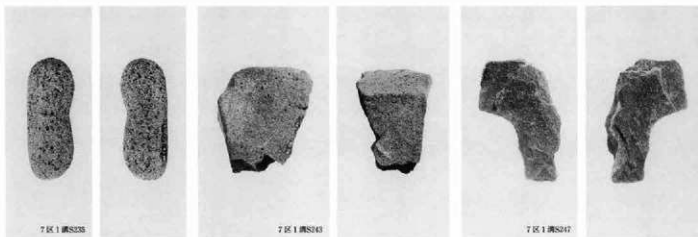
4. 同 出土遺物



1. 7区1号溝出土遺物



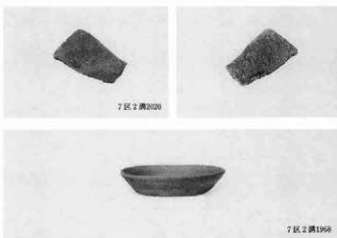
1. 7区1号溝出土遺物



1. 7区1号溝出土遺物



2. 7区2号溝全景 (南から)



3. 同 出土遺物



4. 7区3号溝全景 (西から)



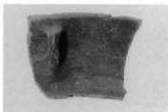
1. 7区3号溝全景 (北西から)



7区3溝2014



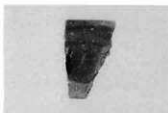
7区3溝2016



7区3溝2025



7区3溝2015



7区3溝M15



7区3溝M38



2. 同 出土遺物



3. 7区4号溝全景 (南から)



4. 同 土層断面B-B' (南から)



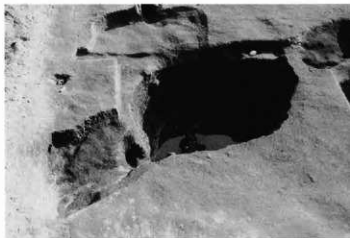
5. 同 土層断面C-C' (南から)



6. 同 土層断面D-D' (南から)



1. 7区6号溝全景 (南西から)



2. 7区7号溝全景 (西から)



3. 7区8号溝全景 (南西から)



4. 同 全景 (北から)



5. 同 屈曲部 (西から)



1. 7区8号溝土層断面C-C' (南西から)



7区8号S248



7区8号S249



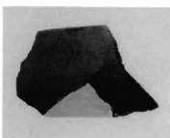
7区8号2027



7区8号2028



7区8号2029



2. 同 出土遺物



3. 7区10号溝土層断面 (南西から)



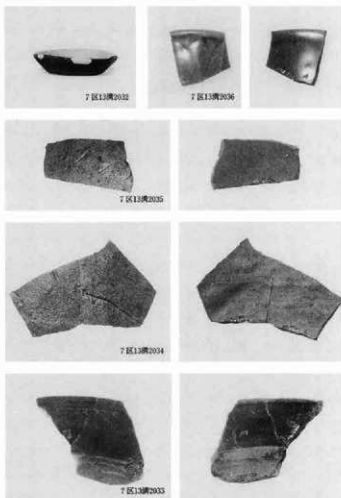
4. 7区11号溝全景 (西から)



5. 7区12号溝全景 (南から)



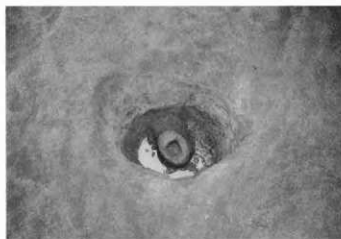
6. 同 土層断面A-A' (南から)



1. 7区13号溝出土遺物



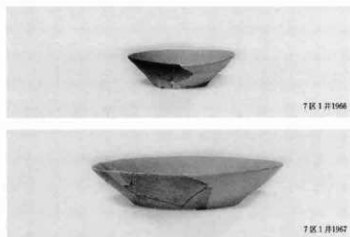
2. 7区14号溝全景 (東から)



3. 7区1号井戸全景 (南西から)



7区1井戸222



4. 同 出土遺物





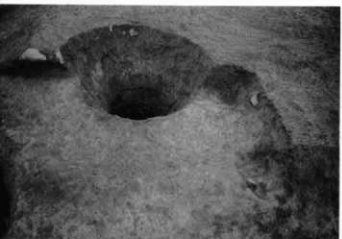
1. 3号溝と井戸 (北半・北西から)



2. 3号溝と井戸 (南半・北西から)



3. 7区2号井戸全景 (南から)



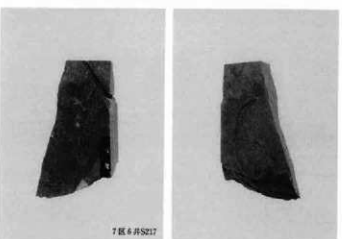
4. 7区5号井戸全景 (南から)



6. 7区6号井戸全景 (南から)



5. 7区4号井戸全景 (北から)

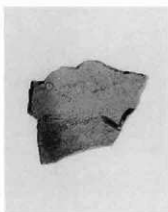


7. 同 出土遺物

7区6号S217



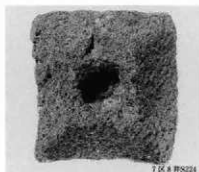
7区7井1989



1. 7区7号井戸出土遺物



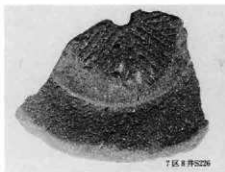
2. 7区8号井戸全景 (西から)



7区8井S224



7区8井S225



7区8井S226



3. 同 出土遺物



4. 7区9号井戸全景



5. 7区8号溝と10号~14号井戸 (南西から)



1. 7区13号・14号井戸全景 (南東から)



2. 7区15号井戸全景 (北から)



3. 7区16号井戸全景 (南東から)



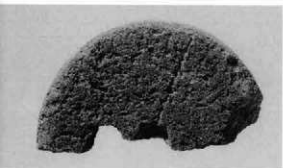
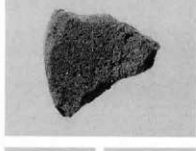
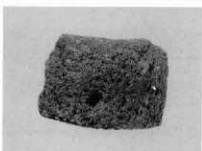
7区17号S227



7区17号S228



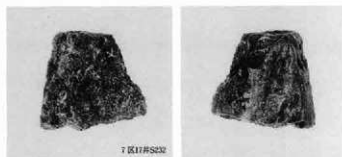
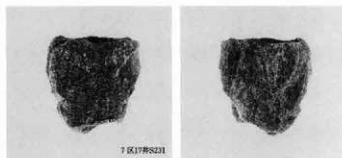
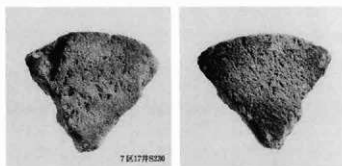
7区17号S229



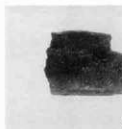
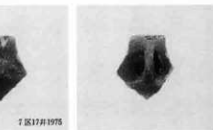
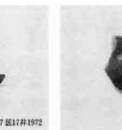
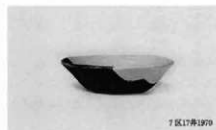
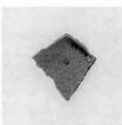
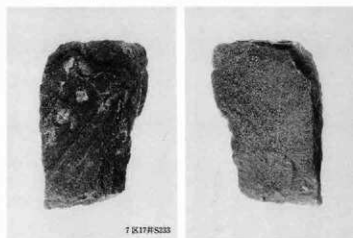
7区17号S234



4. 7区17号井戸出土遺物



1. 7区17号井戸遺物出土状態(北から)



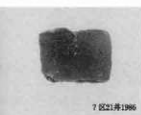
2. 同 出土遺物



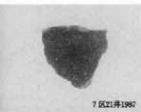
1. 7区19号井戸全景



7区21井1983



7区21井1986



7区21井1987



7区21井1984



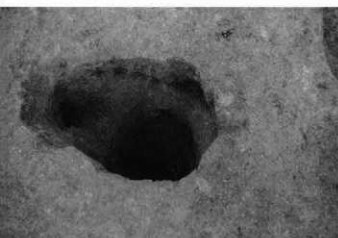
2. 7区21号井戸出土遺物



3. 7区13号土坑全景 (南から)



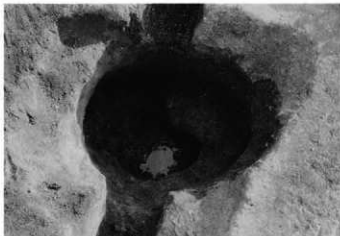
4. 7区40号土坑全景 (南東から)



5. 7区42号土坑全景 (南西から)



6. 7区44号土坑全景 (南西から)



1. 7区70号土坑全景 (西から)



2. 7区43号土坑全景 (南東から)



3. 7区66号土坑全景



4. 7区68号土坑全景 (東から)



5. 7区1号土坑全景 (南から)



6. 7区2号土坑全景 (南から)



7. 同 出土遺物



1. 7区5号～7号土坑全景（南から）



2. 7区14号井戸・39号土坑全景（南東から）



3. 7区22号土坑全景（南西から）



4. 同 遺物出土状態



7 IS209E1963



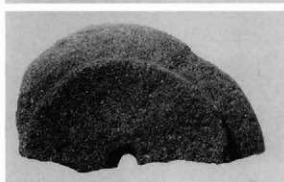
7 IS229E1922



7 IS229E1921



7 IS229E1920



5. 7区22号・39号土坑出土遺物



1. 7区3号土坑全景(南から)



2. 7区26号・27号土坑全景(南から)



3. 7区33号土坑全景(東から)



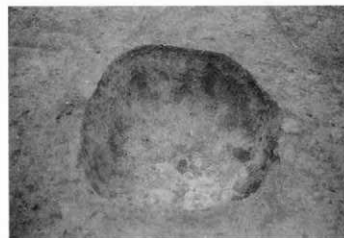
4. 7区48号土坑全景(南から)



5. 7区52号土坑全景(南から)



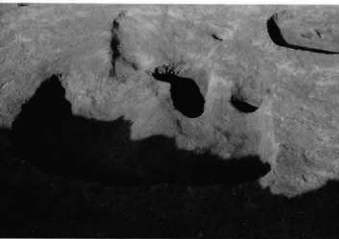
6. 7区53号土坑全景(南から)



7. 7区14号土坑全景(南から)



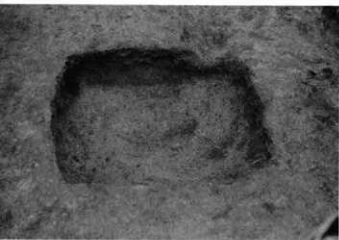
8. 7区15号土坑全景(南から)



1. 7区54号・55号土坑全景 (南から)



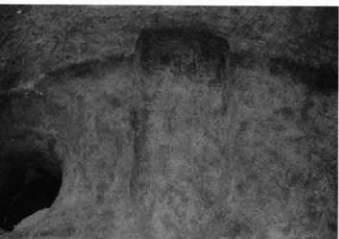
2. 7区63号土坑全景 (北西から)



3. 7区64号土坑全景 (南から)



4. 7区8号土坑全景 (南から)



5. 7区11号土坑全景 (南東から)



6. 7区9号土坑全景 (西から)



7. 7区18号～20号土坑全景 (西から)



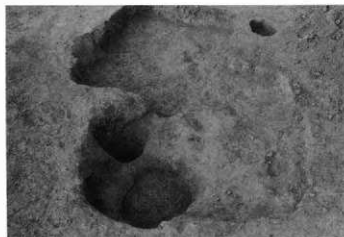
8. 7区23号・24号土坑全景 (南東から)



1. 7区25号・47号土坑全景 (南東から)



2. 7区28号土坑全景 (南西から)



3. 7区37号・38号土坑全景 (南から)



4. 7区41号土坑全景 (南東から)



5. 7区49号～51号土坑全景 (南西から)



6. 7区56号土坑全景 (南西から)



7. 7区57号土坑全景 (北西から)



1. 7区58号土坑全景 (東から)



2. 7区61号土坑全景 (北から)



3. 7区62号土坑全景 (北西から)



4. 7区65号土坑全景 (西から)



5. 7区67号土坑全景 (南から)



6. 7区4号土坑全景 (北西から)



7. 7区10号土坑全景 (西から)



1. 7区16号土坑全景 (南から)



2. 7区21号土坑透景 (北から)



4. 7区1号火葬墓全景 (南から)



6. 7区2号火葬墓全景 (南西から)



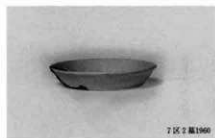
7区21号1902



7区21号1901



3. 7区21号土坑出土遺物



7区2号1900



7区1号218

5. 7区1号・2号火葬墓出土遺物



7. 7区西谷地土層断面 (北から)



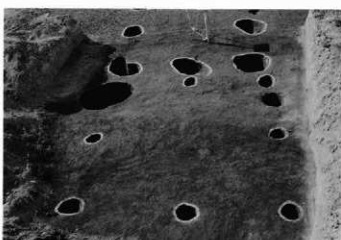
1. 8区1号掘立柱建物全景（東から）



2. 8区2号掘立柱建物全景（南から）



3. 8区3号掘立柱建物全景（東から）



4. 8区4号掘立柱建物全景（東から）



5. 8区5号掘立柱建物全景（西から）



6. 8区1号溝全景（北東から）



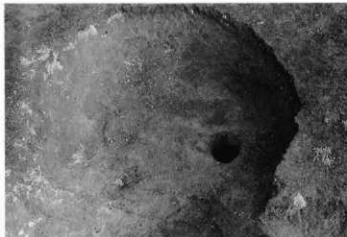
7. 同 土層断面北壁A-A'（南から）



8. 8区3号土坑全景（南から）



1. 8区7号土坑全景 (南東から)



2. 8区9号土坑全景 (西から)



3. 8区2号土坑全景 (西から)



4. 8区10号土坑全景 (東から)



5. 8区1号土坑全景 (西から)



6. 8区11号土坑全景 (西から)



7. 8区4号土坑全景 (南東から)



8. 8区6号土坑全景 (南から)



1. 9区1号井戸全景 (南東から)



9区1号S23



9区1号S25



9区1号S24



9区1号S01



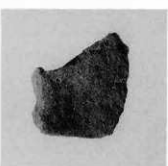
9区1号S02



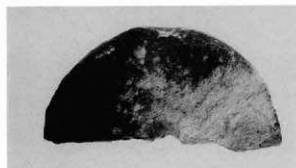
9区1号S03



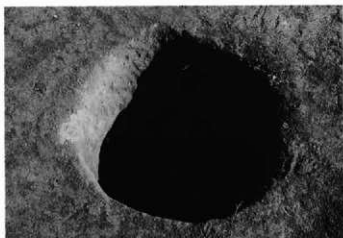
9区1号S26



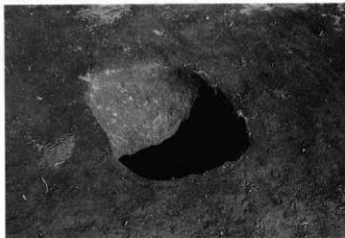
2. 同 出土遺物



1. 9区1号井戸出土遺物



2. 10区1号井戸全景(西から)



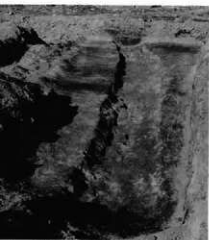
3. 10区1号土坑全景(南西から)



4. 10区2号土坑全景(南西から)



5. 10区3号土坑全景(南西から)



1. 11区1号溝全景 (南から)



11区1溝2059



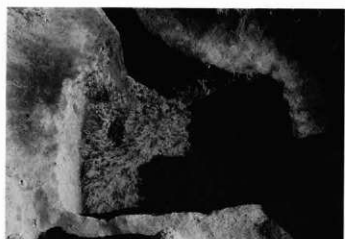
11区1溝2060



2. 同 出土遺物



3. 11区1号井戸全景 (南東から)



4. 11区1号土坑全景 (北西から)



11区1 M2055



11区1 M2056



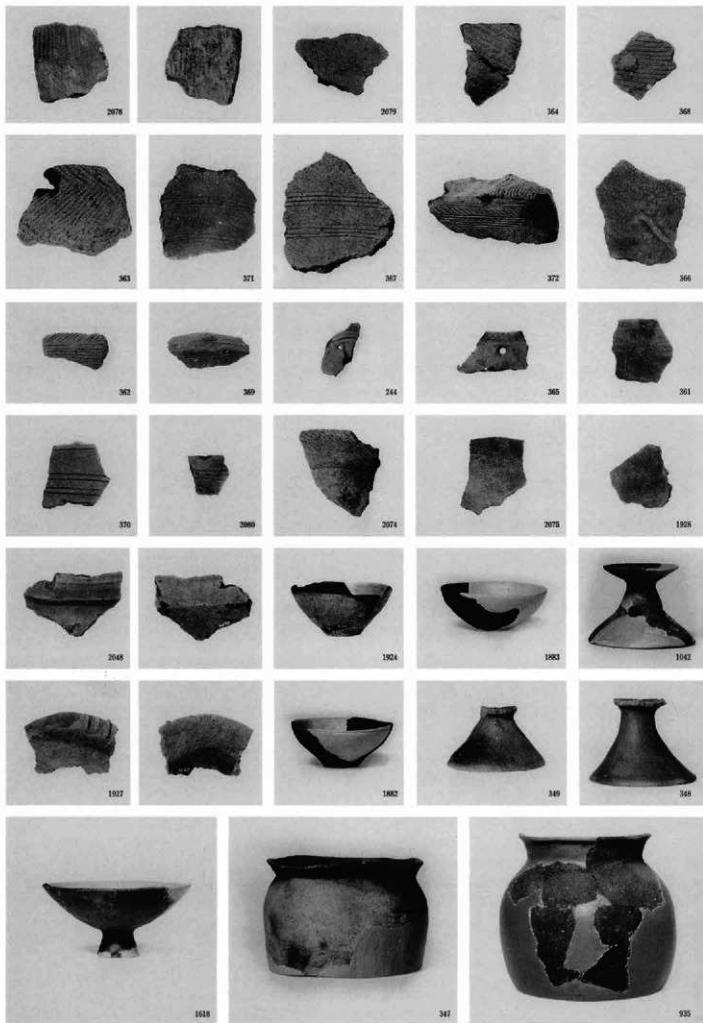
11区1 M2057

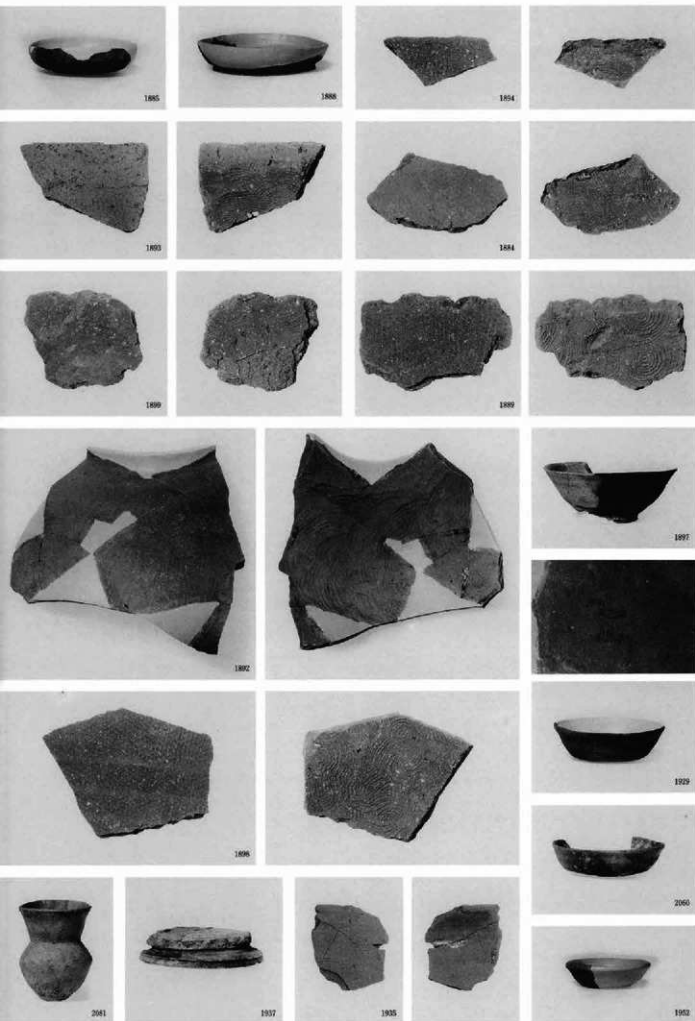


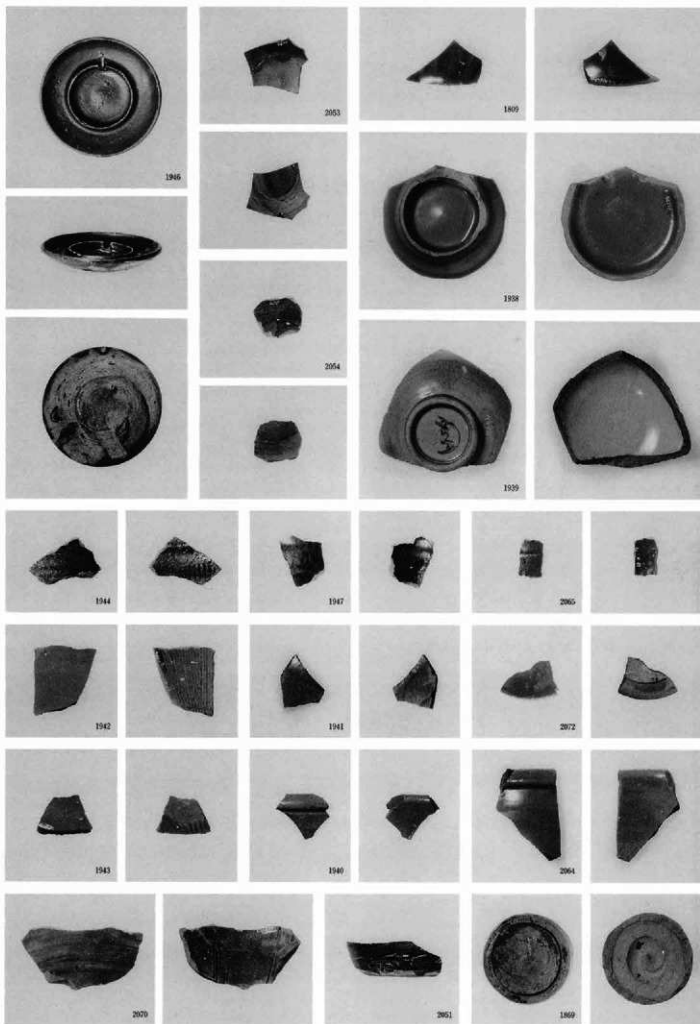
11区1 M2064

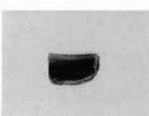
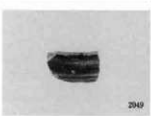
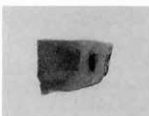
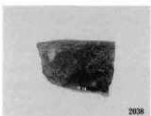
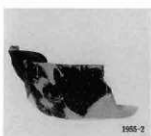
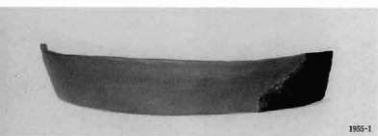
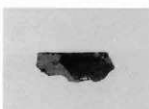
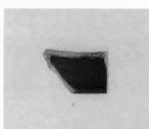
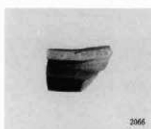
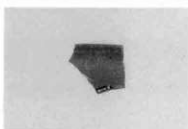
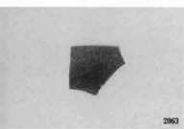
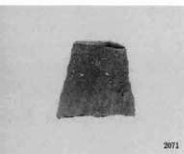


5. 同 出土遺物

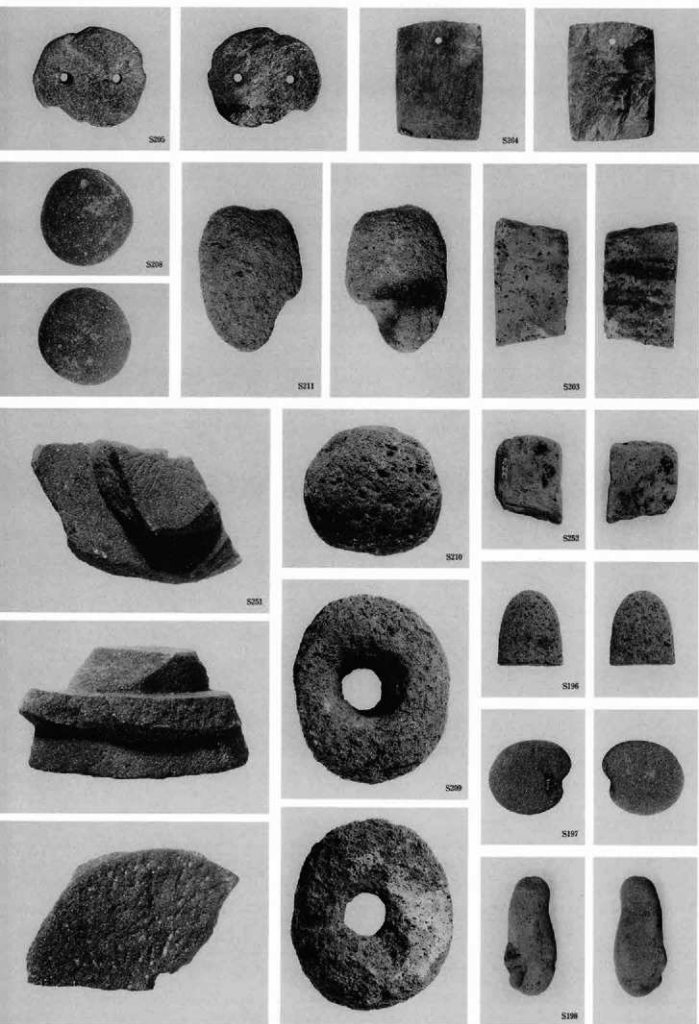


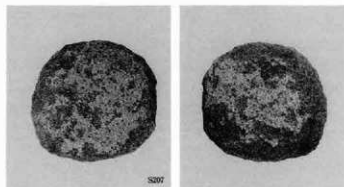


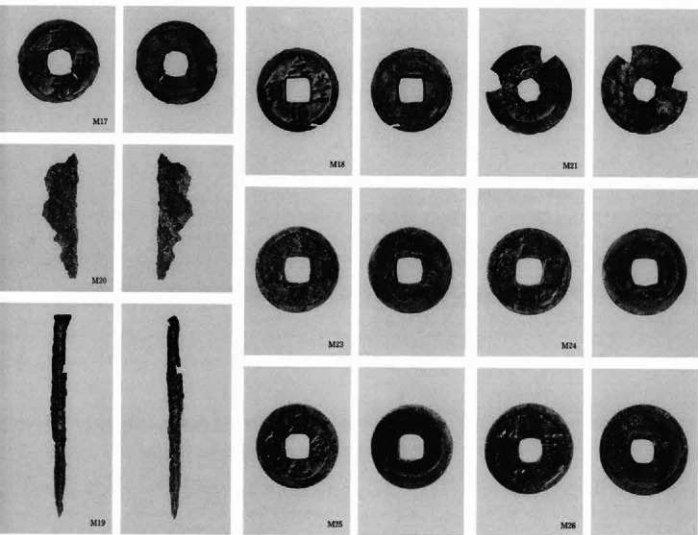












報告書抄録

ふりがな	あらとかみのぼういせきⅣ
書名	荒砥上ノ坊遺跡Ⅳ
副書名	中近世および時期不明の遺構の調査
巻次	群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第243集
シリーズ名	県営ほ場整備事業荒砥北部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	
編著者名	小島敦子
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-0061 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2 ☎0279-52-2511
発行年月日	1998年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡					
あらとかみのぼういせきⅣ 荒砥上ノ坊	群馬県前橋市 二之宮町・荒 砥上ノ坊	102016	10005 -00061	36度 22分 1秒	137度 11分 1秒	19820701～ 1983012	42,000	県営ほ場整備事業荒砥北部地区にともなう事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
荒砥上ノ坊遺跡	集落遺跡	中世 近世 時期不明	掘立柱建物 溝 井戸 土坑 火葬墓	土師器・須恵器 軟質陶器・陶器 焼締陶器・磁器 粉引石臼・茶臼 板碑・五輪塔 敲石・磨き石 鉄製品・古銭	赤城山南麓地域の農耕集落遺跡。古墳時代初頭から集落が定着し、開析谷の水田耕作が始まった。古墳時代以降、歴史時代にも継続して集落が営まれた。中世から近世にかけては方形区画の溝が数カ所、井戸・土坑が多数検出された。

群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第243集
荒砥上ノ坊遺跡Ⅳ
中近世および時期不明の遺構の調査
(本文・図版編)

昭和57年度県営埋蔵文化財調査事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

平成10年3月20日印刷

平成10年3月25日発行

編集・発行／群馬県教育委員会

〒371-0025 前橋市大手町1丁目1番1号

電話 (027) 223-1111 (代表)

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-0061 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社